

科目一覽

【発行日：2021/4/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【C0100】	国際文化情報学入門 [和泉 順子、竹内 晶子、輿石 哲哉、大中 一彌]	春学期授業/Spring	1
【C0110】	チュートリアル [担当教員は履修ガイダンスの際にお知らせ (資料を配付) します]	春学期授業/Spring	3
【C0200】	国際文化情報学の展開 [松本 悟]	春学期授業/Spring	5
【C0212】	デジタル情報学概論 [重定 如彦]	秋学期授業/Fall	7
【C0210】	統計処理法 [吉田 一星]	春学期授業/Spring	8
【C0211】	システム論 [甲 洋介]	春学期授業/Spring	9
【C0213】	文化情報学概論 [森村 修]	春学期授業/Spring	10
【C0214】	情報産業論 [鏡 明彦]	春学期授業/Spring	12
【C0215】	ネット文化論 [神戸 雅一]	秋学期授業/Fall	14
【C0220】	表象文化概論 [竹内 晶子、林 志津江、深谷 公宣、島田 雅彦]	春学期授業/Spring	15
【C0221】	メディアと情報 [君塚 洋一]	春学期授業/Spring	16
【C0222】	社会と美術 [稲垣 立男]	春学期授業/Spring	17
【C0223】	メディアと社会 [稲垣 立男]	秋学期授業/Fall	19
【C0224】	身体表象論 [深谷 公宣]	秋学期授業/Fall	21
【C0232】	現代思想 [森村 修]	秋学期授業/Fall	22
【C0231】	言語文化概論 [衣笠 正晃]	秋学期授業/Fall	24
【C0230】	比較文化 [竹内 晶子]	春学期授業/Spring	25
【C0233】	ジェンダー論 [佐々木 一恵]	春学期授業/Spring	26
【C0234】	異文化間コミュニケーション [江村 裕文]	秋学期授業/Fall	27
【C0237】	Philosophy of the Public Sphere [石田 安実]	秋学期授業/Fall	29
【C0235】	国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子]	春学期授業/Spring	31
【C0236】	国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子]	秋学期授業/Fall	33
【C0241】	国家と民族 [石森 大知]	春学期授業/Spring	35
【C0243】	平和学 [松本 悟]	秋学期授業/Fall	36
【C0244】	宗教と社会 [佐々木 一恵]	春学期授業/Spring	37
【C0245】	Religion and Society [丹羽 充]	春学期授業/Spring	38
【C0242】	国際文化協力 [松本 悟]	春学期授業/Spring	39
【C1001】	【2021 年度休講】 異文化適応論 [浅川 希洋志]	秋学期授業/Fall	40
【C0400,C0401,C0402,C0403,C0404】	情報システム概論 [和泉 順子、櫻井 茂明、中村 文隆]	秋学期授業/Fall	41
【C0410,C0411,C0412,C0413,C0414,C0415】	メディア情報基礎 [佐藤 雅明、和泉 順子、米倉 明男、菊池 司]	秋学期授業/Fall	42
【C0420,C0421,C0422,C0423,C0424】	ネットワーク基礎 [金 勇、和泉 順子、松田 裕幸]	春学期授業/Spring	43
【C0432】	メディア表現法 [菊池 司]	春学期授業/Spring	45
【C0439】	メディアアートの世界 [菊池 司]	春学期授業/Spring	47
【C0433】	プログラミング言語基礎 [和泉 順子]	春学期授業/Spring	48
【C0434】	仮想世界研究 [甲 洋介]	春学期授業/Spring	49
【C0437】	社会とデータサイエンス [和泉 順子]	春学期授業/Spring	50
【C0300】	世界の言語Ⅰ [輿石 哲哉]	春学期授業/Spring	51
【C0301】	【2021 年度休講】 世界の言語Ⅱ [内山 政春]	春学期授業/Spring	52
【C0302】	世界の英語 [小中原 麻友]	春学期授業/Spring	53
【C0303】	言語の理論Ⅰ [石川 潔]	春学期授業/Spring	55
【C0304】	言語の理論Ⅱ [石井 創]	秋学期授業/Fall	56
【C0305】	社会言語学 [塩田 雄大]	春学期授業/Spring	58
【C0306】	応用言語学 [川崎 貴子]	秋学期授業/Fall	59
【C0500】	英語コミュニケーションⅠ [ANDREW JONES]	秋学期授業/Fall	60
【C0501】	英語コミュニケーションⅠ [ANDREW JONES]	秋学期授業/Fall	61
【C0502】	英語コミュニケーションⅠ [ジョナサン・エイブル]	秋学期授業/Fall	62
【C0503】	英語コミュニケーションⅠ [ジョナサン・エイブル]	秋学期授業/Fall	63
【C0504】	英語コミュニケーションⅠ [MARK E FIELD]	秋学期授業/Fall	64
【C0505】	英語コミュニケーションⅠ [ラスカイル L. ハウザー]	秋学期授業/Fall	66
【C0506】	英語コミュニケーションⅠ [ラスカイル L. ハウザー]	秋学期授業/Fall	67
【C0510】	英語コミュニケーションⅡ [ANDREW JONES]	春学期授業/Spring	68
【C0511】	英語コミュニケーションⅡ [ANDREW JONES]	春学期授業/Spring	69

【C0512】	英語コミュニケーションⅡ	[ジョナサン・エイブル]	春学期授業/Spring	70
【C0513】	英語コミュニケーションⅡ	[ジョナサン・エイブル]	春学期授業/Spring	71
【C0514】	英語コミュニケーションⅡ	[MARK E FIELD]	春学期授業/Spring	72
【C0515】	英語コミュニケーションⅡ	[ラスカイル L. ハウザー]	春学期授業/Spring	73
【C0516】	英語コミュニケーションⅡ	[ラスカイル L. ハウザー]	春学期授業/Spring	74
【C0520】	英語コミュニケーションⅢ	[ANDREW JONES]	春学期授業/Spring	75
【C0521】	英語コミュニケーションⅢ	[ANDREW JONES]	春学期授業/Spring	77
【C0522】	英語コミュニケーションⅢ	[ジョナサン・エイブル]	春学期授業/Spring	79
【C0523】	英語コミュニケーションⅢ	[ジョナサン・エイブル]	春学期授業/Spring	81
【C0524】	英語コミュニケーションⅢ	[MARK E FIELD]	春学期授業/Spring	83
【C0525】	英語コミュニケーションⅢ	[ラスカイル L. ハウザー]	春学期授業/Spring	85
【C0526】	英語コミュニケーションⅢ	[ラスカイル L. ハウザー]	春学期授業/Spring	86
【C0530】	英語アプリケーションⅠ	[ジョナサン・エイブル]	秋学期授業/Fall	87
【C0531】	英語アプリケーションⅡ	[Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	88
【C0532】	英語アプリケーションⅢ	[ウォルター・カズマー]	春学期授業/Spring	89
【C0533】	英語アプリケーションⅣ	[ウォルター・カズマー]	春学期授業/Spring	91
【C0534】	英語アプリケーションⅤ	[ジョナサン・エイブル]	春学期授業/Spring	93
【C0535】	英語アプリケーションⅥ	[ラスカイル L. ハウザー]	春学期授業/Spring	95
【C0536】	英語アプリケーションⅦ	[ANDREW JONES]	秋学期授業/Fall	96
【C0537】	英語アプリケーションⅧ	[大野 ロベルト]	秋学期授業/Fall	97
【C0538】	英語アプリケーションⅨ	[MARK E FIELD]	秋学期授業/Fall	98
【C0539】	英語アプリケーションⅩ	[ラスカイル L. ハウザー]	秋学期授業/Fall	99
【C0580】	ドイツ語コミュニケーションⅠ	[Annette Gruber]	秋学期授業/Fall	100
【C0585】	ドイツ語コミュニケーションⅡ	[Schmidt Ute]	春学期授業/Spring	101
【C0590】	ドイツ語コミュニケーションⅢ	[Annette Gruber]	春学期授業/Spring	102
【C0595】	ドイツ語アプリケーション	[林 志津江]	春学期授業/Spring	103
【C0596】	ドイツ語アプリケーション	[熊田 泰章]	春学期授業/Spring	104
【C0597】	ドイツ語アプリケーション	[Schmidt Ute]	秋学期授業/Fall	105
【C0598】	【2021年度休講】ドイツ語アプリケーション	[国際文化学部 テスト用ダミー]	秋学期授業/Fall	106
【C0610】	フランス語コミュニケーションⅠ	[カレンス フィリップ]	秋学期授業/Fall	107
【C0615】	フランス語コミュニケーションⅡ	[竹本 研史]	春学期授業/Spring	108
【C0620】	フランス語コミュニケーションⅢ	[カレンス フィリップ]	春学期授業/Spring	109
【C0625】	フランス語アプリケーション	[PHILIPPE JORDY]	春学期授業/Spring	110
【C0626】	フランス語アプリケーション	[PHILIPPE JORDY]	秋学期授業/Fall	111
【C0627】	フランス語アプリケーション	[カレンス フィリップ]	春学期授業/Spring	112
【C0628】	フランス語アプリケーション	[PHILIPPE JORDY]	秋学期授業/Fall	113
【C0640】	ロシア語コミュニケーションⅠ	[エレナ 三神]	秋学期授業/Fall	114
【C0645】	ロシア語コミュニケーションⅡ	[エレナ 三神]	春学期授業/Spring	115
【C0650】	ロシア語コミュニケーションⅢ	[エレナ 三神]	春学期授業/Spring	116
【C0655】	ロシア語アプリケーション	[佐藤 千登勢]	春学期授業/Spring	117
【C0656】	ロシア語アプリケーション	[佐藤 千登勢]	秋学期授業/Fall	118
【C0670】	中国語コミュニケーションⅠ	[ショウ イクテイ]	秋学期授業/Fall	119
【C0675】	中国語コミュニケーションⅡ	[薬 会]	春学期授業/Spring	120
【C0680】	中国語コミュニケーションⅢ	[ショウ イクテイ]	春学期授業/Spring	121
【C0685】	中国語アプリケーションⅠ	[曾 士才]	秋学期授業/Fall	122
【C0688】	中国語アプリケーションⅡ	[ショウ イクテイ]	春学期授業/Spring	123
【C0687】	中国語アプリケーションⅢ	[周 重雷]	春学期授業/Spring	124
【C0686】	中国語アプリケーションⅣ	[鈴木 靖]	秋学期授業/Fall	125
【C0700】	スペイン語コミュニケーションⅠ	[OSNO I DE SASAKUBO H]	秋学期授業/Fall	126
【C0705】	スペイン語コミュニケーションⅡ	[OSNO I DE SASAKUBO H]	春学期授業/Spring	127
【C0710】	スペイン語コミュニケーションⅢ	[OSNO I DE SASAKUBO H]	春学期授業/Spring	128
【C0715】	スペイン語アプリケーション	[OSNO I DE SASAKUBO H]	春学期授業/Spring	129
【C0716】	スペイン語アプリケーション	[OSNO I DE SASAKUBO H]	春学期授業/Spring	130
【C0720】	スペイン語アプリケーション	[OSNO I DE SASAKUBO H]	秋学期授業/Fall	131
【C0721】	スペイン語アプリケーション	[OSNO I DE SASAKUBO H]	秋学期授業/Fall	132
【C0740】	朝鮮語コミュニケーションⅠ	[富所 明秀]	秋学期授業/Fall	133
【C0745】	朝鮮語コミュニケーションⅡ	[梁 禮先]	春学期授業/Spring	134

【C0750】	朝鮮語コミュニケーションⅢ [富所 明秀] 春学期授業/Spring	135
【C0755】	朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	136
【C0756】	朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	137
【C0754】	【2021 年度休講】 朝鮮語アプリケーション [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	138
【C0770】	情報コミュニケーションⅠ [甲 洋介] 春学期授業/Spring	139
【C0771】	情報コミュニケーションⅡ [和泉 順子] 春学期授業/Spring	140
【C0772】	情報コミュニケーションⅢ [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	141
【C0773】	情報アプリケーションⅠ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	143
【C0774】	【2021 年度休講】 情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	144
【C0800】	こころの科学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	145
【C0802】	こころとからだの現象学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	146
【C0801】	ゲーム構築論 [重定 如彦] 春学期授業/Spring	147
【C0810】	道具のデザイン学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	148
【C0813】	情報セキュリティとプライバシー [和泉 順子] 秋学期授業/Fall	149
【C0814】	文化と生物 [島野 智之、岡西 政典、川上 裕司、松崎 素道、黒沼 真由美] 秋学期授業/Fall	150
【C0815】	文化と環境情報 [島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久] 秋学期授業/Fall	151
【C0820】	【2021 年度休講】 文化情報空間論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	153
【C0821】	【2021 休講】 コンピュータ音楽と音声情報処理春学期授業/Spring	154
【C0830】	コネクション・デザイン [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	156
【C0831】	情報の編集論 [川村 たつる] 春学期授業/Spring	157
【C0832】	文化情報の哲学 [森村 修] 春学期授業/Spring	158
【C0833】	ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	159
【C0852】	サブカルチャー論 [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	161
【C0438】	道具による感覚・体験のデザイン [甲 洋介] 春学期授業/Spring	162
【C0860】	【2021 年度休講】 マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	163
【C0861】	メディア表現ワークショップ 1 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	165
【C0862】	メディア表現ワークショップ 2 [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	166
【C0863】	【2021 年度休講】 メディア表現ワークショップ 3 [佐藤 好彦] 秋学期授業/Fall	167
【C0864】	五感共生論 [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	168
【C0870】	映像文化論 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	169
【C0871】	写真論 [丹羽 晴美] 秋学期授業/Fall	170
【C0872】	映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	171
【C0880】	演劇論 [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	173
【C0881】	【2021 年度休講】 ポピュラー音楽論 [大鳥 徹] 春学期授業/Spring	174
【C0882】	【2021 年度休講】 コミックス論 [野田 謙介] 秋学期授業/Fall	175
【C0883】	空間デザイン論 [前田 尚武] 秋学期授業/Fall	176
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	177
【C1011】	異文化と身体表現 [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	178
【C0850】	パフォーマンスの美学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	179
【C0854】	現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	180
【C0900】	世界の中の日本文学 [岩川 ありさ] 春学期授業/Spring	181
【C0901】	世界の中の日本語 [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	182
【C1021】	日英翻訳論 [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	183
【C1022】	【2021 年度休講】 実践翻訳技法 [水野 太朗] 秋学期授業/Fall	184
【C0910】	中国の文化Ⅰ (現代中国社会) [曾 士才] 春学期授業/Spring	185
【C0911】	【2021 年度休講】 中国の文化Ⅱ (多民族社会中国) [曾 士才] 秋学期授業/Fall	186
【C0912】	中国の文化Ⅲ (日中文化交流史) [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	187
【C0913】	中国の文化Ⅳ (中国語の構造) [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	189
【C0914】	【2021 年度休講】 中国の文化Ⅴ (中国語と日本語) [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	190
【C0915】	中国の文化Ⅵ (古典思想・文学) [野村 英登] 春学期授業/Spring	191
【C0916】	中国の文化Ⅶ (近代文学) [桑島 道夫] 春学期授業/Spring	192
【C0917】	中国の文化Ⅷ (現代文学) [桑島 道夫] 秋学期授業/Fall	193
【C0918】	中国の文化Ⅸ (中国俗文学) [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	194
【C0919】	中国の文化Ⅹ (歴史) [張 玉萍] 秋学期授業/Fall	195
【C0920】	朝鮮語圏の文化Ⅰ (朝鮮半島の文化史) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	196
【C0921】	朝鮮語圏の文化Ⅱ (朝鮮語の構造) [内山 政春] 秋学期授業/Fall	197
【C0922】	【2021 年度休講】 アジアの伝統芸能 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	198

【C0930】	アフロ・アジアの文化 [江村 裕文] 春学期授業/Spring	199
【C0931】	【2021 年度休講】 ロシア・中央アジアの文化 [油本 真理] 秋学期授業/Fall	200
【C0932】	ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	201
【C0940】	【2021 年度休講】 ドイツ語圏の文化 I [林 志津江] 春学期授業/Spring	203
【C0941】	ドイツ語圏の文化 II [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	204
【C0942】	フランス語圏の文化 I (思想) [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	205
【C0943】	フランス語圏の文化 II (芸術) [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	208
【C0944】	【2021 年度休講】 フランス語圏の文化 III (文学) [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	209
【C0999】	【2021 年度休講】 フランス語圏の文化 IV (複言語・複文化社会) [廣松 勲] 春学期授業/Spring	210
【C0947】	【2021 年度休講】 北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	211
【C0945】	スペイン語圏の文化 I [久木 正雄] 春学期授業/Spring	212
【C0946】	スペイン語圏の文化 II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	213
【C0950】	カタルーニャの文化 I (言語 A) [VILA V RAQUEL] 春学期授業/Spring	214
【C0951】	カタルーニャの文化 II (言語 B) [VILA V RAQUEL] 秋学期授業/Fall	215
【C0952】	カタルーニャの文化 III (歴史・社会 A) [VILA V RAQUEL] 春学期授業/Spring	216
【C0953】	カタルーニャの文化 IV (歴史・社会 B) [VILA V RAQUEL] 秋学期授業/Fall	217
【C0960】	【2021 年度休講】 英語圏の文化 I (文化史) [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	218
【C0961】	英語圏の文化 II (思想史) [MARK E FIELD] 秋学期授業/Fall	219
【C0962】	英語圏の文化 III (現代事情) [粟飯原 文子] 春学期授業/Spring	220
【C0963】	英語圏の文化 IV (文学と社会 A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	221
【C0964】	英語圏の文化 V (文学と社会 B) [北 文美子] 秋学期授業/Fall	222
【C0965】	英語圏の文化 VI (文学と社会 C) [中和 彩子] 春学期授業/Spring	223
【C0966】	英語圏の文化 VII (英語の構造) [齊藤 雄介] 春学期授業/Spring	224
【C0967】	英語圏の文化 VIII (英語の歴史) [齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	226
【C0970】	Structure of English [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	228
【C0968】	History of English [輿石 哲哉] 秋学期授業/Fall	230
【C0902】	世界とつながる地域の歴史と文化 [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	232
【C1052】	【2021 休講】 実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	234
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	235
【C1040】	国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方) [市岡 卓] 春学期授業/Spring	236
【C1049】	【2021 年度休講】 途上国経済論 [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	237
【C1010】	【2021 年度休講】 国際関係研究 IV (他者イメージ論) [中島 成久、国際文化学部 (代講教員)] 秋学期授業/Fall	238
【C1030】	宗教社会論 I (仏教思想) [小島 敬裕] 秋学期授業/Fall	239
【C1031】	宗教社会論 II (キリスト教と社会運動) [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	240
【C1032】	【2021 年度休講】 宗教社会論 III (イスラーム思想) [江村 裕文] 春学期授業/Spring	241
【C1020】	間文化性研究翻訳論 [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	242
【C1050】	多文化社会と人間 [加藤 丈太郎] 春学期授業/Spring	243
【C1041】	国際関係研究 II (メコン流域国の開発と環境 (社会と自然)) [木口 由香] 秋学期授業/Fall	245
【C1043】	人の移動と国際関係 I (華僑・華人社会) [曾 士才] 秋学期授業/Fall	246
【C1044】	【2021 年度休講】 人の移動と国際関係 II (朝鮮民族のディアスポラ) [宮本 正明] 秋学期授業/Fall	247
【C1045】	人の移動と国際関係 III (アジア・太平洋) [村川 庸子] 秋学期授業/Fall	248
【C1047】	【2020 以降、次期カリ変まで休講】 国際関係研究 III (地域紛争とエスニシティ) [中島 成久、国際文化学部 (代講教員)] 秋学期授業/Fall	249
【C0923】	【2021 年度休講】 国際関係研究 V (東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学) [中島 成久、国際文化学部 (代講教員)] 秋学期授業/Fall	250
【C1051】	【2021 年度休講】 持続可能な社会 [島野 智之] 春学期授業/Spring	251
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	252
【C1053】	Approaches to Transnational History [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	254
【C1054】	【2021 休講】 Cultural Dimension of American Foreign Relations 春学期授業/Spring	255
【C1103】	情報文化演習 [和泉 順子] 春学期・秋学期/Spring・Fall	256
【C1100】	情報文化演習 [御園生 純] 春学期・秋学期/Spring・Fall	258
【C1101】	情報文化演習 [春学期担当: 甲 洋介, 秋学期担当: 渡邊 日出雄] 春学期・秋学期/Spring・Fall	260
【C1102】	情報文化演習 [重定 如彦] 春学期・秋学期/Spring・Fall	262
【C1104】	情報文化演習 [島野 智之] 春学期・秋学期/Spring・Fall	264
【C1105】	情報文化演習 [森村 修] 春学期・秋学期/Spring・Fall	265
【C1106】	表象文化演習 [稲垣 立男] 春学期・秋学期/Spring・Fall	268
【C1108】	表象文化演習 [岩川 ありさ] 春学期・秋学期/Spring・Fall	270

【C1107】	表象文化演習 [岡村 民夫]	春学期・秋学期/Spring・Fall	272
【C1109】	表象文化演習 [島田 雅彦]	春学期・秋学期/Spring・Fall	273
【C1110】	表象文化演習 [深谷 公宣]	春学期・秋学期/Spring・Fall	274
【C1112】	表象文化演習 [竹内 晶子]	春学期・秋学期/Spring・Fall	275
【C1114】	表象文化演習 [林 志津江]	春学期・秋学期/Spring・Fall	276
【C1116】	言語文化演習 [江村 裕文]	春学期・秋学期/Spring・Fall	279
【C1121】	言語文化演習 [大西 亮]	春学期・秋学期/Spring・Fall	280
【C1118】	言語文化演習 [衣笠 正晃]	春学期・秋学期/Spring・Fall	282
【C1115】	言語文化演習 [興石 哲哉]	春学期・秋学期/Spring・Fall	284
【C1119】	言語文化演習 [久木 正雄]	春学期・秋学期/Spring・Fall	286
【C1120】	言語文化演習 [佐藤 千登勢]	春学期・秋学期/Spring・Fall	288
【C1111】	言語文化演習 [鈴木 靖]	春学期・秋学期/Spring・Fall	290
【C1122】	言語文化演習 [遠藤 郁子]	春学期・秋学期/Spring・Fall	292
【C1113】	【2021年度休講】言語文化演習 [廣松 勲]	春学期・秋学期/Spring・Fall	294
【C1123】	言語文化演習 [前川 裕]	春学期・秋学期/Spring・Fall	296
【C1124】	言語文化演習 [大野 ロベルト]	春学期・秋学期/Spring・Fall	298
【C1117】	国際社会演習 [粟飯原 文子]	春学期・秋学期/Spring・Fall	299
【C1126】	国際社会演習 [今泉 裕美子]	春学期・秋学期/Spring・Fall	301
【C1127】	国際社会演習 [大中 一彌]	春学期・秋学期/Spring・Fall	303
【C1128】	国際社会演習 [春学期担当：桐谷 多恵子, 秋学期担当：熊田 泰章]	春学期・秋学期/Spring・Fall	305
【C1129】	国際社会演習 [佐々木 一恵]	春学期・秋学期/Spring・Fall	307
【C1130】	国際社会演習 [曾 士才]	春学期・秋学期/Spring・Fall	309
【C1131】	国際社会演習 [高柳 俊男]	春学期・秋学期/Spring・Fall	311
【C1132】	国際社会演習 [石森 大知]	春学期・秋学期/Spring・Fall	312
【C1133】	国際社会演習 [松本 悟]	春学期・秋学期/Spring・Fall	314
【C1060】	インターンシップ事前学習 [石森 大知、北 文美子]	春学期授業/Spring	316
【C1501】	デジタル情報学概論 [重定 如彦]	秋学期授業/Fall	318
【C1502】	仮想世界研究 [甲 洋介]	春学期授業/Spring	319
【C1503】	文化情報学概論 [森村 修]	春学期授業/Spring	320
【C1055】	国際関係研究Ⅵ [粟飯原 文子]	秋学期授業/Fall	321
【C1056】	国際関係研究Ⅶ [石森 大知]	秋学期授業/Fall	322
【C1701】	海外フィールドスクール [稲垣 立男]	オータムセッション/Autumn Session	323
【× 使用しない】	海外フィールドスクール		325
海外フィールドスクール	[島野 智之]		326
海外フィールドスクール	[松本 悟]		326
【C0551】	Art, Rebellion and Advertising [ジョナサン・エイブル]	秋学期授業/Fall	327
【C0550】	The History of Tourism [MARK E FIELD]	秋学期授業/Fall	328
【C0969】	History of Western Thought [MARK E FIELD]	秋学期授業/Fall	329

BSP100GA

国際文化情報学入門

和泉 順子、竹内 晶子、輿石 哲哉、大中 一彌

配当年次／単位：1年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：1年生全体を2クラスに分割する

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際文化情報学入門」は各コースの担当教員によるオムニバス講義です。今年度の担当は下記の4名です。

情報文化コース：和泉順子

表象文化コース：竹内晶子

言語文化コース：輿石哲哉

国際社会コース：大中一彌

国際文化学部の学生として身につけてもらいたい基本的な知識を捉え、学生各自が在学中に共通に必要な「文化を学ぶ考え方」を理解するための講義です。私たちの学部では文化を「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」の4つの面から捉えようとしており、それぞれの分野を専門とする4人の教員が担当します。

今年度は「インターネット…海外…日本…」というテーマを4つの視座から読み解きます。

【到達目標】

「情報文化」は、現代の都市型社会において「情報」こそが我々の思考や生活の基盤であるとの立場から、情報の生成、編集、再構成と文化の伝達や人間と情報のかかわりについて学びます。特に、デジタル空間で得られる情報の特性を知ると同時に、それらを素材として自ら思考し経験することの意味を考えられるようになるのが目標です。

「表象文化」は、主に人間の知覚と創造行為の関連、創造行為のプロセスとメディアの関連を学びながら、幅広い知の視pointsの獲得を目指すとともに、研究対象とその方法を選ぶための初歩的な議論を導入します。「表象文化＝芸術に関する知識のインプットではない」こと、創造行為と日常の間にあるもの、表象文化と社会の結びつきについて、思考できるようになるのが目標です。

「言語文化」では、国際文化学部生として知っておきたい言語に関する基本的な知識や様々な外国語学習のコツを、英語を題材にしながら考えていきます。基本的なレファレンス類の使い方、大学での外国語の学び方、日々の情報の収集法等について等が、その内容になります。併せて、他の3分野とのインターフェースについて学んでいきます。

「国際社会」では、現代の世界における国家間・集団間の諸問題を文化的な視野のなかで考える態度と方法を学びます。簡単な単語を使い、外国語が下手でも話そうとする姿勢は大事ですが、皆さんの将来にとっては、話をする時の中身が大切です。この「入門」授業では、高校までの知識を確認しながら、国際問題について考え、語るための糸口を見つけることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・1年生全員が履修します。

・週2回講義があります。

・130名程度の中教室講義×2クラスでの講義です。

・出席、課題、レポート、試験等は分野ごとに課します。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

課題等のフィードバックについては、各分野担当教員が具体的な内容を、学習支援システム等を通じて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体のガイダンスを合同授業で実施する。
2	【Aグループ】第1講 (表象・国際) 【Bグループ】第1講 (情報・言語)	分野別授業（前半第1回） 情報：国際文化学部と情報 表象：極楽表象と舞踏 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か

3	【Aグループ】第2講 (表象・国際) 【Bグループ】第2講 (情報・言語)	分野別授業（前半第2回） 情報：社会における情報 表象：男装少女の系譜 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかりと使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
4	【Aグループ】第3講 (表象・国際) 【Bグループ】第3講 (情報・言語)	分野別授業（前半第3回） 情報：文化としての情報 表象：オラトリオの展開 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
5	【Aグループ】第4講 (表象・国際) 【Bグループ】第4講 (情報・言語)	分野別授業（前半第4回） 情報：メディアと情報 表象：神能と將軍 言語：大学での外国語学習、小テスト1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
6	【Aグループ】第5講 (表象・国際) 【Bグループ】第5講 (情報・言語)	分野別授業（前半第5回） 情報：情報とセキュリティ 表象：演劇作品にみる日本表象の変遷 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう） 国際：明治20年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
7	【Aグループ】第6講 (表象・国際) 【Bグループ】第6講 (情報・言語)	分野別授業（前半第6回） 情報：情報とリテラシー 表象：ロマンスの系譜 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト2 国際：国際関係論への基本的な構え
8	【Aグループ】第1講 (情報・言語) 【Bグループ】第1講 (表象・国際)	分野別授業（後半第1回） 情報：国際文化学部と情報 表象：極楽表象と舞踏 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
9	【Aグループ】第2講 (情報・言語) 【Bグループ】第2講 (表象・国際)	分野別授業（後半第2回） 情報：社会における情報 表象：男装少女の系譜 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかりと使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
10	【Aグループ】第3講 (情報・言語) 【Bグループ】第3講 (表象・国際)	分野別授業（後半第3回） 情報：文化としての情報 表象：オラトリオの展開 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
11	【Aグループ】第4講 (情報・言語) 【Bグループ】第4講 (表象・国際)	分野別授業（後半第4回） 情報：メディアと情報 表象：神能と將軍 言語：大学での外国語学習、小テスト1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
12	【Aグループ】第5講 (情報・言語) 【Bグループ】第5講 (表象・国際)	分野別授業（後半第5回） 情報：情報とセキュリティ 表象：演劇作品にみる日本表象の変遷 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう） 国際：明治20年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
13	【Aグループ】第6講 (情報・言語) 【Bグループ】第6講 (表象・国際)	分野別授業（後半第6回） 情報：情報とリテラシー 表象：ロマンスの系譜 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト2 国際：国際関係論への基本的な構え
14	まとめ	合同授業による総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各コースの授業において予習復習、課題、文献講読などが課されるので毎回の授業の後にかならずこれらの学習活動を行ってください。また大学での最初の科目授業であり、担当ごとの授業スタイルの違いもあるので、学習方法そのものに早い時期に慣れる必要があります。学習支援ハンドブックをはじめ、各教員の指示によくしたがって学習を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

(表象) 授業内で触れた作品に触れるとともに、「国立美術館キャンパスメンバーズ」制度を活用し、首都圏各地の美術館・展覧会を訪問してください。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書は使いませんが、必要な文献等に関しては、それぞれの分野ごとに必要に応じて指示します。

【参考書】

担当教員それぞれが開講時ないし授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

各分野の点数配分をそれぞれ 25%とし、それを合計する。内訳は（ ）のとおり。

情報文化 = 25%（平常点 10%, 試験 15%）

表象文化 = 25%（毎回の授業の課題で 25 %）

言語文化 = 25%（小テストで 25%、欠席は原則的に認めず、減点の対象となるので留意のこと。小テストは両グループとも 2 回ずつを予定していますが、進捗等により回数が変更されることもあります。）【4 月 21 日以下加筆】なお、本年度は、新型コロナウイルス感染症により、小テストに代えて他の課題を課すこともあります。詳細は授業支援システムにてお知らせします。

国際社会 = 25%（レポート成績（任意）、小テスト、授業への貢献、その他の 4 項目で、各 25 %）

【成績調査願への対応について】

「国際文化情報学入門」科目の成績評価においてDまたはEとなった学生が、所定の手続き・期間を守り、成績調査願を提出し、かつ調査後もDまたはEの評価が変わらない場合、翌年度の再履修にあたり、「国際文化情報学入門」4分野で、とくに努力が必要な事項について、当該の学生に回答する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の必修の授業となりますので、円滑な運営が行えるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を使用します。

【その他の重要事項】

- ・学年全体を 2 クラスにわけて授業を行ないます。
- ・どちらのクラスも週 2 回授業があります。
- ・自分がどちらのクラスに該当するか必ず確認してください。

【Outline and objectives】

There are two objectives of this course taught by four instructors from the four subfields of intercultural studies: a) Informatics, Artefacts and Transculturality; b) Culture and Representation; c) Language and Culture; and d) International Society and Culture.

A. You should become acquainted with the basic ideas and concepts which are necessary for intercultural studies.

B. You should begin to develop a framework of learning cultures other than your own, on the basis of which you can start to conduct your own research.

BSP100GA

チュートリアル

担当教員は履修ガイダンスの際にお知らせ（資料を配付）します

配当年次／単位：1年／1単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「チュートリアル」は、新入生全員が履修する授業であり、比較的少人数の編成で開講される。この科目では、法政大学国際文化学部における学びに必須の、基礎的なアカデミック・スキルの習得をめざす。「読み書き」に重点をおき、図書館の利用法、文献の検索などデータベースの使い方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などについて学んでいく。また、いわゆるアカデミック・スキルの面以外に、国際文化学部でおこなわれている教育研究の内容についても、「チュートリアル」担当教員に積極的に質問などを行うことで、少しずつ聞きかじっていく。

【到達目標】

- ・受け身で授業に出席しさえすれば良いという態度は卒業し、授業で示された情報をみずから整理する目的で、ノートを作っていくことができる。
- ・法政大学図書館のサイトを用いて、書誌など研究に必要な情報を集めることができる。
- ・先行研究をリスペクト（尊重）することがなぜ必要なのかを理解したうえで、アカデミック・ライティングの基本ルールを押さえた文章を作成することができる。
- ・口頭で発表をする際に、自分の考えとは異なる考えをもった聞き手がいることを前提に、論理的に話を組み立てることをつうじてコミュニケーションを図ることができる。
- ・法政大学の歴史や、国際文化学部の教育目標が、あなた自身の目指す将来の進路との関連で、どのような意味をもっているか、他の人に話すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・想定されている授業回数は1年生の春セメスターの「7回」です（1単位科目）。
- ・ただし、授業の進め方や感染拡大状況により、授業回数が「7回」ではないグループがありえます。
- ・法政大学として感染拡大が「劇的な増加」の局面でない限り、対面授業を努めて導入しますが、増加が著しい場合はオンライン授業となるグループや、対面授業とオンライン授業の混合となるグループが出てくる場合があります。
- ・レポート題材の絞り方、文献探し、順序を踏まえた執筆、口頭発表、質疑応答など、少しずつ学びながら実践していきます。
- ・作業課題にたいするフィードバックは、授業時間内の受け答え、ならびに、法政大学が提供する Learning Management System (LMS；学習支援システム-Hoppii や Google Classroom) 上のやりとりをつうじて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	初回顔合わせ	・新入生の自己（他己）紹介 ・『学習支援ハンドブック 2021』の法政大学全体の紹介&法政大学図書館の紹介の項目 ・対応する動画は「法政大学へようこそ」「法政大学お宝コレクション」
第2回	大学での学びとは	・『学習支援ハンドブック 2021』のポータルサイトに関する説明や、ノートの取り方、メールのマナー、ディスカッションについての項目 ・対応する動画は「大学での学びとは」
第3回	レポートの書き方①	・『学習支援ハンドブック 2021』のレポートに関する説明や、テーマの決め方、準備の方法、レポートの構成、論証やパラグラフ（段落）の重要性についての項目 ・対応する動画は「文献や情報の集め方」(1) & (2)
第4回	レポートの書き方②	・『学習支援ハンドブック 2021』の引用ルールに関する説明や、接続表現の使い方、レポート提出前にチェックすべきポイント、いわゆる文章術についての項目 ・対応する動画は「レポートの書き方」
第5回	レポートの作成・提出	第4回までに学んだ内容を踏まえ、実際にレポート課題を作成・提出する。
第6回	プレゼンテーション技法	・『学習支援ハンドブック 2021』におけるプレゼンテーションの準備や資料、心得に関する項目 ・対応する動画は「プレゼンテーション技法」
第7回	レポートの内容にかんするプレゼンテーション	第6回までに学んだ内容を踏まえ、実際にプレゼンテーションと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際文化学部には多様な背景をもった学生が入学し、「チュートリアル」は学部の新入生全員が履修する授業であることから、この科目が開講される1年春の段階では、日本語能力や情報リテラシーにも個人差がみられる。そのため、時間数で表示することはしないが、担当教員から提示される課題をこなし、『学習支援ハンドブック』の各章を読み、関連する動画を視聴するのに必要な時間が、最低限この科目で求められる授業外学習の時間である。

【テキスト（教科書）】

- ・『法政大学学習支援ハンドブック 2021』※ネット上からPDFファイルでダウンロードできますので、検索しておいてください。
- ・『法政大学学習支援ハンドブック』の内容に対応する動画が用意されています。以下のURLから閲覧してください。

PC： <https://lms.hosei.ac.jp>

スマートフォン/タブレット： <https://lms.hosei.ac.jp/rvp>

※法政大学から配布される「統合認証ID」を使ってログインしてください。

【参考書】

- ・授業内で随時指示するが、大学生向けのレポートの書き方にかんする書籍にどのようなものがあるか調べ、入学前にご自身で読んでみることをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

- 授業参加 30%
- 課題提出 40%
- 口頭発表 30%

通常の科目と異なり、P（合格）またはF（不合格）で評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度における新型コロナウイルスの感染拡大は、ご存知のとおり大学の授業のオンライン化をもたらしました。法政大学で実施されたさまざまなアンケートを見る限り、学生の皆さんからの理解はおおむね得られているようですが、2020年度におけるオンライン授業が、学生・教職員の双方にとって、限られた時間で新しいことに挑戦しなければならない、困難を伴う課題であったことは確かです。この点を踏まえ、2021年度の新入生向けに、先輩在学生からの声を集めた「オンライン授業を受講するときのコツ」を公開する予定です。情報リテラシーの面だけでなく、モチベーションの維持など気持ちの面で、オンライン中心の活動をどのようにして前向きにとらえていったか、先輩からの「コツ」をお伝えできればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学図書館のオンライン・データベース、文書やプレゼンテーション資料の作成、法政大学が提供する Learning Management System (LMS；学習支援システム-Hoppii や Google Classroom)、リアルタイムのビデオ会議システム (Zoom や Webex、Google Meet) など、高校まではあまり使ったことのない道具をうまく活用できるようになることが、ポスト・コロナ時代に社会に出ていくことになる前途有為の大学生には必要な学びといえます。できれば有線 (LAN ケーブル) をもちいた利用時間・データ量に制限のないインターネット接続や、パソコン、タブレットなどの端末を、お住まいの環境に整備してください。2021年度入学に際しての情報・通信環境の準備について、詳しくは法政大学からの案内をご覧ください。

【その他の重要事項】

- ・「授業計画」はあくまで一例です。
- ・どの教員があなたの属するグループを担当するかは、履修ガイダンスの際にお知らせ (資料を配布) します。
- ・国際文化学部常として、担当教員のなかには、日本語が第一言語でない先生もいます。多様性が日常の環境にある状況に慣れていない方は、ぜひ慣れてください。
- ・【重要！】 新入生全員が必ず履修する少人数の科目であり、「チュートリアル」という同じ科目名で数多くのグループ向け授業が開講されています。日程や教室、担当教員の氏名に間違いはないか、またあなたが属するグループでは、どのような授業形態で「チュートリアル」が実施されるのか、くれぐれも事前によく確認してください。
- ・担当教員との連絡は、LMS (学習支援システム-Hoppii や Google Classroom) や、法政大学が配布する法政 G メールを利用して行ってください。
- ・学習支援システム-Hoppii ならば「授業内掲示板」機能、Google Classroom ならば「クラスのコメント」機能に書き込みをすることができます。
- ・法政 G メールを使って担当教員にメールを書くときの書き方は、『学習支援ハンドブック』のメールのマナーに関する注意を参考にしてください。

【Outline and objectives】

Students will learn basic academic skills for higher education, such as those of note taking, library research, academic writing, and oral presentation.

BSP200GA

国際文化情報学の展開

松本 悟

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、1年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである（ただし必修ではない）。本学部の4つのコース「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「コロナ禍で再考する国際文化情報学」。今年度の全体コーディネーターは国際文化学部教員の松本悟が担当する。

【到達目標】

1. 本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
2. SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
3. コロナ禍という直接体験や交流が困難な状況だからこそ、国際文化情報学(intercultural communication)を多角的に考えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

■オンデマンド授業：法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベルと関わりなくオンデマンド方式で行う。毎回80-90分程度の動画、もしくは音声入りパワーポイントの教材を視聴し、授業日後3日以内に短い課題に答える方法を取る。

■フィードバック：質問に対しては、学習支援システムの掲示板を通じて回答する。授業後課題に対しては、次回の授業の始めにまとめてフィードバックする予定。担当講師によっては、個別に学習支援システムを通じてフィードバックを行う。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にはフィードバックはしない。

■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	4/12 松本悟（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化情報学とは何か	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明するとともに国際文化情報学について講義する。
2	4/19 佐々木一恵（国際文化学部教員）感染症対策の歴史	「腸チフスのメアリー」事件から、20世紀初頭のアメリカ合衆国と感染症について考える。
3	4/26 大中一彌（国際文化学部教員）パンデミックとベスト～感染症と自由～	古代ギリシアから新型コロナウイルスの感染拡大がみられる現代までを往復しながら、「感染症に対する戦い」と人びとの自由の相克について考える。
4	5/10 石森大知（国際文化学部教員）コロナ禍における文化人類学とフィールドワーク	文化人類学にとってフィールドワークはその生命線といえるほど重要である。しかし、このコロナ禍においてその実施は国内外を問わず大きな困難を迎えている。対面によらない人類学的調査の可能性を考える。
5	5/17 五箇公一（国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 室長）コロナ禍にみる自然共生社会の意義	新型コロナウイルスのパンデミックによって、世界的な医療と経済の危機を我々は経験した。ウイルスと生物多様性という自然界の摂理を理解するとともに、生物多様性の持続的利用と管理を目指した自然共生社会のあり方が今問われている。今後の感染症リスク管理対策およびその基盤としての環境保全政策、社会変容はどうあるべきか、論考する。
6	5/24 和泉順子（国際文化学部教員）エストニアの電子政府から学ぶ文化情報学の役割と展開	エストニアで実現している情報通信環境や電子投票など電子政府に関する議論から文化情報学について考える。

7	5/31 稲垣立男（国際文化学部教員）コロナ禍での芸術表現／レクチャーパフォーマンスの試み	近年美術や演劇の分野で芸術表現としてのレクチャー＝レクチャーパフォーマンスが盛んに行われており、コロナ禍においていっそうそうした試みが増えてきたように感じられる。様々なアーティストによるコロナ禍での芸術表現を紹介しつつ、昨年度実施した私自身のオンライン授業を基としたレクチャーパフォーマンスを実際に行う。
8	6/7 高柳俊男（国際文化学部教員）コロナ禍と歴史学研究：SJ国内研修の舞台を例に	人類は現在まで、多くの厄災を経験してきた。その歴史を過去にさかのぼる中から、現在を乗り切る知恵やヒントを、とくに国際文化学部のSJ(Study Japan)国内研修の舞台である南信州を例に考えたい。
9	6/14 甲洋介（国際文化学部教員）私たちが挑まれている、もう一つのこと	デジタルトランスフォーメーション(DX)は、人と人の関わり方の大胆な変更を私たちに迫った。一方、私たちの心のディープな部分が渴きをうったえる。これは「あなたに会う」とどこかが違う。「他者と共存することの迫力」を再考する。
10	6/21 栗飯原文子（国際文化学部教員）コロナ禍と文学	文学は猛威をふるう感染症にどのように応答しうるのであるか。感染症を扱った過去の文学作品を振り返りつつ、コロナ禍のただなかで生み出された「いま、ここ」の作品から、わたしたちが学べることを考えたい。
11	6/28 宮崎桂（JICA ガバナンス・平和構築部長）コロナ禍で考える開発協力	開発協力とは何か、コロナ禍においてどのような課題に直面し、解決しようとしているのか、日本の開発協力の実施機関であるJICAの取り組みを参照しつつ考察する。
12	7/5 新高彩子（難民支援協会 支援事業部ディレクター）日本で暮らす難民の現状と難民と接する際の留意点	難民とはどのような人たちかを概観し、日本で暮らす難民の現状、さらに、コロナ禍での難民と支援者が直面する課題を学ぶ。また、国際文化情報学の観点から、難民と接する際の留意点を考察する。
13	7/12 長嶺由衣子（東京医科歯科大学助産科）コロナ禍が浮き彫りにした"伝わる"情報伝達～医療・介護の現場から	医療や介護を文化と考えると、inter-culturalな情報共有をどのように行っているかを、国際機関など海外での経験を交えて講義し、医療分野の情報の読み方について考える。
14	7/19 松本悟（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える	海外や現場を訪れて直接体験することが難しい今、国際文化学部の学びの本質とは何か、この授業全体の講義を振り返りながら考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当講師によっては事前課題を前提に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
- ・授業後課題を毎回課す。授業日後3日以内に短い文章で提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。

- 理念・目的
<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/>
- ディプロマポリシー
<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/>

【参考書】

- ・事前に学習支援システムに掲示するか、授業の中で各講師が紹介する。
- ・鈴木靖/法政大学国際文化学部編（2013）『国境を越えるヒューマニズム』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

授業後課題の提出60%、最終レポート40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14回の講義を国際文化情報学という切り口で論じるもので、到達目標3を念頭に置いている。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には登録すること。
- ・パソコンと動画を視聴できるインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

本授業の一部は、実務経験のある講師がその経験をもとに講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

- 宮崎桂さん：2020年9月まで、日本の政府開発援助機関である国際協力機構（JICA）のバンコク事務所長としてコロナ禍での開発協力に携わっていた。
- 新高彩子さん：認定NPO法人難民支援協会で、日本にいる難民申請者などのAsylum Seekersの支援に携わっている。

発行日：2021/4/1

●長嶺由衣子さん：社会学部卒業後医学部編入。沖縄の離島診療所勤務、国際機関の疫学調査などに従事。コロナ禍の現在は神奈川県で在宅医療に取り組んでいる。

●松本悟：NHK 記者を務めた後、NGO 職員としてラオスでの農村開発・森林保全活動、日本での開発政策の提言活動に携わってきた。2012 年度より法政大学教員。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures related to COVID-19.

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2 回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツ ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3次元 CG、デジタルマップと GIS	3次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

PRI200GA

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、統計を学ぶために最低限必要な確率の知識、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を得得していきます。

【到達目標】

- ・ 確率の計算方法を理解する
- ・ データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・ 基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・ データを解釈する方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するために最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

なお、授業をオンライン会議システムを用いてオンラインで実施する可能性があります。パソコン・スマートフォン・タブレットなど、オンライン授業に参加するための準備をお願いします。

毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。次の回の始めの時間で、その宿題の解説を行い、理解度を確認します。

また、小テスト・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うための時間を十分確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと確率の基礎 1	授業の進め方についての説明・組合せ論的確率の意味
第2回	確率の基礎 2	場合の数
第3回	確率の基礎 3	場合の数の応用
第4回	確率 1	確率の定義
第5回	確率 2	確率の計算例
第6回	統計の基礎 1	数値データの表現方法
第7回	統計の基礎 2	データの代表値とその性質
第8回	統計の基礎 3	分散と標準偏差
第9回	2次元データの分析 1	散布図と相関係数
第10回	2次元データの分析 2	回帰分析
第11回	確率分布 1	確率変数と期待値
第12回	確率分布 2	二項分布
第13回	確率分布 3	正規分布
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、1回の分量を少なめにしますので次の授業までに必ず自分で解いてきて下さい。

【テキスト（教科書）】

作成した資料を使って行います。

【参考書】

講義中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テストと期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、小テスト 30%、期末試験 70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特にオンライン会議システムで授業をオンラインで実施する場合、時間にゆとりを持たせて授業の進行・内容の説明を行います。オンライン授業では学生の皆さんからその場で発言・意思表示しやすいように、アンケートやチャットの機能を有効活用します。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。演習では計算を行いますので電卓などを持参するようにしてください。

【Outline and objectives】

In our daily life we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

In this lecture, we will learn the basics of statistics including the following topics:

- Basic knowledge of combinatorics and probability
- Data visualization
- Basic statistics
- Method to interpret results of data analytics

HUI200GA

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人と社会の営みを理解する、もう一つの視点

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 『家族』も『人間』もシステム？

コンピュータや SNS ばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国間関係にしても、うまく機能している間は人々は気にしない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかない時に問題として顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な対象をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何がかわるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する *questions* を整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを見出す作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

社会、またはあなたが直面する一見複雑に見える問題に対して：

- ・それはどのような要素からなっているか
- ・その本質は何か、何を目的としているのか
- ・複数の要素間の相互関係はどうなっているか
- ・その問題は、解決可能な幾つかの小さな問題に分けて考えることができるか
- ・どのようにすれば解決に近づくことができるか

を、システムの考え方をを用いて、問題の構造を理解して、複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導くまでの道筋を、自分で組み立てられるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約 15 分）
- (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65 分）
- (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20 分）

講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭 (1) で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義 (2) につなぐ。各自の内容理解を小演習 (3) で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

※新型コロナ感染状況により授業の進め方を修正せざるを得ない場合は学習支援システム等で周知する。その場合も上記の基本方針の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	システムは難しくないと、進め方
第 2 回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第 3 回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第 4 回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第 5 回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第 6 回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第 7 回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第 8 回	人と道具のシステム論 - 文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第 9 回	社会というシステム ~ 個人から社会へ（パーソナルの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第 10 回	社会のシステム論 (1) - ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第 11 回	社会のシステム論 (2) - コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第 12 回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第 13 回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第 14 回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いている。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40 %）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会コース、表象文化コースの専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory. Each of you is expected to re-examine some social issues by performing "System thinking".

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい（意味）や（価値）を見出し、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての（新しい意味）や（新しい価値）を創出したりすることを目指します。

2021年度の本授業では、「エコロジー（=生態学 ecology）ってなに?!」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（=エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の「環境に優しい」とか「自然との共生」を唱う「エコ」という意味での「エコロジー」ではないということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということの研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

【授業の目的】

そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000）にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人と人（自分と他人、親と子ども、など）の（あいだ）の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの（あいだ）にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（=エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミュニケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方での「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】

・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）」や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意 ・授業概要説明
第2回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第3回	ベイトソン『精神の生態学』読解(1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第4回	ベイトソン『精神の生態学』読解(2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第5回	ベイトソン『精神の生態学』読解(3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第6回	ベイトソン『精神の生態学』読解(4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第7回	ベイトソン『精神の生態学』読解(5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第8回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」(1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第9回	ガタリ『三つのエコロジー』読解(2)	・三つの「エコロジー（生態学）」(2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第10回	ガタリ『三つのエコロジー』読解(3)	・三つの「エコロジー（生態学）」(3)自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第11回	ガタリ『三つのエコロジー』読解(4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」(by 上野俊哉)
第12回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ①	・「エコソフィー」とは何か？
第13回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第14回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよねーでも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】

・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第2版、新思案社、2000年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016年

【成績評価の方法と基準】

小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30%）・小テストなどの授業内課題（70%）

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。

(2)私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思えます。

【注意点】

大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。

議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

[Outline and objectives]

This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2021, we will consider the question of "**What is the relationship between communication and its environment?!**" and we will examine the problems of "communication".

FRI200GA

情報産業論

鏡 明彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報産業の現状と展望

～国内外の放送サービスを通して今の情報産業を見つめ、将来を展望する～
「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させ、社会を発展させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支えるIT産業が飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないといえる。しかし、情報を伝える手段が変わっても、情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得=デジタルリテラシーの醸成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな通信メディアの進展と物との繋がりが広がるIoTやAIと共に、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？ それらのメディアの進展を展望するのも本授業のテーマとする。

【到達目標】

- ・グローバル視点でのメディア動向把握とその中の個の重要性理解
- ・アナログからデジタルに移行したTVメディアの変遷の理解
- ・インターネットの進展に伴うIT産業の理解
- ・放送と通信が連携しているメディアサービスの理解
- ・放送メディアが目指しているサービスの理解
- ・AIやIoTをはじめとする様々な新情報サービスの理解
- ・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
- ・各種マスメディアの今後の展望についての理解
- ・国内外のメディア動向の理解
- ・国が進める施策の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
コロナ禍の影響を受けている為、授業についてはリモート授業を基本としつつ、状況によっては、対面授業の実施も検討します。授業方法としては学習支援システムの掲示板や課題の項目を使用して、毎週皆さんに実施内容をお伝えして進めていきます。必ず、学習支援システムの掲示板や課題の確認をお願いします。対面での授業を実施する際は、以下に掲載している方法で進めることとなります。

基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してPCでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介。現在、自身の仕事でデジタルTV事業のサービス開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げて、皆さんの意見を聞きながら授業を進めます。毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年5月末に開催されているNHK放送技術研究所（世田谷区砩）の一般公開が実施された場合、持ち出し授業としてそこに参加します。参加方法については、その時のコロナ禍の状況によって検討します。さらに、8K技術などの放送外利用として、NTTが進めるIOWN構想などを題材に、将来の通信サービス環境やその世界観を取り上げます。合わせて、NHKが進めるスーパーハイビジョン（8K）やダイバースビジョン、インテグラル立体等の最新映像技術やサービスも紹介します。東京オリンピックに関連するメディアサービスも紹介予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷やトレンドについて触れる

第2回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明を行う。その中で、放送法についても触れる
第3回	放送局のコンテンツビジネス（オリンピック実施が決まれば、NHKが取り組むサービスを紹介）	NHKが進めるオンデマンドサービスやWebサービス、データ放送、ハイブリッドキャスト、同時再送信を通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する
第4回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES（家電の国際見本市）の展示内容等からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第5回	海外の放送業界のトレンド	SXSWやNAB（全米放送機器展）の展示内容等からピックアップして、業界に関する最新情報を紹介
第6回	NTTが2030年をターゲットに進めるIOWN構想について	NTTが2019年6月に公表し、2030年の実現をめざしているIOWN構想について紹介
第7回	情報化社会の今後	IOWN構想が実現することで情報化社会の世界がどのようになるのか今後を考える
第8回	放送メディアの今後（技研公開があった場合は持ち出し授業とする）	メディアサービスの状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第9回	多様なネットサービスについて	ネットサービスやビッグデータなどの情報活用法、ドローン、Uberなど個人に直接繋がるサービスの可能性について5Gも含め考える
第10回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebookなどに代表されるソーシャルメディアによる放送メディアへのインパクトを検証
第11回	多様化する端末のUI、AI、IoTについて	スマート化する端末やそれに搭載されるUI（ユーザインターフェース）やAI、さらに物等への搭載が進むIoTの活用について考える
第12回	情報化の光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得られる情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？について考える
第13回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介
第14回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）、合わせて、今回はNHK等の番組を多く授業で視聴利用する。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。日常的に流れているテレビやインターネットのニュースをよく見ること。その上で自分の考えをまとめておくこと。

【成績評価の方法と基準】

コロナ禍の関係で、対面での授業が中々実施出来ない状況下においては、学習支援システムで提示する課題とリモート授業に基づいて感想文やレポートを提出してもらい、その内容によって評価するものとする。基本、感想文やレポート提出はマストとし、その上で内容を判断して評価を行う。また、対面授業が実施できるようになった場合でも、これまでと同じように以下の内容で評価する。
平常点6割、レポート4割で評価。レポート提出は必須。レポート提出は技研公開があった場合は6月上旬に1回と7月最後の授業で出題するテーマに関するレポート1回の計2回とする。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解して自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果となったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義の最後に、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えて理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業を行う予定。

[Outline and objectives]

In this lesson, we will look at the information industry based on the transmission path (broadcasting, communication), using the services of broadcasting contents both in Japan and abroad, and grasp the current state of various media services. And we will look into the future. Based on the Internet environment, what kind of impact will the development of personal communication media represented by smart terminals, IoT and AI have on broadcasting, newspapers, and magazines of the conventional mass media? I also think about the progress of those media.

FRI200GA

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回講義のミニレポート提出者から抽選で履修者を決定します。抽選の結果は秋学期の履修登録期間までに学習支援システムのお知らせで通知します。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思えます。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常生活に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、リアルタイムオンライン講義で実施します。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介し、プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ECなどのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。

9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とインペーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
14	ネットワーク時代の情報システムの価値	ネットワーク化した情報システムが、どのように価値を付加し人々の生活を変えるのかについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介し、各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースやWebサイト等を日頃から関心を持って読み聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末試験または期末レポート：70%

講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。

2. 平常点：15%

講義への関心、参加度を評価し平常点とします。

3. ミニレポート15%

毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的にチャット等を利用して声をかけてください。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン講義で実施するため、Zoom等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義はリアルタイムオンラインで実施します。リアルタイムオンライン講義の内容の録画、公開はしません。リアルタイムで受講環境が確保できない場合は、各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半をPDFで配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。また、リアルタイムで講義を受講できない場合であっても、各回のミニレポートの期限内（講義日の当日）の提出をもって受講の履歴として確認することとします。

【Outline and objectives】

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of "information network society."

Evolution of internet with computers, smart phones and other information technologies makes change our life style rapidly. We live in "information network society" supported by lots of internet technologies. You need to think essences of "information network society" continually and act independently for trends of modern world. This course deals with history of computers, internet, smart phones and these applications. It also distributes economy, decision making, intellectual properties, and privacy to estimate how to make smart decisions in everyday life. Internet technologies are changing our life style. Domains of this course are changing constantly. Internet technologies cause not only merits but also demerits for our lives. This course objects are to analyze and discuss about many social issues in our world.

ART200GA

表象文化概論

竹内 晶子、林 志津江、深谷 公宣、島田 雅彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを示します。各講義では、文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4 人の教員による 4 分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することができると考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

初回は zoom で行い、担当教員が各自の講義について詳しく解説します。

第二回～第十三回までは、各担当教員が3回ずつオンライン上（オンデマンド方式）で講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。第十四回は対面で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第 2 回	舞台表現論 (1) 声 担当：竹内晶子	声が舞台上で持つ力について考察する。
第 3 回	舞台表現論 (2) 声と日本演劇 担当：竹内晶子	日本演劇の特徴を、西洋演劇との比較を通じて考察する。
第 4 回	舞台表現論 (3) 所作 担当：竹内晶子	舞台上の所作と現実の所作は何か違うのか。記号的に考察する。
第 5 回	欲望の音楽 (1)：私が主人公 担当：林志津江	「第九」という革命、「合唱」と「フィルハーモニー」と「グランドオペラ」
第 6 回	欲望の音楽 (2)：国民的音楽 担当：林志津江	音楽学校と録音術の発明、「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」の誕生
第 7 回	欲望の音楽 (3)：本当らしさ 担当：林志津江	人種と階級、ステレオタイプと「アイデンティティ」の在処
第 8 回	形式論：型通り、型破り 担当：島田雅彦	音楽、文学、哲学における形式について 起承転結、ソナタ形式と弁証法
第 9 回	空間論：仮想空間へ 担当：島田雅彦	想像上の空間についての考察 あの世 パラレルワールド ニッチ論
第 10 回	時間論：時間は存在しない 担当：島田雅彦	1日はいつから始まるか？ 時間軸について 因果律 多元宇宙論
第 11 回	身体とその臨界 (1) 担当：深谷公宣	フリーク・ショーにおける身体イメージの系譜をたどる。
第 12 回	身体とその臨界 (2) 担当：深谷公宣	文芸作品に見られる幽霊、妖精、動物、変身、仮面について概説する。
第 13 回	身体とその臨界 (3) 担当：深谷公宣	天使の「身体」について考える。／ケーススタディ：映画『ミスター・ロンリー』分析
第 14 回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の講師が、それぞれの研究分野について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。

各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を 25 点満点で示し、合計で 100 点満点で成績をつける。

平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスにかならず出席してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course on the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, photography, art, and music. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

DES200GA

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

21年度、この科目は、原則としてオンライン授業で開講され、講義動画の配信（オンデマンド）によりすすめる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で、す。

*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？
第3回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの類型（タイプ）
第4回	コミュニケーションとは何か-1	コミュニケーションのさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）
第5回	コミュニケーションとは何か-2	コミュニケーションのさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）
第6回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第7回	情報（ニュース）-2 ふりかえりレポート-1	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第8回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR） 近年の推奨コミュニケーションの問題
第9回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第10回	ソーシャル・メディア-1	ソーシャル・メディアとは何か？ その普及と社会
第11回	ソーシャル・メディア-2	ソーシャル・メディアの光と影 （1）ネット炎上の実態 （2）SNSでの自己演出・アイデンティティ創出
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？

- 第13回 メディア・リテラシー-2 社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？
・ポスト真実/フェイクニュースの拡散と影響など
- 第14回 まとめ
ふりかえりレポート-2 社会の動きを適切にとらえ、コミュニケーションを行うためにメディアをどう使いこなすか？
・情報源の識別/ファクトチェック/メディアと感情
/メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

0) 復習として、動画講義のスライドと見比べつつ、配布資料をよく読んでおくこと。

- 1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・石田英敏『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディアロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』リベルタ出版、2000年
- ・竹内和郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約40%）、ふりかえりレポート（2回程度：約60%）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、すべてのふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心をもち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline and objectives】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方に関するきっかけとなる様な入門的な内容の講義となります。特に、21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。「芸術史と理論」（前半）、「社会と美術」（後半）の2つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

1. 芸術史と理論

社会と芸術について学ぶ上での基礎となる18世紀から21世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

2. 社会と美術

社会や時代を映す鏡としてのメディアと芸術表現との関係について、具体例を交えながら学びます。

【到達目標】

講義では、過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。それらの事例より、

1. 美術史の営みを理解すること
2. 身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすこと

がこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャー・パフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・ Zoom（ミーティング）

・ Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/7	ガイダンス 社会と美術について	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
4/14	芸術史と理論 1 近代美術の誕生（写実主義、印象派）	市民革命、産業革命とアート レクチャー・パフォーマンス 印象派のはじまり
4/21	芸術史と理論 2 アバンギャルドの時代Ⅰ（フォービズム、表現主義、キュビズム）	第一次世界大戦前のアート レクチャー・パフォーマンス ピカソとブラック
4/28	芸術史と理論 3 アバンギャルドの時代Ⅱ（未来派、ダダイズム、シュルレアリスム）	第一次世界大戦とアート レクチャー・パフォーマンス マルセル・デュシャン
5/12	芸術史と理論 4 アバンギャルドの時代Ⅱ（戦後美術）	戦後のアメリカ美術 抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート

5/19	芸術史と理論 5 多文化の時代	多文化主義とアート YBA とリレーショナル・アート ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深める。 レクチャー・パフォーマンス 多文化主義とアート 参加型アート ソーシャリー・エンゲージド・アート レクチャー・パフォーマンス ヨーゼフ・ボイス パウハウスとブラックマウンテンカレッジ ABR（教育と美術） アートベースリサーチ レクチャー・パフォーマンス ブラックマウンテンカレッジの芸術教育
5/26	芸術史と理論 6 コミュニケーションの時代	美術批評の起源 戦後の美術批評 美術批評の現在 レクチャー・パフォーマンス 批評家について 文化と法律 文化を支える仕事 レクチャー・パフォーマンス ミュージオロジー 第二次世界大戦中の文化政策 プロパガンダ 社会主義と美術 レクチャー・パフォーマンス 社会主義美術 ジェンダー、トランスジェンダーの課題 レクチャー・パフォーマンス マリナ・アブラモビッチ 環境問題とアート ランドアート エコロジー レクチャー・パフォーマンス アンディ・ゴールズワージー フィードバックとディスカッション
6/2	社会と美術 1 美術と教育	
6/9	社会と美術 2 美術と批評	
6/16	社会と美術 3 文化政策	
6/23	社会と美術 4 政治とアート	
6/30	社会と美術 5 ジェンダーとアート	
7/7	社会と美術 6 環境とアート	
7/14	ワークショップ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014年
高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年
辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

美術を学ぶためには、体験的かつ分析的な物の見方が必要でしょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site (ウェブサイト) のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像 (YouTube、30 分程度のを 2、3 本)、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

ART200GA

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。

国際文化学部基幹科目「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディアと社会」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

・メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

・メディアと社会

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

・メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

授業では、過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/23	オリエンテーション	講義内容 教科書・参考書 評価基準など
9/30	メディアの歴史 1 絵画から文字へ	文字の誕生とその発達の歴史について
10/7	メディアの歴史 2 文字の進化	活字（印刷）の発明と近代文化に与えた影響について
10/14	ワークショップ 1	ワークショップ・絵画と文字
10/21	メディアの歴史 3 印刷の誕生	印刷技術のもたらす社会の変化 レクチャーパフォーマンス 「Helvetica」
10/28	メディアの歴史 4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	マスメディアについて レクチャーパフォーマンス 「テレビの世界」
11/11	ワークショップ 2	ワークショップ・マスメディアについて

11/18	メディアの課題 1 マクルーハンのメディア論	マクルーハンの理論 レクチャーパフォーマンス 「メディアはメッセージ」
11/25	メディアの課題 2 インターネット	地域社会を取り巻くメディアの役割と課題
12/2	ワークショップ 3	モダンアートと新しいメディア
12/9	メディアと社会 1 企業とメディア	建築とメディア、デザインとメディアについて
12/16	メディアと社会 2 戦争とメディア	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
12/23	メディアと社会 3 メディアとアミューズメント	料理をめぐるメディア論 日本におけるクリスマスについて
1/13	メディアと社会のまとめ ワークショップ 4	メディアと社会をめぐるディスカッション ワークショップ・メディア批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣、2004年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』見洋書房、2001年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リンク先がありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

発行日：2021/4/1

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

ART200GA

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどのようなことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
- ・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
- ・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ポッティチェリ、ティツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アバース、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映像における身体運動を理解するため、基本的な撮影技法と照明技法を紹介する。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	西洋近世以降の服飾の歴史の変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	日本の服飾の歴史の変遷を振り返る。
13	漫画と身体	日本の漫画の身体表象の特徴の事例を考察する。手塚治虫、萩尾望都、大友克洋など。
14	まとめ：モードと身体	「モード」について考察することにより、授業全体を振り返る。ボードレール「現代生活の画家」など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
 諸川春樹他『彫刻の解剖学―ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
 清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
 飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
 西村清和『視線の物語 写真の哲学』（講談社メチエ）
 森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
 ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
 蓮實重彦『監督 小津安二郎 [増補決定版]』（ちくま学芸文庫）
 ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
 矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
 スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
 四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）
 鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
 ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO 出版）
 ダムタイプ『メモランダム 古橋梯二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
 学期末レポート 50%：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing human body from a social perspective.

PHL200GA

現代思想

森村 修

サブタイトル：マルクス『資本論』をエコロジー的な視点で読み直す

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2021年度は、現代の若手経済思想家の齋藤幸平氏（1987-）の『大洪水の前に——マルクスと惑星の物質代謝』（2019）と最新刊の新書『人新世の「資本論」』（2020）を基本的なテキストとして用いて、21世紀の現在における資本主義とエコロジーの問題を考察する。

齋藤氏は、31歳（2020年現在でも、34歳!）のときにマルクス研究界最高峰のドイッチャー賞を受賞した新進気鋭の経済思想研究者である。彼は、150年前に出版されたマルクスの『資本論』の中に、エコロジー的な資本主義批判の思想を見出す。そして彼の指摘で注目するのは、最近、各国政府や大企業が推奨し、巷でも流行（？）している「SDGs（持続可能な発展目標）」について辛口のコメントをしていることである。彼によれば、「SDGs」を達成しても、気候変動を止められないということだ。そこまで私たちが生きる「現実」は危機的であり、「豊かな生活」がいかに環境を破壊していることを直視する時期に来ている。

本授業では、21世紀の環境破壊が進む現実に、どのようにマルクスのエコロジカルな思想を生かせるかを考えることで、私たちの日常生活に当たり前の資本主義的な経済が自然環境に悪影響を与えているか、結果的に、私たちの生き方も厳しくさせているかを考察する。

【授業の目的】

本授業では、私たちが生きている現在が、どのような思想状況にあるかという問いを検討することを通じて、現代社会における知と社会状況との関係を思想的に分析することを目的とする。2021年度は、齋藤氏の『資本論』解釈に基づいて、資本主義的な経済発展とエコロジーとの関係を改めて哲学的に問い直すことを目的とする。

【到達目標】

- (1) 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
- (2) 私たちが生活することが、いかに自然環境を破壊していくことにつながるかを学ぶことができる。
- (3) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。
- (4) マルクスがいかに優れた「哲学者」であり、時代遅れの思想家ではないことを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション——「SDGsは「アヘン」である」	・授業の概要説明 ・「SDGsは「アヘン」である」
2	第一部 経済学批判とエコロジー 第1章 労働の疎外から自然の疎外へ	・マルクス疎外論の再検討 ・「疎外」は哲学的カテゴリーなのか？
3	第一部 経済学批判とエコロジー 第1章 労働の疎外から自然の疎外へ②	・人間と自然の本源の統一の解体

4	第一部 経済学批判とエコロジー 第2章 物質代謝論の系譜学①	・あらゆる富の素材としての自然 ・物質代謝論の起源をめぐって
5	第一部 経済学批判とエコロジー① 第2章 物質代謝論の系譜学②	・人間論の唯物論の限界 ・『要綱』における生理学
6	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第3章 物質代謝論としての『資本論』①	・歴史を貫く物質代謝としての労働過程 ・価値と物象化
7	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第3章 物質代謝論としての『資本論』②	・素材とかたちの弁証法 ・資本主義的生産による物質代謝
8	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第4章 近代農業批判と抜粋ノート①	・『資本論』とリービッチ ・農芸化学と大地の問題
9	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第4章 近代農業批判と抜粋ノート②	・環境帝国主義とグローバル環境危機
10	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第5章 エコロジーノートと物質代謝論の新天地①	・『資本論』とリービッチ再考
11	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第5章 エコロジーノートと物質代謝論の新天地②	・気候変動と文明の危機
12	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第6章 利潤、弾力性、自然①	・資本の有機的構成
13	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第6章 利潤、弾力性、自然②	・自然の弾力性
14	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第7章 マルクスとエンゲルスの知的関係とエコロジー	・〈マルクスに還れ!〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- (1) 齋藤幸平『大洪水の前に——マルクスと惑星の物質代謝』、堀之内出版、2019年
- (2) 齋藤幸平『人新世の「資本論」』、集英社新書、2020年

【参考書】

- (1) 齋藤幸平『カール・マルクス 資本論』NHK100分 de 名著、NHK出版、2021年
 - (2) カール・マルクス『資本論』、岩波書店・他
- ※ それ以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート（30%）

②平常点（70%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about "origin" and "essence" of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the "thought of modern trends"

In the class in 2021, we will examine the relationship between capitalism and ecology in the present 21st century, using as a basic text "Before the Great Flood: Marx and the Material Metabolism in the Planet" (2019) by Kohei Saito (1987-), a young contemporary economic thinker.

LIT200GA

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートの提出をおこなってもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と履修意図の確認+ことばから文化・社会を捉える視点（オンデマンドで実施）
2	イントロダクション	4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）
3	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
4	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
5	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
6	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
7	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
8	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）
13	現代に求められる「人文知」	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
14	学期授業の総括	学期授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15 章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010 年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015 年）

・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014 年）

※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末レポート（50％）をあわせて評価します。

評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
 - 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
 - 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもとづいて捉えているか。
 - 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。
- ※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストや資料についてさらに具体的でわかりやすい解説を心がけ、履修者による主体的な問題発見・取り組みをいっそう促すよう努力したい。

・リアクションペーパーでの質問や意見、感想をクラス全体に還元することに加えて、クラス規模を考慮しながら、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・初回授業はオンデマンド（学習支援システムに資料を掲示）で実施します。受講者数が教室定員を超過する場合は初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。

・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

・配付資料として英語資料を用いることがあります。

【Outline and objectives】

In this course, we will outline the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn” on the humanities, and think about how to confront the issues of the contemporary world.

LIT200GA

比較文化

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」の基礎を学ぶとともに、それらの理論を映画、オペラ、日本人論、和歌、俳句、連歌、英詩、ハイパーテキスト文学作品、能、モダニズム演劇、など実際の作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】

比較文化にあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの理論を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン（オンデマンド方式）で行います。ただし、単に漫然と講義（ナレーション付き PPT）を聞くだけの授業ではありません。課題テキストを読み、あるいは前回の授業で鑑賞した作品を分析して、SQ（Study Questions）への答えを次回授業前に提出することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、文化と文化の間の差異をより深く考えるための素材と思考ツールが身に着く筈だからです。

授業内では皆さんが提出した回答をとりあげて、様々な視点をまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。オリエンリズムについて理論的な説明を行う。
2	オペラ『蝶々夫人』台本分析	オペラ『蝶々夫人』の台本にみられる日本人像を分析した後、オペラの映像を抜粋で鑑賞する。
3	オペラ『蝶々夫人』映像分析	先週鑑賞した映像にみられる日本人像を、オリエンリズムの観点から分析する。
4	ルース・ベネディクト『菊と刀』	日本人論の古典といわれる『菊と刀』をとりあげ、その方法論および論の立て方にみられるオリエンリズムを分析する。
5	アニメ『リトル・マーメイド』にみるジェンダー観	アニメ『リトル・マーメイド』の抜粋を鑑賞し、そこにどのようなジェンダー観が見られているか考える。
6	アニメ『リトル・マーメイド』と家父長制	上記作品にみられたジェンダー観がどのように家父長的価値観を反映しているのかを分析し、他の類似した事例をとりあげて議論する。
7	アニメ『アナと雪の女王』にみるジェンダー観	『リトル・マーメイド』と比較しつつ、ディズニーアニメにおける女性像・男性像の変遷を、ジェンダー論を用いながら分析する。
8	言語と構造主義（1）欧米の詩	ヤコブソンの「詩的原理」論を応用しながら、現代のポップカルチャーにまでみられる欧米の「韻律」を考える。
9	言語と構造主義（2）和歌と連歌	ヤコブソンの「詩的原理」を大枠として、欧米の韻律と比較しながら日本の和歌における修辞法を考える。
10	連歌とハイパーテキスト詩	ロマン主義的な作者観と対比しつつ、中世の連歌活動と現代のハイパーテキスト詩を比較考察する。
11	モダニズムと俳句	英米詩の革新運動であったイマジズム運動をとりあげ、俳句からの影響と相違を考察する。

12	能とイエイツ	欧米演劇のモダニズム運動における能の影響を、イエイツの能受容を中心に考察する。
13	文化人類学と「娯楽」（1）理論編	ギアツ、ターナーらの諸理論をとりあげ、文化活動、娯楽活動に関する彼らの定義を比較する。
14	文化人類学と「娯楽」（2）応用編	様々な娯楽活動をとりあげ、上記の諸理論をそれらの分析に応用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・視聴覚教材や課題として出されたテキストに関する毎週の課題（Study Question）を、学習支援システムで提出する。締め切り厳守。
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】

エドワード・サイード『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993）その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・毎週の課題（Study Question）：100%
・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で、学生の回答例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

学期中、課題として各自にアニメ映画「リトル・マーメイド」（1989）を視聴してもらいます（オンラインでレンタル可）。レンタル代（媒体によって異なるが、300円前後）は学生の負担となります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to familiarize students with several basic social/cultural/literary theories, from orientalism to feminism, structuralism, and theater anthropology, that will serve the theoretical frameworks for their further comparative cultural studies.

GDR200GA

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。

●受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●HOPPIIの「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。

●HOPPIIの「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出をしてください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウロジーならびにイブ・セジュウィックのホモソーシャル性の概念から考察する。 ②ホモソーシャル性（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。

7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ボルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）。

千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。

江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。

木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学・ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%

期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業録画をもっと見やすいものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

●受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。

●200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline and objectives】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

LIN200GA

異文化間コミュニケーション

江村 裕文

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なった文化を背景にひきずった個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築く、というのが、外国人との交流なり異文化間コミュニケーションに対してみなさんが抱くイメージなのではないかと思う。

異文化を理解するのは、口で言うほど容易ではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうということが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どうしたらいいのか。自らの体験に基づきながら事例を紹介している直塚玲子の著作をテキストにして、異文化（間）が抱える諸問題に触れていきたい。

【到達目標】

異文化間の具体的な問題としてどうということが起こるかを事例を通じて知ったうえで、自分がそういう場に遭遇した場合に、適切に対処し、問題を最小限に食い止め、可能であれば「相手」との interaction を通じて関係を改善できるという能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講では、まず鈴木著の著書にある、「文化」とは何か、についての考察をすすめて「文化」に関する理解を共通にし、その上で、日本人と（特に欧米の）外国人がコミュニケーションをする上での諸問題について、直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』にあげられている事例や、さらに、可能であれば、上級生のSA体験者からの体験談やさまざまな具体的な問題点を持ち寄りながら、討論や考察をすすめていきたい。

また個々の具体的な事例に関しては、授業内でフィードバックしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・テキスト紹介・報告箇所割り当て	授業の進め方およびテキストについて解説し、テキストの報告箇所について割り当てる
2	「文化」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	「欧米人が沈黙するとき」①	「私と異文化との出会い」講読と解説
4	「欧米人が沈黙するとき」②	「この間はどうも」 -感謝の気持ちのあらわし方
5	「欧米人が沈黙するとき」③	「すみません」 -人間関係の潤滑油
6	「欧米人が沈黙するとき」④	「何もしませんが…」 -謙遜表現をめぐって 「どうぞよろしく」 -不当な義務
7	「欧米人が沈黙するとき」⑤	「プライベートな質問」 -プライバシーとは 「一杯飲みにいきませんか」 -誘い方・断り方

8	「日本人が沈黙するとき」①	「夜遅くまで、ご熱心な練習ですこと」 -苦情の述べ方 「イエスですか、ノーですか」 -婉曲表現
9	「日本人が沈黙するとき」②	「ご意見をどうぞ」 -タテマエ 「窓を開けてもいいですか」 -責任回避
10	「日本人が沈黙するとき」③	「根回し」 -時間の浪費？ 「酒とコミュニケーション」 -日本の契約
11	討論「異文化間コミュニケーション」のために	SAを経験した上級生の経験を踏まえて、異文化コミュニケーションにおける問題点を共有する
12	討論「異文化間の諸問題をどう解決するか」	授業の内容を踏まえて、「異文化」をどう乗り越えていったらいいか考える
13	討論「日本文化と異文化」	自分が日本文化の体現者であるということ、異文化を理解することにおける問題点を考える
14	討論・議論	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テキスト」を読む時間においては、割り当てられた個所について報告準備を行い、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。

「討論」に関しては、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように情報収集等を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは以下の二点

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書

直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店

【参考書】

授業中に適宜紹介の予定である。

【成績評価の方法と基準】

原則、「平常点」40点、レポート60点の合計100点で評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

SA体験者の上級生の体験談が聞きたいという、特に一年生からの要望が多いので、その機会をもう少し多くしたい。

「今回の課題図書を読んで国際文化学部において学ぶべきことの概観が漸く見えたように思える。これから自分の専門分野を見つかる上で基礎的な視野を得ることができた。」（1年生）

「私がSAプログラムで直面した問題には日本人の特有さがあったということに授業・レポート作成を通して気づかされた。」（3年生）

以上は最終レポートに書かれた一部である。この授業には、学側の姿勢次第で、より豊かな学びの可能性があると確信している。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業である。コミュニケーションが苦手な学生の積極的参加は評価するが、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢で授業に臨む、たとえばずっと寝ているとか、は教室内に存在していないと判断する。コミュニケーションは知識よりも実践である。

【Outline and objectives】

In this class, "Intercultural Communication" or "Cross Cultural Communication", we are going to treat the following issues,

1 What is Culture,

2 What are Cultural differences,

3 How is the Communication between different Cultures possible.

For to know how other Cultures are leads us to know how our own Culture is.

発行日：2021/4/1

In this class, we will understand the way to communicate with owners of different Cultures.

PHL200GA

Philosophy of the Public Sphere

石田 安実

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

People often think that "philosophy" is quite an old subject – and very difficult, unfortunately. It is true that philosophical questions have been discussed in rather complicated and often confusing manners since many years ago, for example, by Socrates and Aristotle in the ancient Greek period. But many philosophers believe that these questions are tightly related to our everyday life. We are surrounded by many philosophical issues, though we may not always be aware of their philosophical significances; that is, philosophical issues are basically our everyday issues. But how are they related to our life?

In this course, you will discuss various philosophical topics, their in-depth meanings, and their philosophical significances, trying to find their very relevance to your life. That may help you see your surroundings, your society and the world in quite exciting and interesting ways. Out of many philosophical topics found in our daily life, we will discuss 13 topics in class.

【到達目標】

This course provides a broad introduction to philosophical ways of thinking. The course is open to students from any disciplines, who hope to:

(1) understand some of the most fundamental philosophical topics (for instance: freedom, truth, and moral rightness /wrongness),

(2) be able to explain the issues in very simple everyday terms, and

(3) apply philosophical ways of thinking (reasoning) on every-day issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

On enrollment:

The student enrollment in this course is limited to 20, and you will be admitted on a first-come and first-served basis. So, if you wish to take this course, you need to take an immediate action and do the following:

(1) You have to send me an e-mail (to the address below) expressing your intention to enroll:

yasushi.ishida.85@hosei.ac.jp

(2) When you are accepted to the class, you will receive a note (e-mail) of confirmation. If you are not accepted, you will be put on the waiting list in the order of application.

(3) Those who have received my note of confirmation can go through a procedure of 本登録.

・You will be accepted on a first-come and first-served basis. Equally importantly, I urge you to attend the first and/or second meeting.

In case you fail to attend both of them, that will affect your final grade (10%); if you have legitimate or good reason to miss the meetings, do not fail to contact me by e-mail.

・Those who are put on the waiting list can register, ONLY IF we have some vacancies in the enrollment AND the registration is still possible (that is, it is still in the registration period).

Organization of the class:

▶ Each class will consist of (less than)100-minutes of **lecture and discussion**. The class will be conducted in English.

▶ This year, due to the coronavirus situation, this course will be held **online (by using Zoom)**, so please make sure you have the application ready in your computer along with necessary devices.

● On the Zoom meetings:

・ I will post the "Zoom Link," "授業参加用ミーティング ID" and "パスワード" on 学習支援システム by Tuesdays (the day before the class). You will have to sign in with your own Hosei University mail address and password.

・ Your attendance will be recorded automatically, but I may take attendance.

・ **In case someone comes in one of the online classes to do any disturbing acts (which is often called Zoom-Bombing), I will terminate the meeting immediately. And I will report to the University.** I will then post in 学習支援システム what you will have to do.

・ I appreciate interaction and exchange with you in class. So, please make best efforts to express your ideas, even if you find it very difficult to do so. I would NOT penalize you for making mistakes; you ARE entitled to make mistakes in class!

Basic course requirements:

* No previous philosophy courses required.

* Intellectual curiosity; Keen eyes on everyday-life facts and happenings.

* Respectful attitude of others' opinions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explaining the course
2	Lying	Is lying always wrong?
3	Morality	What does it mean to be "morally right"?
4	Relativism	Is everything relative?
5	Freedom	Are we completely free?
6	Culture vs. Nature	How different are they?
7	Culture vs. Nature	The idea of enhancement
8	Love	What is it?: Just a perception?
9	Perception	What do we perceive?: Is it so accurate?
10	Knowledge vs. Beliefs	What do we know?: How do we know it is true?
11	Truth, Reality	What is really true?: Truth, Reality, Dream
12	Robots and Humans (Mind)	Is the Mind just the Brain? (Your "essay plan" must be submitted by the 12th meeting)
13	Language	What does it do?: What's its role?
14	Wrap-up: The Meaning of Life	Concluding remarks (Your "essay plan" will be returned)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ I recommend that you review what you have learned in each meeting.

・ You are normally expected to spend about two hours for the preparation and review for each class.

・ **You will have to submit your paper topic ("essay plan") by the 12th class meeting.**

【テキスト（教科書）】

・ There will be no specific textbooks assigned.

・ Occasionally, reading materials may be assigned and handouts will be given in class.

【参考書】

No specific books assigned. But looking into any (**large size**) philosophy dictionaries will be of great help.

【成績評価の方法と基準】

I will assess your grade based on the way you participate in the class discussions and on your final project.

Attitude/ Participation: 40% of course grade

Final Project (a paper): 60% of course grade

*Attitude/ Participation:

I appreciate your participation in class and would like to know your ideas and opinions. I will hence consider your participation as part of your grade.

*Final Project:

At the end of the semester, you are expected to submit a short paper (of 700 to 1000 words) on the topic that you choose, explaining your ideas or insights. Your topic should be related to the issues studied or discussed in class. I will give you a specific Guideline before the end of semester.

▶ **Near the end of the semester, you will have to submit your "essay plan," which should include the title (topic) of your paper and your (tentative) conclusion described in a short paragraph (of about 200 words): Note that it is NOT a draft of your final paper. You will receive my comments on your paper plan, and then your plan should be re-organized or revised accordingly.**

▶ In writing your paper, you can expand your ideas by citing or referring to books and other documents, including materials from websites. In that case, **you MUST explicitly show the sources or reference either in the footnotes or endnotes.** (Do NOT cite or refer to **Wikipedia** in your paper. If you do so, you will receive a "D" grade.)

▶ Plagiarism: If you copy sentences from any existing documents (again, including any writings from websites) without showing sources or reference, you will receive a "D" grade. It is important that you present **your own view** or insights, not the same ideas as described or explained in published or preexisting documents or on websites.

▶ You have to submit your paper (essay) on the web system (Class Support System, 授業支援システム). The due date will be announced near the end of the semester.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

In previous semesters, I received several comments from students: for instance, "having discussions in class was very hard at the beginning, but it helped me improve my English speaking skills and express myself logically. Eventually, I found it quite exciting and stimulating."

【その他の重要事項】

・ I urge you to attend the first and/or second meeting. **In case you fail to attend both of them, that will affect your final grade (10%); if you have legitimate or good reason to miss the meetings, do not fail to contact me by e-mail.**

・ As I appreciate interaction and exchange with you in class, I would like to know what you think and have your feedback. So, I strongly advise that you attend all the classes and participate in the discussions.

・ *Philosophy* is different from *a philosophy*. "Philosophy" is the discipline that comprises logic, metaphysics, ethics, epistemology, etc.; on the other hand, "*a philosophy*" is a system of beliefs, concepts, or attitude of an individual or a group. Everyone has **a philosophy** of some sort, even if he/she has never read a philosophy book. **An individual's philosophy can be a subject for examination and discussion in philosophy class.**

【Outline and objectives】

People often think that "philosophy" is quite an old subject – and very difficult, unfortunately. It is true that philosophical questions have been discussed in rather complicated and often confusing manners since many years ago, for example, by Socrates and Aristotle in the ancient Greek period. But many philosophers believe that these questions are tightly related to our everyday life. We are surrounded by many philosophical issues, though we may not always be aware of their philosophical significances; that is, philosophical issues are basically our everyday issues. But how are they related to our life?

In this course, you will discuss various philosophical topics, their in-depth meanings, and their philosophical significances, trying to find their very relevance to your life. That may help you see your surroundings, your society and the world in quite exciting and interesting ways. Out of many philosophical topics found in our daily life, we will discuss 13 topics in class.

SOS200GA

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。あらためて「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界への理解と取り組みにつなげます。対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

- ①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
- ②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
- ③①、②を踏まえ、国際関係の事象、問題について、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
- ③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
- ⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。
3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家 (nation state) の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家 (nation state) 及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。

- | | | |
|----|-----------------------------|---|
| 5 | 帝国主義と国際関係①
「つながる/つなげられる」 | ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動をもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。 |
| 6 | 帝国主義と国際関係②
「へだてる/へだてられる」 | 世界の一体化が生み出した世界の「分断」を、現代世界のグローバリゼーションとの関係性理解する。 |
| 7 | 帝国主義と国際関係③
国際関係研究への視座 | 「植民地」、「帝国主義」を対象とする当時の研究から、国際関係認識や分析を学ぶ。 |
| 8 | 近代国際関係と「民族」
- 実態と概念① | 主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。 |
| 9 | 帝国主義と「民族」
- 実態と概念② | 帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。 |
| 10 | 帝国主義と「民族」
- 実態と概念③ | 現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。 |
| 11 | 第一次世界大戦と国際関係①
近代国際関係の再編 | 人類初の「総力戦」と国際関係再編との関係を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。 |
| 12 | 第一次世界大戦と国際関係②
国際組織と安全保障 | 国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に国際関係の特徴を学ぶ。 |
| 13 | 第一次世界大戦と国際関係③
植民地支配体制の再編 | 委任統治制度を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。 |
| 14 | 総括 | 春学期の授業を総括し国際関係学概論Ⅱにつなげる。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業内容はテキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究などに関連させるとよい）。
- ③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
- ④予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅村忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末のレポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当していないため情報をもなたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業ではZoomを使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。
- ・本授業では、高校で世界史を選択した/しなない関係ありません。現代世界を理解するためには「歴史」を、そして「歴史」から学ぶことは不可欠という姿勢で臨んでください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

SOS200GA

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。あらためて「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界への理解と取り組みにつなげます。対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

- ①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
- ②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
- ③①、②を踏まえ、国際関係の事象、問題について、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
- ③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
- ⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係①	ヴェルサイユ・ワシントン体制が崩壊する戦間期を踏まえ、第二次世界大戦の特徴から国際関係のなかで捉える。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合の設立、人権の重視、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設を中心に、植民地なき植民地体制が今なおもたらす問題を学ぶ。

5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考から冷戦体制の特徴を学ぶ。戦後国際関係研究の特徴をみる。
6	冷戦と国際関係②—核開発	東西両陣営の核開発競争から国際関係を捉え、現在に続く核問題を学ぶ。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した事例を中心に冷戦体制の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など南北問題をめぐる第三世界の動きから国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題”解決”	南北問題”解決”をめぐる「開発」、「発展」概念の問い直しを中心に国際関係認識と分析の特徴を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—核軍縮、東西両陣営内の変動	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	冷戦体制の崩壊過程と崩壊後に持ち越された国際関係の問題を学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバル化	ポスト冷戦体制の国際関係を、9.11やグローバル化の諸問題から理解する。
13	グローバル化の下で「国際関係」を問う	受講生の関心に基づきトピックスを定める。
14	まとめ	秋学期の授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①テキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究などに関連させるとよい）。
- ③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
- ④予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回提出を求めらるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末のレポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当していないため情報がない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業ではZoomを使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

発行日：2021/4/1

・本授業では、高校で世界史を選択した/しないは関係ありません。現代世界を理解するためには「歴史」を、そして「歴史」から学ぶことは不可欠という姿勢で臨んでください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

SOC200GA

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れてきているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人々の自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・履修生のみならずには学習支援システムを通して配信される授業資料を用いた学習を行っていただきます。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第3回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第4回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第5回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第6回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第7回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第8回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第9回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第10回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動とアイヌの人びと
第11回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第12回	観光開発と国家	ハワイにおける「楽園」の創造
第13回	環境破壊と国家	グローバル化のなかの森林資源
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

- 授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
- 丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013年。
- ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013年。
- ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007年。
- 小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【その他の重要事項】

- ・学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. We also deepen the understanding of theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan.

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 平和学で取り上げられる方法を理解し事例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：履修者数が多いため、法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベルと関わりなく、講義はオンデマンド授業で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。毎回「授業後課題」を課す。正解のない思考を促す課題で、200字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業後課題）40%、期末レポート 60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題に対して、次の授業の冒頭でフィードバックしているが、学生からは学びが大きいと評価されているので継続する。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付け回答する。
- ・オンデマンド授業は毎回40分～50分に収まるように収録する予定である。一部学生から100分授業に満たないとの指摘があるが、内容は教室で100分行う授業と同じ内容であり、教える内容は減らしていない。
- ・オンデマンド授業の良さは、わからなかった部分を聞き直したり、一度止めてメモを取ったりできることにあると前年度の学生から歓迎された。そうした利点をうまく活用して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には授業コードを使って自己登録すること。
- ・パソコン、および動画（もしくは音声入りパワーポイント）を視聴できるネット環境が必要。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。

【Outline and objectives】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peaces in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

SOC200GA

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようにする。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。

●受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●HOPPIIの「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。

●HOPPIIの「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教の持つ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。

8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- ロバート・D・バットナム、デイヴィッド・E・キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019年）。
- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島藺進、葛西賢太、福岡信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- エルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%

期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】

- 受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。
- 200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。
- 第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline and objectives】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

SOC200GA

Religion and Society

丹羽 充

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には、入学
時以降の TOEFL や TOEIC など標準的なテストの結果と初回授業
へのコメントを総合的に評価して選考します。

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn anthropological approaches for interpreting issues regarding religions, societies, and the relationships between them. This course will not be centered on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions. Instead, we will focus on how people practice religion, how they relate themselves to it, and, ultimately, how religions are related to society.

【到達目標】

Students will:

-Understand basic anthropological approaches to religion.

-Improve their interest in and ability to understand 'others' as familiar existences through comparative perspectives.

-Acquire the ability to reflect on themselves with the help of 'others', and unfamiliarize the familiarized.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

The course consists of quizzes, lectures and reaction papers. In each class, students will first take a quiz on an assigned text, then listen to a lecture, and finally write a reaction paper. Students will be able to request the feedback on quizzes and reaction papers through e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course.
2	Approaches and Theories	Various approaches and theories in anthropology of religion.
3	Religion and the Human Body	The relationship between religion and the body.
4	Religion and Identity	The politics of religious identity.
5	Film: Amish	A documentary film on Amish.
6	Religion, Sex and Gender	The relationship between religion, sex and gender.
7	Religion, Culture, and Social and Natural Environment	The relationship between religion, culture and environment.
8	Rituals	Performances and meanings of various rituals.
9	Shamanism	Varieties of shamanic practices.
10	World Religions	The diversity within world religions.
11	Modernization and Secularization	Aspects of modernization and secularization.
12	Fundamentalism	Varieties of religious fundamentalisms.
13	Film: Jesus Camp	A documentary film on Christian fundamentalism.
14	Religion and Globalization	Various impacts of globalization on religion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For each class, students are expected to spend approximately four hours to read an assigned text and prepare for a quiz and a reaction paper.

【テキスト（教科書）】

No textbook required. Reading materials are shared online.

【参考書】

Bowie, Fiona. 2002. The Anthropology of Religion. Oxford: Blackwell Publishing.

Eller, Jack David. 2007. Introducing Anthropology of Religion: Culture to the Ultimate. New York: Routledge.

【成績評価の方法と基準】

Quizzes 50%

Reaction Papers 50%

The cutoff score for passing is 60%.

【学生の意見等からの気づき】

Minor adjustments may be made to the course design based upon the number of participants and their interests.

【Outline and objectives】

Students will learn anthropological approaches for interpreting issues regarding religions, societies, and the relationships between them. This course will not be centered on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions. Instead, we will focus on how people practice religion, how they relate themselves to it, and, ultimately, how religions are related to society.

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 関連する文献の趣旨を的確に読み取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

■基本方針：法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル1になった場合は対面で、レベル2以上の場合は授業日後3日間はいつでも視聴できるオンデマンド方式で実施する。

■教室定員との調整の都合もあるので、レベル1の対面実施の場合、履修予定者は第1回の授業終了後3日以内（4/10 18時）に履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないものとみなす。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。毎回「授業後課題」を課す。正解のない思考を促す課題で、200字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回は授業日後3日間はいつでも視聴できるオンデマンド授業で実施する。対面授業の場合は、初回の授業後に履修の意思確認を行う。教室定員との関係で受け入れ可能な状態であることを確認した上で、2回目以降は対面授業で実施する。仮に定員を超えていた場合は抽選を実施する。レベル2以上の場合は、履修人数に関係なく音声入りパワーポイントもしくは動画を使ったオンデマンド授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション—国際文化協力とは—	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力—期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える

14 私と国際文化協力

担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再編成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

2021年3月初旬発行予定の以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力—イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点 60%、期末レポート 40%
- ・授業後課題は毎回設問に200字程度で答えるものでカッコ内の場合は減点となる（例：設問に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

1年生にとってレポートが難しかったという意見があったので、レポートの書き方について丁寧に説明するなどの対応を講じ、適切なレベルでの達成度評価を行う。

【学生が準備すべき機器他】

- ・法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル2以上の場合、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義する

【Outline and objectives】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

PSY200GA

【2021 年度休講】異文化適応論

浅川 希洋志

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考えられる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかにか特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVDがあれば適宜紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第 2 回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第 3 回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第 4 回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第 5 回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第 6 回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもの早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第 7 回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第 8 回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知ろう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第 9 回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第 10 回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。

第 11 回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第 12 回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第 13 回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。授業のまとめ、期末試験の解説を行う。
第 14 回	授業の総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【Outline and objectives】

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people. Especially, this course focuses on how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships. In addition, what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies is argued by examining relevant topics throughout the course.

COT100GA

情報システム概論

和泉 順子、櫻井 茂明、中村 文隆

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

備考（履修条件等）：担当教員・曜日時限によって、授業コードが異なります。詳細は、学部 HP に掲載している秋学期時間割で確認してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理システムを構成しているコンピュータのハードウェア及びソフトウェアの基本的な役割や動作を学習する。アセンブラやデータベース機能などの実習もを行い、知識の習得だけでなく、自らが設定した条件でコンピュータが実際に動く部分を自ら確認し、学ぶ。

【到達目標】

コンピュータの構成、ハードウェア及びソフトウェアの動作やアセンブラなどを理解し、IT パスポートなどの試験の一部に対応可能な知識や技能の修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【注意】授業形態として完全に対面授業になるかどうか不明であり、オンライン併用での開講の可能性がある。授業計画や授業実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

授業は 6 つのテーマ、すなわち、1. コンピュータのハードウェアの構成及び役割、2. アセンブラの機能の学習・作成、3. ソフトウェアの構成及び役割、4. データベース Access の機能の修得及び使用、5. 情報処理システムの種類と機能、6. 情報システムのセキュリティ、開発・保守の 6 項目である。アセンブラおよびデータベース Access の学習では実習を予定している。その他のテーマについては、講義が中心になるが、コンピュータの具体的な事例・事柄を示しながら、理解が容易になるような講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの開発経緯	計算機、計算器、計算機と順に開発され、現在の各種のコンピュータの開発を知る
第 2 回	データの基礎的表現	数値データの 2 進数、8 進数、16 進数および 10 進数について、その関係を含めて、理解する
第 3 回	各種データの表現	数値データ、論理データ、文字データ、音声データ及び画像データについて構造を理解する
第 4 回	中央処理装置	中央処理装置を構成する演算装置、制御装置、主記憶装置の構造を学ぶ
第 5 回	記憶装置、入出力装置、通信制御装置	記憶装置、入力装置、出力装置、通信制御装置の構造と役割について学習する
第 6 回	ソフトウェアの基本構成	ソフトウェアを構成する基本ソフトウェア、ミドルウェア及び応用ソフトウェアについて学習する
第 7 回	オペレーティングシステム	OS を構成する各種のプログラムおよびその役割、OS の種類と構成について理解する
第 8 回	言語処理ソフトウェア	機械語、アセンブラ言語および高水準言語の種類及びその処理方式について学ぶ
第 9 回	アセンブラ言語の基礎	仮想的計算機 COMET の構成及びアセンブラ言語 CASL2 の基礎を学ぶ
第 10 回	アセンブラ言語の応用、実習	計算問題を解くプログラムを CASL2 で作成する実習を行い、実行して結果を確認し、計算機の構造を理解する
第 11 回	ファイルシステム	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について学習する

第 12 回	データベースシステムの基礎	データベース Access の構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習する
第 13 回	ソフトウェアの開発と保守、情報セキュリティ	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解し、その方法を学ぶ
第 14 回	授業のまとめ	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内容をテキストに従って予習する。
 2. 課題を提出し、授業内容を復習する。
 3. 授業で使ったソフトウェアについて、テーマを考えて独自で使用し、その機能を体験する。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「情報システム概論」、和泉順子、櫻井茂明、中村文隆、サイエンス社、2018、ISBN 978-4-7819-1430-5

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題・小テスト等（40%）、期末テスト（50%）および平常点（10%）で行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

教科書を各自で準備し、予習・復習に用いることで授業内容の理解を深める。情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、実習を想定している Access（データベース）は Windows 環境のみのソフトウェアとなるため、この実習の場合は適宜登校・情報実習室 PC の利用を推奨する。

オンライン併用の場合は、授業の解説や補足のために Zoom あるいは Webex を用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡ

【Outline and objectives】

We will learn the basic behaviours of the hardware and software of the computer constituting the information processing system. We also do practical training such as assembler and database functions, not only acquire knowledge, but also learn where the computer actually works.

COT100GA

メディア情報基礎

佐藤 雅明、和泉 順子、米倉 明男、菊池 司

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

備考（履修条件等）：担当教員・曜日時限によって、授業コードが異なります。詳細は、学部 HP に掲載している秋学期時間割で確認してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディア作品を **Photoshop** と **Premier** で作る。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PC を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTML とスタイルシートによる Web コンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】

PC マルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにもなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に **Google Classroom** 等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

・**Photoshop** や **Premier** などのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Web サイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
 ・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
 ・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）基本的なしくみを学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）その特性の詳細を学ぶ。
5	制作実習 A：実習の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法（デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなど）を学ぶ。
6	制作実習 A：静止画像の作品制作	Photoshop を用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習 A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、 Windows Media , MPEG4 , FlashVideo など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習 B：実習の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。

10	制作実習 B：映像作品の制作	AviUtl （または Premier ）を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習 B：映像作品の制作	AviUtl （または Premier ）を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Web ページの構成と表現手法	HTML5 による Web ページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習 C：スタイルシート	HTML とスタイルシートを用いた Web コンテンツの構造化、 CSS による Web コンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義初回に提示する。

【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、**CG-ARTS 協会**、「入門マルチメディア [改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1 を挙げる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト (実技を含む, 30%) を総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末試験の実施が困難な可能性が高い。その場合は、それに代わる方法で授業内容理解度の評価を行う。具体的な方法は各担当教員から学習支援システム等を用いて周知する。

欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内 Web 環境ならびに **ePortfolio** を活用する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ： マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline and objectives】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

COT200GA

ネットワーク基礎

金 勇、和泉 順子、松田 裕幸

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：抽選

備考（履修条件等）：担当教員・曜日時限によって、授業コードが異なります。詳細は、学部 HP に掲載している春学期時間割で確認してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中どこでも **Internet** で安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用方法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身につける。海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、IT パスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【注意】春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更や それにともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

インターネットをいつでもどこでも（学外や SA など）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャル Web など最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御と DNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IP アドレス、ルーティングを理解する。通信データの packets 化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNS による名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線 LAN	ネットワークコマンド (ping, ipconfig, traceroute, nslookup など) を活用する。無線 LAN でのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解し TCP/IP および UDP/IP の概念と設計思想を学ぶ。

6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSI の参照モデルと TCP/IP の各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
9	Web サービス（1）：HTML 文書の交換と Web サーバ	HTML 文書の設計とその構成法を理解する。Web サーバの基本動作を理解する。HTTP プロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Web サービス（2）：ハイパーテキストデータ	Web コンテンツ (HTTP データ) についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIME データとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有 (FTP、SCP)	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしての FTP と SCP を理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCP と UDP の違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。Skype や WindowsMedia 配信などリアルタイムマルチメディアの応用を実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL 暗号化の概念を学ぶ。HTTPS や WinSCP などセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身につける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SA など在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

有賀妙子、大谷俊郎、吉田智子（著）『改訂新版 インターネット講座：ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、平常点（授業の参画度を含む、30%）、授業内の課題や小テスト（実技を含む、30%）を総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末試験の実施が困難な可能性が高い。その場合は、それに代わる方法で授業内容理解度の評価を行う。具体的な方法は各担当教員から学習支援システム等を用いて周知する。

欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特に SA などキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置した PC のみならず、学生個人が利用するノート PC や携帯端末、情報センターの貸出ノート PC などさまざまな ICT 機器を活用する。

オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。

授業の解説や補足には Zoom あるいは Webex を用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

今学期は授業形態の都合上、学期中に授業計画を変更していくことが想定される。変更がある場合は学習支援システムで周知する。

本科目では、Web を基盤とする ICT の実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問う IT パスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジー系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

【Outline and objectives】

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

COT200GA

メディア表現法

菊池 司

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜に
 します。初回の授業に出席すること。

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上のメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組み。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるのかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

・デザインの基礎と Photoshop の応用技法

・画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用

・レイヤー、マスク、フィルタの技法

・コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な

作品作りに必要な写真理論

・DTP に向けてのスキヤン、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・デジタル写真のリタッチ

・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

・写真表現の作品化（アルバム・Web）

・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。

・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。

・「コンピュータに簡単に取込めない世界」を大事にしよう。

・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初め

に前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史の変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop Elements）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
8	レイヤーの技法	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	第9回に引き続き、制作実習の後半。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop 5.5 and Illustrator 8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
 制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キョウ タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性,30%）、クリティーク（課題作品の相互批評,15%）、課題ならびにマルチメディア作品制作（35%）、ePortfolio（個人の作品集づくり,20%）を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（デジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）光学的性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディアの制作に関する実習を行う。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【Outline and objectives】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

COT300GA

メディアアートの世界

菊池 司

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Processing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【注意】今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（1）： 簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（2）： 基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（3）： 変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインター フェース 【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザーの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題 1】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、 拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの 演出 【制作課題 2：学習成果 のまとめと Web 化の検 討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。

9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】制作物の実装方法の構想発表。マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。
14	まとめ：最終課題の発表 と相互批評	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を取り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Processing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」, オライリー・ジャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

p5.js プログラミング

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、津深貴之 (監修)「Generative Design with p5.js — ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「普及版」ジェネラティブ・アートの Processing による実践ガイド」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性、20%）、中間課題（30%）、最終課題（40%）、相互批評（10%）を日安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目なので過去年度からの気づきはとくにないが、プログラミング初心者にも活用できるような演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。そのなかで IoT や Maker ムーブメントなどの動向も十分に取り入れた内容を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。

情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピュータ関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア表現手法について講義する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【Outline and objectives】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

COT200GA

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語を JavaScript とする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云える C 言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScript や C 言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】

プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、(1) プログラミング言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。

春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScript のプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if 文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for 文、while 文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム (1)	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム (2)	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数 (1)	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数 (2)	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す

13	標準入出力、外部ファイル	JavaScript ではあまり扱わないが、他言語で一般的に利用される標準入出力や外部ファイル入出力の概念を学習する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、課題を提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題30%、期末テスト50%、で行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。

オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜 Zoom あるいは Webex を用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline and objectives】

We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.

HUI200GA

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：手ごたえのない現実、なぜか生きやすい仮想世界
配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。受動的に講義を受けるのではなく、「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点を用いて検討できるよう、工夫されている科目である。

● 手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」

ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。

その一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、“手ごたえ”＝リアリティ（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が『変化』し、どのように『拡張』されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。

仮想世界の問題は、SFや物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つきつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。そして、新たな仮想世界を造り始めることだろう。

【到達目標】

そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？

本科目の履修を終えると、次の事柄について基本用語を用いて言及できるようになる

- 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
- 手ごたえのない現実世界と、妙にリアルな仮想世界、というパラドックス
- 「仮想現実感」(VR)の構成要素と基本的な考え方
- VRの、社会のさまざまな側面への浸透
- 仮想世界はなぜ生まれ、どのような意味を持つのか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。

● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は“生きやすい”。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。

仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか。**問い直す必要がある。

● 授業冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、各回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。

※新型コロナウイルス感染状況によって進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすい - それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑う - なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？

4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へ - ネットで恋した相手、それは〇〇だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：理論	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か：方向性	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつつける仮想世界
14	まとめ	現実？ 仮想世界を生きる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001年宇宙の旅」(A.C. クラーク、S. キューブリック脚本、ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
- ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験 (60%)
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、コメントシートを含む）(40%)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

『仮想世界におけるこころ』の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではIoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく心理学や社会学など社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。春学期の少なくとも前半はオンライン併用の開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する

13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指定する。

【参考書】

授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、Excel でデータ分析ができる環境を前提としている。

オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する場合がある。

詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。

授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn how data which would be obtained from not only the data created by the personal computer but also various sensors, the behaviour of the person, and the public information opened by the public institutions as the "open data" is being utilised in social activities. The keywords are "data science", "IoT (Internet of Things)", "open data", and "big data".

Learn and practice the handling and visualisation of various data.

LIN300GA

世界の言語 I

興石 哲哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の数多くの言語のうち、この授業では、インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます。この語族の言語は世界中に広がっている、今では全ての大陸で話されています。この語族がどのようにしてできたのか、どのようにこの語族の言語が変化してきたのか、特徴はどのようなものか、世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが、本科目のテーマです。

【到達目標】

具体的には、以下の5つです。

- 1) インド・ヨーロッパ語族の言語について、その全体像を把握すること。
- 2) インド・ヨーロッパ語族について、その歴史を知ること。
- 3) インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること。
- 4) 他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること。
- 5) 一般的に、言語の歴史・構造について、知識を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

・授業は、基本的にシラバスに基づき、リアルタイム・オンラインの講義形式で進めていきます。履修者数、履修者の知識等により、内容には修正を加えることがあることを予めご了解ください。

・授業は全て事前に用意したスライドを用いたプレゼン形式で行います。同スライドは予めダウンロード可能です。さらに、背景が白いものを事前に用意しそれを事前にプリントアウトした上で授業に持参して書き込みを作れば、自分だけのノートとしての機能をもたせることも可能です。

・他の対面授業への出席等でリアルタイムに受講できない場合には、授業の録画動画等にて対応しますが、その方法等については、別途お知らせします。

・「学習支援システム」を多用し、事前、事後の学習も可能な限り支援していきます。

・課題等に対するフィードバックは、基本的に「学習支援システム」を用いますが、状況に応じて、個人メール等で行うこともあります。

・各回に可能な限り前回のフィードバックを行い、さらに最終回では、それまでの授業のまとめ、復習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向 ・比較の視点	授業のやり方について、概略を説明し、ヨーロッパについて学び、比較することの意味について学びます。
2	・地球単位で言語を考える ・英語で-a で終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます。
3	・Parallel text の意味	言語を比較する際の材料として、parallel text と呼ばれるものを使用することがあります。様々な例を使い、実際に言語の比較を行っていきます。
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	印欧学という学問がどのように発達してきたか、歴史的な背景を見ながら考えていきます。
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	言語間の類似をどのように説明するか考えていきます。印欧語族の語派について見ていきます。初回は、Indo-Iranian, Armenian, Albanian についてお話しします。
6	・個々の語派（続き）	印欧語族の個々の語派について、引き続き見ていきます。今回は、Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italic の各語派についてお話しします。

7	・英語へのラテン語の影響 ・個々の語派（続き） ・非印欧諸語 ・Grimm's Law	最初、英語へのラテン語の影響を見た後、語派の話が続きます。今回は Celtic, Germanic について見ます。さらに、印欧語族でない言語についても学びます。その後、Grimm's Law について話し始めます。
8	・Grimm's Law（続き） ・Verner's Law ・Centum vs. Satem ・音対応と言語再建	Grimm's Law と Verner's Law について学び、さらに印欧語族を2分すると言われる Centum-Satem Split についてお話しします。それから音対応と言語再建について学びます。
9	・言語の語彙 ・歯擦音化 ・The letter C in English	言語の語彙の成り立ちについて見た後、自然な音変化の例として歯擦音化について考察します。英語の C という文字の歴史を例に取り、歯擦音化を例証します。
10	・ヨーロッパの地勢 ・印欧祖語はいつ話されていたか？	印欧語族の発達に、ヨーロッパの地勢が及ぼした影響について考察し、その後、印欧祖語の「いつ」問題について考察します。
11	・印欧祖語はどこで話されていたか？	印欧祖語の「どこ」問題について、最近の印欧学の成果を解説しながら考察します。
12	・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き） ・印欧祖語の史的発達	前回に引き続き、印欧祖語の「どこ」問題について、最近の印欧学の成果を解説しながら考察しますその後、印欧祖語の発達の経緯を見ていきます。
13	・印欧祖語の史的発達（続き） ヨーロッパ早わかり 現在の欧州言語事情 ・まとめ	印欧祖語がどのように発達を遂げたか、引き続きお話しします。ヨーロッパの言語文化事情をまとめ、最後に現在の欧州言語事情に触れます。これまでの授業を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みます。基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

授業中、随時指定いたしますが、とりえず以下のものを挙げておきます。泉井久之助(1968).『ヨーロッパの言語』。東京：岩波書店。[古いですが大よみ本です。基本的にこの本の内容は、かなり本科目の内容と重なります。] 風間喜代三(1978).『言語学の誕生』。東京：岩波書店。

マルティネ、アンドレ、神山孝夫訳(2003).『印欧人のことは誌—比較言語学概説—』。東京：ひつじ書房。

Chapters 1 & 2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). *English Vocabulary Elements*. Oxford: Oxford University Press. Chapters 2 & 3 from Stockwell, Robert & Donka Minkova (2001). *English Words: History and Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.

Diamond, Jared (1997). *Guns, Germs and Steel*. London: Caggo & Windus.

【成績評価の方法と基準】

試験の結果(100%)に基づき成績を出します。人数が多すぎる場合、授業への参加度をみることは現実的ではないため、現段階では平常点は設定していませんが、人数を見て場合によっては平常点を加味します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

隔年開講のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スクリーン等を用います。

【その他の重要事項】

高校の時に用いた、いわゆる学習者用英和辞書ではなく、語源欄が充実している英語の辞書を用意して、関連の語などについて調べるようにしてください。授業でもお話ししますが、英語は西欧の諸言語を知る上で、非常に重要な言語ですので、何かと授業でも話す機会が多くなります。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、学部専門教育科目の(4)言語科目に属し、ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです。「世界の言語 II」と交替で隔年開講され、2年生以上が履修できます。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages. Specifically, by the end of the course, you should:

- become acquainted with the European languages in general,
- have enough knowledge about the their historical background,
- become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development.
- have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families.
- begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure.

LIN300GA

【2021 年度休講】世界の言語Ⅱ

内山 政春

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています。「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して、この授業ではアジアの言語、特に東アジア漢字文化圏各国（日本、南北朝鮮、中国、台湾、ベトナム）の言語を中心に上げたいと思います。しかしそれに限らず、言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら、みなさんの学習言語が何語であれ、その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています。人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です。

【到達目標】

言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的、英語は論理的」という俗説に惑わされないようになること）。そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること。以上のことを目標にして履修してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないますが、S A 先の言語に関して言及するとき、該当する学生に質問することもあるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	言語と方言—ひとつの「ことば」とは—	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類—やさしい言語と難しい言語—	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素—同じ「音」と異なる「音」—	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字—文字は「音」をあらわすものか—	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺 1	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺 2	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	台湾の言語	・「多言語国家」としての台湾
9	朝鮮語とその周辺 1	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
10	朝鮮語とその周辺 2	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがひ ・語彙と文法
11	アルタイ諸言語	・アルタイ諸言語と日本語 ・少数民族語としてのアルタイ諸言語 ・文字と文化

12	ヨーロッパの諸言語	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用
13	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント
14	まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

S A 先の言語はもちろん、その他の外国語にも、そして日本語にも、ことばと名のつくものに関心を持ってください。関連する本を積極的に読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを作成して配布します。

【参考書】

特に指定はしませんが、各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらいます。そのシート（20%）と、学期末に課すレポート（80%）を総合して評価します。あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「遅刻した場合に別の紙（講義に関する感想や質問を書くためのもの）を配るのはおかしい」となどという意見がありました（遅刻者を判別するために私は数年前の授業でそのようなことを行なっていました）。授業が始まっているのに遅刻者が教室にゴソゴソ入ってくると、他の学生の迷惑にもなり、授業の進行も遅れがちになります。授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです。それが守れない人、また私語をする人は、他の学生に迷惑となりますので、受講しないでください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回プリントを配布するのと同時に、教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます。

【その他の重要事項】

順序と内容に若干の変更がある可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.

This course will also deal with so-called constructed language "Esperanto".

LIN300GA

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes (世界の英語たち) と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語 (a lingua franca)」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という2つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。

学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んでいきます。その後、学期後半では、植民地化の遺産や標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深め、更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史の変遷の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【重要1：受講者の選抜について】

・受講希望者多数の場合は、初回授業に選抜を実施します。
・受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、選抜・導入アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。

【重要2：初回授業の授業形態について】

・本講義は原則対面で実施予定ですが、特に、受講者数が定まらない初回授業は、三密回避のために、【Zoom リアルタイム配信】で授業を実施します。
・リアルタイム配信の授業への参加が難しい場合は、【事前に担当教員までメール連絡】をしてください（要件に加え、学年、学籍番号、氏名、明記のこと）。授業終了後、初回授業当日の録画を配信するとともに、授業開始前にメール経由で初回授業の代替となる課題（授業内容に関連する簡単なクイズとアンケート【暫定】）を提示します。この課題を当日中に提出することで、初回授業に参加とカウントします。

【重要3：第2回以降の授業形態について】

・初回以外の回の授業については原則対面を予定していますが、必要があれば、コロナ禍や履修者の状況を考慮しながら、適宜、Zoom リアルタイム配信に切り替えることも検討します。

・その際は、事前に通知しますので、リアルタイム配信授業に参加できないことが最初から分かっている場合は、当日の授業開始前までに担当教員にメール連絡をしてください。また、当日のインターネット接続状況が好ましくないなど問題が発生した場合も、すぐにメール連絡をするようにしてください。

・リアルタイム配信授業に参加できない履修者がいる場合、当日の授業を録画し、授業終了後に配信します。この場合、動画を視聴し、当日分のコメントシートを翌日までに提出することで、授業への参加とカウントします。翌日までに提出できない特別な理由がある場合は、担当教員にメールで相談してください。

【重要4：Google Classroom の使用について】

・課題の提示や提出、フィードバックなどには、「授業支援システム」ではなく、「Google Classroom」を使用します。法政大学の Gmail アカウントで使用が可能です。Google Classroom のクラスページへのアクセス方法は、学期開始前までに「授業支援システム」でお知らせします。履修を希望する場合は、授業開始前までに「Google Classroom」上で当該クラスへの【参加】を済ませておくようにしてください（一度登録しても、後から参加を取り消すことが可能ですので、履修を迷っている場合でも参加登録して問題ありません）。

【その他】

・授業は、PPT とオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。
・授業ごとに提出するコメントシートに、個別にフィードバックを行います。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
【Zoom】		
第 2 回	講義・ディスカッション	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users
【対面】 (1)		(グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者)
第 3 回	講義・ディスカッション	The global spread of English
【対面】 (2)		(英語の地球規模の普及)
第 4 回	講義・ディスカッション	Diversification of English and preparation for group presentations
【対面】 (3)		(英語の多様化、グループプレゼン準備)
第 5 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada
【対面】 (1)		(英語変種 (1)：イギリス、アメリカ、カナダの英語)
第 6 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand
【対面】 (2)		(英語変種 (2)：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語)
第 7 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia
【対面】 (3)		(英語変種 (3)：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語)
第 8 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea
【対面】 (4)		(英語変種 (4)：フィリピン、中国、香港、韓国の英語)
第 9 回	講義・ディスカッション	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology
【対面】 (4)		(植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー)
第 10 回	講義・ディスカッション	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction
【対面】 (5)		(共通語としての英語 (ELF) でのコミュニケーション (1)：導入)
第 11 回	講義・ディスカッション	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making
【対面】 (6)		(ELF でのコミュニケーション (2)：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略)
第 12 回	講義・ディスカッション	ELF communication (3): CS for coping with communication problems
【対面】 (7)		(ELF でのコミュニケーション (3)：コミュニケーション上の問題に対処する方略)
第 13 回	講義・ディスカッション	ELF communication (4): CS for facilitating communication
【対面】 (8)		(ELF でのコミュニケーション (4)：コミュニケーション上を促進する方略)

第 14 回 期末試験（あるいは期末 期末試験の実施（あるいは期末レポート）
【対面】 レポート）、および総括 トの提出）とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

<準備学習>

・リーディング課題（第 3 回、10 回授業開始時まで；全 2 回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。

・フィールドワーク（第 2 回、10 回、13 回授業開始時まで；全 3 回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。ただし、第 3 回のフィールドワークは感染症の状況によっては実施しない可能性あり。

・グループ・プレゼンテーション準備（第 5 ～ 8 回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

<復習>

・中間レポート（第 7 回；全 1 回予定）：第 1 回～4 回までの学習内容のまとめと考察を書き、締め切り日までにオンラインで提出する。

・その他、期末試験（あるいはレポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第 2 回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。

→ 久保田竜子, 2018. 『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京. (参考: アマゾンにて新書 902 円、Kindle 770 円)

・その他、テーマごとに参考文献を紹介し、配布資料やスライドは、原則英語です。

・授業の PPT は、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】

< World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識 >

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledgetextbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php>)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.
8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.
11. 末延岑生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes - 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.
15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.

<リスニング教材>

1. 榎本園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎本園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ: 必ず聞き取れる 5 つのコツ』. 東京: アルク.
3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろいろな英語をリスニング』 東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.
6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.
7. 里井久輝 (2019). 『世界の英語リスニング』. 東京: アルク

<参考ウェブサイト>

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accent>
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>
4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

<平常点：5%>

・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ただ教室に「いる」だけでは参加したことになりませんので、ディスカッションに積極的に貢献して下さい。

・遅刻 2 回（電車遅延は除く）で、欠席 1 回とみなします。

<授業内外課題：45%>

・リーディング課題やフィールドワーク、リアクション・ペーパー、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。

<試験：50%>

学期末（第 14 週）に試験（あるいはレポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

・グループ・プレゼンテーションの際は、各自で持参した PC を使用することが望ましいですが、それが難しい場合は、こちらで共有 PC を用意します。

【その他の重要事項】

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline and objectives】

In the era of globalization, English is one of the dominant tools of intercultural communication among people from diverse linguistic and cultural backgrounds. How does such a communication look like? The aim of this course is to reconsider 'English' from the perspective of World Englishes and English as a lingua franca. Through this course, you will have the opportunity to understand features of varieties of English particularly in Asian countries as well as features of intercultural communication in English as a lingua franca settings. On the basis of the knowledge you acquired, you will then reconsider the role of English in the globalized world and English communication ability necessary for surviving in such a world.

LIN200GA

言語の理論 I

石川 潔

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといふより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きを判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。

教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行います。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。

配信教材は、「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その 1（音声学・音韻論）	party はカタカナで何と言うべき？
第 3 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その 1（統語論）	「5 文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その 2（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その 3（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その 4（統語論）	新たな (?) 潮流
第 11 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その 6（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出るか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 1	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 2	Without her contributions failed to come in. ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありせん）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業改善アンケートが行なわれませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、法政 gmail で、自分がアクセスするメアドへの自動転送を設定しておく）こと。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論 B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN200GA

言語の理論Ⅱ

石井 創

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くとき一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、文学部の新型コロナウイルス感染対策方針及びその他諸般の事情により、以下の2つの形態のどちらかで授業を実施する予定です。

A. 隔週で「対面授業」と「オンライン授業」を交互に実施

B. 毎週「オンライン授業」を実施

なお、「オンライン授業」はZoomなどの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式を予定しています。AとBのどちらの形態になるかは、秋学期開始前にその時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が上記のAとBのどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方向的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が練習問題を解く機会も適宜設けていきます（練習問題を課す頻度は、上記の授業形態の違いによって多少変わってくるでしょう）。

教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもともたらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト/アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学ってどんな学問？
第2回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第3回	形態論1	語の内部構造と形態素
第4回	形態論2	語の作られ方
第5回	形態論3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第6回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	音韻論	音節とモーラ

第10回	統語論1	句構造とX-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ
第12回	統語論3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第13回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第14回	意味論2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。なお、授業形態が上記のA、Bどちらになるにせよ、必ず「オンライン授業」が実施される関係で、今年度は紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードすることにします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末課題 100%

授業形態が上記のA、Bのどちらになるかにより、実施可能な課題形式も変わってくるため、以下は本シラバス執筆時点での見通しになります（ゆえに、形式変更の可能性あり）。形態Aの場合、定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況にもよりますが、基本的には教室での期末試験を行い、その点数を成績とする予定です。一方で形態Bになった場合、教室内試験はおそらく不可能であるため、(1) 期末レポートの提出、(2) 学習支援システムのテスト機能等を用いたオンラインでの期末試験、のどちらかにより成績評価を行う予定です。

2. プラスアルファの加点

上記1の通り、本科目の成績は基本的には期末課題による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

- a. リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
- b. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないで減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g. 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの）を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追いつかなくなる」という意見が出されたため、一昨年度は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されました。また、1つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができた予定学習範囲を一昨年度はすべてカバーすることができませんでした。従って、今年度は、「オンライン授業」の場合なかなか難しいと思いますが、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、上記した一昨年度の問題を解消できるように努めていきます。

2. 一昨年度は授業中に学生が練習問題を解く機会を増やしましたが、それに対して「具体例で実際に手を動かしながら考えてみることで、理解が促進された」等の好意的な意見を多くもらいました。よって、今年度も練習問題を解く機会を、授業形態に応じて、可能な限り積極的に設けていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態が上記A、Bのどちらになるにせよ、「オンライン授業」は必ず実施されるため、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

- a. Zoomなどの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなくPCが望ましい）
 - b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
- これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください（昨年度はオンライン授業の学生向け受講環境支援が大学により実施されていました）。

また、本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される **Gmail** アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの方は、法政 **Gmail** から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 **Gmail** 上で設定を行っておい

【その他の重要事項】

本科目で「対面授業」を実施することになった場合に備えて、授業内での新型コロナウイルス感染への対策の1つとして、「受講者同士が十分なソーシャルディスタンスを確保できる規模の教室」を用意してもらえよう、本シラバス執筆時点で事務課に要請しています。しかし、もし本科目に割り当てられた教室が上記の要請を満たせない規模のものであった場合には、「その教室においてソーシャルディスタンスを十分に確保できる程度の人数」にまで履修者数を絞る目的で、履修希望者に対して抽選による履修者選抜を実施します。抽選実施の有無は履修希望者数次第になるため、その詳細は後日連絡しますので、履修希望者は教員もしくは事務課からの抽選に関するお知らせに十分ご注意ください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN300GA

社会言語学

塩田 雄大

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティ／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・PCを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。

課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。

対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明
第2回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば ほか
第3回	周圏論的／逆周圏論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか ほか
第4回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布 ほか
第5回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント ほか
第6回	アスペクト・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差 ほか
第7回	あいざつ・話の進め方の地域差	買い物をしたら何と言って店を出るか ほか
第8回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か ほか
第9回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか ほか
第10回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言 ほか
第11回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ ほか
第12回	言語意識、バーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか ほか
第13回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第14回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013年、1,800円＋税）

https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen2lang/hogengak_prm/

履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後には三千円以上の損をすることになる。

(1)『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年、2,800円＋税）

(2)『日本語は「空気」が決める』（石黒圭、光文社新書、2013年、840円＋税）

(3)『朝倉日英対照言語学シリーズ「発展編」1 社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017年、3,200円＋税）

(4)『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年、1,893円＋税）

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30%

・最終レポート 70%

いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないうようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まった知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.

The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. diversity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term.

LIN300GA

応用言語学

川崎 貴子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の内容説明
第2回	言語知識	子供と大人の言語知識
第3回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第4回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第5回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第6回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第7回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第8回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第9回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第10回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第11回	SLA 研究	実験方法の変遷
第12回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第13回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第14回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートを取りながら見ること、宿題の解答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得の分野の奥深さを知っていただいたこと、研究の手法などにも興味を持っていただいたことが良かったと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、資料の追加配布などに、学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

ANDREW JONES

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Personal and Cultural Identity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of personal and cultural identity.
Week 6	Values: Deciding Right and Wrong	Reading, pair work exercises, and small group discussions on personal values and how one decides between right and wrong.
Week 7	Values: Discussing Future Goals	Listening, pair work exercises, and small group discussions, and written exercise on one's values and future goals.
Week 8	Culture Shock: Advice for Dealing With Culture Shock	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of culture shock, and how to deal with it.
Week 9	Culture in Language: Proverbs and Idioms	Listening, reading, small group discussions, and written exercise on how culture is reflected in language such proverbs and idioms.
Week 10	Body Language and Customs: Signs and Gestures	Reading, pair work exercises, and small group discussions on how the meaning of signs and gestures change according to cultural customs.
Week 11	Body Language and Customs: Non-verbal Communication Norms	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on how customs affect body language and non-verbal communication norms.
Week 12	Individualism: Individualism and Collectivism	Reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individualism and collectivism.
Week 13	Individualism: The Challenges of Different Working Styles	Listening, pair work exercises, and small group discussions, on how individual preferences can make different working styles challenging.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given homework in most lessons. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

ANDREW JONES

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Personal and Cultural Identity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of personal and cultural identity.
Week 6	Values: Deciding Right and Wrong	Reading, pair work exercises, and small group discussions on personal values and how one decides between right and wrong.
Week 7	Values: Discussing Future Goals	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on one's values and future goals.
Week 8	Culture Shock: Advice for Dealing With Culture Shock	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of culture shock, and how to deal with it.
Week 9	Culture in Language: Proverbs and Idioms	Listening, reading, small group discussions, and written exercise on how culture is reflected in language such proverbs and idioms.
Week 10	Body Language and Customs: Signs and Gestures	Reading, pair work exercises, and small group discussions on how the meaning of signs and gestures change according to cultural customs.
Week 11	Body Language and Customs: Non-verbal Communication Norms	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on how customs affect body language and non-verbal communication norms.
Week 12	Individualism: Individualism and Collectivism	Reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individualism and collectivism.
Week 13	Individualism: The Challenges of Different Working Styles	Listening, pair work exercises, and small group discussions, on how individual preferences can make different working styles challenging.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given homework in most lessons. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Food: as a reflection of culture.	Listening, reading, and pair work exercises on food as a reflection of culture.
Week 6	Food: as a social tool.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of food as a social tool.
Week 7	Health: yours and healthcare around the world.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on healthcare in different countries.
Week 8	Politics. Explaining your system, and understand others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on political systems in different countries.
Week 9	Money. Value and price in different cultures.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on value and price in different countries.
Week 10	Travel. A practical issue.	Listening, reading, and pair work exercises on the practical issue of travel.
Week 11	Transport as it reflects the needs of its users.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a transportation system being a reflection of the needs of its users.
Week 12	Belief: religion and belief in Japan and elsewhere.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of religion and belief systems being in Japan and elsewhere.
Week 13	Saying 'Goodbye'. How we take our leave.	Listening, reading, small group discussions, and written exercises on different ways of saying 'Goodbye' depending on the situation.
Week 14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textual preparation and work for Presentations will be necessary. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Food: as a reflection of culture.	Listening, reading, and pair work exercises on food as a reflection of culture.
Week 6	Food: as a social tool.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of food as a social tool.
Week 7	Health: yours and healthcare around the world.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on healthcare in different countries.
Week 8	Politics. Explaining your system, and understand others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on political systems in different countries.
Week 9	Money. Value and price in different cultures.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on value and price in different countries.
Week 10	Travel. A practical issue.	Listening, reading, and pair work exercises on the practical issue of travel.
Week 11	Transport as it reflects the needs of its users.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a transportation system being a reflection of the needs of its users.
Week 12	Belief: religion and belief in Japan and elsewhere.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of religion and belief systems being in Japan and elsewhere.
Week 13	Saying 'Goodbye'. How we take our leave.	Listening, reading, small group discussions, and written exercises on different ways of saying 'Goodbye' depending on the situation.
Week 14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textual preparation and work for Presentations will be necessary. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

MARK E FIELD

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know, Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Life Experiences	Listening, reading, and pair work exercises on life experiences.
Week 6	Identity: Nature Verses Nurture	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a person's character being a result of genetic factors or social factors.
Week 7	Identity: Your Family History	Listening on the concept of the family tree, followed by student presentations about their families, and written assignment introducing one's family history.
Week 8	World Destinations: Describing Places	Listening, reading, and pair work exercises on describing places.
Week 9	World Destinations: Getting Around	Listening, reading, and small group discussions on traveling into, out of, and around different places in the world.
Week 10	World Destinations: Where to Visit in Japan	Listening on places to visit, followed by student presentations about their favorite spots in Japan, and written assignment describing a favorite place.
Week 11	Energy Challenges: Sources and Sustainability	Listening, reading, and pair work exercises on energy production and consumption.
Week 12	Energy Challenges: Organizations and Community Action	Listening, reading, and small group discussions on what activist groups and local communities can do to reduce energy consumption and help the planet.
Week 13	Energy Challenges: Persuading Others to Act	Video on a persuasive presentation, followed by student presentations making recommendations for action, and persuasive paragraph written assignment.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class Level 1 with Online Workbook*, Cengage Learning, ISBN-13:978-1-285-06309-6

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know, and Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Giving your experiences : Finding your stories and setting the scene	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 6	Giving your experiences : Description and compression	Conversation exercises, and written assignment on describing experiences.
Week 7	Midterm Student Presentations	Individual student presentations to the class
Week 8	Discussing your opinions : Discussion and argument	Listening, reading, and pair work exercises on developing and expressing opinions.
Week 9	Discussing your opinions ☒ The triangle of persuasion	Conversation exercises, and written assignment on persuasive discussion styles.
Week 10	Telling how you feel: Physical feelings, likes, wants and emotions	Listening, reading, conversation exercises and written assignment on expressing physical feelings, likes, wants, and emotions.
Week 11	Starting conversations ☒ Friends and acquaintances	Listening, and pair work exercises on starting conversations with friends.
Week 12	Starting conversations: Strangers	Listening, and pair work exercises on starting conversations with strangers.
Week 13	Putting it all together ☒ The flow of conversation	Conversation exercises, and written assignment on how conversations flow naturally from beginning to end.
Week 14	Final Presentation	Group presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for pair presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーション I

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.

4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know, and Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
5	Giving your experiences : Finding your stories and setting the scene	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
6	Giving your experiences : Description and compression	Conversation exercises, and written assignment on describing experiences.
7	Midterm Student Presentations	Individual student presentations to the class
8	Discussing your opinions : Discussion and argument	Listening, reading, and pair work exercises on developing and expressing opinions.
9	Discussing your opinions ☒ The triangle of persuasion	Conversation exercises, and written assignment on persuasive discussion styles.
10	Telling how you feel: Physical feelings, likes, wants and emotions	Listening, reading, conversation exercises and written assignment on expressing physical feelings, likes, wants, and emotions.
11	Starting conversations ☒ Friends and acquaintances	Listening, and pair work exercises on starting conversations with friends.
12	Starting conversations: Strangers	Listening, and pair work exercises on starting conversations with strangers.
13	Putting it all together ☒ The flow of conversation	Conversation exercises, and written assignment on how conversations flow naturally from beginning to end.
14	Final Presentation	Group presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for pair presentations

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ANDREW JONES

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the fall semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Analyzing Learning Goals, Silent Interview	Listening, pair work exercise, and written assignment on analyzing one's desires and personal learning goals.

Week 5	Writing about Traditional Japanese Culture	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on traditional Japanese culture.
Week 6	Character Writing, Different Perspectives	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on how a person's character can affect his/her perspective on things.
Week 7	Editing, Common Errors, Writing Conventions	Listening, reading, pair work exercise, and written assignment on writing conventions, common errors and editing one's writing.
Week 8	Creative Writing Prompts, Collaborative Writing	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on individual creative writing, and collaborative group writing.
Week 9	Stretching the Imagination	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on using the written word to create a mental image.
Week 10	Creating a Utopian Society	Listening, pair work exercise, and written assignment on the concept of creating a Utopian society.
Week 11	Class Project	Brainstorming and planning.
Week 12	Evaluating and Revising the Class Project	Evaluating and revising the class project.
Week 13	Practical Tips, Preparation for Travel	Practical tips, preparation for travel.
Week 14	Examination/Comments	Examination/comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ANDREW JONES

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the fall semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Analyzing Learning Goals, Silent Interview	Listening, pair work exercise, and written assignment on analyzing one's desires and personal learning goals.

Week 5	Writing about Traditional Japanese Culture	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on traditional Japanese culture.
Week 6	Character Writing, Different Perspectives	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on how a person's character can affect his/her perspective on things.
Week 7	Editing, Common Errors, Writing Conventions	Listening, reading, pair work exercise, and written assignment on writing conventions, common errors and editing one's writing.
Week 8	Creative Writing Prompts, Collaborative Writing	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on individual creative writing, and collaborative group writing.
Week 9	Stretching the Imagination	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on using the written word to create a mental image.
Week 10	Creating a Utopian Society	Listening, pair work exercise, and written assignment on the concept of creating a Utopian society.
Week 11	Class Project	Brainstorming and planning.
Week 12	Evaluating and Revising the Class Project	Evaluating and revising the class project.
Week 13	Practical Tips, Preparation for Travel	Practical tips, preparation for travel.
Week 14	Examination/Comments	Examination/comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Classroom techniques and behaviour in Japan and beyond.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on classroom styles of behavior inside and outside of Japan.

Week 5	The culture of eating out.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how culture can affect why and when people eat out.
Week 6	Etiquette: redundant in a Global Society?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on etiquette and if globalization has made the idea of learning manners unnecessary.
Week 7	The politics of having a vote.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on politics and the right to vote.
Week 8	How to stay well.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how to stay well while living abroad.
Week 9	Shopping wisely.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on shopping wisely.
Week 10	Where will you stray to?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on getting lost and what to do.
Week 11	How to get from A to B via X.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on traveling when changing modes of transportation is involved.
Week 12	Superstitions; are they the same everywhere?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on superstitions and different beliefs.
Week 13	Re-entry. A safe landing.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on returning safely and the possibility of re-entry shock.
14	Examination/Comments	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text preparation and presentation planning will be required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided as required.

【参考書】

And English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation

20% Homework.

40% Final Examination/Term Project.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Classroom techniques and behaviour in Japan and beyond.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on classroom styles of behavior inside and outside of Japan.

Week 5	The culture of eating out.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how culture can affect why and when people eat out.
Week 6	Etiquette: redundant in a Global Society?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on etiquette and if globalization has made the idea of learning manners unnecessary.
Week 7	The politics of having a vote.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on politics and the right to vote.
Week 8	How to stay well.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how to stay well while living abroad.
Week 9	Shopping wisely.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on shopping wisely.
Week 10	Where will you stray to?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on getting lost and what to do.
Week 11	How to get from A to B via X.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on traveling when changing modes of transportation is involved.
Week 12	Superstitions; are they the same everywhere?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on superstitions and different beliefs.
Week 13	Re-entry. A safe landing.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on returning safely and the possibility of re-entry shock.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text preparation and presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided as required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【参考書】

And English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation

20% Homework.

40% Final Examination/Term Project.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

MARK E FIELD

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Express Yourself: Explaining Steps in a Process	Listening, reading, and small group discussions on how to explain a step by step process. Followed by student presentations and a written assignment explaining how to do something that takes a number of different steps.

Week 5	On the Move: Types of Transportation	Listening, reading, and pair work exercises on different types of transportation.
Week 6	On the Move: Sharing Economy	Listening, reading, and small group discussions on new ways to travel around cities created by the new sharing economy.
Week 7	On the Move: An Opinion Paper	Listening, reading, and small group discussions on the best way to travel in special environments. Followed by student presentations and a written opinion assignment on the best way to go some place when the standard way is not possible.
Week 8	Rain or Shine: Climate Extremes	Listening, reading, and pair work exercises on different types of extreme weather.
Week 9	Rain or Shine: Weather and Erosion	Listening, reading, and small group discussions on how weather can change the physical environment.
Week 10	Rain or Shine: A Vivid Description	Listening, reading, and small group discussions how extreme weather can affect people. Followed by student presentations and a written assignment describing a personal experience with a significant weather event.
Week 11	What's Your Game?: Reported Speech	Listening, reading, and pair work exercises on reporting what happened around a sporting event.
Week 12	What's Your Game?: Explaining Important Qualities	Listening, reading, and small group discussions on qualities are important to be good at different types of sports.
Week 13	What's Your Game?: Timed Essay	Timed in class essay on a topic related explaining important qualities for a certain sport.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English media independently as a means of increasing their vocabulary and general knowledge. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class Level 1 with Online Workbook*, Cengage Learning, ISBN-13:978-1-285-06309-6

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Study skills and time management	Listening, reading, and small group discussions on how to study more effectively by managing one's time wisely.

Week 5	Sharing your own culture	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on sharing one's own cultural ideas and practices to others.
Week 6	Universal and local cultural rules	Listening, reading, small group discussions, and written assignment on local and universal norms of behavior.
Week 7	Midterm Presentation	Individual student presentations to the class
Week 8	Social Rules	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of social rules and how they can vary according to context and culture.
Week 9	Ethics and honesty	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of ethics and honesty and how they can vary according to context and culture.
Week 10	Diversity and Difference	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of social diversity and individual differences.
Week 11	Individuality and Conformity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individuality and group conformity.
Week 12	Discussing controversial issues	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on some controversial social issues.
Week 13	Presentation Preparation and Practice	Students write up their final presentations scripts incorporating vocabulary and concepts covered in previous classes and practice reading their final presentations with student partners.
Week 14	Final Presentation	Individual student presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with one's own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Study skills and time management	Listening, reading, and small group discussions how study more effectively by managing one's time wisely.

Week 5	Sharing your own culture	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on sharing one's own cultural ideas and practices to others.
Week 6	Universal and local cultural rules	Listening, reading, small group discussions, and written assignment on local and universal norms of behavior.
Week 7	Midterm Presentation	Individual student presentations to the class
Week 8	Social Rules	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of social rules and how they can vary according to context and culture.
Week 9	Ethics and honesty	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of ethics and honesty and how they can vary according to context and culture.
Week 10	Diversity and Difference	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of social diversity and individual differences.
Week 11	Individuality and Conformity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individuality and group conformity.
Week 12	Discussing controversial issues	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on some controversial social issues.
Week 13	Presentation Preparation and Practice	Students write up their final presentations scripts incorporating vocabulary and concepts covered in previous classes and practice reading their final presentations with student partners.
Week 14	Final Presentation	Individual student presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ANDREW JONES

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Politeness: Ways of Showing Courtesy and Respect	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on politeness, and different ways of showing courtesy and respect.
Week 6	Communication Styles: Verbal Communication Norms	Reading, pair work exercises, and small group discussions on verbal communication styles and norms can vary between people and cultures.
Week 7	Communication Styles: Common Differences in Spoken Behavior	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on common differences in spoken behavior
Week 8	Gender and Culture: Examining Gender Issues in Japan and Abroad	Reading, pair work exercises, and small group discussions on gender issues inside of Japan and abroad.
Week 9	Gender and Culture: Cultural Expectations and Gender Roles	Listening, pair work exercises, small group discussions on cultural expectations and gender roles.
Week 10	Diversity: Multiculturalism and Stereotypes	Reading, pair work exercises, and small group discussions on Multiculturalism and stereotypes.
Week 11	Diversity: Learning from Our Differences	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on diversity and learning from personal and cultural differences.
Week 12	Social Change: Confronting Social Problems and Discrimination	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on confronting social problems and discrimination.
Week 13	Global Community: What Kind of Global Citizen are You?	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concept of a global community, and what kind of global citizen could be?
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ANDREW JONES

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Politeness: Ways of Showing Courtesy and Respect	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on politeness, and different ways of showing courtesy and respect.
Week 6	Communication Styles: Verbal Communication Norms	Reading, pair work exercises, and small group discussions on verbal communication styles and norms can vary between people and cultures.
Week 7	Communication Styles: Common Differences in Spoken Behavior	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on common differences in spoken behavior
Week 8	Gender and Culture: Examining Gender Issues in Japan and Abroad	Reading, pair work exercises, and small group discussions on gender issues inside of Japan and abroad.
Week 9	Gender and Culture: Cultural Expectations and Gender Roles	Listening, pair work exercises, small group discussions on cultural expectations and gender roles.
Week 10	Diversity: Multiculturalism and Stereotypes	Reading, pair work exercises, and small group discussions on Multiculturalism and stereotypes.
Week 11	Diversity: Learning from Our Differences	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on diversity and learning from personal and cultural differences.
Week 12	Social Change: Confronting Social Problems and Discrimination	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on confronting social problems and discrimination.
Week 13	Global Community: What Kind of Global Citizen are You?	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concept of a global community, and what kind of global citizen could be?
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation. How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Appearance reflecting the self and revealing others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on appearances and what they can communicate to ourselves and to others.
Week 6	Meeting people in a domestic environment.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other people in domestic environment.
Week 7	Meeting people: other students, other countries.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other students from different countries at school and elsewhere.
Week 8	Meeting people: expressing ourselves. Etiquette and feelings.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting people, and expressing our feelings while maintaining good manners.
Week 9	Culture: explaining Japan.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on explaining the culture of modern Japan.
Week 10	Culture: exploring tradition.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on exploring traditional Japanese culture.
Week 11	Culture: changing as we speak.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on how quickly cultures can change and evolve.
Week 12	Where we live: Town and Country.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live and the difference between city and country life.
Week 13	Where we live : Directions and Dimensions.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live, how to get there, how the perception of size and distance can change.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and Presentation planning will be required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation.
20% Homework.
40% Final Examination/term project.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation. How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Appearance reflecting the self and revealing others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on appearances and what they can communicate to ourselves and to others.
Week 6	Meeting people in a domestic environment.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other people in domestic environment.
Week 7	Meeting people: other students, other countries.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other students from different countries at school and elsewhere.
Week 8	Meeting people: expressing ourselves. Etiquette and feelings.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting people, and expressing our feelings while maintaining good manners.
Week 9	Culture: explaining Japan.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on explaining the culture of modern Japan.
Week 10	Culture: exploring tradition.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on exploring traditional Japanese culture.
Week 11	Culture: changing as we speak.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on how quickly cultures can change and evolve.
Week 12	Where we live: Town and Country.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live and the difference between city and country life.
Week 13	Where we live : Directions and Dimensions.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live, how to get there, how the perception of size and distance can change.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and Presentation planning will be required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation.
20% Homework.
40% Final Examination/term project.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

MARK E FIELD

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	The World's a Stage: From Shakespeare to Internet Stars	Listening, reading, and pair work exercises on traditional and newer forms of entertainment.
Week 6	The World's a Stage: Hip-Hop Goes Home	Listening, reading, and small group discussions on the ancient roots of some very modern music.
Week 7	The World's a Stage: Role-play a Famous Person	Listening, reading, and small group discussions on some famous entertainers, Followed student role-playing their favorite entertainers.
Week 8	In Style: More than Shopping	Listening, reading, and pair work exercises on fashion and different places to shop for and buy things including expensive malls and flea markets.
Week 9	In Style: Real or Fake?	Video on how to spot fake brand goods, pair work exercises, small group discussions on the meaning and real value of expensive iconic brands.
Week 10	In Style: Presenting and Defending an Argument	Listening, reading, and small group discussions on what certain styles of clothes say about people. Followed by student persuasive presentations on the benefits of designer goods or the evils of fake products.
Week 11	Decisions, Decisions: Rational Decisions	Listening, reading, and pair work exercises on making logical decisions.
Week 12	Decisions, Decisions: Peer Pressure	Listening, reading, and small group discussions on how others can sometimes affect what we do and the choices we make.
Week 13	Decisions, Decisions: The Teenage Brain	Video, and short reading on the unique features of young brains, followed by pair work exercises, and small group discussions on making decisions.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class Level 1 with Online Workbook*, Cengage Learning, ISBN-13:978-1-285-06309-6

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
Week 6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
Week 7	Group presentation	Preparation and practice
Week 8	Mid-term Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback
Week 9	Informative discussion	Learning and teaching
Week 10	Persuasive discussion	Presenting one on one
Week 11	Persuasive discussion	Being politely powerful
Week 12	Presenting yourself socially	Learning to interact on a personal level
Week 13	Final Presentation	Preparation and practice
Week 14	Final Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In-class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.

Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
Week 6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
Week 7	Group presentation	Preparation and practice
Week 8	Mid-term Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback
Week 9	Informative discussion	Learning and teaching
Week 10	Persuasive discussion	Presenting one on one
Week 11	Persuasive discussion	Being politely powerful
Week 12	Presenting yourself socially	Learning to interact on a personal level
Week 13	Final Presentation	Preparation and practice
Week 14	Final Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework
20% In-class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe300GA

英語アプリケーション I

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Theme: Art Topic: Symbols and Logos	English lecture, reading, discussion and written assignment on symbols and logos.
Week 3	Theme: Art Topic: Symbols and meanings in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'	English reading, lecture and discussion on the symbols and their means in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'	English lecture, reading, discussion and written assignment on Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'.
Week 5	Theme: Art Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'	English reading, lecture and discussion on Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'.
Week 6	Theme: Art Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?	English lecture, reading, discussion and written assignment on whether functional objects can be considered works of art.

Week 7	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s	English reading, lecture and discussion on the music of Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young	English lecture, reading, discussion and written assignment on the music of Bob Dylan and Neil Young as a stimulus for social change.
Week 9	Theme: Rebellion Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech	English reading, lecture and discussion of Martin Luther King's 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques continued	English reading, lecture and discussion of more techniques used in advertising.
Week 12	Theme: Advertising Topic: Advertising vs Branding	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs Topic: Is the unexamined life worth living?	English reading, lecture and discussion on the underlying beliefs people seldom consider.
Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.

Presentations – 70%

Class participation – 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

Kregg Johnston

配当年次/単位：3～4年/2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

1. Students read individual chapters in the book.
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
4. End of chapter quizzes are taken.
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices & Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic & social choices.
Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.

Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand & supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry Structure: The Structure of Costs in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output Decisions	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
 2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
 3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
 4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
- The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- Quizzes 50%
- Participation 20%
- Homework 15%
- Written Assignments 15%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6 Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment
Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining

English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.

Week 7 Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses
Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion

English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.

Week 8 Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality
Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking

English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.

Week 9 Health Issues: Diet considerations for life stages
Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts

English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.

Week 10 Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses
Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weigh and the presentation slides are together

English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.

Week 11 Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up
Presentation Tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit

English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.

Week 12 Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes

Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 13 Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes

Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14 Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester

Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

発行日：2021/4/1

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.

Week 7 Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/regional habits
Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion

English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.

Week 8 Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference
Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking

English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.

Week 9 Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs
Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts

English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.

Week 10 Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits
Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together

English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.

Week 11 Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players
Presentation tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit

English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.

Week 12 African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs
What would you do? — Culture clash examples

Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 13 South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs
What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules

Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14 Course Overview
Discussion of Contrasting
Presentation Themes: Discussion of cultural contrasts from country to country and region to region

Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションV

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2

Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if ...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if ...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam - 30%
- ・ Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests - 40%
- ・ Class Participation - 20%
- ・ Word-up Tests - 10%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

LANe300GA

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
 備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada - The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada - Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada - The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation

Week 6	Regions of Canada - Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art - The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art - Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music - Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music - Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their
 1. Bi-weekly presentations - 70%
 2. Weekly quizzes - 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture.

LANe300GA

英語アプリケーションⅦ

ANDREW JONES

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

大野 ロベルト

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第 2 回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第 3 回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第 4 回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 5 回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 6 回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 7 回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 8 回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 9 回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions

第 10 回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 11 回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 12 回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 13 回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 14 回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read about Japanese culture.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some reference materials.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% Presentation(s)

30% Written Assignments

30% Class Participation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

LANe300GA

英語アプリケーションⅩ

MARK E FIELD

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

In this course, we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.
Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation The differences between Japanese and International business presentation styles	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.

Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

LANd100GA

ドイツ語コミュニケーション I

Annette Gruber

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習することが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Im Moebelhaus	Akkusativ
3	Wie findest du den?	Syntax
4	Im Kaufhaus	Nomen im Plural
5	Termine vereinbaren	Idiomatische Phrasen
6	Mit Papa im Supermarkt	Personalpronomen im Dativ
7	Orientierung im Supermarkt	Nomen im Dativ
8	Gespraech mit Verkaeufern	Idiomatische Phrasen
9	Einen Gast bewirten	Imperativ
10	Berufe: Vor- und Nachteile	Modalverben
11	Mein Arbeitsplatz	Wo? in, bei + Dativ
12	Verabredungen	Uhrzeit
13	Datum, Termine	Zeitangaben
14	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Wortschatz, Phrasen

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 1-4

Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度のはやさ、説明の適切さなど、要望があれば応える。

LANd200GA

ドイツ語コミュニケーションⅡ

Schmidt Ute

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者が困難なくドイツ語圏で生活をするためと大学生活を送るために、積極的にドイツ語を使う必要があります。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。

【到達目標】

受講者は困難なくドイツ語圏で学生生活を送れるようになること
 少しでも多く話せるようになること
 一つでも多くの単語と表現を覚えること
 がこの授業の目標です。
 聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確かなもの、使えるものとするを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では基礎文法を含むテキストを用い、ドイツ語圏の日常生活や文化のさまざまな場面に題材を求めた、会話練習、聴きとり練習等に取り組む。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得、実践的なパートナー練習を通じて、コミュニケーション能力をアップすることをめざしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Einführung	Sich vorstellen Ich und meine Familie
2	日常生活と大学 Mein Alltag	Zeiten und Termine im Alltag und an der Uni
3	余暇 Freizeit	Hobby und Vereinsleben
4	食生活 Ernährung	Lebensmittel einkaufen und Essen im Restaurant
5	買い物 Kaufen, Kaufen	Im Geschäft: Preise und Konsum
6	住居 Wohnen	Wohnungen und Möbel
7	メディア Medien	Brief-Handy-SMS-Mail
8	健康 Gesundheit	Beim Arzt
9	街の中 Orientierung	In der Stadt
10	場所と方向 Wege	Wegbeschreibungen verstehen
11	天気 Klima und Wetter	Wetterbericht verstehen
12	休暇 Urlaub	Eine Reise planen
13	祝日とお祭り Feiertage und Feste	Feste in Deutschland und der Schweiz kennenlernen, Japanische Feste erklären
14	まとめ Wiederholung	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらったこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の積極的な参加（発言）（40%）、提出した宿題（30%）、2回の小テスト（30%））

【学生の意見等からの気づき】

文章を書く練習は役に立ったようで、引き続き授業で取り上げたいと思っています。

【Outline and objectives】

In this course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing, so that they can manage their study abroad program without major difficulties. Students will not only improve their communication skills, but they also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200GA

ドイツ語コミュニケーションⅢ

Annette Gruber

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それら三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、学生一人ひとりが実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語のコミュニケーション能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Terminvereinbarungen	Dialoge in Partnerarbeit
3	Familie und Freunde	Possessivartikel
4	Arbeiten im Haushalt	trennbare Verben
5	Wo? Wohin?	Wechselpraepositionen mit Dativ und Akkusativ
6	Berlin	Wegbeschreibung
7	Ueber Vergangenes sprechen	Perfekt
8	Meine Stadt	Personalpronomen im Akkusativ
9	Um Auskunft bitten/Auskunft geben	Wo-/Ja-Nein-Fragen Idiomatische Phrasen Training muendlicher Ausdruck
10	Um etwas bitten/auf Bitten reagieren	Imperativ Idiomatische Phrasen
11	Ansagen verstehen	Hoerverstehen (Alltagssituationen)
12	E-Mails schreiben	Training schriftlicher Ausdruck
13	Simulation Pruefung Start Deutsch 1	Leseverstehen, Hoerverstehen, muendlicher Ausdruck, schriftlicher Ausdruck
14	Wiederholung und Zusammenfassung	kommunikative Spiele

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

Reports, online performance

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ドイツ語圏の留学準備とともに、SA によって獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、ドイツ語で表現・説明することができる。
- ・抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論に加わることができる。
- ・まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。参加者それぞれのドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、お互いにお互いの発言とテキストの理解が十分に深まることを目指しながら、学んでいきます。
- ・各回、指定されたドイツ語テキストを前もって読んでおきます。
- ・授業ではプレゼンテーションやペーパーワークなどを取り入れつつ、テキストの内容と重要概念（語彙）を確認し、ドイツ語でアウトプット（作文）します。授業はこの繰り返しです。練習を積み重ねながら「言いたいこと」がよりスムーズにドイツ語で言えるようになるようブラッシュアップしていきます。
- ・法政大学の2021年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。
- ・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。
- ・Hoppiiのほか、ZoomとGoogle Classroomをツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整
2	日常生活（1）－住まい	留学中・滞在先での生活についてドイツ語で説明する
3	日常生活（2）－食文化	土地ごとに違う表現・同じ食べ物でも土地ごとで名前が違うことについて
4	日常生活（3）－ドイツ人はきれい好きで心配性？	あなたが見聞きしたもの、あるいは見聞きできなかったこと
5	学校・大学生活（1）	教育の目標・ドイツ語圏の人々にとって大切な価値とは？
6	学校・大学生活（2）	大学に行く目的とは？日本とドイツ語圏では何が違う？ (プレゼンテーション1)
7	社会の様相（1）－環境政策	ドイツ語圏の環境政策・脱原発の取り組みについて
8	社会の様相（2）－移民政策、難民の流入	ドイツ語圏はどんな風に"multikulti"だと思おう？(プレゼンテーション2)
9	社会の様相（3）－教育と大学制度	教育制度に関する語彙・概念を整理してみよう
10	ドイツ語圏の歴史と政治（1）	ドイツ語圏の歴史で知っていることは？(プレゼンテーション3)
11	ドイツ語圏の歴史と政治（2）	3月革命とドイツ帝国の成立・オーストリア＝ハンガリー二重帝国の成立から第一次世界大戦まで
12	ドイツ語圏の歴史と政治（3）	ヴァイマル共和国からナチの政権奪取、絶滅政策の果てに(プレゼンテーション4)

- 13 ドイツ語圏の歴史と政治 敗戦と冷戦の始まり・東西分断とドイツ再統一へ
(4)
- 14 まとめ 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・所定の予習・復習課題を出します。
- ・新聞（日刊紙）を読むこと。国際政治を自分の身近な問題として引き受け思考するため、「何を話すか」のブラッシュアップにも文章によるニュースメディアは必要です。ドイツ語圏のメディアにはインターネットやSNS等を効果的に利用してアクセスするクセをつけると良いでしょう。

【テキスト（教科書）】

- ・"Dreimal Deutsch" (Klett, 2003/2005/2009)
- ・他に"Themen aktuell 1" (Hueber, 2003) を持っている場合は持参してください。

【参考書】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver3.』（朝日出版社、2019年）/『シュトラッセ・ノイ Ver2.』（朝日出版社、2011年）(1,2年次使用教科書)

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60%、学期末課題（テスト）40%を合わせ、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。ただし議論の時は使ってはいけません。
- ・ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレットのどちらか）とイヤホン（ヘッドセット/ヘッドフォンマイク）を用意してください。

【その他の重要事項】

- ・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA参加予定学生（2021年度SA免除予定者含む）、滞在予定者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては4セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。
- ・授業内容（テーマ）と順序は変更されることがあります。
- ・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」、「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。Goethe Zertifikatについては割引料金適応が適用されるので、受験希望者はぜひ担当者に知らせて下さい。
- ・以上の受験結果については、2021年7月15日の時点で担当者が合否を正確に確認できた場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。

【Outline and objectives】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

熊田 泰章

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ留学などを通して身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。授業の前半では、辞書なしで文意を捉えられるよう速読の力を養い、後半ではドイツ語の構文を正しく理解し精緻に読み解けるよう、精読の訓練をしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く。辞書なしで文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。様々な文化との対比を通して、間文化性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ドイツ語圏の文化や歴史に関する教材資料を用います。授業の前半では、初見のテキストを辞書なしで読み、理解を得ていくことを練習をします。後半では、内容を正確に読み解くとともに、そこで取り上げられているトピックについての議論も行います。毎回、学習したことをレポートとして提出する。教材資料の提示とレポートの提出は学習支援システムによって行います。各回の授業の最初に、前回のレポートについてのフィードバックとして、提出レポートの講評を行います。セメスターの後半では、受講者の提案によって、取り上げるテーマを選定し、テキストを選んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	2020年の世界を振り返る	2020年に起きたことや社会情勢を振り返る。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	ドイツ語圏のいまを知る。ドイツの社会や政治制度について、日本とも比較しながら学ぶ。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	ドイツの隣国オーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどについて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて	EU諸外国とは大いに異なるスイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る。
6	ドイツ語圏を知る（4）AfD 台頭とドイツ社会	要人の殺害やシナゴーク襲撃など、ドイツにおける排外主義の高まりについて考える。
7	ドイツ語圏を知る（5）ドイツの選挙制度	似ているようで大きく異なる日独の選挙制度や政治システムの相違について考察する。
8	ドイツ語圏を知る（6）ドイツと日本の交流史を知る	1861年に修好通商条約が締結されて間もなく160年となる日本とドイツの関係について学ぶ。
9	ドイツ語圏を知る（7）ドイツとEU諸国との関係	戦後ドイツが諸外国とどのような関係を築いてきたのかを知る。
10	受講者選定テーマ1	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。
11	受講者選定テーマ2	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。
12	受講者選定テーマ3	初級・中級文法の定着を図る。受講者選定テーマに即したテキストを用いる。リスニングの練習を加える。
13	受講者選定テーマ4	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。
14	このセメスターのまとめ	複雑な表現を学ぶことを加える。学んだことを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材資料は、学習支援システムで事前に配布しますので、適宜予習してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、教材資料を学習支援システムで提示します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年
辻朋季『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』三修社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加40%。課題への取り組み40%。小テスト20%。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言する授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材資料の提示と課題の提出を行います。

【その他の重要事項】

学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもあります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to make progress our German language skills acquired by staying and studying in Germany or in Switzerland. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read more complicated texts precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).

NOTA BENE: The course is mainly held in Japanese, partially in German. Students who are not proficient in these languages are requested to ask the course lecturer beforehand (q.v. also curriculum vitae in Japanese).

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。

この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいと思います。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、長所、短所を挙げることができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストブック、新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	統計でみるドイツ語圏	Statistiken und Grafiken beschreiben
第3回	ドイツ語圏のイメージ	Bildbeschreibung
第4回	国と国民:典型的とは何か?	Was ist typisch?
第5回	ドイツ人と動物 1	Die Tierliebe der Deutschen
第6回	ドイツ人と動物 2	Tierschutz
第7回	音楽 1	Deutsche Hits Liedtexte verstehen
第8回	音楽 2	Meine Lieblingsgruppe vorstellen
第9回	食生活	Essen und Ernährung
第10回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第11回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第12回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第13回	年間行事と祭り 1	Traditionelle Feste Weihnachtenquiz
第14回	年間行事と祭り 2	Weihnachten in Deutschland und Neujahr in Japan - Feste von gestern?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業での発言(50%)と宿題提出(50%))この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

LANd300GA

【2021 年度休講】ドイツ語アプリケーション

国際文化学部 テスト用ダミー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

LANf100GA

フランス語コミュニケーション I

カレンス フィリップ

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語コミュニケーションの力を発展させるクラス。フランス語会話を日常生活の中で使えるように土台をつくる。聞く、読む、話す、書くの四つの能力をまんべんなく鍛え、確実に学習事項を身につけられるように構成されているプログラムです。表現と、関連する文法の機能を体系的に理解する練習を行い、学習のごく早い段階からフランス語のコミュニケーションを可能にし、学習のモチベーションを与えたいと思います。

【到達目標】

フランスの中で旅行および生活するために不可欠な基礎の知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

担当する講師は日本人、ネイティブとともに同じテキストを使う。日常生活のテーマを通して、フランス語の会話を養う。発音の聴き取り、繰り返し、質疑応答などのさまざまな練習を通じてフランス語コミュニケーションの力を発展させる。"遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する"。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Présentations Révisions	自己紹介 復習
2	Unité 4 Leçon13 Les nombres L'heure, les jours La date	数字 時間、曜日 日付
3	Unité 4 Leçon14 Parler de professions Lieux de travail	職業に関して話す 職場
4	Unité 4 Leçon15 Actions dans le temps	スケジュール 日常の行為
5	Unité 4 Leçon15 Actions habituelles Le sport	毎日の行為 スポーツ
6	Unité 5 Leçon17 Habitudes alimentaires Quantités	飲食の習慣 量
7	Unité 5 Leçon18 Actions passées Examen de mi-trimestre	過去の行為 中間テスト
8	Unité 5 Leçon18 Exprimer une opinion	意見を述べる
9	Unité 5 Leçon19 Déplacements (passé)	移動（過去）
10	Unité 5 Leçon19 Interroger sur le temps Activités de fêtes	時間についての質問 祭日のイベント
11	Unité 6 Leçon21 Permission Interdiction	許可 禁止
12	Unité 6 Leçon22 Possibilités Savoir-faire Volonté, obligation	可能性 能力 意士、義務
13	Unité 6 Leçon23 Faire des propositions	提案する
14	Examen de fin de trimestre	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習問題、復習問題、宿題本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Nouveau Taxi 1. Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】

1. 中間テスト・期末試験: 50 % 2. 課題: 40%
3. 積極性: 5 % 4. 平常点: 5 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

冠詞や前置詞などをよりわかりやすく説明し、初歩の段階から苦手意識を持たず、楽しんで学習できるよう工夫をしたい。

【Outline and objectives】

This course is a conversation class of level A2 with the objective to develop ability to use French in many situations. We will train the four competences as comprehension, reading, speaking and writing but in class, we will emphasize on oral communication.

This course is the first step as part of the program which prepares the students for their study trip and stay in Angers (France). The progression of the class is based on the text book called "Nouveau Taxi 1" but we will use extra material to focus on oral training. The purpose of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn the basic knowledge which is necessary to communicate with native speakers in France. For this purpose, in class, we will give priority to active interactions. The students will have to participate and speak as much as possible with partners. We'll do a lot of panel exercises and learn how to ask or answer questions in order to communicate in various situations experienced in everyday life. In order to achieve the goal of this program, it is also important to develop the vocabulary which is needed for each topic. The rules of pronunciation will be explained in detail, and we will do many exercises over and over to improve the speaking ability. Japanese teachers will also take part in this program in different classes. In the first stage, they will explain French grammar that can be reutilized in conversation patterns in our class. Furthermore, homework, revisions and tests will give the students the opportunity to check their progress.

LANf200GA

フランス語コミュニケーションⅡ

竹本 研史

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スタディ・アプロード・プログラムで予定されているアンジェ滞在にむけて、必要な語彙や表現を、音声や文字のかたちで使えるようにする授業です。教科書 *Le Nouveau taxi! 1* を中心に進めますが、インターネット上にあるフランス語圏の動画や記事も利用します。

【到達目標】

教科書 *Le Nouveau taxi! 1* を終え、学んだ表現を自分でも聞き取ることができ、会話で使えるようになる。また日常的な内容の文章を読み、電子メールや簡単な手紙が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 4名の教員によるチームティーチングであり、文法事項の説明は主にもうひとりの日本人教員が行なう。また会話の練習はネイティブ教員2名が行なう。
2. この授業では、フォネティックの知識にもとづく音声面での production（実際にある程度正確な発音で話したり読んだりできるか）を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方についての説明。Savoir-dire が重要であること。	Unité 6 までの復習。学生ひとりひとりのやりとり
2	Leçon 25	好きなことについて語る。頻度や程度表現がわかる・使える。
3	Leçon 26	意見を言う、意見を求める。反論する。
4	Leçon 27	好みについて述べる。助言する。
5	Leçon 29	過去の出来事や習慣について話す（半過去）。最近の出来事について話す（近接過去）。
6	Leçon 30	過去の出来事について話す（複合過去）。そのときの状況について述べる。
7	Leçon 31	過去の出来事を、時の表現と結びつけて話す。目的の表現を学ぶ。
8	Leçon 33	未来のことについて話す（単純未来）。ありうるかもしれないこと、あるいはたしかなことについて話す。
9	Leçon 34	未来の計画について話す。これからのことを時の表現と結びつけて話す。
10	Leçon 35	条件・仮定の表現を学ぶ。これからやりたいこと、またその理由について話す。
11	発音記号の確認（母音）& 残りの文法事項の説明	発音記号が読めるようになったかの最終確認
12	発音記号の確認（子音）& 残りの文法事項の説明	文法事項の残りを他担当者と協力してなくす。
13	発音練習&読みの練習	音声面を含む達成状況のチェック
14	まとめ	音声面を含む達成状況のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は毎日続けて親しまなければ身につけません。新しい単語をあらかじめ調べておき、授業後も繰り返し発音して動詞の活用や表現を覚えることを通じて、予習と復習をしっかりとするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Guy Capelle & Robert Menand, *Le Nouveau taxi! 1 Méthode de français*, 2009, Hachette.

【参考書】

仏和辞典は必ず携行してください。紙辞書を積極的に推奨します（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

【成績評価の方法と基準】

語彙・活用などに関する小テスト（学期に数回実施）[20%] + 期末試験 [80%]
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

新規のため割愛

【学生が準備すべき機器他】

辞書をまめに引く習慣をつけるようにしましょう。文法については、アンジェではフランス語で教わることを念頭に、日本語の参考書を買きましょう。できるだけ早くフランス語環境での学習に慣れるために、インターネットを活用しましょう。

【その他の重要事項】

分からないことがあるときは、家に持ち帰らずに、その日のうちに確認するようにしましょう。遠慮せずに授業中に質問してください。それでも解消しないときは、授業後も質問を受けつけます。併せて、SA で現地生活をおくる準備をするにあたって、フランス語圏地域文化を学ぶために、ILAC のリベラルアーツ科目のフランス語圏文化に関する科目や、総合科目の辻英史先生・竹本（月曜 3 限）や大中先生（木曜 4 限）の「教養ゼミ」、それから国際文化学部のフランス語圏に関する他学部聴講科目をぜひ受講していただけたら幸いです。

【Outline and objectives】

This intermediate French course includes mainly oral production based on phonetic knowledge. Class meets four times a week. Students will prepare to study abroad in Angers, France (fall semester, 2021).

LANF200GA

フランス語コミュニケーションⅢ

カレンス フィリップ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座。日常生活の中で、フランス語でのコミュニケーションがもっと細かくできるようにレベルアップさせる練習を行う。さらに基礎文法を固め、必須な語彙を増やし、フランス語のスキルを高める。練習問題は多くの場合はペアで行うように学習者同士のコミュニケーションが促される仕組みになっているプログラムです。

【到達目標】

前年度よりさらに会話のテーマを広げながら、フランスで暮らせるために様々な角度からコミュニケーションの力を強化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前年度と同じテキストを使い、基本的に同様の教え方で行う。フランスで暮らすという目的を固めながら、フランス語でネイティブとコミュニケーションが取れるように会話の能力を高める。それぞれの日常生活の状況に関係がある様々な会話パターンを覚え、反応及び会話のスピードを高める練習も行う。

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する。"

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Révisions	復習
2	Unité 7 Leçon 25 Exprimer ses goûts et ses préférences Exprimer l'intensité	趣味、好み 程度
3	Unité 7 Leçon 25 Activités de loisirs faire / jouer Pronoms "en" et "y" Fréquence Enquête	休暇の行為 en / y 代名詞 頻度 アンケート
4	Unité 7 Leçon 26 Exprimer une opinion Contester	意見 異議
5	Unité 7 Leçon 27 Goûts Appréciation adjectifs	好みについて 評価 形容詞
6	Unité 7 Leçon 27 Donner des conseils	助言、アドバイス
7	Test de m-trimestre	中間テスト

8	Unité 8 Leçon 29 Evènement récents Etats et habitudes passés	近未来の出来事 過去の習慣（半過去）
9	Unité 8 Leçon 30 Evènements passés、 Circonstances et états passés	過去の出来事、 過去の状況・状態
10	Unité 8 Leçon 31 Situer dans le temps Le but	時間の表現 目的
11	Unité 9 Leçon 33 Prévisions (météo) Probabilité Certitude	天気予報 可能性
12	Unité 9 Leçon 34 Expression du futur Projets	未来 計画
13	Unité 9 Leçon 35 Hypothèses Conditions	課程 条件
14	Test de fin de trimestre	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、宿題本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Le Nouveau Taxi 1. Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】

1. 中間テスト・期末試験: 50 % 2. 課題: 40%

3. 積極性: 5 % 4. 平常点: 5 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なシチュエーションのなかで、より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

This course is a French conversation class which is a part of the second step program whose objective is to prepare the students for their study trip and stay in Angers (France). We will review and go further in the program with the support of Japanese teachers will keep on teaching the grammar program at an intermediate higher level. Basically, we will use the same method of progression as the 1st year program based on the text book called "Nouveau Taxi 1". We will also use extra materials and method which focuses on "how to use" in order to develop the oral capacity. The main priority of this class will be the strengthening and brushing up of the speaking ability. Like the last year, the students will learn to explain facts or actions of everyday situations, they will participate actively by asking or answering questions in a more precise way and will give opinions about many different topics. We will proceed progressively and each step will lead in a natural way to the next one. We will do reviews if it is necessary to assure a smooth but active progression.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2 ou B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà confirmés (2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Le manuel ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel Organisation de la classe Calendrier des leçons et devoirs ou tests Découverte de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 1 : vivre ensemble ! (1)	pp.11-14 : alimentation, logement, convivialité ; le subjonctif
3	Unité 1 : vivre ensemble ! (2)	pp.15-17 : voisinage, habitat, déménagement
4	Unité 1 : vivre ensemble ! (3)	pp.18-22 : conseiller ; projets participatifs ; la négation et la restriction
5	Unité 1 : vivre ensemble ! (4)	pp.23-26 : lexique du logement ; une bonne alimentation
6	Unité 2 : Le goût des nôtres (1)	pp.27-30 : origines et famille ; le passé composé et l'imparfait
7	Unité 2 : Le goût des nôtres (2)	pp.31-35 : généalogie et photos de famille ; les indicateurs de temps (1)
8	Unité 2 : Le goût des nôtres (3)	pp.36-39 : les rapports familiaux ; accord des verbes pronominaux ; p.42 : préparation du DELF B1
9	Unité 3 : Travailler autrement (1)	pp.43-46 : le nomadisme digital ; les pronoms relatifs simples
10	Unité 3 : Travailler autrement (2)	pp.47-50 : stages, jobs et embauches ; l'expression de l'opinion (1)
11	Unité 3 : Travailler autrement (3)	pp.51-55 : féminisation et marché du travail ; l'expression du but
12	Unité 4 : date-limite de consommation (1)	pp.59-63 : la consommation éthique ; l'expression de l'opinion (2)
13	Unité 4 : date-limite de consommation (2)	pp.64-67 : l'économie de partage ; le comparatif et le superlatif

14 Unité 4 : date-limite de consommation (3) pp.68-71 : les habitudes de consommation ; la place de l'adjectif ; TEST FINAL et suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).

予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation active en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent utiliser librement ordinateur personnel ou smartphone pour des recherches internet, l'enregistrement de sons ou d'images, etc.

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France ou qui préparent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

Le cours se déroulera en classe (présentiel) mais quelques séances pourront encore avoir lieu en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with A2-B1 level in French. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge of french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2 ou B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

La méthode ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. Le manuel progressif permet à tout étudiant de progresser avec confiance. La méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 7 : Et si on partait ? (1)	Consignes pour ce second semestre ; pp.107-111 : le voyage ; l'expression du futur
2	Unité 7 : Et si on partait ? (2)	pp.112-115 : plans de voyage ; la condition et l'hypothèse
3	Unité 7 : Et si on partait ? (3)	pp.116-119 & p.122 : voyages lointains ; le conditionnel passé
4	Unité 9 : Un tour en ville (1)	pp.139-144 : actions écologiques citoyennes ; le discours rapporté
5	Unité 9 : Un tour en ville (2)	pp.145-151 : l'art urbain ; les indéfinis de quantité
6	Unité 10 : Soif d'apprendre (1)	pp.155-159 : les études en France ; la cause et la conséquence
7	Unité 10 : Soif d'apprendre (2)	pp.160-163 : les études ; le participe présent
8	Unité 10 : Soif d'apprendre (3)	pp.164-167 : wikipedia et les connaissances ; les pronoms relatifs composés
9	Unité 11 : il va y avoir du sport (1)	pp.171-175 : temps libre et loisirs ; les doubles pronoms
10	Unité 11 : il va y avoir du sport (2)	pp.176-179 : santé et connectivité ; la mise en relief
11	Unité 11 : il va y avoir du sport (3)	pp.180-183 : santé et sport ; le futur antérieur
12	Unité 12 : cultiver les talents (1)	pp.187-191 : lecture et littérature ; l'opposition et la concession
13	Unité 12 : cultiver les talents (2)	pp.192-195 : arts et artistes ; les indicateurs de temps (3)
14	Unité 12 : cultiver les talents (3)	pp.196-199 : rencontres avec des artistes ; le passé simple ; TEST FINAL ; suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).

予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier

ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent utiliser librement ordinateur personnel ou smartphone pour des recherches internet, l'enregistrement de sons ou d'images, etc.

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France ou qui préparent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

Le cours se déroulera en classe (présentiel) mais quelques séances pourront éventuellement encore avoir lieu en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un bon niveau de français (A2 au minimum) est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with a B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante. S'il y a des modifications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications sur le programme du cours L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. (Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
②	L2 p12 Passer une commande Prépositions "à" "de" Conditionnel+bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom "de"	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Test de mi-trimestre	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire

⑧	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Test final	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive du Français - 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,

Editions Clé International, Claire MIQUEL

(ISBN 978-2090381634)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

1. Tests de mi-trimestre et de fin de trimestre: 50%

2. Devoirs écrits (contrôle continu): 40 %

3. Présence et participation en classe : 10 %

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, d'un seul semestre, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (ビジネス・フランス語). Il constitue une bonne initiation au vocabulaire de l'économie et du monde du travail.

【到達目標】

Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone.

Il est également utile à la préparation des examens du DELF ou des "Kentei-shiken".

Ce cours est d'un niveau A2-B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

L'apprentissage sera progressif mais rapide, donc intense. Exercices et activités développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.

Quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ) seront donnés en fin de cours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 (1) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Présentation du cours et de la méthode. Parties A et B de l'unité 1.
②	Unité 1 (2) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 2 (1) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 2 (2) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 2 (3) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 3 (1) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 3 (2) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 3 (3) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 4 (1) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Parties A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 4 (2) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 4 (3) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 5 (1) ("En mission", pp. 72-87)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.

⑬	Unité 5 (2) ("En mission", pp. 72-87)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 5 (3) ("En mission", pp. 72-87)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique. TEST FINAL

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une préparation régulière (2h à 4h) est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】

OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

Un manuel pourra être prêté à chaque étudiant durant le semestre.

【参考書】

La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】

Participation active en classe : 40%

Test, textes et exposés : 60%

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Quelques notions fondamentales d'économie et de finances seront rappelées.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours se déroule en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou smartphone (recherches internet, enregistrement de son ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】

Ce cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances pourront encore être données en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau A1 très complet (3 semestres d'étude du français au minimum) est nécessaire pour suivre ce cours.

【Outline and objectives】

This "business French" course (one semester only) is intended for students who want to communicate in professional situations (level A2-B1).

LANr100GA

ロシア語コミュニケーション I

エレナ 三神

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる会話表現の習得を目標とする授業です。ロシア語の発音とイントネーションに慣れることから始め、挨拶、受け答えの基礎から徐々に語彙を増やしていき、最小限の日常行動が可能となるような会話の基礎を作ります。また、講師との対話（会話）を通して、現地事情を感じてもらえるような授業を目指します。

【到達目標】

簡単なロシア語の質問を正しく理解し、答えることができる。簡単な言葉で自分のことを表現できる。文章を正確に読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

定型的なフレーズの音読練習、暗記、場面での応用で実践的に覚えます。授業では発音・イントネーションの練習、場面設定でのロールプレイなどを行います。

授業は対面授業と（感染状況によって）リアルタイムオンライン授業の組み合わせになりますが、初回は対面授業です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	挨拶の基本	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
2	自己紹介、職業	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
3	出身の話	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
4	家族の話	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
5	趣味や外見	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
6	自己紹介の総合復習	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
7	自己紹介の総合復習（続き）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
8	私の一日	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
9	私の一日（続き）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。

10	食べ物・飲み物	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
11	食べ物・飲み物（続き）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
12	街歩き	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
13	街歩き（続き）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の後に毎回学習支援システム提出の宿題又はオンラインテストが出ます。単語学習はオンライン単語カードでできます。本授業の準備学習・復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

学習支援システムにて授業に使う PDF プリント及び音声データをダウンロードできます。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点（小テスト、宿題、授業への取り組み）50%

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイム Zoom 授業の場合のみに授業の様子を記録して学習支援システムにて配信します。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、インターネット環境

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業スケジュールを変更できます。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to give students practice at listening and speaking, and (2) to teach students useful words and expressions.

LANr200GA

ロシア語コミュニケーションⅡ

エレナ 三神

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返していきます。

【到達目標】

ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンライン授業になります。授業ではテーマごとに文章を音読し（発音・イントネーションを確認するため）、そこで使われている表現をロールプレー、質疑応答、リスニングなどを通して練習します。会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介（復習）	リスニング、会話練習
2	好きなこと	リスニング、会話練習
3	家	リスニング、会話練習
4	職場	リスニング、会話練習
5	特徴、色	リスニング、会話練習
6	食べ物、飲み物	リスニング、会話練習
7	レストラン	リスニング、会話練習
8	洋服	リスニング、会話練習
9	1日の流れ	リスニング、会話練習
10	週のスケジュール	リスニング、会話練習
11	交通	リスニング、会話練習
12	天気、気候	リスニング、会話練習
13	大学、学習	リスニング、会話練習
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に扱った表現・単語の復習、作文又は聴解宿題が毎回あります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

お手元にあるロシア語文法の参考書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点（宿題、小テスト、授業への取り組み） 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PCなど）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は多少変更できます。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, to give students the communication skills necessary for a successful study trip abroad.

LANr200GA

ロシア語コミュニケーションⅢ

エレナ 三神

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返していきます。

【到達目標】

ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンライン授業になります。授業ではテーマごとに文章を音読し（発音・イントネーションを確認するため）、そこで使われている表現をロールプレー、質疑応答、リスニングなどを通して練習します。

会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	街、持ち物	会話・リスニング練習
2	趣味	会話・リスニング練習
3	部屋	会話・リスニング練習
4	仕事	会話・リスニング練習
5	人柄	会話・リスニング練習
6	世界の朝食	会話・リスニング練習
7	ロシア料理	会話・リスニング練習
8	ショッピング	会話・リスニング練習
9	自分の一日（動詞の体）	会話・リスニング練習
10	いつも通うところ	会話・リスニング練習
11	交通ルート	会話・リスニング練習
12	病院	会話・リスニング練習
13	学生寮	会話・リスニング練習
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に扱った表現・単語の復習、作文又は聴解宿題が毎回あります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてプリントを配布します。

【参考書】

お手元にあるロシア語文法の参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題、小テスト、授業への取り組み）50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PCなど）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は多少変更できます。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, to give students the communication skills necessary for a successful study abroad.

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでで培ってきたロシア語の文法と読解の力を向上させ、ロシア語で多様な情報や知識を得る楽しみを分かち合います。文法問題と読解を積み重ねていくことで、学生のみさんが検定試験（ロシア語能力検定試験とT P K II）のさらなるレベルを目指せるようにします。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験、あるいはロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（T P K II）の学生各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

文法と読解に重点をおきます。ロシア語能力検定試験やT P K IIの練習問題、さらにロシアの文化や慣習、社会をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握する練習を積み重ねていきます。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第2回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第3回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第4回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第5回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第6回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第7回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第8回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第9回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第10回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第11回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第12回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。

第13回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

第14回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験やT P K IIの過去問題の課題、長文読解の学習に、1回につき2時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システムなどを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%、課題の正解率 20%とし、総合的に判断します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve Russian grammar and reading comprehension in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期同様、ロシア語の読解力（情報を正確に読みとる力）を養います。並行してロシア語能力検定試験、およびロシア語検定試験（T P K I I）の希望するレベルの合格を目標に掲げ、これに沿った文法問題を解いていきます。

【到達目標】

読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めること、ロシアの文化や社会についてロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア語能力検定試験、およびT P K I Iの各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

文法と読解に重点を置きます。ロシア語能力検定試験やT P K I Iの練習問題、さらにロシアの文化や慣習、社会をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握する練習を積み重ねていきます。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第2回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第3回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第4回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第5回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第6回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第7回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第8回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第9回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第10回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第11回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第12回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。

第13回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

第14回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験やT P K I Iの過去問題の課題、長文読解の学習に、1回につき2時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システムなどを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%、課題の正解率 20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve reading comprehension and listening in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading and listening texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANc100GA

中国語コミュニケーション I

シヨウ イクテイ

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を習得する。

【到達目標】

中国語コミュニケーションに必要な不可欠な発音と基礎的な文法に関する知識と技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

発音及び読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。課題などへのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	会話と授業に関する説明	中国語会話の練習と授業に関する注意事項の説明
②	第1課	名詞の前に置く“的”、動詞の前に置く“地”、助動詞“要”、連動文
③	第1課	第1課のチャレンジ・スキット
④	第2課	動態助詞の“了”、語気助詞の“了”、語気助詞の“吗”と“吧”
⑤	第2課	第2課のチャレンジ・スキット
⑥	第3課	経験・経過を表す“过”、“怎么”の2つの用法、副詞“才”の用法
⑦	第3課	第3課のチャレンジ・スキット
⑧	第4課	動作の進行、動作・状態の持続を表す“着”、動作を行う時間の長さ・動作の回数、“因为～所以…”
⑨	第4課	第4課のチャレンジ・スキット
⑩	第5課	近い未来“要～了”、“快～了”、反語の表現、副詞“就”の用法、“要是～就…”
⑪	第5課	第5課のチャレンジ・スキット
⑫	第6課	結果補語、感嘆文、副詞“还”の用法、“虽然～但是…”
⑬	第6課	第6課のチャレンジ・スキット
⑭	復習、試験、まとめ	ここまで習った内容を復習、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語とポイントをしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。

・毎日最低20分テキストのCDを聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

本間史・孟広学著 『2年めの中国語ポイント45』 白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、課題や小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を行うために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

Master the basic knowledge of Chinese pronunciation and fundamental grammatical matter while learning the necessary knowledge for Chinese communication.

LANe200GA

中国語コミュニケーションⅡ

薬会

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語によるコミュニケーション（会話と作文）の能力を向上させます。

【到達目標】

初級後段階中級前段階の作文能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

毎回の授業では、課題としてこちらが提示した作文の練習問題を、既習の語彙・文法知識に基づき完成し提出する。また、「聴く」と「話す」の能力向上を目的とする聞き取りとスピーチの小テストを行いません。課題や小テストなどのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数字・量詞の文	時間とお金 「二」と「兩」の使い分け
2	断定・否定の文	「是」構文と動詞・形容詞構文 「不」と「没有」の使い分け
3	疑問文	普通疑問文と反復疑問文 疑問詞と疑問文
4	連体・連用修飾を含む文	「的」「地」「得」 副詞と形容詞
5	「把」を使用した文	「把」構文
6	受け身文	「被」「叫」「讓」など
7	使役文・兼語文・連動文	「叫」「讓」「去」など
8	存現文	「在」「有」「動詞+着」
9	比較の文	「比」「一樣」など
10	介詞を使用した文	「從」「离」「在」「跟」「为了」など
11	助動詞の文	「会」「能」「可以」など
12	テンス・アスペクト	「了」「着」「過」
13	補語の文	程度・方向・結果・数量・可能補語
14	試験・まとめ	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① この授業が始まるまでに『ポイント学習初級中国語』（東方書店）の内容を復習し、また毎回必ず教室に持参してください。

② 教室へ来る前に、必ず前週までに習った内容や授業中に使用したプリントを確認し、事前に目を通しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

『ポイント学習初級中国語』（東方書店）。また、出版社は指定しませんが、各自自分の使い慣れた日中、中日辞典を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

教室試験が行えない場合は、オンライン授業を受けて提出した課題の完成度などの平常点（60%）、期末試験（40%）という割合で総合的に評価します。教室試験を行う場合は、平常点（40%）、期末試験（60%）とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this Chinese course is to improve the ability of Chinese expression.

LANe200GA

中国語コミュニケーションⅢ

ショウ イクテイ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次の既習内容に引き続き、更に基礎を固め、読解力や表現力などのスキルアップにつないでいくことを目的とする。

【到達目標】

一年次に習った内容を軸に、留学に必要な音読・訳読がこなせる。

コミュニケーションを取れるスキルがアップできる。

表現力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教科書に沿って、履修者のレベルを確認の上、内容への理解をチェックしながら、効果的に授業を進めていく。

課題などへのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	発音のブラッシュアップと授業を受ける際の注意事項の説明など
②	第7課	难道～吗，会，连～也/都，为了
③	第7課	本文とトレーニング
④	第8課	形容词的动词用法，越～越～，住，趁
⑤	第8課	本文とトレーニング
⑥	第9課	以为，要不然，敢，别看
⑦	第9課	本文とトレーニング
⑧	第10課	该，等，没想到，并+不/没有
⑨	第10課	本文とトレーニング
⑩	第11課	看来，既～也～，只有～才～，地
⑪	第11課	本文とトレーニング
⑫	第12課	既然～就～，关于，是不是，不知道～（オ）好
⑬	第12課	本文とトレーニング
⑭	復習、試験、解説	ここまで習った内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習をしてください。各課の新出単語と文法をしっかりと記憶し、理解したかどうかチェックすること。

毎日最低20分テキストのCDを聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

『チャレンジ！二年生の中国語』—簡明会話版—

著者：南勇 朝日出版社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、課題や小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

Following the contents of the previous course of the first year, we aim to further strengthen the foundation and link up skills such as reading ability and expressiveness.

LANc300GA

中国語アプリケーション I

曾 士才

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書やネットを使用しながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

たとえば、『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板や授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布。
第2回	論説文の基礎①	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第1課、第2課
第3回	論説文の基礎②	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第3課、第4課
第4回	論説文の基礎③	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第5課、第6課
第5回	プリント1①	政治・経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第6回	プリント1②	翻訳と講読を続ける。
第7回	プリント1③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第8回	プリント2①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第9回	プリント2②	翻訳と講読を続ける。
第10回	プリント2③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第11回	プリント3①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第12回	プリント3②	翻訳と講読を続ける。

第13回 プリント3③ 翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。

第14回 読解力テストと講評 テスト後の講評と関連語彙の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳し、第2回から第4回までの授業に備える、また、プリント教材を読み、翻訳し、第5回から第13回までの授業に備えておく。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010年

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の学習（20%）と学期末に実施する読解力テスト（80%）で達成度を判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

ショウ イクテイ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
- (3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が自分の書いた文を発表する機会も設ける。
- ・教員は練習問題の添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	作文と授業に関する説明	中国語作文の形式と授業に関する注意事項の説明
2	第1課	連体修飾構造の作り方“的”が必要ない時 R42、数量構造、動詞目的語構造、介詞構造、名詞の場所化 R03、大事な補語
3	第2課	動詞述語文、形容詞述語文、“是”を用いる文、存現文 R26、二重目的語、比較を表す文型、兼語文 R19
4	第3課	ある・いる - R01 「…する～がある・ない」の訳し方 R31、 お飾りの“很” - R02
5	第4課	“吗”がいるとき いらぬとき - R03、「行きませんか」は「行きましょう」- R04、「何か」「どこか」「だれか」の訳し方 R27、「…(の)ではないか」の対応
6	第5課	「何の映画？」と「なんて映画だ！」- R06、“什么”を用いた不満の決まり文句、「疑問詞+でも」 R34、反語文
7	第6課	動詞はどうした？ R14 「サングラスの男」はサングラスをかけている R18
8	第7課	よく現れる“来”と“去” R11、「動目」構造の動詞はとれない目的語 R23、 「…に行く」の訳し方
9	第8課	「思う」あれこれ R41、 動詞の重ね型 - R07、 重ね型を作れない動詞
10	第9課	文脈に隠れた代名詞をさがせ R02、 「这么」「那么」がいる こんな場合あんなとき R28

11	第10課	中国語では現れる副詞“就” R05、“才”は「やっと」現れる R09
12	第11課	例外なしは“都”で R06、「だけ」にあたる“只”の位置 - R08、 「も」にあたる“也”の位置 - R09
13	第12課	「また」もう一度 “再” “又”“还” - R10、 ちょっと待って “再”の出番はこれからだ R21
14	復習、試験、まとめ	ここまで習った内容を復習、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、テキストの予習/復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂著『作文ルール 66』一日中翻訳技法一 朝日出版社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%と平常点(学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50%に基づいて、総合的に評価する。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等やむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で燃るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline and objectives】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the writing skill. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
- 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
- 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
- 4、総括する。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	ピンイン・日常用語（1）	1、ピンインを復習する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の朗読・日常用語（2）	1、短い文章を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	会話パターン（1）	買い物する時の会話パターンをチェックする
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	会話パターン（2）	レストランでの会話パターンをチェックする
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	会話パターン（3）	ものの尋ね方をチェックする
第9回	授業内発表（3）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで問答する
第10回	会話パターン（4）	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する
第11回	授業内発表（4）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第13回	授業内発表（5）	スピーチの個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。また作文の課題も2回ほど課される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布。

【参考書】

劉月華 他『实用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。

また基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験を推奨される。

【Outline and objectives】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に e-Learning を利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】

HSK5 級と 6 級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閱讀」（リーディング力）を身につけるとともに、これらの教材を活用して「会話」（スピーキング力）を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業は e-Learning や過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK の「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閱讀」問題の予習を行う

【授業の進め方と方法】

- ① 「聴力」問題の発音練習と解説
- ② 「閱讀」問題の解答と解説

【課題等に対するフィードバックの方法】

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用する e-Learning 教材の利用方法を解説する
第 2 回	HSK5 級対策①	・聴力問題第一部分① 1-48（番号は e-Learning の字幕番号） ・閱讀問題第一部分 46-60（番号は HSK の問題番号）
第 3 回	HSK5 級対策②	・聴力問題第一部分② 49-88 ・閱讀問題第二部分① 61-65
第 4 回	HSK5 級対策③	・聴力問題第二部分① 89-151 ・閱讀問題第二部分② 66-70
第 5 回	HSK5 級対策④	・聴力問題第二部分② 152-193 ・閱讀問題第三部分① 71-78
第 6 回	HSK5 級対策⑤	・聴力問題第二部分③ 194-236 ・閱讀問題第三部分② 79-90
第 7 回	HSK5 級模擬試験	HSK5 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第 8 回	HSK6 級対策①	・聴力問題第一部分 1-69 ・閱讀問題第一部分 51-60
第 9 回	HSK6 級対策②	・聴力問題第二部分① 70-139 ・閱讀問題第二部分 61-70
第 10 回	HSK6 級対策③	・聴力問題第二部分② 140-178 ・閱讀問題第三部分 71-80
第 11 回	HSK6 級対策④	・聴力問題第三部分① 179-213 ・閱讀問題第四部分① 81-84
第 12 回	HSK6 級対策⑤	・聴力問題第三部分② 214-249 ・閱讀問題第四部分② 85-92
第 13 回	HSK6 級対策⑥	・聴力問題第三部分③ 250-286 ・閱讀問題第四部分③ 93-100

第 14 回 HSK6 級模擬試験

HSK6 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

- ①教材ページ上に用意された e-Learning 教材を使い、HSK の「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う
- ②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSK の「閱讀」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教材用ページに用意した e-Learning 教材や HSK の問題冊子などを利用する。教材用ページの URL と利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】

・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

- ①事前学習（ディクテーション）の実施状況（40 %）
- ②事前学習（ディクテーション）の実施状況（40 %）
- ③ HSK 模擬試験の成績（20 %）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

HSK の取得を希望する人が多くなったため、昨年度から HSK の過去問を教材として授業を行うことにした。HSK の問題は実際の会話も役立つため、資格の取得とともに、実践的な中国語力も身につけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

e-Learning による事前学習にはパソコンが必要となる。また新型コロナウイルスの感染拡大により大学の行動制限レベルが引き上げられた場合には、Zoom での対面授業を予定しているため、それに必要な機材と環境（カメラやマイクの利用できるパソコンと安定した通信環境）が必要である。大学の支援制度などを活用し、事前に準備していただきたい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve listening and speaking skills through the use of e-Learning and roll playing.

LANs100GA

スペイン語コミュニケーション I

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

El objetivo de este curso es que los alumnos se familiaricen con el español hablado. Llevaremos a la práctica, mediante conversaciones sencillas, los conocimientos gramaticales que ya hayan adquirido y los que vayan adquiriendo. Cuidaremos la correcta pronunciación y entonación.

【到達目標】

Que al final de este curso los alumnos sean capaces de entender y desarrollar en español conversaciones sencillas de la vida cotidiana, ese es nuestro objetivo principal.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto fijado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Alfabeto. Ortografía y pronunciación.
2	Comunicación	Expresiones útiles en clase. Comunicación : Saludos y presentaciones.
3	Comunicación	Nombres propios. Números (I). Cultura : Nombres y apellidos.
4	Comunicación	Género y número de los sustantivos. Práctica. Expresiones con el artículo determinado. Práctica de los pronombres personales de sujeto.
5	Comunicación	Verbo SER, presente de indicativo. Usos y práctica. Oraciones interrogativas y negativas.
6	Comunicación	Números (II). Profesiones. Nacionalidades. Práctica. Cultura : Personajes históricos.
7	Comunicación	Expresiones con el artículo indeterminado. Práctica de los adjetivos posesivos y calificativos.
8	Comunicación	Verbo TENER, presente de indicativo. Usos y práctica. Interrogativos (I). Números (III).
9	Comunicación	Miembros de la familia. Comunicación : descripción de personas. Cultura: Gestos. Repaso.
10	Comunicación	Verbo ESTAR, presente de indicativo. Usos y práctica. Usos de HAY. Práctica de los adjetivos y pronombres demostrativos.
11	Comunicación	Comunicación : localización de personas y objetos. Adverbios de lugar. Números (IV)
12	Comunicación	Números ordinales. Cultura : Ciudades patrimonio de la Humanidad.

13	Comunicación	Presente de indicativo, verbos regulares e irregulares. Usos y práctica. Interrogativos (II). Comunicación : actividades cotidianas. Días de la semana Examen.
----	--------------	--

14	Comunicación	
----	--------------	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes. Editorial Asahi

イメージ・スペイン語

朝日出版社

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to become familiar with spoken Spanish. We will put into practice, through simple conversations, the grammatical knowledge that they have already acquired and the knowledge they acquire. We will take care of the correct pronunciation and intonation. At the end of this course students are able to understand and develop simple conversations of everyday life in Spanish.

LANs200GA

スペイン語コミュニケーションⅡ

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Nuestro objetivo es elevar la capacidad de comprensión y expresión, fundamentalmente oral, de los alumnos.

La ampliación y enriquecimiento de su vocabulario será uno de nuestros principales objetivos.

【到達目標】

Nos proponemos que, semana tras semana de clase, los alumnos vayan adquiriendo una mayor destreza en comprender y expresarse oralmente en muy diversas situaciones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto fijado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Comunicación : las vacaciones de primavera.
2	Comunicación	Expresiones con IR A + infinitivo. Hablar de planes e intenciones.
3	Comunicación	Práctica de los verbos con cambio vocálico y las preposiciones. Expresión de la hora.
4	Comunicación	Meses y estaciones del año. Medios de transporte Hablar de acciones futuras. Cultura : Museos.
5	Comunicación	Práctica de los verbos reflexivos. La casa. Partes de ella.
6	Comunicación	Expresiones del clima. Cultura : Hábitos y costumbres.
7	Comunicación	Práctica de los pronombres de objeto directo. Expresiones con SABER, CONOCER y PODER.
8	Comunicación	Práctica de QUERER + infinitivo y PODER + infinitivo. Comidas y bebidas. Recetas de cocina.
9	Comunicación	Comunicación: pedir en un restaurante. Repaso. Cultura : Las comidas.
10	Comunicación	Práctica de las preposiciones y los pronombres de objeto indirecto. Expresiones del comparativo y superlativo.
11	Comunicación	Ropa, accesorios, etc. Práctica de los colores. Comunicación: de compras en una tienda.

12	Comunicación	Práctica del verbo GUSTAR y otros que se usan de la misma manera. Expresión de la comparación del adverbio. Actividades del tiempo libre. Deportes. Comunicación: hablar de gustos y aficiones. Cultura: Fiestas populares. Repaso general. Examen final
13	Comunicación	
14	Comunicación	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes. Editorial Asahi

イメージ・スペイン語

朝日出版社

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

【Outline and objectives】

Our objective is to increase the capacity of comprehension and expression, fundamentally oral, of the students.

Enlargement and enrichment of your vocabulary will be one of our main objectives.

We propose that, week after week of class, students acquire a greater ability to understand and express themselves orally in very different situations.

LANs200GA

スペイン語コミュニケーションⅢ

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Nuestro objetivo es, como en los cursos anteriores, elevar la capacidad de comprensión oral de los alumnos y su destreza en expresarse oralmente.

【到達目標】

Tienen que conseguir aumentar considerablemente su vocabulario y su capacidad de comunicación para su próxima ida a España.

Antes de ese momento, nos proponemos que lleguen a un nivel que les permita aprovechar al máximo su estancia y sus clases en España.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para lograr el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto indicado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Expresiones con el verbo DOLER.
2	Comunicación	Expresiones con SER, ESTAR + adjetivo. Oraciones exclamativas. Expresiones con TENER QUE y HAY QUE + infinitivo. Práctica de los pronombres y adjetivos indefinidos.
3	Comunicación	Partes del cuerpo. Comunicación : estado físico y sentimientos. Cultura : Hábitos Deportivos.
4	Comunicación	Práctica del pretérito indefinido de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Uso de los marcadores de tiempo.
5	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Comunicación : hablar de acciones pasadas.
6	Comunicación	Repaso. Cultura : Lenguas del mundo hispano (el idioma quechua).
7	Comunicación	Práctica del pretérito imperfecto de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Práctica del pronombre relativo QUE.
8	Comunicación	Diferencias entre el indefinido y el imperfecto. Práctica. Repaso general.
9	Comunicación	Usos del infinitivo, gerundio y participio. Práctica.
10	Comunicación	Uso del presente continuo. Práctica.
11	Comunicación	Pretérito perfecto de indicativo. Usos y práctica.
12	Comunicación	Pretérito pluscuamperfecto de indicativo. Usos y práctica.

13	Comunicación	Práctica del imperativo.
14	Comunicación	Examen final.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes. Editorial Asahi

イメージ・スペイン語

朝日出版社

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

【Outline and objectives】

Our objective is to increase the capacity of comprehension and expression, fundamentally oral, of the students.

Enlargement and enrichment of your vocabulary will be one of our main objectives.

We propose that, week after week of class, students acquire a greater ability to understand and express themselves orally in very different situations.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado hasta el momento.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Mejorar su capacidad comunicativa en el idioma español.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La primavera. Inicio del curso académico y del año laboral. "Ohanami".
3	Aplicación	En la consulta del médico. Síntomas, dolencias, etc.
4	Aplicación	Biografía de personajes históricos.
5	Aplicación	El campo y la ciudad. Cambio de vida de un medio a otro.(Pret. imperfecto) Debate
6	Aplicación	Cocina. Recetas. Platos diversos.
7	Aplicación	De compras. Precios, colores, tallas, etc.
8	Aplicación	Días de muy buena suerte y de muy mala suerte. Debate.
9	Aplicación	La emigración. La vida en el nuevo país.La vuelta a las raíces. Debate
10	Aplicación	Música e idioma de los pueblos originarios de Sudamérica
11	Aplicación	Proyección de una película
12	Aplicación	Cómo cambia la vida de las personas. O no cambia. La lotería.
13	Aplicación	Entrevista a un hispanohablante
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.

The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.

We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Este curso está dirigido par aquellos estudiantes que han adquirido suficientemente los conocimientos básicos del idioma español. Aplicando sus conocimientos previos y nuevos serán capaces de redactar textos narrativos cortos.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Al finalizar el curso los estudiantes serán capaces de redactar un texto narrativo corto.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y "que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"

13 Aplicación
"Una magnífica cosecha"

Hablar de la comida favorita.
Escribir una receta

14 Examen final Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CUENTAME S cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

Concretamente ninguno

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired the basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts.

Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Este curso está dirigido par aquellos estudiantes que han adquirido suficientemente los conocimientos básicos del idioma español. Aplicando sus conocimientos previos y nuevos serán capaces de redactar textos narrativos cortos.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Al finalizar el curso los estudiantes serán capaces de redactar un texto narrativo corto.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired the basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible： comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Mejorar su capacidad comunicativa a través del idioma español.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La migración. Latinos en Japón
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura. Debate.
4	Aplicación	Cuentos tradicionales de terror del mundo hispano
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas, refranes, etc.
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
9	Aplicación	Fiestas populares de Japón (obon) y del mundo hispano
10	Aplicación	La coca no es cocaína.
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La Navidad El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

秋学期もオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更となり、「オンラインによる平常点（小テストや課題含む）と学期末のオンラインによる課題や試験による総合評価」とする。Con base en este método de evaluación de calificaciones, se aprobarán aquellos que hayan alcanzado el 60% o más del objetivo de logro de esta clase.

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.

The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.

We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANk100GA

朝鮮語コミュニケーション I**富所 明秀**

配当年次／単位：1年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語3」「朝鮮語6」「朝鮮語コミュニケーションI」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。課ごとに準備された作文（日本語から朝鮮語へ）を課題としてやってきてもらい、次回の授業でその解説を行なう、これを毎回繰り返すことで、能動的な言語運用能力の涵養を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第1課	語基の復習、「やりもらい」
3	第2課	「～している」の2つの形、禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第3課	文中の疑問形、方向をあらわす動詞
6	第4課	シオツ不規則用言、動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第5課	用言の名詞形、いくつかの助詞
9	第6課	推量表現、大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第7課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
12	第8課	用言の「である」形、間接話法1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テストとまとめ	テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANK200GA

朝鮮語コミュニケーションⅡ

梁 禮先

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「話す」「聞く」力の一層のレベルアップを計り、重なる「話す」「聞く」訓練を通して、自信を持って自然な朝鮮語の会話を身に付けていくことを目指します。今まで習った朝鮮語の力を、会話で様々な応用できるように、そのスキルを一層磨いていきます。

【到達目標】

SAに行った時のために、ある程度の生活会話が可能になることがこの授業の到達目標です。自分で考えてあらゆる場面で自然な表現ができるように、会話の力を磨いていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

会話中心に授業を進めていきます。会話体の言葉に慣れていくように、話す訓練などを通して身に付けていけるようにします。また、一年間習った朝鮮語の語彙・文法などを使って、自分で文章を考えて言葉にする訓練も繰り返していく予定です。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と簡単に復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	お久しぶりです	課題と会話とあいさつ文についての説明。
第3回	病気のとき	課題と会話と病気に関する単語などの説明。
第4回	私の家族	課題と会話とその説明について。
第5回	歌で習う朝鮮語	課題と韓国の歌から朝鮮語を習う。
第6回	天気について	課題と会話と四季などについての説明。
第7回	今日は何をしますか？	課題と会話と会話の言い回しの説明。
第8回	今日は何をしますか？	課題と会話とバンマルについて。
第9回	遊園地に行きましょう	課題と会話とその説明について。
第10回	学校で	課題と会話とその説明について。
第11回	郵便局で	課題と会話とその説明について。
第12回	ホテルで	課題と会話とその説明について。
第13回	美容院で	課題と会話の練習とその説明について。
第14回	期末評価	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題について準備すること。また、事前に出すレポートもやってくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梁 禮先「朝鮮語コミュニケーションⅡ」とプリント（テキスト・プリントともに自家製教室用教材）

【参考書】

朝鮮語辞書、韓国に関連のある歴史・文化などの書籍

【成績評価の方法と基準】

朝鮮語で積極的に発言をすること。

発表・課題・小テスト・平常点の総合点(30%)、期末テスト(70%)この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

もっと会話に力を入れること。
発音をもっと練習したいなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to improve your level of "speaking" and "listening" and to acquire the skills needed to have a natural Korean conversation with confidence through repetition of "speaking" and "listening" training. To be able to apply Korean language skills, which you learned until today, to conversations in various ways, we will continue to hone our skills.

LANk200GA

朝鮮語コミュニケーションⅢ

富所 明秀

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

2年次秋学期のSAに備えます。

【到達目標】

SAに通用する語学力の習得、具体的には韓外国語大「韓国語文化教育センター」の「3級」に編入できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語7」「朝鮮語8」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。課ごとに準備された作文（日本語から朝鮮語へ）を課題としてやってきてもらい、次の授業でその解説を行なう、これを毎回繰り返すことで、能動的な言語運用能力の涵養を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします。
2	第9課	ハンダ体、間接話法2
3	第10課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第11課	理由をあらわす表現、各種の濃音化
6	第12課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第13課	使役形、2ケタの固有数字
9	第14課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第15課	漢字の読み方、南北のことばの違い
12	第16課	話者の体験をあらわす語尾、年月日と週の言い方
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テストとまとめ	テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙力を高めるよう自主的に努力してください。

BT20階の国際文化学部資料室には、検定試験の問題集や、韓国で出版されている各大学の語学テキストなどを多数取り揃えていますので、活用してみましよう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

初歩の内容で不十分な箇所があったら、1年次の内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）に立ち返ってください。

さらに進んだ学習には、たとえば白峰子『韓国語文法辞典』（三修社）、韓国国立国語院『韓国語学習者のためのやさしい韓韓辞典』（アルク）などが参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません。日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましよう。

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できるように目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現と新造語を学んで自ら表現できることを目指します。授業はできるだけ朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通じた話す力を定着していきます。

授業は、朝鮮語で進めていきます。

また、授業進行方法は、対面と非対面のハイブリッド型で進めていきますので、Zoom と学習支援システムを利用します。

課題等に対するフィードバック方法も、学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第4回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国語の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国のテレビを見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネットなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して(50%) 期末レポート(50%) この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

DVD などの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションをやったり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	日韓伝統について	意見交換をする
第12回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第13回	話題のテーマについて	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して（50%）、期末レポート（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけでなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

LANK300GA

【2021 年度休講】 朝鮮語アプリケーション

神谷 丹路

配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「S A 韓国」から帰国した学生をはじめ、朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮語・韓国語の児童文学を読み進めることで、朝鮮語の世界の広がりを経験する。日本語への翻訳する力の伸長を目指し、また内容について朝鮮語でディスカッションしたり、関連事項について調べて朝鮮語で発表したりする。これまで学習してきた「話す力」「書く力」などの定着を図り、自らの力で、朝鮮語・韓国語の世界を渡り歩いていける力を身につける。

【到達目標】

韓国の児童文学を読むことで、朝鮮語の易しい長文を読み進める力を身につける。内容を読み解いたり、未知の事項を説明したりする力を養成し、日本語への翻訳についても実践学習する。同時に、内容に関する関連事項を調べ、より深い理解へとつながるような探求心を養成する。内容について、クラスの仲間と朝鮮語で意見交換などできる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

身の回りの題材で簡単な日常会話のウォーミングアップをしたのち、テキストに沿ってリーディング、翻訳実践練習などを行う。文章や内容について、疑問点、関連事項などについて話し合い、その場で解決できない場合は、それぞれ調べ、次の回に朝鮮語で報告し、互いの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	テキストリーディング①	受講生の発表と質疑応答。
3	テキストリーディング②	受講生の発表と質疑応答。
4	テキストリーディング③	受講生の発表と質疑応答。
5	テキストリーディング④	受講生の発表と質疑応答。
6	テキストリーディング⑤	受講生の発表と質疑応答。
7	テキストリーディング⑥	受講生の発表と質疑応答。
8	テキストリーディング⑦	受講生の発表と質疑応答。
9	テキストリーディング⑧	受講生の発表と質疑応答。
10	テキストリーディング⑨	受講生の発表と質疑応答。
11	テキストリーディング⑩	受講生の発表と質疑応答。
12	テキストリーディング⑪	受講生の発表と質疑応答。
13	テキストリーディング⑫	受講生の発表と質疑応答。
14	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、課題を読み日本語に翻訳する予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画度 80 %、プレゼンテーション 20 %この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with Korean intermediate level. It also enhances the development of students' skill in reading, writing, listening and talking.

HUI200GA

情報コミュニケーション I

甲 洋介

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験をデザインする「面白さ」と「奥深さ」を、実践的に学ぶ科目
わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザーを調べ、道具をもっと使いやすくデザインする

講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいか？ その手掛かりは、ユーザーの特性と、ユーザーに起こっている出来事の的確な理解にある。使いやすさの観点から道具を改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。
まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」の2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマでは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようにする

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の技法を学び、実践できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。
※新型コロナウイルス感染状況によってはワークショップの進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。実習やグループワークの実践的な効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすいとする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・「ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）」

【参考書】

・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition, (Taylor & Francis) 2006.

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える [アップデート版]」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA 編、ワークスコーポレーション）2014.

他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合いなど 50%

・課題レポート、プロトタイプなど制作物 50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義とグループ実習を効果的に組み合わせ、より深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【情報コミュニケーション共通のテーマ】

本学部には、情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ、SAにおけるプロジェクト等、文化情報学を実践するさまざまな機会が用意されている。

情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。

「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」と合わせて履修する事で学習効果が得られる。

【情報機器・視覚聴覚設備の活用】

情報実習室で開講する場合は、PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視覚聴覚設備を使用する。

【Outline and objectives】

This class provides you with a unique "Design Workshop" which allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User-centred Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

COT200GA

情報コミュニケーションⅡ

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
 備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に付ける

【情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法的訓練を行う。

【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に付ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる予定である。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。春学期の少なくとも前半はオンライン併用の開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。

8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
 2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
 3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
 4. (必要に応じて) Web 外部公開申請書提出、個人研究テーマの検討
 5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
 6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
 7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
 8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302
 水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。

最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
 SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並行履修すること。

【Outline and objectives】

In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.
 The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.

DES200GA

情報コミュニケーションⅢ

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報コミュニケーションⅢ」は、情報デザインに関する入門的、実験的な実習授業です。ロゴタイプやシンボルマーク、ピクトグラムやイラストレーションなどのデザインやアートに関わる基本的なトレーニングを行います。作品制作と並行して行う毎回のレクチャーを通じて、デザイン概念と視覚言語に関する理解を深めます。

対面授業では、多くのアーティストやデザイナーに使用されているクリエイティブ系ソフト Adobe Illustrator、Adobe Photoshop の基本的な使い方を学びます。（授業を遠隔で実施する場合については、手描きもしくは Powerpoint で代用します。）

【到達目標】

作品制作を通じて、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作活動全般にも通じるクリエイティブな造形表現に必要な知識や感覚、技術を養います。絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルでの写真加工やデザイン制作が初めての人も難しく考えずに、積極的に手や体を動かすことで作ることの楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

この授業では視覚言語の基本となる

1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィについて）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）

の3つのテーマで、課題制作を進めます。課題に取り組む際には課題の意義や進め方について講義します。また課題制作のためのポイントとなる点や描くための材料や道具、ソフトの使い方について説明をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会（フィードバック）を行います。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・ Zoom（ミーティング）
- ・ Google Classroom、Google Form（課題提出と課題に関するすべてのフィードバック）
- ・ Miro（コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	ロゴタイプとシンボル 1/3	課題の説明、講義 タイポグラフィについて
3	ロゴタイプとシンボル 2/3	課題制作 1 文字による表現
4	ロゴタイプとシンボル 3/3	課題制作 2 図形による表現
5	ピクトグラム 1/3	課題の説明、講義 インフォグラフィックスについて
6	ピクトグラム 2/3	課題制作 1 色彩について
7	ピクトグラム 3/3	課題制作 2 複雑な図形
8	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 次回の課題説明
9	イラストレーションとデザイン	課題制作 1 デザインのアイデア

10	イラストレーションとデザイン	課題制作 2 デザインに必要な要素
11	イラストレーションとデザイン	課題制作 3 レイアウトと構図
12	イラストレーションとデザイン	課題制作 4 作品の仕上げ 1
13	イラストレーションとデザイン	課題制作 5 作品の仕上げ 2
14	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクトなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。

また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジタルカメラ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

永井 弘人「デザイナーになる！ 伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室〔特別講義〕確かな力を身につけられる ～学び、考え、作る授業～」SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ソフトの操作や専門用語について、わかりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォンの他、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。みなさんの受講環境が一定でないため、講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、10-15分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

対面授業とオンライン授業では学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。ただし、大学と自宅での受講環境の違いを考慮し、使用するソフトなどが変わることになります。

課題

受講後、Google Form でデザインの実習課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

発行日：2021/4/1

【Outline and objectives】

This course is introductory and experimental on design and art. Learn basic usages of creative software, such as Adobe Illustrator, Adobe Photoshop which are used by many artists and designers.

Moreover, students experience design creation such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustration.

Students also deepen their understanding of visual language through lectures concurrently with creating artworks.

FRI300GA

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないと言っても過言ではないだろう。ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。Javascript や CSS の技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす(完成例としては <http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html> を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。

【到達目標】

ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどのようなものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ

13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切(最後の授業の1週間後)までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 40% 最終課題(迷路の課題) 50%
課題は授業内で適宜指示する。

最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】

プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire skills and knowledge about web technology such as HTML5, CSS and Javascript.

At first, this class learns about HTML5 and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javascript and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.

COT300GA

【2021 年度休講】情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、Makerムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）を学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Makerムーブメントの背景と現状について理解する。
楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。
Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。
課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。
作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。作りながら考える、考えながら作るをモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要な部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明と導入、Makerムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。
2	Arduino入門	Arduinoとは何か、MakerムーブメントにおけるArduinoの役割を学ぶ。開発環境ArduinoIDEの使い方を学ぶ。音楽に特化したArduino互換機や周辺機器について学ぶ。
3	Arduinoライブラリから音を出す: Mozzi	電子楽器製作の準備としてArduinoから音を出力する方法を学ぶ。音を扱うためのライブラリMozziとその機能を学ぶ。
4	各種センサーの使用法を学ぶ	音の強弱、高低を変化させる方法を学ぶ。センサーの使い方を学ぶ。これらを組み合わせてセンサーからの信号に反応して音に変化する仕組みを学び、実装する。
5	打楽器の製作(1): 音を生成する仕組み	ドラムスなど打楽器音の性質を学び、Arduinoで打楽器音を鳴らす。
6	打楽器の製作(2): 楽器としての特色作り	サンプル音を再生する方法を学び、圧電センサーに反応してドラム音のサンプルを再生する電子ドラムを作成する。
7	日用品を打楽器に	さまざまな日用品にセンサーを装着して演奏可能な電子打楽器を自作する。
8	シークエンサーの製作(1)	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。
9	シークエンサーの製作(2)	自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
10	電子楽器の相互接続: MIDI	MIDIによる電子楽器の相互接続と制御の仕組みを理解する。 【課題製作】課題作品の構想発表
11	表示の高機能化(1)	LCDディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化

12	表示の高機能化(2)	LEDディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の進捗状況と問題解決の共有、記録化
13	多様な出力: さらに多彩なモノづくりにむけて	フィジカル・コンピューティングの概念を理解し、Arduinoによるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
14	まとめ	学習成果のまとめとして制作物の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、Mac、Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使うArduinoは互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

Make関連の書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。Makerムーブメント（モノづくりの世界）を楽しむ学べる2冊と電子楽器の自作についての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著)、Mike Petrich(著)、金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263

【Arduino+音楽】

中西宜人、「Arduinoではじめる手作り電子楽器」、工学社(2015)、ISBN:ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり+デバイスアート】

小林茂(著)、「Prototyping Lab 第2版ー「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。初年度の授業を通して、受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要なPC、Arduinoなど共通の電子部品と配線材は用意します。
課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【Outline and objectives】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by Arduino micro-controllers. Students will become well familiar with the Arduino IDE (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

HUI200GA

こころの科学

甲 洋介

サブタイトル：こころが生み出す「体験のリアリティ」

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 感動の想い出は、なぜかスローモーション

あなたが日々体験している「あなたのこころがはたらいている」という実感を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。

● 「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？

「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、ふだん私たちは、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりにも当然に考えているから。

しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に出会った時、その「存在」に気づかされる。よく観察すると、世の中は「こころ」にとって予想外の現象が実に多く発生している。

● 「こころ」とはいったい何だろう

「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「感情がわく」「気づく」「覚える」「わかる」「語る」「問題を解く」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、上手くはたらかない現象にも光をあてる、ことである。

ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・感情がわく、気づく、わかる、覚える、誤る、問題を解く等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる

・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな視点を与えるのか、その意義を簡潔に述べるができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

「こころ」のはたらきとして、感情がわく、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、に着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。

こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。

各講義の最初に、受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、また後半はできる限り受講生どうしの討議の機会を設け、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。

※新型コロナ感染状況によって授業の進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいていないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	間違える、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学

5	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
6	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
7	考える、問題を解く	「問題」とは何か、問題解決する、推論する
8	感情が生まれる、感情をはたらかせる ～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情があふれる、生まれにくい	感情の果たす役割、感情の障害
10	脳からみた、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能人工物ではたらく、こころ
11	環境に拡がる、こころ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方
12	生態学的知覚論という挑戦	アフォーダンス、生態学的視覚論からの問題提起
13	社会・文化に埋め込まれた、こころ ～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
14	総合討議と、まとめ	「こころ」について再考する ～こころの哲学から、ゲストをお迎えして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシート作成を含め、準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

・日常と非日常からみる こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018
・環境に拡がる心～生態学的哲学の展望（河野哲也著、勁草書房）2005

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議への参画、小レポートを含む平常点 40%

・課題レポートまた期末試験 60%

を総合的に評価し、評定を決める。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コメントシート、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind, by re-examining your real-world experiences in your "mind".

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから」「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

「こころ」は存在しない

人間が思考する能力が始まって以来、「こころ」（魂）について徹底的に考えられきました。それにもかかわらず、「こころ」を十分に理解できたという学説は、自然科学も含めて存在しません。いまだに、「こころ」と「からだ」の関係すら明らかになったとは言えません。

「こころとからだの現象学」では、「こころの哲学」の歴史から様々な哲学者の見解をおさらいし、「こころの哲学」が具体的にどのような問題に取り組んできたかを学びます。そして、20世紀後半から現在に至るまで、認知科学や「こころの科学」と言われる分野と交流をしながら、新しい「こころとからだの哲学」を学んでいきます。

2021年度は、新進気鋭の若手哲学者マルクス・ガブリエルの「『私』は脳ではない——21世紀のための精神の哲学」（2019）を取り上げ、「こころ」と「脳」との関係を考えていきます。

【到達目標】

- ・「こころの哲学」の歴史を学ぶことにより、「こころとからだ」の関係について、哲学的に説明できるようになる。
- ・哲学的な立場としての「現象学」の基礎を学ぶことができる。
- ・「こころとからだの現象学」を通じて、科学的にアプローチする「こころの科学」との関係性を明らかにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「こころとからだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、**現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場**だからです。

【授業の方法】

授業は、基本的には、ガブリエルの本に即して授業をしていく予定です。事前に必要な箇所を読んで、授業の準備をしてくださると理解が進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	こころとからだについての基本的な考え方
2	序論 (1)	ガブリエルにとって、「精神」とは何か？ ——意識の哲学と神経哲学
3	序論 (2)	精神の自由を守るために ——脳中心主義批判

4	第1章 (1)	「精神哲学」では何をテーマにするのか？ —— Philosophy of Mind（こころの哲学）は本当に「こころ」を扱うか？
5	第1章 (2)	精神哲学と社会との関係 ——社会的存在としての人間
6	第2章 (1)	意識とは何か？ ——意識はどこから来るのか？ 意識は科学で解明できるか？ —— 神さまの視点
7	第2章 (2)	自己意識とは何か？ ——「私」は誰？
8	第3章 (1)	脳は「私」と呼べるか？ ——コンピュータと脳
9	第3章 (2)	「私」とは誰？ ——「私」は物質である
10	第4章 (1)	「私」の知らない「私」 ——無意識は「私」なのか？
11	第4章 (2)	「自由」の主体とは何か？ ——「私」は自由か？
12	第5章 (1)	精神の自由を確保するために ——人間に尊厳はあるか？
13	第5章 (2)	ガブリエルの「精神の自由」は養護可能か？
14	総合討議と、まとめ ——授業内レポート	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストとして提示しているガブリエル「『私』は脳ではない」を事前に読んで、簡単なレジュメを書いて、提出できるように準備しておいてください。レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
- ・レジュメには、疑問・質問などを、三つ以上書くようにしてください。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マルクス・ガブリエル「『私』は脳ではない——21世紀のための精神の哲学」、講談社選書メチエ 710、2019年（必須）2100円＋税

【参考書】

- ① Markus Gabriel, ICH IST NICHT GWHIRN: Philosophie des Geistes für das 21. Jahrhundert, ullstein, 2015. (ドイツ語)
- ② Markus Gabriel, I AM NOR A BRAIN: Philosophy of Mind for the Twenty-First Century, 2017. (英語)
- ③ Markus Gabriel, Pourquoi je ne suis pas mon cerveau, Traduit de l'allemand par Georges Sturm avec la collaboration de Sibylle M. Sturm, JClattès, 2017. (仏語)

※これらは、テキストの原書（ドイツ語）、英訳、仏訳です。これらについては、授業内で随時コピーして配布する予定です。

これ以外にも、ガブリエルの本として

- ④マルクス・ガブリエル「なぜ世界は存在しないのか」講談社選書メチエ 666、2018年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (40%)：討議への参加、レジュメを含む)
- ・課題レポート (60%)。

以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

- ・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。
- ・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているため、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしています。「文化情報の哲学」は、東洋思想の観点から「こころ」と「からだ」の探究をします。

【Outline and objectives】

In this class, through the history of "phenomenological philosophy", we will confirm how "the relationship between mind and body" has been discussed and examine what kind of problems the phenomenological philosophy has tackled concretely. And from the latter half of the 20th century to the present, we will learn a new "phenomenology of mind and body" evolving under the influence of cognitive science and "mental science".

FRI300GA

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはウェブ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるのである。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、古い数当てゲームなどの初歩的なものからはじめ、最終的にはマインスイーパーやテトリスなどの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に付けることを目指す。

2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ ページの順でクリックすると一覧を見ることが出来る）。<http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188>

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業ではコンピュータプログラミングの入門用語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「古い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Javascript の基礎について学ぶ
2	古い	変数、乱数、条件分岐について学び、占いのゲームを作成する
3	数当てゲームその 1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその 2	数当てゲームを完成させる

5	マインスイーパーその 1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその 2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその 3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその 4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその 5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその 1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその 2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその 3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその 4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその 5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布する資料の予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回 Word の資料を学習支援システムで配布する

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.

The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

HUI200GA

道具のデザイン学

甲 洋介

サブタイトル：うまくデザインすると、暮らしがもっと楽しくなる
配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

旧：ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 道具をうまくデザインすると、暮らしはもっと心地よいものになる

日常生活を観察すると、私たちはさまざまな道具に囲まれている。人間は道具を次々に作り出すことによって身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。しかし現実には甘くない。高齢者や初心者をはじめ、使い方がよく分からないので新しい道具を諦めてしまう例も多いのである。暮らしの道具を使いやすくすることは、その人の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結する。道具のデザインは重要である。

● では、どうデザインするか？

それには基本がある。本講義では、道具を利用者にとって使いやすく、魅力的なものにするための方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会にとって重要な、人と人工物の共生の問題を考えることにも繋がっていく。

● ある時代をリードする道具をどのようにデザインするのか。このことが文化を築く視点から見た時、きわめて重要な問題であることに受講生は気づくだろう。このような発展的な課題について考える基礎も身につくはずである。

【到達目標】

デザイン手法の基礎知識を身につけ、魅力ある企画書を作ってみよう！

・使いやすい道具をデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方、デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようにする。

・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス（experience=体験）の観点からデザインし、企画書を提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」*User Experience Design* を、基本から実践までを体系的に学ぶ。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回の振り返りと解説をし、理解の深化を促す。発表会では受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアが得られるように工夫する。

● 前半は、道具のデザインの基本的な考え方を学ぶ

暮らしの中の道具をもっと使いやすいものにするには、まず人間の興味深い特性を知ろう。たとえば、人間は覚えたことをすぐに忘れる。思い込みによって深刻な誤りを起こすこともある。人間のそういった諸特性を考慮してデザインすると、道具に囲まれた日常の暮らしがもっと楽しいものになる。

● 「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する

後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。受講生それぞれが、日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスをテーマに、デザイン実習に取り組む。

※新型コロナウイルス感染状況により進め方を修正する場合は、学習支援システム等で周知する。その際も実践的な学習効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程・道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えられない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「人間中心のデザイン手法」 <i>User-Centered Design (UCD)</i> ①	ユーザの特性を理解し、体験（ <i>experience</i> ）をデザインする、という考え方
8	「人間中心のデザイン手法」②	<i>UCD</i> の基本原則を学ぶ
9	「人間中心のデザイン手法」③	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①	魅力ある商品の企画書を作る
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験（ <i>experience</i> ）をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学習した方法論に沿ってデザイン実習を行い、その成果を企画提案レポートとして仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）2015

・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013

他については適宜指示する。

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガール著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社）2014

・NPO 人間中心設計推進機構：<http://www.hcdnet.org/>

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、授業・討議における積極的な貢献度合い 50%

・発表とレポート 50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

実務経験のある教員による授業：

情報関連企業のデザイン部門・技術顧問として実践してきた教員がデザイン学を手ほどきする。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。

・「情報コミュニケーションⅠ」がユーザーエクスペリエンス・デザインの実践ワークショップになっている。これと併行履修すると、基本知識と実習を、効果的に学習できる。

・本科目のテーマは、「文化情報空間論」において発展されていく。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basic principles of the "User-Centered Design" and how to conduct concrete design steps using the "User-Centered Design" methodology.

COT200GA

情報セキュリティとプライバシー

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウイルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。ネットワーク上のウイルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウイルスソフト等に代表される情報システムの手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】

- ・PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
- ・より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
- ・セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形態として完全に対面授業になるかどうか不明であるため、授業計画や授業実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。初回授業に必ず出席し、各クラスでの授業の進め方を確認すること。講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる予定である。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分の PC を守る	アンチウイルスソフト、ファイアウォール、アップデート。
3	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウイルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
6	アクセス制限と効果	ファイアウォールとは。データアクセスの制限の必要性和その手法。
7	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実践。
9	電子署名と認証	電子署名とは。SSH によるネットショッピング。
10	コンテンツ配信と著作権	著作者の利益保護。
11	組織としてのセキュリティ ティ対策 (1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ ティ対策 (2)	CSIRT の必要性和その適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に必要としない。

【参考書】

特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) と課題 (またはレポート) (30%)、期末テストの成績 (50%) を併用した評価を行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。

基本的には Windows でも macOS でも構わないが、CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。

オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する場合がある。

詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。

授業は「情報リテラシー I」、「情報リテラシー II」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.

BIO200GA

文化と生物

島野 智之、岡西 政典、川上 裕司、松崎 素道、黒沼 真由美

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。

内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-IV)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はわかりやすく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示しています。11回までは、講義が中心ですが、特に、5-8回は、討議など多岐にわたるアクティブラーニングの手法ももちます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。

メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②食同源は健康的な食生活の基本、③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物と生態系 (1) 生物と生態系 担当教員：松崎	生態系とは、共生による生物進化、地球環境の改変、ヒトと生態系
8	(II) 生物と生態系 (2) 生態系における寄生と共生 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置、生態系改変、宿主操作、食文化との関わり

9	(III) 動物とは？ (1) 生き物のなかでの動物の位置 担当教員：岡西	生き物の体系と、私達人間が含まれる「動物」とは何か？を考える。①生き物とは何か、②動物とは、③生態系の中の動物の食物連鎖における位置、④新たな動物学の研究。
10	(III) 動物とは？ (2) 新種の発見 担当教員：岡西	①生き物に名前をつけるということ、②生き物を名前をつけて認識する、③分類学とは何か。
11	(III) 動物とは？ (3) 新種に名前をつけるということ 担当教員：岡西	①名前とはなにか、②学名とは何か、③新種はいつみつかるか、④どの様にして新種に名前をつけるか
12	(III) 動物とは？ (4) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：岡西	①船で海で未知な生物を捕獲する、②深海で未知な生物を捕獲する、
13	(IV) 生物の進化を推定する (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：島野	生物の塩基配列情報から、実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）DNA情報をテキスト配列として、操作して、様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げられている。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート（60%）だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）(40%)も加え、総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline and objectives】

The contents are how human beings use biological information through hygiene, art, biology and agriculture in culture.

BIO200GA

文化と環境情報

島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久

サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】

人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。講義が中心ですが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法ももちます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。メールの添付などの方法もちいて課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 持続可能な社会づくりと食文化 (1) 2020 SDGs 担当教員：中西	講義内容のあらすじ 「2030 SDGs（ニイゼロサンゼロ エス ディーゼズ）」を通じて、17の大きな目標を我々の世界が達成していく、現在から2030年までの道のりを体験し、SDGsの本質を体感する。 ① 2030SDGs カードゲーム、② 17の目標、③ 196のターゲット、④ 232のインジケーター、⑤ SDGsの本質
2	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (2) ワークショップ 担当教員：中西	なぜ、私たちの世界にとってSDGsが必要であるのか、SDGsがあることでどのような可能性が広がるのかについて、ダイアログを活用したワークショップを通して理解を深める ① 2030SDGs、② SDGsの必要性、③ SDGsの可能性、④見える化、⑤ SDGsの本質
3	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (3) SDGs de 地方創生 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近なプロジェクトに引き寄せながら“自分事として体感”する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ①「SDGs de 地方創生」、②まちづくり、③地方創生、④人口減少

4 (I) 持続可能な社会づくりと食文化
(4) 連鎖関係や地球の限界、その他
担当教員：中西

5 (I) 持続可能な社会づくりと食文化
(5) SDGsを題材にしたイノベーション
担当教員：中西

6 (I) 持続可能な社会づくりと食文化
(6) SDGsと食の視点
担当教員：中西

7 (II) 感染症と日本社会
(1) エイズと社会
担当教員：塚田

8 (II) 感染症と日本社会
(2) 新興感染症
担当教員：忽那

9 (III) 食環境と文化
(1) 食生活の変遷
担当教員：中西

10 (III) 食環境と文化
(2) 味わう・塩梅
担当教員：中西

11 (IV) 地球環境の変化とヒト
(1) 進化の駆動
担当教員：島野

12 (V) 自然環境と文化
(1) 保全・再生
担当教員：佐々木

13 (V) 自然環境と文化
(2) wise use (ワイズユース)
担当教員：佐々木

14 (V) 自然環境と文化
(3) CEPA
担当教員：佐々木

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらったレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらった様々な文書(ビデオ等の感想、小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。

発行日：2021/4/1

受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【Outline and objectives】

How human society and culture are related to the ecosystem

HUI300GA

【2021 年度休講】文化情報空間論

甲 洋介

サブタイトル：『拡張する人間』『消える人工物』

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 人工物を次々に生み出すことで自らの限界を超える

人間は自然界で非力な存在である。人工物を次々に生み出すことで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その結果、この世界は自然的な世界と言えなくなりつつある。むしろヒトが作り出した人工の世界の中で生きている、と考えるほうが自然だろう。

● 人工物が消える Society 5.0 の後、どこに向かう？

人工物は、文具や玩具のように人間から独立した分かりやすいモノだけではない。身体に装着する義足やコンピュータを埋込んだ衣服、脳波で作動させる道具やクルマなど、ヒトの身体や能力と一体化して機能する人工物もある。暮らしの至るところに埋め込まれた知的人工物に、やがて気がつかなくなると言われる。またスマート住宅のように人間を包み環境として存在する人工物もある。

● 本講義を通じて履修者は、「人間と人工物の一体化と拡張」という一見矛盾する2つの現象と、今後発展する方向性を、まず「人工物の科学」(H.A. サイモン)を理解することから始め、それをベースとして「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。講義の終わりには、高層建築や「都市」もある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。

【到達目標】

・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
・知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムの基礎を理解する。
・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析観点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしのデザインに取り組み。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

[本授業計画を修正する可能性があります、その場合は学習支援システムで周知します]

本講義は、まず「現在」を人間と人工物との共生社会として捉えることから始まる。そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、

- ①人間の身体や能力と一体化して作動する人工物、
- ②人間と独立したモノとして存在する人工物、
- ③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、

の3つの存在形態について検討を加える。
これらの人工物が日常生活に入り込むことによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されるのか、具体的に切り出された生活場面を詳細に検討し、新たな設計を試みる講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし～サイバーパンクSFを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化

10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に、講義を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・システムの科学 第3版 (H. サイモン著、パーソナルメディア) 1999. 可能なら、The Sciences of the Artificial (The MIT Press, English Edition) 2019 が良い。J.E.Laird による序文が追補された。
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】

・Society 5.0 (内閣府・科学技術政策) https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html

・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.

・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.

・「攻殻機動隊」(監督：押井守、ワーナー) 他一連の作品群

他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートまたは試験 (50 %)

・授業・討議における積極的な貢献度合い (発表、レスポンスシートを含む) (50 %)

を総合して評価する。

期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスを確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

こちら、空間デザイン、人工知能、ロボットに興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせ受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline and objectives】

This class addresses the advancement of "Augmented Human", as one of the essential issues of our modern society. It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis of human and artifacts.

COT300GA

【2021 休講】 コンピュータ音楽と音声情報処理

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方やコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようにする。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業日は 4 月 22 日の予定である。

【注意】今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスター内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先進的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】 PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】 DTMF トーン（ブッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】 パッチ（Pd のプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。

6	リズムマシン (1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 足音のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。 【講義と実習】 ルーバー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。 【講義と実習】 ルーバー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】 OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】 Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。 学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。
14	まとめ	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424

松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ピー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『PureData』ではじめるサウンド・プログラミング「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、課題 (30 %)、最終課題の評点 (40 %) で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC (Mac 版、Linux 版もある) にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。Raspberry Pi、Arduino、Kinect、Leap Motion などの実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験の教員がコンピューターを使用したメディア処理について講義する。

【Outline and objectives】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

FRI300GA

コネクション・デザイン

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：ハイパーテキスト論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員45名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：ハイパーテキスト論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及、シェアリング・エコノミーやサブスクリプション方式等の台頭により、人と人の繋がり方、人と物・事との関係が変化しており、さまざまな価値の変容が起きてきています。このような時代に、家庭や仕事場とは別の第三の居場所（サードプレイス）は、どのような場所であるのかを受講者それぞれが考察しながら、これからの「繋がり方」を考えていきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、授業内で提示された事例を「現代の日本人にとってのサードプレイスとは？」という視点から考察していきながら、現代社会における人と人、人と物・事などのこれからの「繋がり方」を再考察できることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者数を45名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に授業支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①授業各回の内容に対するリアクションを受講者が授業後に授業支援システムへ提出。それらのリアクションの中から全体で共有したい内容をリアクション集としてまとめ、次週に全受講者へ配布し共有します。

②課題のレポート提出は、中間レポートと最終レポートの計2回提出。いずれのレポートもレポート集としてまとめて、全受講者へ配布を行い、意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代における人と人の繋がりを考える
第2回	考察1	「サードプレイス」を考える
第3回	考察2	「これからの住まいの在り方」を考える
第4回	考察3	「シェアリングエコノミー」を考える
第5回	考察4	「サブスクリプション社会」を考える
第6回	考察5	「キャッシュレス社会」を考える
第7回	中間レポート提出	中間レポートの提出/後日、全レポートをPDFにまとめて全受講生に配布
第8回	中間レポートについての意見交換	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換を行う
第9回	考察6	「ネットワーク」を考える
第10回	考察7	「ソーシャルネットワーク」を考える
第11回	考察8	「人と人の繋がり方」を考える
第12回	考察9	「ダイアログとモノログ」を考える
第13回	最終レポート提出	最終レポートの提出/後日、全レポートをPDFにまとめて全受講生に配布
第14回	最終レポートについての意見交換	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容へのリアクションは、授業後に授業支援システムで提出。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT出版/2018年）、『新ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK出版/2002年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018年）、『サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013年）、『オープンダイアログとは何か』斎藤環著+訳（医学書院/2015年）等。

【成績評価の方法と基準】

課題（中間・最終レポート）に対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（60%）。

また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※授業の内容に関係のない会話やスマートフォンやPCの操作、他の受講者への迷惑な行為に関しては厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

現在の社会の状況を踏まえた上でテーマを考察できるように、紹介する事例の選択や授業の進め方を工夫していきたい。

【Outline and objectives】

While considering social networking services, sharing economy, new forms of social equipment, etc., we consider the possibility of the current "Third Place" in Japan.

DES200GA

情報の編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報編集論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：定員40名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員45名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：情報編集論の修得者は履修不可

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半では、映画を題材に、そのストーリーや登場人物、プロットの抽出・分析等を各自が行い、物語を構成している「情報の意味」を考察していきます。後半では、普段何気なく見ている広告やコマーシャルを構成している要素（情報）を分析しながら、それぞれの「情報の意味」を考察していきます。これらの考察を通して、「情報の編集」を学んでいきます。

【到達目標】

受講者それぞれが「情報の意味」を再考察し、表現することにおいてより効果的な「情報の編集」を試みるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者の人数制限を40名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①前半の第2回から第7回までは、各自選定をした映画作品を題材に「物語の分析」を行います。

※選定してもらう映画作品は、何度も見直しをする必要があるため、DVD等を購入し手元にある映画作品、またはストーリーミングで繰り返し視聴できる映画作品を選んでください。

※物語の抽出/分析作業は、Excelで作業を行い提出。Excel作業における最低限のセルの扱い（セルの挿入・削除・サイズ変更・着色など）が必要。

②後半の第8回から第14回までは、広告（ポスターや新聞、雑誌等の静止画広告）、コマーシャル（映像作品）、商品パッケージ（販売される商品を入れる箱や袋）を題材にします。

自分が最近気になっている広告やコマーシャル、パッケージを持ち寄って受講者全員で見て考える回と、こちらから提供する資料を見て考える回をセットで進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「情報」とは何か？
第2回	物語の分析1	「物語」のストーリーと登場人物の抽出
第3回	物語の分析2	「物語」のストーリー分析
第4回	物語の分析3	「物語」の登場人物分析
第5回	物語の分析4	「物語」のプロット分析
第6回	物語の分析5	「物語」の見えない情報の分析
第7回	物語の分析6	作品に関わる広告の収集と分析
第8回	広告と情報1	「広告」の中にある情報とは
第9回	広告と情報2	「自分が最近気になる広告」を持ち寄って考える
第10回	広告と情報3	「広告」という情報
第11回	広告と情報4	「自分が最近気になるコマーシャル映像」を持ち寄って考える
第12回	広告と情報5	「コマーシャル映像」という情報
第13回	商品と情報1	「自分が最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考える
第14回	商品と情報2	「商品パッケージ」という情報

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の「物語の分析」は、各自で選定した映画作品の分析を授業外で行い、ステップ事に提出し、進行状況の確認を行います。

後半の「広告と情報/商品と情報」は、各自が普段の生活の中で気になったものを持ち寄り、受講者全員で閲覧の上、意見交換を行います。

各授業内容へのリアクションは、授業後に学習支援システムで提出。

また、全授業終了後に最終レポートの提出を行います。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「情報物語論」金井明人/川村洋次/小方孝著（白桃書房/2018年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001年）、「情報の歴史」松岡正剛監修（NTT出版/1990年）、「Design Rule Index ーデザイン、新・100の法則」ウイリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004年）等。

【成績評価の方法と基準】

課題に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（60%）。また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※授業の内容に関係のない会話やスマートフォンやPCの操作、他の受講者への迷惑な行為に関しては厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

Think about the meaning of information while reading information in advertisements and products, and information in novels and movies.

FR1200GA

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：東洋の心身論からみた「こころ」と「からだ」

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分 (self)」としての「主体性=主観性 (subjectivity)」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私 (自分)」とは何でしょうか。「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか。あるいは、「私」はどのようにして「他者 (the other)」とは異なるのでしょうか。これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちはだかってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を構成していると考えられている「こころ」と「からだ」に焦点を当てて考えてみます。その際に、東洋思想の観点から考察することにします。というのも、私たちが日常生活で感じている「こころ」と「からだ」のあり様が、西洋文化の中で生まれた（西洋）哲学とかなり異なっているからです。

【授業の目的】

そこで、本授業では、湯浅泰雄の『身体論——東洋の心身論と現代』（1990）を取り上げ、東洋思想における心身論が、西洋哲学における「心の哲学」とどのように異なるかを明らかにしていくことを目的とします。その際に、湯浅自身がそうであったように、「比較哲学 (comparative philosophy)」的に考察することが目指されています。

【到達目標】

- (1) アジア地域の様々な文化から生み出された「心身関係」を、現代の視点で考えることができる。
- (2) 21世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (3) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序説①——研究の目的と問題の外観	・日本の思想の中で、「こころ」と「からだ」の関係はどのように論じられてきたか？
3	第1章 近代日本哲学の身体観①	・「人と人との間」における「空間」と「身体」——和辻哲郎の倫理学を通して考察する
4	第1章 近代日本哲学の身体観②	・日本最初の独創的哲学者の西田幾多郎の身体についての考察 ・行為的直観とは何か
5	第1章 近代日本哲学の身体観③	・西田幾多郎の身体観 (1) 「有」から「無」へ (2) 「場所」とは何か？ ・東洋思想研究の態度と方法

6	第2章 修行と身体①	1. 修行とは何か？ ・インド、中国、日本の仏教における戒律と修行について
7	第2章 修行と身体②	2. 芸道論 (1) 歌論における稽古と修行 (2) 世阿弥における「わざ」と「心」
8	第2章 修行と身体③	3. 道元 (1) 禅の実践 (2) 参禅における心身関係 (3) 心身脱落とは何か？
9	第2章 修行と身体④	4. 空海 (1) 密教のインドの性格 (2) 身体と性の問題 (3) マンダラに見られるエロスの昇華 (4) 即身成仏とは何か？
10	第3章 東洋の心身論の現代的意義①	1. 現代の哲学的心身論とその問題点① ・ベルクソンの運動的図式 ・メルロ＝ポンティの身体的図式 ・情動の問題 ・情動の問題知覚と記憶との関係
11	第3章 東洋の心身論の現代的意義②	2. 心身関係の二重構造
12	第3章 東洋の心身論の現代的意義③	3. 心身関係の日常的理解の逆転
13	第4章 東洋の瞑想の領域①	1. 心理療法と修行の比較考察
14	第4章 東洋の瞑想の領域② 結論	2. 形而上学と心身論 3. まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業でテキストを読解するため、受講者は事前にテキストを読んでおく必要がある。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

・授業前に、該当箇所について、3点以上の質問を用意すること。

【テキスト（教科書）】

1. 湯浅泰雄『身体論——東洋の心身論と現代』、講談社学術文庫、1990年
2. YUASA Yasuo, *The Body: Toward an Eastern Mind-Body Theory*, ed. by Thomas P. Kasulis, translated by NAGATOMO Shigenori and Thomas P. Kasulis, State University of New York Press, 1987.

【参考書】

・授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・期末レポート（50%）

・平常点（50%）

※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

※要注意【変更】

リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】

・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】

・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【他の科目との関連】

- (1) 「文化情報学概論」とは「文化情報学」という点で大きく重なり合います。
- (2) 2021年度の「こころとからだの現象学」は、まさに心身関係論を扱っています。
- (3) リベラルアーツ科目「倫理学Ⅱ」では、「ケアの形而上学」について語られています。そこで、心身関係の議論があります。

【Outline and objectives】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In this class, we will examine the "mind" and "body," which are thought to constitute us, from the perspective of Eastern thought, and clarify that the way we perceive the "mind" and "body" in our daily lives is different from the (Western) philosophy nurtured in Western culture. Purpose of the class

The purpose of this class is to clarify how the theory of mind and body in Eastern thought differs from the "philosophy of mind" in Western philosophy by taking up Yasuo Yuasa's "The Body: Toward an Eastern Mind-Body Theory". In doing so, we aim to examine it from a "comparative philosophy" perspective, as Yuasa himself did.

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。旧：情報デザインの修得者は履修不可

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティスあるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野について学びます。

社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. コミュニティ
3. ポリティカル・イシュー

自分たちを取り巻く様々な社会的な課題を捉え直し、調査を基に自分なりに課題を設定して作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。

1. ワークショップの冒頭に課題と関連した社会的課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。
2. 次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。
3. 最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・ Zoom（ミーティング）
- ・ Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
- ・ Miro（コラボレーション）
- ・ Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
9/28	ワークショップ 1 環境と社会-1	講義とディスカッション 地球温暖化、原発問題、海洋汚染など
10/5	ワークショップ 1 環境と社会-2	調査とプレゼンテーション パワーポイントによる作品のプレゼンテーション
10/12	ワークショップ 1 環境と社会-3	作品制作 1 レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション
10/19	ワークショップ 1 環境と社会-4	作品制作 2 レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション
10/26	ワークショップ 2 コミュニティ-1	講義とディスカッション コミュニティの崩壊、移民、難民問題など
11/2	ワークショップ 2 コミュニティ-2	調査とプレゼンテーション ポスターによるプレゼンテーション
11/9	ワークショップ 2 コミュニティ-3	作品制作 1 映像による作品制作とディスカッション

11/16	ワークショップ 2 コミュニティ-4	作品制作 2 映像による作品制作とディスカッション
11/30	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-1	講義とディスカッション ジェンダー、貧困問題、表現の自由など
12/7	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-2	調査とプレゼンテーション 企画書によるプレゼンテーション
12/14	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-3	作品制作 1 パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション
12/21	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-4	作品制作 2 パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション
1/18	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、ニュースや新聞で話題となる時事問題、地域社会の問題、個人と社会の問題など、様々な社会問題について関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline and objectives】

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

ART300GA

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点20%、レポート80%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline and objectives】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age.

HUI200GA

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ面白い

おそらくあなたが体験という言葉から連想するのは、可笑しな体験、驚いたこと、つらかったこと、忘れられない事など、ほとんどが非日常的な体験であろう。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の体験の豊かさにこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のださまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようにする。

● 【体験】から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようになる。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するのか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(experience) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」はかつてない速度で変化が進み、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、「あたかも体験したかのように」受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
- 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
- 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するのか。そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。これらを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験すること
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

※新型コロナウイルス感染状況によってワークショップの内容を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。制作など実践の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をともしながら体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ1	からだが『空間を体験する』
第9回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験 experience から、空間をデザインする
第10回	空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ2	カフェ、オフィス、学校、[場所]のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックストリアリティ MR、代替現実 SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験-revisit-	生きた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50%)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50%)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスを確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけでなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、間の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組み合わせで受講することが望ましい。多角的に洞察できるようになり、面白くなる仕組みになっている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn "experience" concept and the design of "feeling" and "experience". This year, we will focus on the design of spatial experience.

ART300GA

【2021 年度休講】 マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15 名)。希望者多数の場合
 は選抜します。初回授業に出席すること。

備考 (履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業日は 4 月 22 日の予定である。

【注意】今学期は教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●作品制作の理論と技法 (講義と実習)

・デザインの基礎

・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル (銀塩+デジカメ、レフ、ストロボ)

・写真表現の作品化 (アルバム・Web)

・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム (ハンディカム)

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

・写真表現の作品化 (アルバム・Web)

・Jingle (短い 15 秒程度の CM 的映像)

最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。

・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。

・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【自由課題による写真課題】 マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題：line、pattern、texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	

3	コミュニケーションデザインの手法 - 視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：line、pattern、texture 【写真課題：光と影、色】 Web の特性とデザインについて理解する。 クリティーク：光と影、色 【写真課題：人物ポートレート、ライティング (2 週間)】
4	コミュニケーションデザインの手法 - Web	
5	情報デザインとコンテンツ制作 - パッケージメディア	パッケージメディア (CD、DVD など) の構成法を理解する。 実習：Premiere による短いビデオ 【課題：写真ポートフォリオ (2 週間)】 情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 【課題：Web 写真アルバム (2 週間)】
6	情報デザインとコンテンツ制作 - サイバースペース 制作	タイポグラフィの基礎 中間のまとめ：課題のクリティーク
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース 実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。 クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

マルチメディア全般について以下の 2 冊を参考書として挙げる。

参考書 (1) CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 参考書 (2) CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1 以上の 2 冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

撮影技法については、キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

ショートムービーの制作については、ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956 が参考になる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点 (20%)、中間課題 (30%) ならびに最終課題 (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年度までは 3～4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア表現手法について講義する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）

Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【Outline and objectives】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

ART300GA

メディア表現ワークショップ1

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表現活動に繋がるフィールドワークに関する実習授業です。各実習はワークショップ形式で行います。教室や大学の構内外を3つのテーマ（カメラを持って旅に出よう。スケッチブックに記録しよう。動きや音を拾うことから。）によるフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】

みなさんは課題を通じて様々な表現活動に通じる取材・調査方法や様々なメディアを使った表現方法を学びます。各課題に取り組むにあたっては、自由な発想、臨機応変な対応が必要となります。柔軟な姿勢で（楽しんで）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

下記の3つの内容に基づいて、制作実習をします。

第1課題 カメラを持って旅に出よう。

記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。

第2課題 スケッチブックに記録しよう。

スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしていきます。

第3課題 動きや音を拾うことから。

拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。

お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。また、授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom, Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）

・Miro（コラボレーション）

・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
4/19	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	課題説明 講義 記録としての写真
4/26	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	課題制作 ※2回にわたって作品に取り組む。
5/10	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	課題制作
5/17	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
5/24	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	課題説明 講義 スケッチの技法
5/31	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	課題制作 ※2回にわたって作品に取り組む。
6/7	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	課題制作
6/14	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
6/21	第3課題 動きや音を拾う。	課題説明 講義 音や映像による記録
6/28	第3課題 動きや音を拾うことから。	課題制作 ※2回にわたって作品に取り組む。
7/5	第3課題 動きや音を拾うことから。	課題制作

7/12 第3課題 動きや音を拾うことから。 講評会
プレゼンテーションとディスカッション

7/19 講評会 3つの課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
藤田 結子『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』新曜社、2013年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。

楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

スケッチブック及び iPhone や Android などの携帯端末が必要となります。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。

3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline and objectives】

This is a practical course about fieldwork leading to expression activities. Each practice is done in a workshop format.

Fieldwork is conducted according to three themes inside and outside the classroom and university premises, and the results are presented.

ART300GA

メディア表現ワークショップ 2

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。事例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか?
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか?
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か?	私、吾輩、彼、伯爵夫人?
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline and objectives】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students

can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work.

ART300GA

【2021 年度休講】メディア表現ワークショップ 3

佐藤 好彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先端的芸術表現の一つとして、テクノロジーとともに発展・進化し続けるメディアアート。学生はその概念や思考をディスカッションと演習を通して学び、表現の可能性について考える。

【到達目標】

- ・対象をあらゆる角度から考察し観察眼を養う。
- ・既成概念にとらわれないで、自らの想いを表現する。
- ・アートの可能性を発見する。
- ・各自の専門分野に於いて、コミュニケーションの向上に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

はじめにメディアアートとは何かを考えるための演習を行い、その気づきを基に自らの作品へと導くためのディスカッションと実験を繰り返し、具現化する。最終的に作品のプロポーザルを（可能であれば実際に作品を制作し）プレゼンテーションする。プレゼンテーションの形式は問わないが、プロポーザルもしくは作品を成果物として提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアアートの概要と授業の進め方について説明。
2	演習 1-インプット	観察する姿勢について考える
3	演習 2-アウトプット	アートに於ける表現について考える
4	演習 3-インプットとアウトプットの間にあるもの。	表現メディアの可能性について考える
5	演習 4-メディアの考察①	日常の常識を疑う
6	演習 5-メディアの考察②	バグの可能性について考える
7	演習 6-メディアの考察③	バグの可能性を探る実験
8	演習 7-まとめ	演習での気づきを発表
9	プロポーザル制作-1	ブレインストーミングで日常の問題点を探る
10	プロポーザル制作-2	作品のテーマ・コンセプトを洗い出す
11	プロポーザル制作-3	作品の表現手段を考える
12	プロポーザル制作-4	プロポーザルのまとめ
13	プロポーザル制作-5	プレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習や課題ごとに、授業外でも日常を考察し、専用のノートに記録する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

授業ごとに参考書や作品について紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習に対する積極性と課題の評価（50%）。グループワークでの協調性を含む成果物の評価（50%）により成績評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

豊かで自由な発想を重視するが、表現に責任を持ってもらえるような指導を心がけたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

B5 サイズ以上の専用のノートを用意すること。

演習ではスマートフォンや PC といった身近なデバイスを活用し、SNS を役立てる。

演習ごとに必要なものは事前に伝える。

テーマや状況によってグループワークを行う。

作品制作を行う場合、保管場所はないので、各自責任をもって管理する。

【その他の重要事項】

協同作業も多いので、休まず出席すること。

【Outline and objectives】

Media art that continues to evolve with technology as one of the leading artistic expressions. Students learn the concepts and thoughts through discussions and exercises, and think about the possibilities of expression.

ART300GA

五感共生論

川村 たつる

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 40 名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員 45 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は物・事をどのように認識しているのかを、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の相互の関係を考察していきながら学んでいきます。

【到達目標】

それぞれが自身の視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の再確認を通して、人の身体感覚を再考察できることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】**■人数制限・選抜**

本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、下記の①②をセットで進めていきます。

①五感それぞれにまつわる事例紹介や簡単な実験を通して受講者自身が「感覚」を再考察し、その考察を参考にしながら課題制作を行います。

②提出された課題作品は全体鑑賞会において全受講者で鑑賞し、自身と他者の着眼点の違いや表現方法の違いなどを考察していきます。

※課題の内容は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。

※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。

※課題に対しての個別のフィードバックは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	人と感覚の関係を考える
第 2 回	視覚 1	視覚に関する事例から考える
第 3 回	視覚 2	錯覚・錯視という事例から考える
第 4 回	視覚 3	「見る」ということ・「見える」ということを考える
第 5 回	作品鑑賞会 1	課題 1 で提出された作品を全員で鑑賞
第 6 回	聴覚 1	聴覚に関する事例から考える
第 7 回	聴覚 2	「聞く」ということ・「聞こえる」ということを考える
第 8 回	作品鑑賞会 2	課題 2 で提出された作品を全員で鑑賞
第 9 回	触覚 1	触覚に関する事例から考える
第 10 回	触覚 2	「触る」ということ・「触れている」ということを考える
第 11 回	作品鑑賞会 3	課題 3 で提出された作品を全員で鑑賞
第 12 回	味覚	味覚について考える
第 13 回	嗅覚	嗅覚について考える
第 14 回	まとめ	自身の感覚を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

課題の制作は、各自授業外で行うこととします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『錯覚の世界』ジャック・ニオ著（新曜社/2004 年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013 年）、『触覚の心理学』ダーヴィット・カット著（新曜社/2003 年）、『触覚の心理学』田崎権一著（ナカニシヤ出版/2017 年）、『味覚の科学』斉藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018 年）、『「おいしさ」の錯覚』チャールズ・スペンス著（角川垂書店/2018 年）等。

【成績評価の方法と基準】

課題に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（60%）。

また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

※授業中に授業と関係ない作業を行うこと、他の受講生への迷惑となる行為を行うことに対しては、厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

While considering the mutual relations of the five senses, think about how people perceive objects and things.

ART200GA

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スタジオジブリ結成以前の高畑勲・宮崎駿のアニメ映画を、欧米のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上での位置を学習する。

【到達目標】

1950年代～1980年代前半の日本のアニメの映画的・アニメの特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができる。また、ストーリーづくりだけでなく、ストーリーをどのように表現するかが大事であるということを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

毎週、アニメ映画の制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行う。そして鑑賞した映画について気づいたことをコメントシートないし宿題に書いてもらう。それらのフィードバックは授業および hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションおよび映画史概観	授業の内容、進め方について説明すると同時に、映画の歴史を概観する。
第2回	東映動画1	『白蛇伝』 『安寿と厨子王』 『ガリバーの宇宙旅行』
第3回	東映動画2	『太陽の王子 ホルスの大冒険』 『長靴をはいた猫』
第4回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えたアニメ	ポール・グリモー レフ・アタマーノフ
第5回	『ルパン三世』第一シリーズ	『雨の午後はヤバイぜ』 『ジャジャ馬娘を助けだせ!』
第6回	『パンダコパンダ』二部作	『パンダコパンダ』 『パンダコパンダ 雨ふりサーカス』
第7回	日本アニメーション1	『アルプスの少女ハイジ』
第8回	日本アニメーション2	『母をたずねて三千里』 『赤毛のアン』
第9回	NHK 初のアニメ	『未来少年コナン』
第10回	宮崎駿の映画第一作	『ルパン三世カリオストロの城』
第11回	高畑勲の日本回帰	『ジャリ子チエ』 『ゼロ弾きのゴーシュ』
第12回	『アニメージュ』とともに	漫画『風の谷のナウシカ』と映画『風の谷のナウシカ』
第13回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた映画2	溝口健二 デシーカ ジョン・フォード
第14回	まとめ	黒沢明 学んできたことを振り返って補い、レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫
宮崎駿『出発点』徳間書店
叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社
ステファヌ・ルルー『シネアスト宮崎駿 奇異なものポエジー』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）とレポート（60%）。

平常点は出席だけでなく、コメントシートや宿題を通して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

なおコメントシートや宿題のフィードバックは、hoppii や授業を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。

初回にオンラインで選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline and objectives】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work before the foundation of Studio Ghibli, through the position of their style and the history of film, in comparison with occidental animation films.

ART200GA

写真論

丹羽 晴美

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、デジタルが主体となった写真について 19 世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡張したメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】

写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクションによる講義を実施。19 世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。課題に対するフィードバックは講義内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第 2 回	写真誕生前夜：19 世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された 19 世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第 3 回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19 世紀半ば、写真発明に伴い何が起り、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第 4 回	作家論 1：現在と異なる写真技法を使った作家について	19 世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第 5 回	写真メディア史 1：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第 6 回	写真メディア史 2：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第 7 回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子写真表現を考察する。
第 8 回	作家論 2：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第 9 回	ドキュメンタリー 1：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第 10 回	ドキュメンタリー 2：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第 11 回	作家論 3：記録と表現の狭間	記録すること、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第 12 回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第 13 回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第 14 回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約 2～3 週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義内に指示

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 2 割、期末試験 8 割この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】

講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline and objectives】

This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知っているアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありませんか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しようものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガツカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体は、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- ・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
- ・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
- ・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
- ・「オリジナリティ」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
- ・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。

その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。
- ・法政大学の2021年度授業方針に従い、原則として対面授業で行います（対面とオンデマンド型オンライン授業の組み合わせの可能性もあり）。
- ・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出します。
- ・Hoppii および Google Classroom を使用します。
- ・提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995年、映画 2001年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年）その1	時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（1）
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年）その2	学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来
5	R. ブラッドベリ『華氏 451度』／F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953年、映画 1966年）	「書物の神話」とメディア批判の古典、インターネットの時代の焚書の危機

6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006年、映画 2009年）	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント、コンピューターゲームは私たちが世界をどう変えたのか
7	S. フィτζェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 1974年）その1	キラキラコンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（2）
8	S. フィτζェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 2013年）その2	「時代を超えた真実」V.S. 「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響
9	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その1	「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（3）
10	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その2	「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間
11	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリークリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その1	「私」の記憶と真実の複数性、「西洋 V.S. 東洋」という二項対立
12	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリークリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その2	「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体
13	W. ヘルドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説 2010年、映画 2016年）その1	ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（4）
14	W. ヘルドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説 2010年、映画 2016年）その2	ロードムービーの快感、読者・観者に「語りかける」物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。
- ・授業で扱う文学作品について、配布済みの抜粋テキストをあらかじめ読んでおきます。

【テキスト（教科書）】

（以下「対面授業」が実施できる前提の記載です）

- ・文学作品については資料として配布、映像作品はこちらで用意して授業中に観てもらいます。最終レポートで扱う作品は各自で著書と映画にアクセスしてください。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
- ・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
- ・F・キッター（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
- ・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史ービッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
- ・A・バザン（野崎敏ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
- ・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辭学』（ちくま学芸文庫）2005年
- ・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
- ・杉野健太郎編著『映画学叢書』映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
- ・杉野健太郎編著『映画学叢書』交錯する映画ーアニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と授業ごとの課題（小レポート）65%、最終レポート課題35%を合わせ、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

詳細は Hoppii 上で秋学期開始前に周知します。

- ・「対面授業」の場合、授業には筆記用具を持参（「ノートテイク」は必ず手書きで行います）、授業後の課題執筆作業には PC を使用してください。様々な事情で「ノートテイク」がデジタルガジェットでなければならない理由のある方は事前に申し出てください。

・「対面授業とオンデマンド型オンライン授業の組み合わせ」となる場合、「オンデマンド型」で授業に参加する場合は、安定的なインターネット通信環境と PC に加え、授業で扱う文学作品のうち4冊（文庫本）と映画ソフト8点（レンタルで可／映像サブスクリプションサービス上でのレンタル可）を各自でご準備いただきます。万一、全学的に「全面オンライン授業」となった場合も同様です。その場合の詳細は秋学期開始前に追記します。

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・授業に参加し、各回の授業内容を踏まえ執筆するのが「小レポート」です。「出席していない授業の内容について小レポートを提出する」という参加方法は認められません。
- ・授業運営の性質上、欠席した授業の代替措置といったものは行いません。
- ・部活動の公欠届や公共交通機関各社の遅延証明書の提出は不要です。担当者が重視するのは、授業参加時の態度とその成果の表現である提出課題です。

【Outline and objectives】

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of fundamental film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

ART300GA

演劇論

竹内 晶子

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】

- ・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
- ・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
- ・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

(a) 様々な演劇形態の説明、(b) 基本的演劇理論の解説、(c) 台本読解や DVD 鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題 (SQ) を期日までに提出することが必須です。単に DVD を漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。

基本的に授業は zoom 上で行いますが、オンライン上で手に入らない視聴覚教材を鑑賞する回は対面で行います。

授業では皆さんの課題への回答を紹介し、様々な視点を共有していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすること I	鑑賞と分析
	：ゼッフィレリ版、映画版の「蝶々夫人」	
第三回	演出が可能にすること II	鑑賞
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第四回	演出が可能にすること III	議論、分析
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第五回	演出が可能にすること IV	鑑賞、議論、分析
	：モンティ版、ウィルソン版の「蝶々夫人」	
第六回	日本の古典演劇 I	文楽、歌舞伎の歴史、
第七回	日本の古典演劇 II	能の歴史、二層のコミュニケーション
第八回	日本の古典演劇 III	能、文楽、歌舞伎の「所作」
第九回	能と西洋演劇	モダニズム運動と能
第十回	異性装 I	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装 II	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装 III	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ジーザス・クライスト・スーパースター』他
第十四回	学生発表	新作品・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の SQ (Study Questions) への回答を、期限内に提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料を用いる。

【参考書】

毛利三彌『演劇の詩学 劇上演の構造分析』相田書房、2007年。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題 (SQ)：50%。締切厳守。4回以上課題を提出しなかった場合は、単位取得の権利を失います。
- ・積極的な授業参加：20%
- ・期末試験 30%
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の課題への回答を授業で紹介します。

【その他の重要事項】

- ・必ず初回授業 (zoom) に参加すること。履修を希望する学生が多い場合には、選抜を実施します。
- ・対面の回と zoom の回とが混在するので、学習支援システム上で発表する指示に気をつけること。

【Outline and objectives】

Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater.

ART200GA

【2021 年度休講】ポピュラー音楽論

大 高 徹

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年度はメディア産業と音楽との関わりに焦点をあてて、ポピュラー音楽史を概観する。音声複製技術を利用し音楽を「商品」として流通させる産業の活動は、20 世紀以降の音楽文化の基礎的な要素となった。この授業では、音楽出版社、レコード会社、アーティストマネジメント会社など各事業体の成立過程に着目しながら音楽ビジネスの変遷を辿り、ポピュラー音楽がいかなる経済的な条件のもとで進展してきたのかを理解する。

【到達目標】

音楽メディアの変遷を理解する。

音楽実践と産業活動の相互関係からポピュラー音楽史を理解する。

各音楽関連事業の役割と関係性を理解する。

インターネット普及以降の音楽環境のあり方を、歴史的な観点から把握し考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【4 月 14 日修正】

少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までにオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の目的と概要の説明
2 回	「商品」としての音楽のはじまり	19 世紀後半の音楽出版社の台頭と、ポップソングの形成について
3 回	レコードのメディア史	音声を複製する技術が音楽を楽しむメディアとして定着するに至った過程について
4 回	放送による音楽の「無料化」	ラジオ放送がもたらした音楽の「無料化」と事業の多角化について
5 回	戦前日本の音楽産業	日本のレコード産業と流行歌の成立について
6 回	ロックンロールの衝撃	二次大戦後の技術革新とロックンロールブームを契機した産業転換について
7 回	膨張するレコード産業	1970 年代以降のレコード産業の拡大と製作・配給の変容について
8 回	1960 年代日本の音楽産業転換	日本における専属制度の解体と外部原盤製作システムの形成について
9 回	音楽のデジタル化と映像化	1980 年代のミュージックビデオ、カセットテープ、コンパクトディスクの普及について
10 回	原盤ビジネスの仕組み	原盤のステークホルダーと各契約関係について
11 回	音楽著作権ビジネスの仕組み①	「音楽作品」をめぐる権利の運用について
12 回	音楽著作権ビジネスの仕組み②	音源の製作者が有する著作隣接権の運用について
13 回	インターネットの音楽流通革命	ネット上でのファイル共有を発端とした音楽の「無料化」と産業転換について
14 回	音楽産業の現在	2000 年代以降の音楽ビジネスの展開について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート 70%。テーマは授業内で提示する。

リアクションペーパー 30%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに返答する時間を設けるなどして、学生からの要望や質問に応じられるよう工夫する。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of music industries and popular music. Focusing on the formation of some business entities, such as music publishers and record companies, we will understand how the music business has been changing and under what economic conditions popular music has been evolving.

ART300GA

【2021 年度休講】コミックス論

野田 謙介

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で日本のマンガが人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本のアニメ・マンガを原語で楽しむために日本語を学ぶ若者の数はおどろくほど多いです。しかしながら、海外での実態をわたしたちは本当に知っていると言えるのでしょうか。

そもそも、日本語での「マンガ」とは何をさしてきたのでしょうか。本授業では、マンガを理論的、歴史的、社会的な側面から概観します。そうすることで、これまで自明視してきたマンガについて、学生諸君が主体的に、また自覚的・客観的に考えられるようになること。それが本授業の目的です。

【到達目標】

- ◆具体的な数字をあげて（数字による類推の限界を指摘しつつ）市場の規模を比較することができる。
- ◆マンガの歴史について基礎的な知識を身につける。
- ◆マンガがそれほど自明な概念でないことを理解し、説明できるようになる。
- ◆普段なげなく読んでいるマンガについて、その表現の仕組みを指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。毎回アクションペーパーの提出をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：まんが、マンガ、漫画、コミックス？	マンガの呼称と現状
2	マンガの読み方 I	マンガの三要素について
3	マンガの読み方 II	時間・運動・音について
4	マンガの読み方 III	世界制作の方法
5	マンガの歴史	起源について
6	マンガの歴史：日本編 I	戦前
7	マンガの歴史：日本編 II	戦前から 80 年代まで
8	マンガの歴史：日本編 III	80 年代以降
9	マンガの歴史：日本編 IV	コミケ
10	マンガとアニメーション	マンガ版とアニメ版の『ナウシカ』比較
11	マンガの歴史：海外編 I	日本マンガの受容史
12	マンガの歴史：海外編 II	米・仏のマンガ史
13	マンガの読み方 IV	翻訳について
14	まとめ	授業の総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えたらうことがあります。また、課題を提出してもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】

各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と授業内試験 (70%)。

文化を相対化する視点と自覚的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

【Outline and objectives】

We often hear that Japanese manga is quite popular in foreign countries. In fact, there are many young people who learn Japanese to enjoy Japanese anime and manga in their original language. However, do we really know the actual situation overseas?

First of all, what is "Manga" in Japan? This course provides an overview of manga from a theoretical, historical, and social points of view, giving clues for rethinking the manga that has been considered to be self-evident.

ART300GA

空間デザイン論

前田 尚武

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 40名

備考（履修条件等）：2021年9月に履修希望者の受付を行う。定員超過の場合は選抜を実施する。詳細は、学習支援システムのお知らせを参照すること（2021年8月以降に掲載予定）。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】

本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解し、表現・伝達する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは第一線で活動している訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などの生の声と空間の実体験から、様々な立場で建築、都市、アートに関わる際の実践的な理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施し、訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などからのヒアリングも行う。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワークの調査先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから良いコメントを紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第2回	講義 「アートと空間1：現代美術のインスタレーションと空間デザイン」	現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第3回	講義 「アートと空間2：美術館・博物館建築論」	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察する。
第4回	講義 「アートと空間3：エリアマネジメントとアート」	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第5回	フィールドワーク 六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	都市とアートの関係から現代美術の展示手法、展示空間のデザインまで実例をもとに解説する。
第6回	フィールドワーク 六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	都市とアートの関係から現代美術の展示手法、展示空間のデザインまで実例をもとに解説する。
第7回	講義 「都市と空間1：現代都市デザインの萌芽」	戦後の復興都市計画から60年に起きた建築運動メタボリズムから高度経済成長期に日本の建築家たちが描いた未来都市を紹介。
第8回	講義 「都市と空間2：都市デザインの未来」	70年の大阪万博から六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第9回	フィールドワーク（オンライン） 京都市京セラ美術館	講師が企画し、開催中の「モダン建築の京都」展をオンラインで解説。京都に多数現存するモダン建築を通して日本の都市と建築の近代化を解説。

第10回	フィールドワーク（オンライン） 京都市京セラ美術館	現存する美術館建築として最も古く、2020年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わった講師がオンラインで解説。
第11回	講義 「伝統と空間1：日本建築の発見」	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第12回	講義 「伝統と空間2：日本建築のグローバルズムと多様性」	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第13回	フィールドワーク 江戸東京たても園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第14回	フィールドワーク 江戸東京たても園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業時に随時配布、紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、レポートの合計。評価基準は平常点50%、レポート50%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

フィールドワーク訪問先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】

●講義日程

土曜日3-4限2コマ連続開講（原則隔週）を予定しており、詳細日程は、2021年夏をめどに決定し、学習支援システムで周知する。

●講師略歴

前田尚武（まえだ なおたけ）

一級建築士／学芸員。1994年、早稲田大学大学院修了。2003年から15年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」、「建築の日本展」など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で2019年度日本建築学会文化賞受賞。

【Outline and objectives】

“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.

Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.

ART200GA

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に付ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

授業はオンライン（オンデマンド方式）で行いますが、単にナレーション付きPPTで講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズム III	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『ベイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『ベイマックス』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論 II	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論 IV	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論 V	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論 VI	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題（SQ）へのレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

『オリエンタリズム』（上）（下）、サイード、平凡社、1993年。

【成績評価の方法と基準】

・課題（Study Question）: 100 %
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。ただし、

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

視聴覚教材には、オンライン上でレンタルして見ることが出来る「ラスト・サムライ」、「ベイマックス」、ディズニースタジオ「シンデレラ」、「エバーアフター」が含まれます。レンタル料はそれぞれ300円程度～かかります（レンタル方法によって料金は異なります）。

【その他の重要事項】

第一回目の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

ART200GA

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いくつかの舞踊の発生の経緯、発展のプロセス、文化的意義について学ぶ。身体運動のメカニズムや表現技法を細かく分析するのではなく、宗教、性、習俗、観光化といった身体にまつわる社会的な問題を、舞踊を通して、異文化という視点から理解する。

【到達目標】

・舞踊の歴史的・文化的背景を叙述することができる。
・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえつつ、日本の能、歌舞伎、文楽等の特徴を、日本文化を知らない人に対して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・資料を元に講義する。受講者は授業の最後に、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・ポリネシア（1）	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介。ニュージーランドのハカの歴史・文化的特徴について。
2	ポリネシア（2）	フラの歴史・文化的特徴について。
3	南米	アルゼンチンのタンゴ、その他、中南米の舞踊の歴史・文化的特徴について
4	北米・ヨーロッパ（1）	アイリッシュ・ダンスの歴史・文化的特徴について
5	ヨーロッパ（2）	フラメンコの歴史・文化的特徴について
6	ヨーロッパ（3）	ワルツの歴史・文化的特徴について
7	アジア（1）	インド舞踊の歴史・文化的特徴について
8	アジア（2）	京劇の歴史・文化的特徴について
9	アジア（3）	インドネシア、特にバリ島舞踊の歴史・文化的特徴について
10	日本（1）	能と狂言の歴史・文化的特徴について
11	日本（2）	歌舞伎の歴史・文化的特徴について
12	日本（3）	文楽の歴史・文化的特徴について。文楽協会助成金削減問題
13	プレゼンテーション	身体表現の文化的側面について、受講者有志によるプレゼンテーションを行う。
14	まとめ	授業のまとめと参考文献の紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の書籍を読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

ジェラルド・ジョナス『世界のダンス—民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
渡辺保『身体は幻』（幻戯書房）
三隅治雄『踊りの宇宙—日本の民族芸能』（吉川弘文館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
生明俊雄『タンゴと日本人』（集英社新書）
山下理恵子『アイルランドでダンスに夢中』（東京書籍）
有本紀明『フラメンコのすべて』（講談社）
加藤雅彦『ウィンナ・ワルツ—ハプスブルグ帝国の遺産』（NHK ブックス）

宮尾慈良『舞踊の民族誌—アジア・ダンスノート』（彩流社）
宮尾慈良『これだけは知っておきたい 世界の民族舞踊』（新書館）
皆川厚一『インドネシア芸能への招待—音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版）
魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
白洲正子『能の物語』（講談社文芸文庫）
『野村萬斎 What is 狂言?』（檜書店）
Patricia Leigh Beam, *World Dance Cultures: From Ritual to Spectacle*. Routledge.

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
学期末レポート 50 %：異文化と舞踊に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

A survey course that studies a wide range of dance across cultures and time periods. We will explore the process of its development and the cultural values. Instead of analyzing the details of body mechanics, this course will focus on the social dimensions of dance in terms of religion, sex, habits, tourism and try to elicit its intercultural aspects.

ART300GA

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：〈からだ〉の美学—写される〈からだ〉・加工される〈自己〉、そして構築されるセクシュアリティ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、「美学=感性学 (aesthetics)」の立場から、文化的・政治的・社会的な文脈で身体を用いて表現された「パフォーマンス (performance)」の「美しさ」を追求することです。

2021年度では、私たちの〈からだの美しさ〉に着目しながら、〈からだ〉がどのように表現されてきたかを「ボディ・スタディーズ (Body Studies)」の観点からアプローチすることを試みます。その際に、特に「セクシュアリティとパフォーマンス」というテーマで、特定のアーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性/アイデンティティを問題にしていることを考察します。

【到達目標】

- (1) アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- (2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- (4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる。
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

- ①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行います。
- ②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していきます。
- ③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えています（自由参加）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	Body Studies の基礎①	・Body Studies と Performance との関係について概観する
3	Body Studies の基礎②	・被写体としての〈からだ〉について考察する。
4	Body Studies の応用① —フェミニズムとパフォーマンス①	・表現される〈からだ〉をセクシュアリティから考える
5	Body Studies の応用② —フェミニズムとパフォーマンス②	・〈からだ〉を痛めつけることから見えてくるもの
6	Body Studies の現在①	・〈からだ〉に映し出されるアイデンティティを考える
7	Body Studies の現在②	・〈からだ〉に刻まれた記憶と痛み
8	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ①	・〈自分〉を映し出すこと——セルフ・ポートレート
9	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ②	・〈日常〉を切り取ること——スナップ写真の〈顔〉
10	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ③	・〈はだか〉ってキレイだけじゃバイよね？——アートか猥褻か
11	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ④	・激痛に耐え傷つく身体・傷みとしての〈癒し〉——ポップ・フラナガン「スーパーマゾヒスト」

12	レフ・マノヴィッチのインスタグラムの美学①	・テクノロジーと身体 ・ニューメディアの美学
13	レフ・マノヴィッチのインスタグラムの美学②	・身体を表象する ・インスタグラムと身体表象
14	まとめ	・これからの Body Studies と Aesthetics of performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パフォーマンス・スタディーズは、1980年代に登場した新しい研究です。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらすことで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたいです。また、〈からだ〉に特化した Body Studies は、Performance Studies のひとつの方向性を示しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に、特定のテキストは用いません。

授業内で配布するテキストの抜粋などを用いて、事前に読んできてもらうことを考えています。

【参考書】

Margo DeMello, *Body Studies: An Introduction*, Routledge, 2014.

マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ——性、人種、エイジング、健康/病の身体学への招待』、晃洋書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25%）

②期末レポート（75%）

【評価基準】

- ①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
- ②期末レポートは、あくまで「批評 (critique)」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準 (criterion)」が前提されている必要がある。
 - (1) 自分自身の「評価規準」が明確であること。
 - (2) 自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
 - (3) 自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
 - (4) 自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていることこの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

・本講義がめざしているのは、パフォーマンス・スタディーズや Body studies を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められる。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。

・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。

・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性 (presentation)」は「表象 (representation)」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性 (performativity)」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

・「表象文化概論」(特に、森村担当分)も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」が、いわゆる「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【受講上の注意】

- ・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。
- ・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜することも考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to pursue the "beauty of performance" expressed in the cultural, political and social context from the standpoint of "aesthetics". In 2020, we will try to approach from the viewpoint of "Body Studies" how Body has been expressed while paying attention to the < beauty of the body > .

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この授業では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの基本となる考え方やアイデアについて学びます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/22	オリエンテーション	授業計画について
9/29	現代美術の基礎知識 1	未来派・ダダ、シュルレアリズム
10/6	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
10/13	現代美術の基礎知識 3 ワークショップ 1	単元のまとめ ワークショップ・ドローイング
10/20	パフォーマンス・アート	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
10/27	身体とパフォーマンス 1	コンテンポラリーダンス、舞踏
11/10	身体とパフォーマンス 2	シアターパフォーマンス、演劇
11/17	パフォーマンス・アート 身体とパフォーマンス ワークショップ 2	単元のまとめ ワークショップ・ハプニング、パフォーマンス
11/24	音とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
12/1	言葉とパフォーマンス	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
12/8	音とパフォーマンス 言葉とパフォーマンス ワークショップ 3	単元のまとめ ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス

12/15 絵画・彫刻・ドローイング

伝統的メディアと新しいメディア

写真・映像・インスタレーション

メディアとアート

12/22 関係性の美術

パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ

ソーシャル・プラクティス

1/12 現代美術

単元のまとめ

ワークショップ・コラボレーション

ワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）

2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。

3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

LIT300GA

世界の中の日本文学

岩川 ありさ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【2021.1.19 更新】これまで、世界文学の「正典（カノン）」は、日本文学、イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学、ドイツ文学というように、国別、言語別で編纂されることが多かった。しかし、一つの国、一つの言語に限定される文学の捉え方から、世界の中で文学を幅広く捉える「世界文学」という概念も広まっている。「母語」の外に出て創作する作家たちが多く生まれている現在において、世界文学の視点は文学研究に欠かせない。この授業では、「世界の中の日本文学／日本文学の中の世界」をテーマにして、世界文学の基礎的な知識や近現代日本文学の歴史を学びながら、現代社会の重要なトピックと文学を繋げるための視座を身につける。

【到達目標】

1、世界文学についての基礎的な知識や理論を身につけ、具体的な日本文学のテキストを分析できるようになる。
2、日本文学を通して世界を見つめ、歴史や社会と文学との関係性について自分の考えをまとめられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/9 授業開始。フルオンデマンド授業の講義形式で進めます。新型コロナウイルス感染症拡大との関係で、Youtube での限定配信や学習支援システム (Hoppi) の機能を併用して進める予定です。学期中はいつでも動画を見ることが出来ます。

フィードバックは Hoppi で受付け、授業中に回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4/9 イントロダクション —世界の中の日本文学	デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か?』（秋草俊一郎、奥彩子ほか訳、国書刊行会、2011年）を中心に、理論的な側面について学びます。また、多和田葉子、リービ英雄の翻訳について触れます。 *オンラインで実施の場合は、youtube での限定配信を行います。詳しくは学習支援システムの「お知らせ」を見てください。オンラインになった場合、学習支援システムの「教材」にレジュメをアップロードし、講義動画の URL を書きます。
第 2 回	4/16 3 つのノーベル文学賞スピーチから考える 「日本文学」	「日本近代文学」の誕生から、川端康成 (1968)、大江健三郎 (1994)、カズオ・イシグロ (2017) のノーベル文学賞受賞記念スピーチを中心としながら、「日本文学」がどのようなものとして想像されているのかについて考えます。
第 3 回	4/23 エクソフォニーの文学	エクソフォニーという概念について学びます。
第 4 回	5/7 ヒロシマ・ナガサキの文学	ヒロシマ・ナガサキをめぐる文学について学びます。
第 5 回	5/14 ホロコーストと文学・文化 (1)	クロード・ランズマン「シヨア」やシヨシャナ・フェルマンらの著作、ホロコースト否定論と証言の時代に関する文献を通じて、ホロコーストと文学・文化について考えます。

第 6 回	5/21 ホロコーストと文学・文化 (2)→ 課題レポート 1 (30%) 800-1,200 文字程度	「否定と肯定 (Denial)」(監督・ミック・ジャクソン、2016)を通してホロコースト否定論について学びます。 *「否定と肯定 (Denial)」は、youtube、amazon prime、u-next、google play 等でレンタルできます。 *以下の記事も参考になります。> 「『否定と肯定』 歴史を否定する人と同じ土俵に乗ってはいけない」The Asahi Shinbun Global +, 2017.12.7 https://globe.asahi.com/article/11532409
第 7 回	5/28 3.11 と文学 (1)	映画「この世界の片隅に」(片渕須直監督、2016)を通して、戦争を伝えるということについて考えます。
第 8 回	6/4 3.11 と文学 (2)	東日本大震災後の文学について考えます。
第 9 回	6/11 戦争と記憶 (1)	戦争と記憶をめぐる問題について考えます。
第 10 回	6/18 戦争と記憶 (2)→ 課題レポート 2 (30%) 800-1,200 文字程度	映画「この世界の片隅に」(片渕須直監督、2016)を通して、戦争を伝えるということについて考えます。
第 11 回	6/25 物語とはなにか?	アリストテレス、E.M. フォースター、ウラジミール・プロップ、ジュラル・ジュネットらの著作を紹介しながら、物語について考えます。
第 12 回	7/2 文学とケア	文学とケアについて学びます。
第 13 回	7/9 病の表象、傷ついた物語の語り手	病の表象について考えます。また、自らの傷ついた経験について語る語り手について考えます。
第 14 回	7/16 まとめ → 課題レポート 3 (40%)。2,000 文字程度	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムから課題の提出が必要です。十分な分量で書いてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・PDF のレジュメを学習支援システムから配布します。
・Amazon Prime、NETFLIX などサブスクリプションで手に入るものを中心とした動画を見て課題にとりくんでもらいます。

【参考書】

世界文学やエクソフォニーについては以下の本を参照してください。
落ち着いた頃に気になったら読んでみてください。
デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か?』秋草俊一郎、奥彩子ほか訳、国書刊行会、2011年
フランコ・モレット『逸読—〈世界文学システム〉への挑戦』秋草俊一郎ほか訳、みすず書房、2016年
ダニエル・ヘラー＝ローゼン『エコラリアス—言語の忘却について』関口涼子訳、みすず書房、2018
リービ英雄『日本語を書く部屋』岩波現代文庫、2011年
多和田葉子『エクソフォニー』岩波現代文庫 2012年

【成績評価の方法と基準】

以下の3つのレポート課題で採点します。詳しくは、学習支援システムでお知らせします。

・レポート課題1 第6回「否定と肯定 (Denial)」(監督・ミック・ジャクソン、2016)を観てのレポート課題 (30%) 800-1,200 文字程度

*「否定と肯定 (Denial)」は、youtube、amazon prime、u-next、google play 等で見る事ができます。レンタル等に 100-400 円程度必要です。

・レポート課題2 第10回 「この世界の片隅に」(片渕須直監督、2017)を観てのレポート (30%) 800-1,200 文字程度

*「この世界の片隅に」は、netflix、youtube、amazon prime、u-next、dtv などで見られます。レンタルに、100-400 円程度必要な場合があります。

・レポート課題3 具体的な文学テキストを対象として、この講義を踏まえたレポートを提出してください。詳しくは授業内で説明します。(40%)。2,000 文字程度

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、積極的に授業に参加した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末。

【その他の重要事項】

受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about World literature. We will mainly focus on theories of David Damrosch. We will examine the relationships of literature and social and historical problems. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of World literature.

LANj300GA

世界の中の日本語

大野 口ベルト

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より200名を抽選

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語を学んだつもりがど忘れし、海外の文化に触れたつもりですっぽ抜ける。現代社会ではおなじみのこの悲喜劇の一因は、そもそも日本語と日本文化に対する理解の浅さに起因するのではないか。言葉や文化はどのように出来上がり、どのように相関するのか。この授業では幕末から二十世紀末までの日本を、海外との応答関係のなかで見つめてみたい。それは物理的な交流でもあるが、それ以上に、言葉を媒介とする交流である。したがってこの授業では原典のみならず英訳されたテキストにも目を向け、必要に応じて外国文学との比較にも供してみる。講義は春学期に開講される「日英翻訳論」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

比較的な視点に立つことで、自国の言語や文化を海外のそれと横並びに眺め、客観的な方法で評価を加え、それを言語化できるようになる。文学作品を深く読み解く技術が身につく、英語のテキストに触れることで、語学的な運用能力も向上する。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパーに加えて、学習内容に基づいた課題を2つ提出してもらおう。これらについては授業内で言及するほか、個人的にも学習支援システムを通じて随時フィードバックを行う。最後に期末レポートを提出してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、日本語の特徴について考える。（日本語はどのような言語なのか）
2	日本語らしさ	「月がきれいですね」を出発点に、日本語にまつわる神話を解体する。（日本語は愛せない言語である）
3	外国語と日本語1	夏目漱石の活動を中心にとりあげ、明治時代の日本語を考える。（日本語は借りものの言語である）
4	外国語と日本語2	中原中也を中心にとりあげ、近代日本の詩歌について考える。（日本語は創造的な言語である）
5	日本語を書く	永井荷風を中心にとりあげ、日本語における書記行為を考える。（日本語は組み合わせ自由な言語である）

6	日本語を聞く	泉鏡花を中心にとりあげ、日本語における「声」について考える。（日本語は多声的な言語である）
7	日本語と影	谷崎潤一郎を中心にとりあげ、日本語の美意識について考える。（日本語は光と影のある言語である）
8	日本語と音	宮沢賢治を中心に、擬態語や擬声語について考える。（日本語は音楽的な言語である）
9	日本語と私	太宰治を中心に、私小説の問題をとりあげる。（日本語は私を語る言語である）
10	世界と日本語1	川端康成を中心に、日本語における伝統への意識を考える。（日本語は美しい言語である）
11	世界と日本語2	三島由紀夫を中心に、世界文学としての日本文学のあり方を考える。（日本語は世界的な言語である）
12	世界と日本語3	大江健三郎を中心に、「個人的なものとしての日本文学を考える。（日本語はあいまいな言語である）
13	日本語の消失	野口米次郎、牧野信一、塚本邦雄などをとりあげ、言葉の「息苦しさ」を考える。（日本語は寂しい言語である）
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、「未来の日本語」について想像してみる。（日本語は楽しい言語である）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては事前に丁寧に読み込み、時代背景なども調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』NHK ブックス、1998

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、課題30%、レポート40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

One cannot fathom the qualities of a foreign language and culture without the set of skills nurtured through learning one's native language and culture. In this course, students will read works of literature produced from the late 19th century to the late 20th century while paying attention to how they contribute to the overall uniqueness of the Japanese language.

LIT300GA

日英翻訳論

大野 ロベルト

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より 200
名を抽選

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパーに加えて、学習内容に基づいた課題を2つ提出してもらおう。これらについては授業内で言及するほか、学習支援システムを通して個人的にも随時フィードバックを行う。最後に期末レポートを提出してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する 1	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する 2	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源 1	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源 2	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生 1	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生 2	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く 1	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く 2	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く 1	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。

12	社会を描く 2	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題 30 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading the classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

LIT300GA

【2021 年度休講】実践翻訳技法

水野 太郎

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：受講者の人数制限および選抜もありうる。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学の代表的なテキストを英語に翻訳する。原文に忠実でありながらすぐれた英語の表現をめざす。

【到達目標】

日本語と英語の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

古典文学（特に翻訳と俳句）からも近・現代文学（小説と詩）からもテキストを選ぶ。毎回、日本語のテキストを学生が英訳する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

後期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義
第 2 回	詩の翻訳 (1)	翻訳
第 3 回	詩の翻訳 (2)	翻訳
第 4 回	詩の翻訳 (3)	翻訳
第 5 回	散文の翻訳 (1)	翻訳
第 6 回	散文の翻訳 (2)	翻訳
第 7 回	散文の翻訳 (3)	翻訳
第 8 回	散文の翻訳 (4)	翻訳
第 9 回	散文の翻訳 (5)	翻訳
第 10 回	散文の翻訳 (6)	翻訳
第 11 回	現代文の翻訳 (1)	翻訳
第 12 回	現代文の翻訳 (2)	翻訳
第 13 回	現代文の翻訳 (3)	翻訳
第 14 回	本講義のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語、特に文学作品をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

代表的な古典詩歌（万葉集など）および近・現代文学（戦後から現代までを中心に）

【参考書】

代表的な古典詩歌（万葉集など）および近・現代文学（戦後から現代までを中心に）

【成績評価の方法と基準】

提出課題（100 %）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・受講者の人数制限および選抜もありうる。
- ・授業への積極的な参加が必要。

【Outline and objectives】

Each time the students will translate a short passage from a representative text of Japanese literature. Through this the students will both improve their English writing and gain a deeper understanding of Japanese.

ARSe200GA

中国の文化 I (現代中国社会)

曾 士才

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることを目指している。

【到達目標】

中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の5つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業は基本的に資料配信型で行う。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第2回	都市と農村 (1)	経済格差と三農問題
第3回	都市と農村 (2)	リテラシーの現状、学校教育、大学生の就職難
第4回	都市と農村 (3)	拡大する中産階級、人権意識
第5回	人の移動 (1)	都市の出稼ぎ者、ポイント制度、留守児童
第6回	人の移動 (2)	強制移住
第7回	家族と婚姻 (1)	伝統的家族制度、都市の家族
第8回	家族と婚姻 (2)	新人類「80後」「90後」、人口政策の転換
第9回	家族と婚姻 (3)	高齢化社会、老人扶養
第10回	信仰と習俗 (1)	宗教事情、国家と宗教
第11回	信仰と習俗 (2)	風水思想と実践
第12回	日本と中国 (1)	日中協力
第13回	日本と中国 (2)	強制連行、戦争の記憶
第14回	日本と中国 (3)	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業テーマに関連した課題論文を読む。受講者は参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。理解度を自己評価するために、学習支援システムの「課題」にあるクイズに回答する。

【テキスト (教科書)】

プリント教材 (学習支援システムの「教材」に掲載する)。

【参考書】

A 高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための40章【第4版】』明石書店2012年

B 藤野彰、曾根康雄『現代中国を知るための44章【第5版】(エリア・スタディーズ)』

明石書店2016年

C 藤野彰『現代中国を知るための52章【第6版】』明石書店2018年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使ったクイズへの回答 (10%) と期末に課すレポート (90%) で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

クイズへの解答例を掲示板にアップし、受講生の復習に活用できるようにする。

【Outline and objectives】

This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan. At the end of the course, participants are expected to understand the real China without any prejudice.

ARSe200GA

【2021 年度休講】中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

曾 士才

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文明は、多様な風土のなかでそれぞれ独自の歴史と文化を築いてきた諸民族と漢族との、古くからの交流によって形成されてきた。この授業では、民族の多様性を紹介するとともに、20 世紀以降、国家統合を進めるなか、各少数民族社会において生じた変化を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、民族意識、民族文化の現状などを紹介する。

【到達目標】

「民族」をキーワードにして中国を読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、中国における民族集団とその文化の多様性について論じ、後半では、政治的統一性と文化的多様性との折り合いのつけ方に主眼を置いて論じる。授業の進め方は講義を主体とするが、テーマごとに映像資料を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	多民族国家中国を概観、授業および授業外学習の説明
第 2 回	民族文化の多様性 (1)	森林地帯の狩猟民オロチョン族の伝統と現状
第 3 回	民族文化の多様性 (2)	草原地帯の遊牧民モンゴル族の伝統と現状
第 4 回	民族文化の多様性 (3)	シルクロードの民ウイグル族の伝統と現状
第 5 回	民族文化の多様性 (4)	西南中国山の民イ族の伝統と現状
第 6 回	民族文化の多様性 (5)	照葉樹林の民タイ族の伝統と現状
第 7 回	前半のまとめ	前半のまとめとレスポンスシートへの応答
第 8 回	国家と民族 (1)	進化論・人種観と民族政策
第 9 回	国家と民族 (2)	メディアにおける民族表象
第 10 回	国家と民族 (3)	民族エリートとエスニック・シンボル
第 11 回	国家と民族 (4)	国民教育と民族教育
第 12 回	国家と民族 (5)	観光文化と民族文化
第 13 回	チベット問題の読み方 (1)	民族問題の分析の視点
第 14 回	チベット問題の読み方 (2)	関係報道の読解のコツ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の理解度を測るために、授業支援システムを使って出されるクイズに回答する。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピーブルズの現在— 01 東アジア』明石書店 2005 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

私語によって周りの学生が迷惑を蒙らないように、円滑な授業運営に努めたい。

【Outline and objectives】

This course deals with ethnic diversity in China, especially focusing on the changing lifestyle and values of them under the nation-state of China. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about ethnic minorities in China, and also to be able to evaluate the relationship between ethnic diversity and national integration in China.

HIS200GA

中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）

鈴木 靖

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】

中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第2回	倭人の肖像	六世紀初めの倭人が描かれた絵巻物、南朝梁蕭繹「職貢図」を通じて、中国の人々の古代日本のイメージについて考える。 【キーワード】 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第3回	朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第4回	遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第5回	民間交流の時代	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第6回	元寇	ユーラシア大陸を席卷したモンゴルは、やがてその矛先を中国と日本に向ける。 【キーワード】 ・征服王朝

第7回 倭寇

モンゴルの衰退後、倭寇と呼ばれる武装集団が、朝鮮半島や中国沿岸部を襲う。近年、発見された二枚の絵巻物を通じて、中国の対日イメージを大きく悪化させた倭寇について考える。

【キーワード】

・「倭寇図巻」（東大史料編纂所蔵）
・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）

第8回 鄭成功

中国人の父と日本人の母を持ち、幼少時代を日本で過ごした鄭成功は、異民族王朝清によって明が滅ぼされた後も、台湾に拠点を移して抵抗を続けた。いままも民族の英雄と称えられている鄭成功が対日イメージに与えた影響について考える。

第9回 藤野先生

中国の文豪・魯迅をして「私が師と仰ぐ人の中でもっとも私を感動させ、激励してくれた人」と言わしめた藤野厳九郎。魯迅が書いた自伝的エッセー「藤野先生」は、現在も中国の対日イメージに大きな影響を与え続けている。

【キーワード】

・藤野厳九郎
・魯迅

第10回 霧社事件

1930年、日本植民地下の台湾で、山地先住民による大規模な反乱事件が起こる。近年、台湾のドラマや映画などに取り上げられ、再び注目されるようになったこの事件を通じて、台湾の対日イメージについて考える。

【キーワード】

・ドラマ「風申緋桜」
・映画「セデック・バレ」

第11回 日中戦争

戦後、60年以上経ったいままも日中関係に影を落とす日中戦争。日本人戦犯たちの証言を通じて、中国がもつ負の対日イメージの淵源について考える。

【キーワード】

・「認罪」教育

第12回 留用された日本人たち

終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いままも中国で高く評価される日本人の事績について考える。

【キーワード】

・「留用」された日本人

第13回 日中国交正常化

1972年の田中角栄首相の訪中によって、日中国交正常化が実現する。緊迫した交渉の中で、田中らはどのようにして日中国交正常化を実現したのか。いままも中国で高く評価される田中らの交渉について考える。

【キーワード】

・田中角栄
・周恩来

第14回 今日の日中関係

歴史問題や領土問題など、日中間にはいままも多くの課題が残されている。閣僚による靖国神社参拝問題と尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題を取り上げ、その淵源と解決方法について考える。

【キーワード】

・靖国神社参拝問題
・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のためのPDF資料を配布する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のためのPDF資料を配布する。教材用ページへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【参考書】

- ①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000年）
- ②王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）
- ③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996年）
- ④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公文庫、2011年）
- ⑤孫崎享『日本の国境問題』（ちくま新書、2012年）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の2つの基準をもとに評価する。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80%）
- ②期末レポート（20%）

これらの成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の復習に必要な要望があったため、授業用スライドの PDF を配布することにする。

【学生が準備すべき機器他】

fixi を通じて資料の配布を行う。fixi へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline and objectives】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Unnderstanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

LANe300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が練習問題の解答を発表する機会も設ける。

・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

13 その他の重要表現・構文 2 「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

14 まとめ 授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱德熙（著）、杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』、東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。

・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

LANc300GA

【2021 年度休講】中国の文化V（中国語と日本語）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、留学先で中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いつつもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因を自分なりに説明できる。
- (2) 関連する論考や資料の講読を通じて日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	中国語／日本語のアスペクト表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
3	動詞関連表現 2	中国語／日本語の助動詞、副詞的表現、否定表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
4	形容詞関連表現 1	中国語／日本語の形容詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
5	形容詞関連表現 2	中国語／日本語の比較表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
6	名詞関連表現 1	中国語／日本語の名詞、数量詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
7	名詞関連表現 2	中国語／日本語の連体修飾に関する誤用例の分析と考察を行う。
8	補語 1	中国語の結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
9	補語 2	中国語の可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
10	様々な構文 1	中国語の把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
11	様々な構文 2	中国語の存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
12	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
14	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同書社
・木村英樹 2017 『中国語はじめての一步 [新版] (ちくま学芸文庫)』東京：筑摩書房
・三宅登之 2012 『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・寺村秀夫 1982, 1984, 1991 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』東京：くろしお出版
・寺村秀夫 1992, 1993 『寺村秀夫論文集Ⅰ, Ⅱ』東京：くろしお出版
・劉月華 他 2019 『实用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
・朱德熙 (著) 杉村博文・木村英樹 (訳) 1995 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを 50%、平常点（誤用例分析への取り組み状況や考察内容、発表・質疑応答内容など）を 50%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

★ 2020.08.31 追記：

現段階では、上記の成績評価方法から変更の予定はありません。もし、変更が生じた場合は、学習支援システムの「お知らせ」にて配信します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。

・本授業は、誤用例の分析を手がかりに、日中両言語の諸特徴を考察する授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire the basic skills of contrastive study of Chinese and Japanese. Especially, through analyzing various misuses of Japanese and Chinese, we will try to explain why learners took the mistakes and consider how to correct them.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村 英登

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

*中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯

*中国古典を現代語訳で読むときの注意点

*中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

※初回授業は対面授業を実施しません。学習支援システム等で資料を掲示します。

※受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いをを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。

『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。

『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。

『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）40%、期末試験60%で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀初め、中国でも言文一致運動（「文学革命」）が提唱され、「近代文学」が誕生します。中国近代文学は、近代以前の文学のあり方をどのように変革しようとしたのでしょうか。またそれは、欧米や日本の近代文学とどのような点で共通し、どのような点で異なっていたのでしょうか。本授業では、そうした問いを通して、中国近代（社会・文化）の歩みを文学の視点から考えます。

【到達目標】

中国近代文学とその歴史的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国近代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	中国「近代文学」の変革を考える前提として、近代以前の中国文学のあり方についてお話します
2	近代文学の誕生 1	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の誕生 2	魯迅「狂人日記」
4	近代文学の誕生 3	魯迅「阿 Q 正伝」
5	近代文学の誕生 4	周作人と日本
6	新世代の作家たち 1	文学研究会
7	新世代の作家たち 2	創造社
8	近代中国のモダニズム 1	新月社
9	近代中国のモダニズム 2	新感覚派
10	1930年代、注目すべき作家と作品 1	茅盾「子夜」、巴金「家」ほか
11	1930年代、注目すべき作家と作品 2	沈從文「辺城」ほか
12	解放区の「人民文学」	「文芸講話」と趙樹理「小二黒の結婚」
13	淪陷区の文学	張愛玲「傾城の恋」
14	おわりに	中国近代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。それぞれ2時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：50%

コメントペーパー・平常点：50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は遠隔授業にまだ不慣れな点もありましたが、21年度は改善します（春休みに猛特訓中）。

【Outline and objectives】

This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.

LIT300GA

中国の文化Ⅷ（現代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1949年「新中国」建国後から現在までの文学を振り返ります（数篇、映画も取り上げます）。中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾の文学を含みます。

【到達目標】

中国現代文学とその時代的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国現代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに——中華人民 共和国建国後の政治と 文学	胡風批判、反右派闘争ほか
2	文化大革命	白毛女の表象——民間伝承、集団 創作歌舞劇、映画、そして革命現 代京劇へ
3	みずからの言葉を取り 戻す文学者たち	1970年代の傷痕文学から新时期 文学へ
4	中国的な不条理の表現— —モダニズムの復活	王蒙「胡蝶」、高行建「ある男の 聖書」、残雪「黄泥街」ほか
5	土着の習俗や民間伝承 を取り込む意味—— ルーツ文学派	莫言「赤い高粱」
6	もの言う農民作家	閻連科「人民に奉仕する」「丁庄 の夢」ほか
7	中国の前衛作家群像— —先鋒派	余華、蘇童、格非ほか
8	女性が自己を語る意味 ——女性作家の作品に 表現された内面1	鉄凝「大浴女」
9	女性が自己を語る意味 ——女性作家の作品に 表現された内面2	林白「たったひとりの戦争」、陳 染「プライベートライフ」

10	女性が自己を語る意味 ——女性作家の作品に 表現された内面3	衛慧「上海ベイベー」、棉棉「上海 キャンディ」、安妮・ベイベー 「さよなら、ピピアン」「蓮の花」
11	「80後」（80年代生まれ）の青春小説	韓寒「三重の門」、郭敬明「悲し みは逆流して河になる」
12	香港文学	李碧華「ルージュ」「さらばわが 愛——霸王別姫」ほか
13	台湾文学	李昂「夫殺し」ほか
14	おわりに	中国現代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。それぞれ2時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011年）、『規範』からの離脱——中国同時代作家たちの探索』（尾崎文昭編、山川出版社、2006年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：50%

コメントペーパー・平常点：50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は遠隔授業にまだ不慣れな点もありましたが、21年度は改善します（秋学期までにコロナウイルスが終息している場合は別ですが）。

【Outline and objectives】

This course introduces contemporary Chinese literatures. The range covers PRC, Hong Kong, and Taiwan.

LIT300GA

中国の文化区（中国俗文学）

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多だろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせる。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第2回	殷代	文字の誕生
第3回	周代	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢代	紙の誕生
第7回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第8回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第9回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第10回	北宋時代	三国志の誕生
第11回	南宋時代	水滸伝の誕生
第12回	元代	演劇の隆盛
第13回	明代	出版文化の隆盛
第14回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習の資料を授業用ページを通じて配布するので、授業前に読んでおくこと。授業後は授業用スライドのPDFファイルを配布するので、これをもとに復習を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、事前学習の資料と授業で使用されるスライドのPDFファイルを教材用ページを通して配付する。

【参考書】

各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80%）

②期末レポート（20%）

これら成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多く、教室が狭いと意見が寄せられたため、今年度は大きめの教室に変更することにした。

【Outline and objectives】

Understanding how the Chinese culture influenced the development of the Japanese culture.

How Kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries.

How Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries.

How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries.

When paper and printing were invented and how they changed the world.

How Chinese Popular literature was born and influenced the Japanese literature?

HIS300GA

中国の文化X（歴史）

張 玉萍

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】

現在、日中間は改善に向かいつつあるが、両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中間関係史を避けて通ることはできない。19 世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたる日中間関係が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業で知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼の醸成にいたる可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。授業はオンラインの形で進めていく。各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国とは何か (1)	地域文化へのアプローチ 地理——東低西高、南船北馬
第 2 回	中国とは何か (2)	民族——56 民族の由来と特徴、分布
第 3 回	中国とは何か (3)	言語——普通話と方言
第 4 回	儒教 (1)	中国人の価値観の中核
第 5 回	儒教 (2)	儒教の興隆、衰退、復活
第 6 回	満族 (1)	“入主中原”
第 7 回	満族 (2)	“満”と“漢”
第 8 回	旗袍 (1)	下位文化から上位文化への上昇
第 9 回	旗袍 (2)	上位文化から下位文化への転落および復活
第 10 回	清末留日学生 (1)	史上初の留日ブーム ——師弟関係の逆転
第 11 回	清末留日学生 (2)	革命の揺りかご——東京と中華民国の成立
第 12 回	日中間における人的交流 (1)	政治家としての戴季陶と日本
第 13 回	日中間における人的交流 (2)	戴季陶の日本観およびその意義
第 14 回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011 年。

その他は授業中にそのつと紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものについて、自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。

期末テスト（70 点）、平常点（授業態度やテーマごとに課された感想文の完成度など、20 点）、授業中の討議への参画度（10 点）により総合的に評価する。・授業開始後 20 分以内の到着は遅刻とし、それ以降は欠席とする。

・3 回の遅刻で 1 回の欠席とする。

・欠席数が全授業数の 1/3 を超えた場合試験を受ける資格を失う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies and clothes, we will enter the world of modern China. It is the purpose of this lesson to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar. Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化 I (朝鮮半島の文化史)

神谷 丹路

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮半島は、日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます。近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業はオンデマンド開講である。本授業の開始日は 4 月 13 日、この日までに具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。

朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに、一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入/朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、網渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣
6	朝鮮王宮と近代	・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日 ・景福宮 (王宮の再建から王妃虐殺事件まで) ・徳寿宮 (大韓帝国の近代) ・昌徳宮 (最後の国王、植物園、動物園)

7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成 ・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動
10	1970、80、90 年代	・済州島四三事件の真相究明 (歴史の再評価) ・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回、授業資料を配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。

『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』(平凡社) 2014 年

『日韓でいっしょに読みたい韓国史』(明石書店) 2014 年

『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』(青木書店) 2006 年

『学び、つながる日本と韓国の近現代史』(明石書店) 2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するために、毎回小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。小テスト (70%)、期末試験 (30%) で評価する方針である。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

S A 韓国 2 年生はかならず受講してください (韓国人に「こんなことも知らないの?」と驚かれないように)。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

LANk300GA

朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山 政春

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を音声、文字、語彙、文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって、朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています。

具体的には大学入試センター試験「韓国語」を解く一方で、必要に応じてプリントを配布しながら、上の内容について解説を進めていきます。それ以外に、日頃接する機会の少ない、北朝鮮の言語と、さらに方言と古語の「ざわり」をやりたいと思っています。

【到達目標】

この授業は、実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が、その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで、ブロークンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

みなさんには、少なくとも朝鮮語を2年（週2コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます。他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが、ついていくにはかなりの努力を要します。みなさんにはある程度の子習をしてきてもらい、答える準備をしておいてください。そのためにも「出たり出なかったり」というのは困ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	資料配布とやり方の説明
2	つづりと発音	資料に基づいて問題を解く
3	漢字音	資料に基づいて問題を解く
4	用言の活用	資料に基づいて問題を解く
5	用言の語尾、助詞	資料に基づいて問題を解く
6	各種表現の和文朝訳1 (日本語との表現の違いなど)	資料に基づいて問題を解く
7	各種表現の和文朝訳2 (置き換え可能な表現など)	資料に基づいて問題を解く
8	各種表現の和文朝訳3 (慣用句など)	資料に基づいて問題を解く
9	会話文1（短文；語彙問題）	資料に基づいて問題を解く
10	会話文2（短文；文法問題）	資料に基づいて問題を解く
11	会話文3（長文）	資料に基づいて問題を解く
12	北朝鮮の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについて解説する。
13	方言	主に韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについて解説する。
14	古語	訓民正音を見ながら現代語との違いについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「この授業のため」というのではなく、授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に必要に応じて説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とレポート（20%）によります。あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのには上に書いたとおりですが、にもかかわらず、シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います。そういう非常識なことはやめてほしいと思います。

韓国人留学生（朝鮮語母語話者）の受講者の受講も歓迎しますが、単に「簡単そうだから」受講するのではなく、「なぜそうなのか」自分の母語を振り返る機会を持つという意欲のある者に受講してほしいと思います。前回散見された、授業中（授業内容とは無関係に）スマホを見てばかりの学生などがいた場合、途中でやめてもらうことになるかもしれません。

【学生が準備すべき機器他】

SA後、朝鮮語に直接関連する授業は、この授業のほかに「朝鮮語アプリケーション」が通年1コマあるだけ、というのが残念ながら現状です。SA韓国の学生はこの授業を「アプリ」と合わせて履修することが望めます。

【その他の重要事項】

履修者の状況によっては、授業を朝鮮語で行いません。またおそらく少人数の授業になると思いますので、受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.

ART300GA

【2021 年度休講】 アジアの伝統芸能

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国には「戯曲」と総称される 300 種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される 400 種ほどの語り物がある。こうした芸能を通じて、中国庶民の文芸世界を垣間見ようというのが本講義の目的である。中国の庶民が、どのような物語に笑い、怒り、涙したのかを、彼らの一番身近にあったメディアを通じて追体験していく。

授業では、できるだけ多くの映像資料を使い、中国の伝統芸能とそこから生まれた音楽や映画などの世界を体感していきたい。

【到達目標】

この授業を通じて、中国の伝統芸能の全体像とその代表的作品、演出・技法などを体系的に学び、そうした伝統文化が新たな文化の創出にどのような役割を果たすかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は Zoom によるオンラインで行う。通信環境が十分でない、あるいは問題が生じた受講生のために、別途教材用ページを用意し、授業に使用するスライドの PDF や映像資料などをアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～講義の目的と内容について	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第 2 回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能にはどのようなものがあるのかを概観する
第 3 回	伝統芸能の美～川劇「白蛇伝」を例に	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 4 回	川劇「白蛇伝」の世界（一）	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 5 回	川劇「白蛇伝」の世界（二）	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 6 回	白蛇故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「白蛇伝」の歴史の変遷について学ぶ
第 7 回	現代によみがえる伝統芸能～「梁山泊と祝英台」を例に	中国の四大民間故事の一つである「梁山泊と祝英台」が、民間伝承から伝統芸能、西洋音楽、映画へ発展いく過程を学ぶ
第 8 回	映画「舞台姐妹」から見た中国の伝統演劇	中国の伝統演劇の一つである越劇の女優たちを描いた映画「舞台姐妹」を通じて、役者たちの近代への歩みを学ぶ
第 9 回	中国のロミオとジュリエット～越劇「梁山泊と祝英台」の世界	越劇を通じて、中国のロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山泊と祝英台」の物語を学ぶ（一）
第 10 回	中国のロミオとジュリエット～越劇「梁山泊と祝英台」の世界	越劇を通じて、中国のロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山泊と祝英台」の物語を学ぶ（二）
第 11 回	伝統演劇から西洋音楽へ～バイオリン協奏曲「梁祝」	民族の交響曲と呼ばれる、越劇の旋律を主題として作曲されたバイオリン協奏曲「梁祝」の成立の過程を学ぶ
第 12 回	伝統演劇から現代のメディアへ～映画「梁祝」	映画など現代のメディアが描く「梁山泊と祝英台」の世界を学ぶ
第 13 回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁山泊と祝英台」の歴史の変遷について学ぶ
第 14 回	中国伝統芸能の現在	中国伝統芸能の現状について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、その日の学習のふりかえりとして、学習支援システム（Hoppii）に「課題」に学習内容のまとめと、授業への意見・感想などを 400 字程度で記入し、提出する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

①毎回の授業後に提出する課題（90 %）

②期末レポート（10 %）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の開講した際、LGBT への配慮に欠く内容があるとの指摘を受けたため、その部分を修正した。

【学生が準備すべき機器他】

授業は Zoom を使ったオンラインで行うため、安定した通信環境を準備していただきたい。

【Outline and objectives】

In China, there still remains more than three hundred forms of theatres and around four hundred types of traditional performing arts. This course aims to increase students' knowledge and understanding of Chinese folk literature through appreciating and studying these performing arts.

ARSh300GA

アフロ・アジアの文化

江村 裕文

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人にとって意識の上で一番遠いと考えられるのが「アフロ・アジア」地域、つまり北アフリカから中近東にまたがる地域のことである。

本講では、「地理的」あるいは「歴史的」にこの地域にアプローチを試みるのではなく、主にユダヤ教・キリスト教・イスラームという精神的（宗教的）な面からのアプローチを試みる。これらの宗教を、可能な限り現在の我々日本人との関係に重点を置いて紹介したい。

【到達目標】

2011年の「アラブの春」以降、ガザ地区におけるハマスとイスラエルの戦闘、また先が見えないシリアのアサド支持派と反政府派との戦闘、さらにそのシリアおよびイラクのシーア派政権に対抗して勢力を拡大する「IS（イスラム国）」、シーア派のイランとスンナ派のサウジの対立など、この地域で起こったまた起こりつつある事態に対して、正確な知識を得て、この地域に関するメディア・リテラシーを高めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

以下の「授業計画」で提示した各テーマについて、それぞれ原理的・理論的な解説、具体的な事例紹介、DVD視聴などを通して、多角的にこの地域について紹介していく。

扱うべきテーマ等があれば、適宜授業内で取り上げ、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アフロアジアとは何か」	オリエント・中東（中近東）・中東北アフリカ・アラブ・イスラーム地域の自然と国家
2	「宗教」について	「宗教」とは何か
3	「聖書」について	「聖書」の成り立ちと歴史、その内容
4	「ユダヤ教」について	i 「ユダヤ教」の成り立ち、歴史的背景
5	「ユダヤ教」について	ii 映画《十戒》鑑賞
6	「ユダヤ教」について	iii 「ユダヤ教」の特徴、経典と教義
7	「キリスト教」について	「キリスト教」の成り立ち、歴史的背景
8	「キリスト教」について	i 映画《受難》鑑賞
9	「キリスト教」について	ii 「キリスト教」の特徴、経典と教義
10	「イスラーム」について	iii 「イスラーム」の成り立ち、歴史的背景
11	「イスラーム」について	i 映画《メッセージ》鑑賞
12	「イスラーム」について	ii 「イスラーム」の特徴、経典と教義
13	「パレスチナ問題」	iii 「パレスチナ問題」の歴史的背景
14	「パレスチナ問題」	ii 記録《エルサレム物語》鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「アラブの春」民主化運動や、ガザ地区を中心に起こったハマスとイスラエルの対立、ロシアのシリア介入、「イスラム国」等、流動的なこの地域に関するメディア等の報道に気を配り、関心を高める努力をしていくこと。授業では解説を試み、複雑に絡まっている現状の糸を解きほぐしていく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。参考文献のリストを紹介するので、各自の興味にしたがって、読書を進めてほしい。

【参考書】

配布する参考文献リストを参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験60点、合計100点で評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

以下は受講した学生が書いてくれた感想の一部である。

以前から日本人は宗教に無縁だと考えていたが、実際はそうではないことを実感した。

イスラーム、アラブ、難民問題などは遠い世界のことだと思っていたが、SAを通してテロを身近に感じるとともに、この世界の問題が日本の経済や社会に直接影響があるのだということがわかった。

【その他の重要事項】

授業予定はあくまでも予定である。「アフロアジア」地域で新たな展開があれば、臨機応変にそのつど取り上げたいと考えている。

【Outline and objectives】

The area thought to be the farthest for Japanese is "Afro-asiatic" area, namely middle east and north africa.

In this class, we try to approach to this area by religious way, Judaism, Christianity, and Islam.

To know the religions in this area is important to understand the civilization of the modern world and the future.

ARSb300GA

【2021 年度休講】 ロシア・中央アジアの文化

油本 真理

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中央アジアの過去と現在について、特にロシアとの関係性に注目して学ぶ。

【到達目標】

(1) ロシアおよび中央アジア諸国の歴史と現状に関わる様々な事項を説明できる。(2) ロシアと中央アジアの類似点及び相違点について自分なりに考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では主に近代以降の歴史を振り返ったのち、文化と社会に関わる様々なテーマを取り上げて検討を加える。また、ロシア・中央アジアをめぐる国際関係についても考察する。

2020 年 8 月追記：本講義はオンラインリアルタイム形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の分析視角
2	中央アジア地域の概要	民族・宗教・文化
3	ロシア・中央アジアの歴史①	帝政期
4	ロシア・中央アジアの歴史②	ロシア革命
5	ロシア・中央アジアの歴史③	ソ連時代
6	ロシア・中央アジアの歴史④	体制転換とその後
7	ロシア・中央アジアの現在①	国家と社会
8	ロシア・中央アジアの現在②	市場と社会
9	ロシア・中央アジアの現在③	宗教
10	ロシア・中央アジアの現在④	家族・ジェンダー
11	ロシア・中央アジアの現在⑤	ナショナリズム
12	ロシア・中央アジアと世界①	旧ソ連圏内の国際関係
13	ロシア・中央アジアと世界②	対米欧・対中関係
14	まとめと確認	講義内容のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通して置く。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前にアップロードする。

【参考書】

小松久男（編）『世界各国史 4 中央ユーラシア史』山川出版社、2000 年。
宇山智彦・樋渡雅人（編）『現代中央アジア 政治・経済・社会』日本評論社、2018 年。

湯浅剛『現代中央アジアの国際政治 ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』明石書店、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末レポート（50%）。（2020 年 8 月変更）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は 2020 年度が初年度となるため該当しない。

【Outline and objectives】

This course aims to gain a good understanding of the history and various current affairs concerning Central Asia. Special attention will be paid to its relationship with Russia. After reviewing the modern history of Central Asia, we will explore various key topics regarding the culture and society of the region. We will also consider the international relations surrounding Central Asia.

ARsB300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的諸要因から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国それぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアの2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに意見や質問を書いてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、次週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。

第4回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パルフィ・ジョルジ、タル・ベアラらの独特な作風の映画を紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録について。
第7回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイダ作品を鑑賞しながら検討。
第8回	ポーランド：映画と文学をめぐって	ボランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンケヴィチ、シュルツ、ミウォシュ、シンボルスカ、レムラ作家や詩人を紹介。
第9回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第10回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第11回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コリーヤ、愛のプラハ』を紹介。
第12回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第13回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第14回	まとめ	これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリーにある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。期末レポートの作成には、1週間程度かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システム等で配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、コメントシート 25%、期末レポート 25%に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

大教室での授業となる可能性があります。静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、皆さんの協力を期待します。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process we will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.

ARSa300GA

【2021 年度休講】ドイツ語圏の文化 I

林 志津江

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近現代ドイツの歴史と文化】

ドイツ語圏のうち、主に近現代のドイツとオーストリアを扱います。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなすとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。ドイツ帝国の成立から二度の大戦、東西冷戦と分断国家の成立、ドイツ再統一とその後に至る歴史を、文化と芸術を通じて概観します。

【到達目標】

第1の目標は、近現代ドイツ語圏の文化と歴史に関する理解を深めるとともに、抽象的概念や文化に対する知的なアプローチの方法を学ぶことです。第2の目標は、アイデンティティの実体や困難に対する思考・反省能力の涵養です。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には「日本ならでは…」の正体はあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの価値とその面白さを、「ドイツ語圏」を通じて体験してみてください。第3の目標は、表象文化や芸術の形式分析を通じて、抽象的な議論になれることです。文化現象を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけでなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

(4 月 20 日修正)

授業開始日：4 月 23 日

*4 月 30 日以降3回程度、「明治期日本の知識人がドイツで学びもたらした衛生学と細菌学」（日本の西洋医学受容史）に内容を変更します。

*以後、授業内容・方法の変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。

*Google Classroom をツールとして使用する可能性があります。

19 世紀末～20 世紀のドイツ語圏の文化現象・表象芸術を、時系列に沿って扱います。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ベアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、参加者が相互に授業内容の理解を深める機会とします。各授業後には一定量のコメント（小レポート）を書き提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第 2 回	「国歌」を歌うー「ドイツ人」としての誇り?!	ハイドン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797 年）、H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841 年）
第 3 回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリン	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947 年）／『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850 年）／『鉄匠延機工場』（1872-1875 年）
第 4 回	揺れるオーストリアーヴィーンのワルツ・ビジネス	「父と息子の確執」？ J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』（1867 年）、ヴィーン工房と分離派
第 5 回	「若者の時代」の到来ードイツ発「イズム」の誕生	E.L. キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912 年）／『ポツダム広場』（1914 年）ほか
第 6 回	戦争と「反芸術」ー言葉の無力をめぐる音	H. バル『ダダ宣言』（1916 年）、K. シュヴェッター『メルツ絵画』（1919 年～）ほか
第 7 回	審美力から機能主義へー「バウハウス」の誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919 年）／デッサウのバウハウス校舎（1925 年）、O. シュレンマー『トリアディック・バレエ』（1922 年）

第 8 回	ハイパーインフレと虚無の後でー機械の時代の芸術	O. デイツクス『大都会』（1927/28 年）、C. シャート『ソーニャ』（1929 年）、A. ザンダー『20 世紀の人々』（1929 年） バウハウスの終焉とニュー・バウハウス、「頽廃芸術展」「大ドイツ芸術展」（1937 年） 「私は音楽がやりたいだけなので」、フルトヴェングラーと近衛秀麿のベルリン・フィル 第 1 回～第 5 回ドクメンタ、J. ボイス『7000 本の樫の木』（1982-1987 年）ほか
第 9 回	ナチスの権力掌握ーダダと表現主義とバウハウスの行方	G. リヒター『1977 年 10 月 18 日』（1989 年）／ケルン大聖堂のステンドグラス（2006 年）ほか
第 10 回	余暇を支配するー「ユダヤ系」の人々の行方	Th. プルスィヒ『太陽通り』（1999 年）、ベルリンの「ラブ・パレード」（1989-2010）
第 11 回	ドイツにモダニズムを取り戻すー「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」（アドルノ）	今学期のまとめ
第 12 回	経済の奇跡と「過去の克服」ー「お父さんとお母さんはナチだったの？」	
第 13 回	闘争の音・ベルリンの壁ー「聴いてはいけない音楽」そしてクラブカルチャー	
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備えて準備すること。
・首都圏近郊の美術館（「キャンパス・メンバーズ」を活用）等で実際に様々な作品に触れること。

【テキスト（教科書）】

各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017 年
・宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001 年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加と貢献・小レポート（リアクションペーパー）（50%）
・学期末レポート（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必ず筆記用具を用意してください。携帯電話等のデジタルガジェットをメモがわりに利用することは認めません。

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era: It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ARSA300GA

ドイツ語圏の文化Ⅱ

熊田 泰章

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ（昔のドイツ・東ドイツ・西ドイツ・統一後のドイツ）とオーストリア、スイスにおいて、ドイツ語で書かれた文学作品を読む。それによって、ドイツ語によって構築される文化についての考察を行なう。加えて、他の文化圏への参照を行う。

言語使用における理解の仕組みについて考え、インターカルチュラルリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を中心に置き、言語テキストを解析することを通して、異文化間の理解と誤解の実例としてテキストを分析する。

言語芸術としての文学作品の作品性も合わせて分析する。

☆作品は、日本語翻訳として出版されているものを用いる。

ドイツ語の知識は必須ではない。

☆他の文化圏で書かれているドイツ語以外の作品（日本語版）を対照として読む。

【到達目標】

インターカルチュラルリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を理解する。
異文化間の理解と誤解の成立について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

作品を読みながら、考えていく授業です。

作品例として以下のものを予定しています：

クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』

エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』

エーリヒ・ノサック『盗まれたメロディー』

オルハン・パムク『雪』

ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』

ミュリエル・バルベリ『優雅なハリネズミ』

カズオ・イシグロ『チェリスト』

アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』

グリム『グリムの昔話』

アゴタ・クリストフ『悪童日記』

などから選びます。

また、受講者からの提案も入れて取り上げる作品を組み立て直すことも行います。

採用する作品については、学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の確認、作品の提案と概説。
第2回	作品1：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』	作品1：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説
第3回	作品1：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』	作品1クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説のまとめ
第4回	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説
第5回	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説のまとめ
第6回	作品3：オルハン・パムク『雪』	作品3：オルハン・パムク『雪』の読解と解説
第7回	作品3：オルハン・パムク『雪』	作品3：オルハン・パムク『雪』の読解と解説のまとめ
第8回	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説

第9回	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説のまとめ
第10回	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説
第11回	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説のまとめ
第12回	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説
第13回	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説のまとめ
第14回	まとめ	これまでの作品のまとめ 授業で学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読みきれなかった作品を読み通す。

取り扱う作家と作品の背景について調べる。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

選定した作品を用い、学習支援システムで閲覧する。

【参考書】

熊田泰章「テキスト外参照性を封じる語り手の声—アゴタ・クリストフ『悪童日記』における拒絶する語り—」法政大学国際文化学部紀要『異文化』10号、法政大学国際文化学部、2009年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課す。

その上で、最後に期末試験を行なう。

ミニレポート 50%、期末試験 50%。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

作品内容を文化圏の諸事情に即して理解することがポイントである。

【学生の意見等からの気づき】

学生の提案を反映していきます。

前年度まで学内役職に就いていたため、その任期の間、この授業は担当していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもあります。

受講者数を適切に保つために、開講時に以下の処置を行います：

初回授業は対面授業を実施せず、学習支援システムで教材と課題を掲示する。

受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline and objectives】

We read literary works written in German in Germany (old Germany, East Germany, West Germany, Germany after reunion), Austria and Switzerland. It gives a consideration of the culture constructed in German. In addition, we make references to other cultural areas, thinking about the mechanism of understanding in language use, focusing on the important concepts of interculturality and intertextuality, and analyzing language texts. We analyze texts as an example of cross-cultural understanding and misunderstanding. The workability of literary works will be also analyzed.

☆ We use works published as a Japanese translation. Knowledge of German is not essential. ☆ We read Non-German works (Japanese version) written in other cultures as a contrast.

PHL200GA

フランス語圏の文化 I (思想)

大中 一彌

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の目的】この授業では、17世紀から18世紀のフランスにおける思想と文化をめぐり、いくつかの作品を概観する。この授業における学びは、それを身に付ければ何かがすぐにできるということの意味での実学ではない。しかし、近代社会の基本的な枠組が一よかも悪くも一西ヨーロッパにおいて形づくられた時代であり、この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱えている価値観を、より奥行きのある、より洗練されたものにしていくのに役立つ。

【授業の概要】

※世界史以外を受験のさいに選んだ人を中心に、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下記述する。

・デュビュ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みで囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性をもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

・17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止（1685年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約2000万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。

・イギリスとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地である18世紀フランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。1700年代後半になると、こうした批判を含め、米州からロシアまで含む拡張されたヨーロッパ世界の中～上流階級において多少とも共有されていた、洗練された文化・文明のあり方そのものが、自然のままであれば善良であったはずの人間を墮落させてしまったという主張さえ流行する。ジャン＝ジャック・ルソーの『学問芸術論』や『人間不平等起源論』が、この種の主張の代表格である。

・少数派の立場にたいする寛容や、「自然に帰れ」といった文化的理想、また宗教的狂信と暴力の関係をどのように考えるかという主題は、17～18世紀フランスの思想が、21世紀の私たちに投げかける重い課題である。

【到達目標】

1. 各回のテキストの講読をつうじて、17世紀から18世紀にかけてのフランスにおける思想と文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
2. 各回のテキストに登場する人物や作品から主題を選び、いわゆるステレオタイプに陥らない形で、その思想に関する理解を深める。
3. 少数派の立場にたいする寛容や、「自然に帰れ」といった文化的理想、また宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

・受講者数にもよるが、基本的には毎回の授業時間＝100分を、(ア)教員による講義と、(イ)受講者の皆さんからの発言・発表に分ける形式を想定している。

・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行うが、学習支援システムやGoogle Classroomも利用する場合がある。

・語学の授業ではないため、フランス語の能力は求めない。

・期末のテストやレポートは課さない。授業中の活動への参加を重視する。

・この授業は秋 semester（後期）科目である。このシラバスを執筆している2021年2月の段階で、2021年9月～2022年1月の感染拡大状況を予想するのは困難であり、教室における対面授業ができる場合、オンライン授業になってしまう場合、両方を想定しているが、どのような比率になるかは秋 semester 開始以降の感染状況、法政大学の方針を踏まえ決定する。ただし、いずれの授業形態の場合も、授業の進め方や方法には、あまり影響はないと考えている。

・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方の説明 ※「内容 / Contents」欄に書いてあるのは次の回で使うテキストです。	第2回で使うテキスト 石井洋二郎『フランス的思考』4-5頁 アンドレ・シーグフリート『西欧の精神』福永英二訳、第3章「フランス人の知性」46-75頁。 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説—まんがで読破—』第4章「形而上学の基礎」84-135頁。
第2回	「フランスの」思想？	第3回で使うテキスト ボワロー『詩法』解説（守屋駿二）20-40頁。 ヴィクトール・リュシアン・タビエ『バロック芸術』高階秀爾・坂本満訳、第二章「フランスのバロックと古典主義」88-105頁。 アラン・バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』鳥取絹子訳、第7章「ル・ノートルと我われ庭師」115-146頁。

- 第3回 古典主義あるいはフランス式バロック 第4回で使うテキスト
エルンスト・カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』朝倉剛・羽賀賢二訳、第2章「悲劇概説」41-45頁。
高階秀爾『フランス絵画史』第2章「17世紀フランスの絵画」第3節「古典主義の成立」85-102頁。
コルネイユ『コルネイユ名作集』ル・シッド論争「論争概観」（皆吉郷平・橋本能）488-490頁。
- 第4回 「1636年の英雄たち」 第5回で使うテキスト
セヴィニエ夫人『セヴィニエ夫人手紙抄』井上究一郎訳、23-29、138-150頁。
エリアス『宮廷社会』波田節夫・中埜芳之・吉田正勝訳、106-115、129-139頁。
モリエール『町人貴族』鈴木力衛訳、33-35、105、155-157頁。
- 第5回 習俗の純化 第6回で使うテキスト
ボシュエ「アンリエット・ダングルテール追悼演説」
フィリップ・ド・シャンパーニュ「ヴァニタス」（アラン・タビエ&ニコラ・サント・ファール・ガルノ編『フィリップ・ド・シャンパーニュ 政治と敬神の間』148-151頁）
高階秀爾『フランス絵画史』第2章「17世紀フランスの絵画」第2節「フランス精神の勝利」59-66頁。
パスカル『プロヴァンシアル（田舎人への手紙）』「第1の手紙」と「解説」、中村雄二郎訳、373-378、428-429頁。
- 第6回 ヴァニタスと神の恩寵 第7回で使うテキスト
フェヌロン『テレマックの冒険』下、朝倉剛訳、巻10-11。
ガクソット『フランス人の歴史』第2巻、第19章「リシュリウとヴェストファーレン条約」451-469頁。
林田信一『ルイ14世とリシュリウ』26-39、46-55頁。
- 第7回 絶対王政と王国の基本法（リシュリウ、マザラン） 第8回で使うテキスト
ラ・フォンテーヌ『寓話』今野一雄訳「都会のネズミと田舎のネズミ」「王さまを欲しがるかエルたち」「ハゲタカと鳩」27-29、55-57、133-135頁。
ペロー『ペロー童話集』新倉朗子訳、「眠れる森の美女」「赤ずきんちゃん」「サンドリヨンまたは小さなガラスの靴」157-180、211-214頁。
- 第8回 テキストを分析する① 寓話について 第9回で使うテキスト
ラ・ロシュフーコー『ラ・ロシュフーコー箴言集』二宮フサ訳、11-15、56-57、80-87、147-153頁。
田中仁彦『ラ・ロシュフーコーと箴言 太陽も死も直視できない』11-68頁。
- 第9回 テキストを分析する② 恋愛について 第10回で使うテキスト
パスカル「大貴族の身分に関する講話」（伊吹武彦・渡辺一夫・前田陽一『パスカル全集』I 161-168頁）
パスカル『パンセ』塩川徹也訳（上）71-75、80-89、92-93、105-117、124-127、238-259頁。
拙稿「パスカルにおける情念と政治」
- 第10回 テキストを分析する③ 力と正義について 第11回で使うテキスト
赤木昭三『フランス近代の反宗教思想—リベルタンと地下写本』第1部第5章「17世紀後半のリベルタン」、第2部第3章（1）「軍人哲学者」54-68、149-162頁。
モリエール『ドン・ジュアン』鈴木力衛訳、38-45、50-53、78-81頁。
フォントネル『世界の複数性についての対話』赤木昭三訳、第三夜「月世界の特徴および他の惑星にも人が住んでいること」78-102頁。
- 第11回 リベルタン 第12回で使うテキスト
モリエール『人間嫌い』内藤濯訳、第1幕第1場、第2幕第2場。
矢橋透『劇場としての世界—フランス古典主義演劇再考』第2章「仮面の劇—モリエール『人間嫌い』について—」41-72頁。
ジャン・ルーセ『フランスバロック期の文学』伊藤廣太・齋藤磯雄・齋藤正直他訳、第3章「変装とまやかし（悲喜劇）」、第8章「文学におけるバロック」67-108、270-311頁。
- 第12回 仮面 第13回で使うテキスト
「枢機卿によるラ・ロシュフーコーの肖像」
ラ・ブリュイエール『人さまざま（キャラクター）』上・中、関根秀雄訳、第3章女について 第11章人間について。
辻邦生「ブッサンの遺言」
- 第13回 ボルトレ 第14回で使うテキスト
ラ・ロシュフーコー『箴言集』など、第1回から第12回までに使ったテキスト全部。
- 第14回 自画像を作ってみる。 モラリスト風の文章により自画像（オートポルトレ）を描く。授業支援システムを利用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 教科書の次回の範囲を予習してきてください。
(イ) 指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。
(ウ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

授業計画の内容で毎回のテキストを指示してある。ただし、第1回授業時に、とりあげるテキストの一部を差し替えた授業計画を配布する場合があります。

【参考書】

- 参考となる映像作品：
第1～2回に関して、パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
第3～4回に関して、ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000年。

第 5～6 回に関して、エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969 年。

第 7～8 回に関して、リュック・ベッソン監督『狼 (チャンネル No.5 の広告)』1998 年。

第 9～12 回に関して、ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973 年。
参考となる音楽作品：

夜の王のコンサート (夜の王のバレエに基づく) ※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない (0%)
- (イ) 期末レポート：実施しない (0%)
- (ウ) 授業への参加 (30%)
- (エ) 授業時間外の準備を必要とする学生による発表 (30%)
- (オ) 担当範囲外における発言など積極的な参加 (30%)
- (カ) その他 (運営協力や講師のミスの指摘) (10%)

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

(ア) 特にオンラインで行う授業回が混じった場合、あまり過剰な学習負担とならないよう配慮しています。

(イ) 法政大学が提供している LMS (学習支援システム-Hoppii や Google Classroom) を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

(ウ) 2020 年度に開講された科目では、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を含めた、動画や音声の掲載を行いました。

(エ) 就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

(オ) 2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして (強制はしません)、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

(ア) 資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上 (学習支援システム-Hoppii 等) で行いません。

(イ) パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行っていただく場合があります。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントを使って練習をしてください。

(ウ) 学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

(エ) 法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト / VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①「授業計画」の内容については、第 1 回の授業で、使用するテキスト類をさしかえた「授業計画」を配布するかたちで変更する場合があります。

②市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

③学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

④履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「フランス語圏の文化 I (思想)」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral presentations in Japanese will be required.

ART200GA

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学ぶ。

【到達目標】

エポック・メイキングな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになる。あわせて、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行う。

コメントシートに関するフィードバックは授業内や hoppii で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	クロード・ロラン ニコラ・プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド1 (キュビズム、フォーヴィスム)	ピカソとマチス ドローネーの抽象絵画
第9回	アヴァンギャルド2 (ダダイスム、シュルレアリスム)	デュシャン、エルンスト、ダリ、ブニュエル
第10回	エコール・ド・パリと詩的リアリズム	ユトリロ、藤田 クレール、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	アジェ、ブラッサイ、カルチエニブ レッスン
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ	バザン、トリュフォー、ゴダール
第13回	フランス現代美術	クライン、クリスト、ボルタンスキー
第14回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に美術展へ行ったり、画集やDVDなどを鑑賞すること。

【テキスト（教科書）】

プリントで代用する。

【参考書】

随時挙げる。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50%）+期末試験（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline and objectives】

We take a general view of history of French fine art, photography and movie.

LIT200GA

【2021 年度休講】 フランス語圏の文化Ⅲ（文学）

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世時代から現代にいたるまでのフランス語圏の文学の概説。

【到達目標】

フランス語圏の文学の基礎知識を深める。

さまざまな仏文学潮流の代表的な作品の抜粋を読み、分析研究をする。十九世紀から非常に盛んになった大衆文学の研究も主に探偵・ミステリー小説を通して行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

豊かなフランス語圏の文学の概説をするのは容易ではないが、いくつかの名作の抜粋を通して、この探検を試みる。

フランス語圏の文学の様々な潮流やその歴史的な背景の概説も必要であるが、なるべく原文に没入し解説を試み、その芸術的な喜びを味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中世の文学	授業紹介 フランス文学の最初の作品
②	ルネッサンスの文学	詩とエッセー
③	十七世紀の文学	寓話詩と芝居
④	十七世紀の文学	芝居と小説
⑤	十八世紀の文学	エッセーと小説
⑥	十八世紀の文学	小説と芝居
⑦	十九世紀の文学	エッセーと小説
⑧	十九世紀の文学	小説と詩
⑨	十九世紀の文学	詩と芝居
⑩	二十世紀の文学	エッセーと小説
⑪	二十世紀の文学	小説と詩
⑫	二十世紀の文学	詩と芝居
⑬	二十一世紀の文学	小説
⑭	現代大衆文学	ミステリー小説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書は限定するので（莫大な読書量にはならない）、あらかじめ指定された箇所はしっかり読んでおくこと。
本授業の準備・復習時間は、2時間～を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

開講時指示

【成績評価の方法と基準】

1) フランス語や日本語による発表：50%
2) 期末レポート：50%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

この授業はフランス語または日本語で行う（英語も可）。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないが、パソコン、録音機の持参推奨

【Prerequisite】

一定のレベル（2年間学習済、DELTA A2以上）の仏語学力が望ましい。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

Overview of French literature from middle-age to 20th century. Some representative works from each period will be studied closely.

ARSA200GA

【2021年度休講】フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業開始日は、4月24日（金）となります。】

世界5大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マダガスカル、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知る。
- (2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知る。
- (3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説 ・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明
2	I. カリブ海域諸島①	【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	I. カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	I. カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	II. カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】 フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	II. カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	III. マダガスカル（北アフリカ諸国）①	・マダガスカル島の歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	III. マダガスカル（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係

10	III. マダガスカル（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。

- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。
- ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002年。
- ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院、2013年。
- ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房、2003年。
- ・明治大学中央図書館蔵の「ケベック文庫」
- ・鶴戸聡著、『アラブ・フランコフォニーと越境の文学』『反響する文学』（土屋勝彦編、名古屋大学『人間文化研究叢書』創刊号）、風媒社、2011年。
- ・梶茂樹・砂野幸裕編著、『アフリカのこぼれと社会：多言語状況を生きるということ』三元社、2009年。
- ・岩本和子著、『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナルリズムの変遷』松籟社、2007年。
- ・法政大学多摩図書館蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

- ・評価配分は、以下の通り
- ①平常点（コメントシートなど）：30%
- ②期末レポート：70%

・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料に基づいた講義を行うが、説明が緩慢にならないように、映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつける。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としない。

【Outline and objectives】

This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.

HUMc200GA

【2021 年度休講】北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米大陸のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとし、オムニバス形式にて各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会について学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の 2 回ずつ（合計 4 回）は、一人の教員担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（10 回分）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について 説明 ・フランス語圏（フランコフォニー） の歴史・社会・言語状況などについて 概説
第 2 回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語 圏（フランコフォニー） の広がり ・ケベック州とはどのような 地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社 会状況を概説する
第 3 回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第 4 回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第 5 回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者 から学ぶ
第 6 回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学 ぶ
第 7 回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基 づいて学ぶ。
第 8 回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学 ぶ。
第 9 回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基 づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題な ど）。
第 10 回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基 づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問 題など）。
第 11 回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づい て学ぶ（舞台芸術など）。
第 12 回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づい て学ぶ（文学・映画など）。
第 13 回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づい て学ぶ（音楽・ダンスなど）。

第 14 回 総括

- ・本授業の全体のまとめ
- ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。
- ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の授業をより深く理解するためにも、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州に関する情報を集めて頂きたい。
- ・期末レポート執筆のためにも、配布資料についても熟読して頂きたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

- ・各分野の参考書は、各授業において提示する。
- ・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』エリアスタディーズ・72 巻、明石書店、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40 %
②期末レポート：60 %
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内容について、より多様性が富んだものにする。
- ・質疑応答の時間を出来るだけ設けるようにする。

【その他の重要事項】

- ・初回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席すること。
- ・毎年度秋学期に開講予定の授業であるが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありうる。

【Outline and objectives】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

ARSa300GA

スペイン語圏の文化 I

久木 正雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：スペイン語圏の文化 I（多言語国家スペイン）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は
 抽選とする

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域と言語・民族の多様性と、それらの歴史的層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセロナ大学への SA に参加する 2 年生は、バルセロナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】

スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	スペイン史概説（先史時代～中世）	スペインの自然環境（地勢と気候）と、先史時代から古代・中世までのスペイン史（イベリア史）への理解を得る。
3	スペイン史概説（近世・近代）	国家と地域との関係に留意しながら、近世と近代のスペインに関する通史的な理解を得る。
4	スペイン史概説（現代）	内戦とフランコ体制期を中心として、自治州国家体制へと至るスペイン現代史（20 世紀）に関する理解を得る。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々（前近代）	「三宗教の共存」と称される中世スペインの宗教的・民族的多様性と、近世以降の展開への理解を深める。
7	宗教と人々（近現代）	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。
8	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
9	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
10	都市と建築	バルセロナに焦点を当てて、都市計画とアントニー・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
11	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
12	サッカー	スペインの国民的なスポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
13	スペインと日本	今日でも官・民のさまざまなレベルにおいて密接な係わりをもつ、スペインと日本との関係への理解を深める。
14	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高（編著）『概説 近代スペイン文化史— 18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784623066759。

【参考書】

- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013 年、本体価格 860 円、ISBN9784582856743。
 - 田澤耕『物語 カタルーニャの歴史—知られざる地中海帝国の興亡 増補版』中公新書、2019 年、本体価格 920 円、ISBN9784121915641。
 - 立石博高『スペインにおける国家と地域—ナショナリズムの相克』国際書院、2002 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784877911140。
 - 立石博高『歴史のなかのカタルーニャ—史実化していく「神話」の背景』山川出版社、2020 年、本体価格 2,750 円、ISBN9784634151628。
 - 立石博高・内村俊太（編著）『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750344157。
 - エドゥアルド・メンドサ（立石博高訳）『カタルーニャでいま起きていること—古くて新しい、独立をめぐる葛藤』明石書店、2018 年、本体価格 1,600 円、ISBN9784750347578。
 その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加度：30%、プレゼンテーション：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】

この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化 II」との直接の連続性はない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域の歴史と、政治や経済、社会や文化をめぐる諸相について学ぶ。ラテンアメリカ（イスパノアメリカ）と総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちているが、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】

ラテンアメリカの諸相に関する基本的な理解を得て、各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ラテンアメリカ地域の特徴	「ラテンアメリカ」という呼称・概念をはじめとして、この地域に関する全般の特徴を学ぶ。
3	ラテンアメリカの歴史	先コロンブス時代から20世紀までのラテンアメリカの歴史を学ぶ。
4	ラテンアメリカの政治	近現代のラテンアメリカについて、政治的側面から学ぶ。
5	ラテンアメリカの経済	近現代のラテンアメリカについて、経済的側面から学ぶ。
6	ラテンアメリカの社会	近現代のラテンアメリカについて、社会的側面から学ぶ。
7	ラテンアメリカの文化	近現代のラテンアメリカについて、文化的側面から学ぶ。
8	メキシコ	メキシコの歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
9	中米地域	中米地域の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
10	カリブ海地域	カリブ海地域の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
11	アンデス諸国	アンデス諸国の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
12	ラブラタ地域	ラブラタ地域の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
13	ラテンアメリカと日本	ラテンアメリカと日本との関係について学ぶ。
14	アメリカ合衆国とヒスパニック	アメリカ合衆国に住まうスペイン語話者と、同国でのスペイン語の占める位置について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 国本伊代・中川文雄（編著）『ラテンアメリカ研究への招待 [改訂新版]』新評論、2005年、本体価格3,200円、ISBN9784794806796。
※必ず「改訂新版」を入手すること。

【参考書】

- 大泉光一・牛島万（編著）『アメリカのヒスパニック＝ラティーノ社会を知るための55章』明石書店、2005年、本体価格2,000円、ISBN9784750322353。

- 清水透『ラテンアメリカ五〇〇年—歴史のトルソー』岩波現代文庫、2017年、本体価格1,200円、ISBN9784006003722。

- 清水透・横山和加子・大久保教宏（編著）『ラテンアメリカ 出会いのかたち』慶應義塾大学出版会、2010年、本体価格3,500円、ISBN9784766417234。

- 高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年、本体価格1,905円、ISBN9784122052376。

その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加度：30%、プレゼンテーション：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPCは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

LANs300GA

カタルーニャの文化 I (言語 A)

VILA V RAQUEL

配当年次/単位：3~4 年 / 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カタルーニャの文化 I はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】

簡単なカタルーニャ語会話ができるようになります。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から (スペイン語やフランス語同様に) どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。

課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介一名前を伝える [カタルーニャ語とは?]	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la...
2	アルファベットと発音	カタルーニャ語とは? アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字 0-100 年齢、電話番号を伝える	数字 0-100 Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介一出身を伝える	国の名前/国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 [カタルーニャ語の歴史]	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史 [Historia de la llengua]
6	自己紹介一趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介一職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする [現在のカタルーニャ語]	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介一お住まいの話をする	住所 On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	人を紹介する	人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONEIXER 動詞
11	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima.
12	時間を尋ねる	Quina hora és? 今何時ですか A quina hora ...? 何時に... 日常生活の話

13 日常活動

Activitats quotidianes.
Què fas normalment?
普段は何をしていますか。
期末試験

14 試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」(白水社)
「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」 Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%
宿題提出 10%
小テストと期末試験 30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II」の受講もお勧めです。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

VILA V RAQUEL

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャの文化Ⅱはカタルーニャ語についての授業です。カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】

簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになります。また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活の話をする	日常活動 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩
2	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
3	物体	Porto les claus a la butxaca. 名詞の性、数
4	買い物	Què li regalaràs, a en Daniel? 買い物の会話
5	天気の話	Demà plourà. 天気の話 【未来形】
6	レストランで I	Què és això? カタルーニャ料理を紹介する
7	レストランで II	Què volen de primer? Em pot portar més pa? レストランで行う会話 PODER、VOLER 動詞 命令形
8	人を食事などに誘う	Vols sortir el cap de setmana? 義務を表す表現 Haver de その他の表現：Passa, passa. Seu, seu.
9	調子、感情を伝える I	Té mal de coll. 喉が痛い。
10	調子、感情を伝える II	Ha tingut un mal dia. 今日は嫌なことがあった。 現在完了形。
11	自分の過去の話をする	生年月日 数字100～ 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
12	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 Vaig anar al cinema.La pel·lícula no em va agradar gens.

13	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をすること。

カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント/PDFを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」 Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%

宿題提出 10%

小テストと期末試験 30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。

進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

VILA V RAQUEL

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという何を思い浮かべますか？ ガウディ？ パルサ？ それももちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というのが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ（ジュゼップ）・カレラスやムンセラ・カバリエ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の 80 % がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがありません。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思います。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】

カタルーニャ文化 III では、知っていなければいけない、基本的なカタルーニャの文化を学びます。カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスペイン語で行います。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができます。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民謡; カタルーニャの音楽家の芸術家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

プリントなどを授業中にも渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

その他、発表のために参考できる本、Web など。

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

平常点 50%

発表 30%

宿題の提出 20% この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですよ。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュウ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

VILA V RAQUEL

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021 年度は、国際文化学部生のみ 2～4 年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスペイン語で行います。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができますと思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでの カタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independentismo e identidad.
4.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかる カタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 La sociedad catalana (movilidad)	社会 - Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかる カタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかる カタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語 La escuela catalana. 発表
10.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表

12.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表
14.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

その他

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

平常点 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化Ⅲ かⅣ どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですよ。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture, paying special attention to the latest news.

ARSk300GA

【2021 年度休講】英語圏の文化 I（文化史）

宇治谷 義英

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世イギリス演劇の事情について、基本的な情報を学んだ後、英語で書かれた論文を読むことで、各時代状況の中で、英米のみならず日本などの異文化圏においても、それらの演劇作品がどのように変化をして大衆に受け入れられてきたか、そしてその今日性について、他者とのディスカッションもおこなうことによって、学生一人一人が確認していく。

【到達目標】

異文化間における交流、つまり異文化間コミュニケーションを図るためには、異なる文化的背景を持った者同士が、お互いの文化を理解し合うことが必須である。そして、異なる文化的背景を持つ他者の文化的生産物 (cultural products) を受容、理解するためには、その異文化間に横たわる文化的境界を越境するもの、つまり架け橋のような要素の存在が重要である。

本授業では、時代を超えて英語圏を代表する作家である William Shakespeare の演劇を中心とした近世イギリス演劇を、「異文化圏間」、「異時代間」を縦横に巡る「越境性」、「今日性」をキーワードに、変化する時代、そして異文化圏、特に日本の文化と関連させて把握できるようにすること、そして演劇のみならず、時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになることを目指す。

さらには、英文で書かれた関連する論考を自分で読み解くこと、また特定の Shakespeare 作品の「越境性」「今日性」について受講生同士、そして外国人等の異なる文化的背景を持った人とのディスカッションを通して、自身による異文化の「越境」を体験することも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/24 正式授業開始です

基本的な事項の講義の後、あらかじめ割り当てられた受講生に劇作品および論文について発表をしてもらう。毎回リアクションペーパーの提出は必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「演劇から始める異文化理解」	その目的、今日まで廃れない理由について、日本における歌舞伎、新劇、小劇場文化、同時に各受講者の身近な演劇体験と比較しながら考察する
第 2 回	「劇場」	近世イギリスの劇場と現代との違い、そして日本の劇場との類似性について
第 3 回	「テキスト」	近世イギリス演劇の上演台本の事情と現代との違いと類似性について
第 4 回	「文化と社会」	文化的生産物 (cultural products) から当時の社会状況を割り出す意義
第 5 回	「近世イギリス演劇の今日性」	文化的生産物 (cultural products) が持つ、異文化間、異なる時代と場所を越える要素を見つける方法について
第 6 回	異文化間交流の実体験 (1)	事前に決めた Shakespeare 作品に関して、第 1 回から 5 回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える
第 7 回	論文の解説 A(1)	Shakespeare の「越境性」について、劇団と劇場から考える
第 8 回	論文の解説 A(2)	Shakespeare の「越境性」について、演劇性から考える
第 9 回	論文の解説 A(3)	Shakespeare の「越境性」について、大衆及び社会秩序との関連性から考える

第 10 回 論文の解説 A(4)

第 11 回 論考の解説 A(5)

第 12 回 論考の解説 B(1)

第 13 回 論考の解説 B(2)

第 14 回 異文化間交流の実体験 (2)

Shakespeare の「越境性」について、メディアの問題から考える

Shakespeare の「越境性」について、文学作品の観点から考える

文化的生産物 (cultural products) の異文化圏における受容の課題と意義について、第二次大戦前から 1960 年代以前の Shakespeare 作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える

文化的生産物 (cultural products) の異文化圏における受容の課題と意義について、1960 年代以降の Shakespeare 作品を題材にした米ブ

ロードウェイ・ミュージカルから考える

事前に決めた Shakespeare 作品に関して、第 7 回から 13 回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられるので、週週提出する。論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する。グループ発表では前もってテーマを決めてグループ内で準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

The Cambridge Companion to Shakespeare and Popular Culture, ed. Robert Shaughnessy (Cambridge: Cambridge University Press, 2007).
The Cambridge Companion to English Renaissance Drama, eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).

【成績評価の方法と基準】

オンライン開講になったので成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

リアクションペーパー等課題の提出およびプレゼンによる平常点 (30%) と試験 (70%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当した文献の英語について、教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えるようにしたいと思っています。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about early modern English drama and how it was/is received through reading academic criticism and discussion with others.

PHL300GA

英語圏の文化Ⅱ（思想史）

MARK E FIELD

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】

The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of “Western” religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of “Western” social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain's rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman's Unique Position
6回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain's Unique Position
9回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11回	World War I:	Wilson's Democratic Vision
12回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR's New Deal
13回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14回	Examination/Comments:	Recapping what has been covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students may also be expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently for the preparation of Research Papers.

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】

Participating students will do independent reading for their written assignments.

【成績評価の方法と基準】

30% In Class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)

30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,

40% Final Examination/Term Project.

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

ARSk300GA

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

粟飯原 文子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏世界とは、もちろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含む。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視点から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】

- ・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
- ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
- ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
- ・毎回資料を配布するので各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
- ・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、「英語圏の文化」とはなにか考える。
第2回	英語圏とはなにか	英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第3回	第一次世界大戦後の世界 一民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第4回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった1927年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第5回	第二次世界大戦後の世界 一独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第6回	アジア・アフリカ会議	1955年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第7回	アフリカ諸国独立	1957年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第8回	非同盟諸国運動	1961年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第9回	キューバ革命と三大大陸 人民会議	1959年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第10回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第11回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。

第12回 構造調整の時代—第三世界の弱体化 旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。

第13回 現代の諸問題 現在の英語圏および旧植民地地域について概観する。

第14回 期末課題の説明とまとめ 全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。
 ・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60%）
 ・期末課題（40%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】

定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。

受講希望者は必ず1回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写に隠されたアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、アメリカの絵画、映画、音楽など、ほかの文化領域にどのような影響を及ぼしているのかを考察することで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。講義形式で行う。

第1回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学や文化がどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った、アメリカ史全体の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてももう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特異性をヨーロッパのゴシック小説との比較から考察し、前者における恐怖の描き方から、「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品がアメリカ的な価値観やエスニシティなどの問題意識をどのように受け継いでいるのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化・産業化の結果、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、モダニズムの作家がそうした変化をどのように文学作品に反映したのかを考察する。

第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。

また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年

亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年

板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを70%、中間レポートを30%とする。

なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を補足するうえで映像資料が役立つという意見が多かったため、今年度も同様に用いる。

例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。教室定員を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。持病等のやむを得ない理由によりオンラインで受講したい者がいる場合には、あらかじめ教員に相談すること。

授業は基本的にキャンパスで対面で行う。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、ある回の授業をZoomを使ったリアルタイム・オンラインに切り替えることがある。連絡はHoppiiの「お知らせ」で行う。授業実施方法に変更がないかを毎週授業前に必ず確認すること。なお、Zoomに切り替えても問題なく受講できるように、あらかじめ各自で通信環境を整えてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds clearly evident in their works, but also into the characteristics of the American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact American literary works, even those of different eras, have had on other cultural fields such as picture, film, and music.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ⅱ）

北 文美子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】

それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います（オンデマンド教材）。毎回講義内容に対する各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパー（課題）としてまとめ、提出してもらいます。レビュー・ウィークにリアクション・ペーパーをもとにしながら内容の復習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
3回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6回	バーナード・ショーと地方主義	『ビゲマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
7回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
8回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
12回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
14回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布（配信）します。

【参考書】

適宜、授業内（オンデマンド教材）あるいは学習支援システムの「お知らせ」などで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクション・ペーパー（60%）

試験（40%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参考文献の紹介に加えて、内容についての簡潔な解説も付け加えます。

【Outline and objectives】

This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀から20世紀の変わり目に特有の「不安」——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読むことを通じ、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

予習ワークシートに沿ってグループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理するというのが、演習の基本的な進め方である。各作品につき3回の授業を充て、3回目は主に講義とする。各授業の終わりにはリアクションペーパーを課し、理解の確認を行う。（予習ワークシート、リアクションペーパーは、基本的に毎回提出、翌週返却。）

※この授業は、適宜、オンライン（Zoomまたは学習支援システム）による実施の週を設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	ロバート・ルイス・ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習
3	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習
4	『ジキル博士とハイド氏』全体	演習・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890年）小説前半	演習
6	『四つの署名』小説後半	演習
7	『四つの署名』全体	演習・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895年）小説前半	演習
9	『タイムマシン』小説後半	演習
10	『タイムマシン』全体	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習
12	『闇の奥』小説後半	演習
13	『闇の奥』全体	演習・講義
14	<世紀末の不安>まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。

演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。

具体的な方法については、第一回授業で説明する。

本授業の準備・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 長篇作品の邦訳は、以下の版を使用する予定。（絶版や新訳の出版等により変更する場合は、掲示等により連絡する）。

① 田口俊樹訳『ジキルとハイド』新潮文庫、2015。

② 日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007。

③ 石川年訳『タイムマシン』角川文庫、2002。

④ 黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009。

(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回提出するワークシート、リアクションペーパーなど、40%）と、試験の成績（60%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによる授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

“Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works published around the turn of the 20th century, and be introduced to their social and cultural contexts. They will thereby understand how these texts are obsessed with the Victorian fin-de-siècle anxieties.

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪きにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方（構造主義）。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇（品詞論）。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

現時点で考えていることは以下の2点です。

1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思えます。
 2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。
- 課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見たと、英語史について簡単に触れます。
2	英語の音声について（1）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
3	英語の音声について（2）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。

- | | | |
|----|--------------|--|
| 7 | 英語の音声について（6） | 英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素（アクセント、リズム、イントネーション等）について解説します。 |
| 8 | 英語の文法について（1） | 英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。 |
| 9 | 英語の文法について（2） | 英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。 |
| 10 | 英語の文法について（3） | 英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。 |
| 11 | 英語の文法について（4） | 英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。 |
| 12 | 英語の文法について（5） | 英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます。そして、不連続構成素とどのように扱うかについての話をします。 |
| 13 | 英語の文法について（6） | 英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。 |
| 14 | まとめ～今後につなげて | これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

- 授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
- ・加島祥造(1976).『英語の辞書の話』。東京：講談社【のちに講談社学術文庫に収載】
 - ・加島祥造(1983).『新・英語の辞書の話』。東京：講談社【のちに講談社学術文庫に収載】
 - ・竹林滋・齊藤弘子(1998).『改訂新版 英語音声学入門』。東京：大修館書店。
 - ・中島文雄(1991).『英語学とは何か』。東京：講談社【講談社学術文庫】。
 - ・田中菊雄(1992).『英語研究者のために』。東京：講談社【講談社学術文庫】。
 - ・竹林滋(1991).『英語発音に強くなる』。東京：岩波書店【岩波ジュニア新書】。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。（プロジェクトについては、課さないこともありえます。その場合は、最終試験 60%、平常点 40%とします。）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし、発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の **Structure of English** と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 初回授業に必ず参加してください。
4. かなり速いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。) 英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期でするので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis

LANe300GA

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語になっていったか学んでいきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。
2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。
3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。
4. 学生が英語の運用力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

本授業では、テキストを読みながら、演習方式で英語の歴史について学んでいきます。履修者は、必ずテキストを読んでください。授業では、教材の内容について皆さんに担当教員が質問したり、付加的な情報を加えたりして、履修者の参考になるべく努めます。その後、復習をして固めれば、理解力が高まります。

課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説。 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- Speech and Writing - The Continental Backgrounds - The Indo-European Languages
3	EARLY HISTORY 2	- The Position of Germanic in the Indo-European Group - Special Development in Germanic
4	OLD ENGLISH 1	- The Old English Dialects - The Conversion of the English to Christianity - Old English - Vowel Sounds - Consonant Sounds
5	OLD ENGLISH 2	- Consonant Sounds (続き) - Word Stress - Gender Not Based on Meaning - Case
6	OLD ENGLISH 3	- Case (続き) - The Development of the Personal Pronouns - The Development of the Demonstrative and Relative Pronouns - Adjectives and Adverbs
7	OLD ENGLISH 4	- Verbs - Word Order
8	OLD ENGLISH 5	- The Old English Word Stock: Native Words and Loan Words
9	MIDDLE ENGLISH 1	- Leveling of Unstressed Vowels - Spelling Practices - Changes in Stressed Vowels - The Blurring of Older Inflectional Distinctions

10	MIDDLE ENGLISH 2	- The Blurring of Older Inflectional Distinctions (続き) - Loan Words - French - Latin - Greek - Eastern Languages
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Old and Middle English Compared
12	MODERN ENGLISH 1	- The Great Vowel Shift - Changes in the Verb and the Pronoun - Word Borrowing
13	MODERN ENGLISH 2	- Word Borrowing (続き) - The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century
14	MODERN ENGLISH 3	- The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century (続き) - Noah Webster's Influence on American English - Is English Deteriorating?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、まず、テキストを読むことから始めてください。この際、批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと）、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、を意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英文パイルズ『英語の歴史』（1973）。この本はずいぶん古い本ですが、英語で読めるものとしては、それなりにいい本であると思います。元来、米国の高校生向けの教科書であるため、発音表記が分かりにくかったり、最近の英語についての説明がなかったりするのは欠点ですが、ModE までの説明はともよくまとまっています。

【参考書】

授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。

・北村達三(1980)、『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。（内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。）

・寺沢盾(2008)、『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社 [中公新書]。

・中尾俊夫、寺島勉子(1988)、『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。

・ブラッドリ、H. 寺澤芳男訳(1982)、『英語発達小史』。東京：岩波書店 [岩波文庫]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。
4. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業です。
5. 初回授業に必ず参加してください。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

Towards the end of this course, students will be able to:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,

3. To begin to develop a general theory of linguistic change.
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

LANe300GA

Structure of English

輿石 哲哉

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of this course, students will be able to attain the following goals indicated below.

【到達目標】

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English SHOULD be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important topics (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) intermediate constituency, phrase structural analysis

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Class sessions are going to be held online. The basic schedule remains the same; however, schedule change, if any, will be notified by using the Learning Management System (LMS). The details of the methods will be provided by using the LMS by several days prior to the first class session.

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	General Introduction	- Introduction - What's English? - English studies/linguistics - How many speakers? - AmE vs BritE
2	General Introduction (cont'd)	- Saussurean semiotics - Articulatory organs - Airstream mechanisms - VOT - Sound classification - Consonants
3	Sound Aspects of English (1)	- Vowels - Others - Monophthong vs. diphthong - The phoneme

4	Sound Aspects of English (2)	- Allophones - English vowels - Checked vs. free - Strong vs. weak - Long vs. short (tense vs. lax) - Phonics
5	Sound Aspects of English (3)	- Checked vowels in English - What are good phonetic transcriptions? - Long vowels - Diphthongs - Triphthongs - Weak vowels
6	Sound Aspects of English (4)	- Consonants - Stops - Fricatives and affricates - Nasals - Laterals - Semivowels
7	Sound Aspects of English (5)	- The syllable - English phonotactics - Sound connections - Suprasegmentals
8	Sound Aspects of English (6) and Meaning Aspects of English (1)	- Accent, rhythm and intonation - Grammar and lexis - 'Chain' and 'choice' - Selection vs. combination - Modular approach and brain lateralisation
9	Meaning Aspects of English (2)	- Word orders and generative grammar - Word order generalisation
10	Meaning Aspects of English (3)	- The word - The morpheme - The lexeme - A dozen words of English - Syntactic categories - Important criteria - Distribution, combinability, and ordering
11	Meaning Aspects of English (4)	- The adjective - Attributive vs. predicative uses - Adjectival semantics - Central vs. peripheral adjectives - Adjectives and other syntactic categories
12	Meaning Aspects of English (5)	- Immediate constituency - Flat vs. hierarchical structures - Phrase structure grammar - Discontinuous constituent?
13	Final Exam	- Final exam of this course given on the 23rd of July.
14	No class.	N/A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to visit the relevant H'etudes site and get as much information as needed.

Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor.

Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【テキスト（教科書）】

There are no particular textbooks for this course.

【参考書】

Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through H'etudes in due course. However, the following (all written in Japanese) are recommendable prior to the opening of the course:

- 加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』. 東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載.]
- 中島文雄 (1991). 『英語学とは何か』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
- 田中菊雄 (1992). 『英語研究者のために』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
- 竹林滋 (1991). 『英語発音に強くなる』. 東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.

- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important. It is an online exam provided through the LMS. It is basically a multiple-choice type exam. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

n/a

【学生が準備すべき機器他】

Personal computers, good English dictionaries, etc.

【その他の重要事項】

This is just a half-year (semestral) course about the structural aspects of modern English, which is in many ways similar to 'Intro to English Linguistics' you see in English major's curriculum; only, the speed is much faster! Therefore, the contents covered should be rather selective in nature. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.

Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】

Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and/or language studies in general.

【Outline and objectives】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of this course, students will be able to attain the following goals indicated below.

LANe300GA

History of English

輿石 哲哉

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Towards the end of this course, students will be able:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標】

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (More than 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit our Learning Management System (LMS) site and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Please note that feedbacks to the lecture contents will be amply given on the LMS site. After each class session given, the detailed review articles will be given on the web; so please make the most of them.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction; early history	- Introduction - IE studies & comparative linguistics
2	Early history (cont'd)	- Proto-Indo-European - Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
3	Early history (cont'd) and Old English	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
4	Old English (cont'd)	- Place name studies - <i>Angli vs wealas</i> - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks casket
5	Old English (cont'd)	- Old English Pronunciation - 'Back to front' movements
6	Old English (cont'd)	- Old English documents and poems (Law of Æthelberht, Ælfric's <i>Colloquy</i> , Lindisfarne Gospels, <i>Beowulf</i>) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding

7	Old English (cont'd) and Middle English	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	Middle English (cont'd)	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - Middle English (Grammar and lexis, OE and ME dialects, word order, etc.)
9	Middle English (cont'd)	ME documents (<i>Sumer is Icumen in</i> , <i>The Canterbury Tales</i> , <i>Piers Plouman</i>) - Social changes - Great Vowel Shift - Great Vowel Shift (cont'd)
10	Modern English	- English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	Modern English (cont'd)	- Biblical parallel texts - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	Modern English (cont'd)	- The first dictionaries (<i>A Table Alphabeticall</i> , Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - <i>The Oxford English Dictionary</i> - <i>The Oxford English Dictionary</i> (cont'd)
13	Modern English (cont'd) and Present-day English	- Received Pronunciation and General American - Regional varieties
14	Present-day English (cont'd)	- Regional varieties (cont'd) - Jargon and slang - The future of English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.

Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor. Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【テキスト（教科書）】

Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press.

【参考書】

Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through LMS in due course. However, the following are worth reading prior to the opening of the course:

- Algeo, John (2010). *The Origins and Development of the English Language*. Sixth edition. Boston: Wadsworth. [Based on the original work of Thomas Pyles. Careful about special phonetic notations used.]
- Barber, Charles, Joan C. Beal, and Philip A. Shaw (2009). *The English Language: A Historical Introduction*. Second edition. Cambridge: Cambridge University Press. [Offers clear explanations of linguistic ideas.]
- Bradley, Henry (1970). *The Making of English*. Tokyo: Seibido. [A bit out of date, but still a good introduction. Japanese translation available from Iwanami.]
- Schmitt, Norbert and Richard Marsden (2009). *Why Is English Like That? Historical Answers to Hard ELT Questions*. Ann Arbor: The University of Michigan Press. [A recent book; easy to read; written for English language teachers.]

【成績評価の方法と基準】

Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.

- Final exam: 70%
- Project (if any): 30%

Any modification to the above shall be known to you by using LMS. Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Overall, the instructor gets favourable comments from the students.

【学生が準備すべき機器他】

Using a personal computer is recommended, which enables you to get accustomed to make use of phonetic fonts as well as tree-drawing applications. Also, there are many interesting sites on the web which the instructor recommends you to visit.

【その他の重要事項】

In terms of its content, this course is the same as 「英語圏の文化 VIII (英語の歴史)」 taught in Japanese. Therefore, if you have obtained credits taking that course, you cannot obtain credits by taking this course.

This course is just a half-year (semestral) course about the history of the English language. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.

Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】

Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and historical linguistics.

【Outline and objectives】

Towards the end of this course, students will be able:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

ARSx200GA

世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」(S J = Study Japan)に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「S J 国内研修」とは、一般学生のSAに相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとってのSAとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考える目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8日程度の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「S J 国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、毎回織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるように心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業と「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第2回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある1市3町10村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第3回	飯田・下伊那の概況②	前回到続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937年に成立した当初の市域に、1950年代以降、周辺の15の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。

第4回 飯田・下伊那の歴史

飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。

第5回 飯田線建設史①

現在のJR飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。

第6回 飯田線建設史②

前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』をDVD鑑賞しながら、再度考える。

第7回 満州移民の歴史①

1930年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。

第8回 満州移民の歴史②

前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』をDVD鑑賞しながら、再度考える。

第9回 満州移民の歴史③

現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。

第10回 飯田・下伊那の多民族共生の現在

外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。人形淨瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形について、映像で確認する。

第11回 飯田・下伊那の文化①

この地域の特色ある文化活動として、通巻1000号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。

第12回 飯田・下伊那の文化②

この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平3人の文化人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。

第13回 飯田・下伊那の文化③

早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

第14回 まちづくりや自然との共生

早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから2週間後）。

授業期間中に例年、この授業と関連した学部イベントを実施するので、ぜひ参加してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A3で1枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

留学生に、かつては自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州大好き』（2010年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、BT 20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍2,000冊以上、映像DVD約350点所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢40%、途中での中間課題20%、学期末のレポート40%を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくにS J 国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、「個別を極めることを通して普遍に至る」というアプローチは、他の分野にも応用が利くと思われる。

また、自国のことを知り、外国人にも伝えられることは、国際人にとっての重要な要素であろう。

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。

【その他の重要事項】

「S J 国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

ボランティア補助員の選抜や、一般参加者への奨学金支給の可否の決定は、事前学習における意欲や成果をもとに、6月末から7月上旬に行なう予定である。

「S J 国内研修」に参加しない人の受講も認めるが、受講者数によっては選抜を行なうことがあるので、第1回目の授業に必ず参加すること（やむを得ず来られない場合は、事前にメールで連絡を入れること。アドレスは「履修の手引き」の「教員紹介」欄参照）。

【選抜の有無】

「その他の重要事項」欄にも記載されているように、留学生、およびS J 参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline and objectives】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class.

SOC300GA

【2021 休講】実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査については原則を学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など）を実践できる。
- (3) 研究発表の方法を理解・実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

4/24 の 4 限 (15 時) を最初の授業にし、オンデマンド授業を実施します。音声付きパワーポイントを学習支援システムに投稿します。双方向オンライン授業ではないので、後から受講することもできます。その時に、春学期の授業内容や授業の進め方について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む
2	問いと社会調査	研究や調査の前提である問いについて考える
3	ライフストーリー	ライフストーリー調査について実例をもとに学ぶ
4	ライフストーリー構想1	調査協力者の候補とテーマなどを発表し、その妥当性を議論する。調査協力者とテーマを確定する。
5	観察とドキュメント	調査方法としての観察・ドキュメント分析の目的は何か、具体的なケースを考えながら議論する。
6	半構造化インタビュー	半構造化インタビューの実践練習をする。
7	ライフストーリー構想2	先行研究と予備的聞き取り調査をもとに構想を立てて発表・討議する。
8	量的調査のリテラシー	アンケート調査の問題点を事例を挙げながら講義する。
9	観察結果の発表	宿題として課した観察の結果を発表する。
10	ドキュメント分析結果の発表	宿題として課したドキュメント分析の結果を発表する
11	ライフストーリー初稿	宿題として課したライフストーリー調査の初稿をグループで討議する
12	量的調査のリテラシー（グループ A）	宿題として課した量的調査の分析について A グループのメンバーが個々に発表する
13	量的調査のリテラシー（グループ B）	宿題として課した量的調査の分析について B グループのメンバーが個々に発表する
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことを K J 法を用いて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題が多いが、その分まちがいがなく実践の力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房。

その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

「観察」か「ドキュメント分析」が 20%、「量的調査のリテラシー」が 20%、ライフストーリーが 60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際社会コースを選択する 2、3 年生の卒業研究の一助とすることを目的とした授業であるが、当初盛り込み過ぎて学生の負担が大き過ぎた。2019 年度からは実習する研究方法を少し減らして、学びの質の向上を図った。2020 年度はそれを踏襲する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. この授業は演習形式で行うため、履修者の上限を 24 人とする。希望者は必ず初回の授業を受けること。初回の授業で上限を超える出席者がいた場合は、その場で選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から 4 日以内に Web および学部掲示板で学生証番号を発表する。なお、過去 4 回開講した中で選抜を実施したのは 1 回のみである。
2. この授業の位置づけは、卒業研究など実際の研究活動に必要な方法論を身につけることにある。
3. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4. 選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
5. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。

【Outline and objectives】

This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as Life-Story Interview, Observation or document analysis, and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考え、1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

■基本方針：法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル1になった場合は対面で、レベル2以上の場合はリアルタイムのオンラインで実施する。グループ討議中心の授業なので、対面とオンラインのハイブリットは行わない。

■フィードバック：毎回の発表に対してはその場でコメントする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■履修者人数の確認：初回授業のみ一定の期間中はいつでも視聴できるオンデマンド授業（音声入りパワーポイント）で実施する。対面授業の場合は、初回の授業後に履修の意思確認を行い、教室定員との関係で対応可能な状態であることを確認し、2回目以降は対面授業で実施する。レベル2以上の場合、2回目以降はZoom等を使ってのリアルタイム授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。

13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。オンラインの場合は、この日は全体のまとめの授業を行って期末レポートに切り替える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。授業直前の昼休み時間にざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。

その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の平常点15%、授業後課題15%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度30%、授業内試験もしくは期末レポート40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システムを使う。

【その他の重要事項】

▼国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自ら関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。

▼グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、レベル1以下の場合は対面授業に出席できることが求められる。またレベル2以上の場合、大学が用意した補助制度などを活用し、Zoom環境を整えて授業に臨むこと。

▼グループは第3回授業から事前に固定して作る。教室定員との調整の都合もあるので、履修予定者は第1回の授業終了後3日以内（9/20 18時）までに履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないとみなす。

【Outline and objectives】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

POL200GA

国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

市岡 卓

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：国際関係研究 I

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 非国家アクターを含む様々なアクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義形式で行う。毎回授業の中で課題を提示し、課題に対するリアクションペーパーの提出を求める。

対面による授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、受講者数が教室の定員を超えないことを確認するため、初回の授業はオンラインで行う (具体的方法は4月に入ってから学習支援システムで連絡する)。以降の取扱いはい初回の授業で説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、授業計画、授業の進め方を説明する。
2	リアリズム	国家間の紛争をもたらす要因に注目するリアリズムの理論を理解する。
3	リベラリズム	国家間の協調をもたらす要因に注目するリベラリズムの理論を理解する。
4	コンストラクティビズム	理念が国際社会の構造にもたらす変化に注目するコンストラクティビズムの理論を理解する。
5	国際経済関係	国際経済システムのグローバル・ガバナンスの問題について、アクターの役割に注目し考察を行う。
6	地球環境問題	地球温暖化対策を中心に、地球環境問題への取組みの課題について、アクターの役割に注目し考察を行う。
7	貧困と開発	世界規模での富の偏在の問題について、アクターの役割に注目し考察を行う。従属論等関連する理論についても学ぶ。
8	人権	国際社会の人権への取組みやその課題について学ぶ。その中で国際機関、NGO等のアクターの役割を考察する。
9	安全保障	冷戦終結による安全保障概念の変化、それへの国際社会の様々なアクターの対応について学ぶ。
10	民族や宗教に関わる紛争	冷戦終結後に活発化した民族や宗教に関わる紛争、それへの国際社会の様々なアクターの対応について学ぶ。
11	テロリズム	国際社会に脅威をもたらすアクターである「テロリスト」の活動とそれへの対応の課題について学ぶ。
12	NGO	経済、開発、環境、人権など多様な国際社会の問題の解決を目指すNGOの活動とその課題について学ぶ。
13	企業	グローバル・ガバナンスの担い手としての役割が期待される企業の取組みの可能性と課題について学ぶ。

14 まとめ

これまでの授業を振り返り、多様なアクターの行動とそれらがこれからの国際社会にもたらす影響について考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。
準備学習として、事前に共有する資料を参照し下調べをしておくこと (1時間を標準とする)。復習として、授業の都度示す参考文献を読み考察を深めること (リアクションペーパーの作成を含め3時間を標準とする)。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。参考となる文献は、授業の都度示す。

【参考書】

山田高敬・大矢根聡編 (2011) 『グローバル社会の国際関係論 [新版]』有斐閣。
滝田賢治・大芝亮・都留康子 (2017) 『国際関係学 (第2版)』有信堂。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の後で提出を求めるリアクションペーパーに60%、期末のレポート試験に40%を配分する。いずれについても、授業の内容を正しく理解できているか、自分で考察した内容を盛り込んでいるかについて評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の議論の時間を確保する。→ 学習支援ツールの活用も含め、授業に双方向性を持たせる仕組みを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

政府および民間企業で国際関係業務に関わってきた教員が、自身の政府間交渉や国際ビジネスの体験を交え、国際関係をめぐる諸問題について講義を行う。

「国際関係学概論」を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

ECN300GA

【2021 年度休講】 途上国経済論

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。

第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済 (3)：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済 (4)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済 (5)：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすることができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用し必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

CUA200GA

【2021 年度休講】国際関係研究Ⅳ（他者イメージ論）

中島 成久、国際文化学部（代講教員）

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：他者イメージ論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

PHL200GA

宗教社会論 I (仏教思想)

小島 敬裕

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、東南アジアの大陸部諸国(タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ベトナム)において信仰されている仏教への理解を深めることを目的とします。東南アジアの上座仏教徒社会においては、男子の大部分が一時出家を経験し、托鉢する出家者に対して在家者が食物を寄進する姿も毎朝のように見られます。またベトナムでは大乘仏教も広く信仰されています。いずれにせよ、仏教が世俗の人々の生活に根ざし、「生きられて」いることが特徴です。こうした東南アジアの地域社会における仏教思想のあり方について、本講義では写真を用いながら具体的に説明していきます。また、大陸部の各国における仏教実践の地域差や、政治との関係の多様性について理解を深めます。さらに、日本における上座部仏教の受容や、日本に在住する東南アジアの人々にとっての仏教の役割について考察します。人・モノ・カネ・情報の越境が増加しつつある現在において、日本人と東南アジアの人々とのより良い関係を築くためには、仏教に対する理解を深めておくことが重要な意義を持っているためです。

【到達目標】

教理としての仏教と、東南アジアの地域に生きる仏教徒の思想について、具体的な事例をもとに論じることができる。
また東南アジアにおける仏教実践の現実を知ることにより、自らの「仏教」イメージを相対化するとともに、日本人の「仏教思想」に対する認識も深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の3日前(月曜日)にHoppiiでレジュメを配信するので、授業前までにプリントアウトまたはダウンロードしておいてください。授業内容の理解を深めるために、多くの写真を提示しながら説明するので、レジュメを手元に置いて視聴してください。授業後に提出するアクションペーパーのうち、重要な質問やコメントに対しては、翌週の授業の冒頭で解説を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と受講方法について
第2回	仏教教団の成立と東南アジアへの普及	ブッダの人生ならびに仏教教団成立の経緯、そして東南アジアへの普及の歴史的過程
第3回	精霊信仰と仏教	東南アジアにおける宗教の基層としての精霊信仰
第4回	出家者の仏教	上座仏教の教理の基本と出家の目的
第5回	在家者の仏教	出家者を支える在家者と功德の観念
第6回	ミャンマーにおける仏塔(パゴダ)信仰と輪廻転生の観念	積徳行の位置づけの地域差と地域経済への影響
第7回	ミャンマーにおける在家者の人生と出家者	上座仏教の冠婚葬祭
第8回	タイの王権・近代国家と仏教	上座仏教の政治社会学
第9回	タイの現代社会と仏教	仏教の社会貢献活動と比丘尼復興運動
第10回	ラオス・カンボジアにおける社会主義の急進化と仏教	仏教実践の断絶と国境を越えるネットワークによる復興
第11回	ミャンマーにおける軍・民主化運動と仏教	政治的正統性との関わり
第12回	戦中から戦後にかけての日本人とミャンマー人仏教徒の交流	遺骨収集活動と戦没者慰霊パゴダの建立
第13回	欧米と日本における上座仏教瞑想の受容	ティクナットハンのマインドフルネスとヴィパッサナー瞑想の普及

第14回 日本に在住する東南アジアの難民・留学生・技能実習生にとっての人々と仏教寺院

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

石井米雄.1975.『上座部仏教の政治社会学—国教の構造』創文社。

石井米雄.1991.『タイ仏教入門』めこん。

NHK「ブッダ」プロジェクト編.1998.『ブッダー大いなる旅路2』日本放送出版協会。

奈良康明・下田正弘編.2011.『新アジア仏教史04 スリランカ・東南アジア—静と動の仏教』佼成出版社。

【成績評価の方法と基準】

レポート(50%)、平常点(50%)

平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するアクションペーパーで総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの見やすさを工夫するようにします。

【その他の重要事項】

授業に関する相談がある場合は、授業後にお伝えください。メールでもかまいません。アドレスは最初の授業でお伝えします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will focus on the Theravada Buddhist thoughts in everyday life. Theravada Buddhist societies are located in mainland Southeast Asia, Sri Lanka and southwest China. In these lectures, we will focus not only on the Buddhist philosophy written in texts, but also on ideas of Theravada Buddhists by paying close attention to how they practice themselves every day. Furthermore, we will explore the relationship between Japanese society and Theravada Buddhism through visual materials including photos and documentary videos.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は Zoom で授業を実施します。
- ・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
- ・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて学習支援システム（HOPPII）で提出してもらいます。
- ・授業の中で、各界のリアクション・ペーパーに関するフィードバックやコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的福音運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。

7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	教員による研究発表	教員が出版した単著の発表を行う。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小椋山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ビーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
- アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30%）
2. 期末試験（70%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットへの接続環境が必要です。

【Outline and objectives】

The course provides a historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

HIS300GA

【2021 年度休講】 宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）

江村 裕文

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このところアラブおよびイスラームへの関心が急速に高まってきている。だが、一言でアラブといっても、その内容はそう簡単ではない。ましてやイスラームとなると、さらに複雑である。第一に、アラブは三千年にわたる古い歴史を持ち、古典アラビア文化の華を咲かせた時期があり、それらは西欧文明の一部をさえなしている。第二に、今日のアラビア世界は純粋なアラビア民族ばかりでなく、政治的にアラブと呼ばれるにすぎない民族をも包含している。アラブあるいはアラビアという呼称は時代的にも地域的にも、かなり広い範囲にわたって使われるようになっている。イスラームはアラブのもとで生まれたが、アラビアの領域外に拡大し、今日ではさきわめて多数の非アラビア民族のもとで活力を保っている。

本講では、イスラームを、宗教面と世界史の流れから概観したい。

【到達目標】

アラブ・アラビアないしイスラームについて基本的な知識を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストを使用する。受講者にテキスト内容を報告してもらい、その内容について質問を受けたり、補足のコメントを加えたりして、「イスラーム」全般を取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション・アラビアの国々	授業の進め方の解説、アラビア諸国の紹介
②	イスラームの発見へ・報告箇所の割当	イスラームに関する一般的な紹介、報告箇所の割当
③	「宗教」とは	イスラームに限らず一般的に「宗教」をどうとらえるか紹介
④	イスラームの誕生	テキストの該当箇所の報告と解説（以下同様）
⑤	経典と教義Ⅰ	クルアーンの内容の紹介
⑥	経典と教義Ⅱ	イスラームの教義の概要
⑦	共同体と社会生活	ウンマの成立とイスラーム社会について
⑧	ハディース	預言者ムハンマドの言行録について
⑨	知識の担い手と国家	ウラマーの位置づけについて
⑩	神を求める道	神秘主義と正統神学について
⑪	スンナ派とシーア派	はじまりと教義上の違いについて
⑫	現代世界とイスラーム	現代のイスラーム世界と、他の、特に西欧世界との諸問題について
⑬	まとめ	まとめ
⑭	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料を参考にして、理解しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

小杉泰『イスラームとは何か』講談社現代新書

【参考書】

井筒俊彦氏の（著作集を含む）一連の著作を推薦する。またその他の参考文献等は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点と、レポートあるいは試験の点 60 点、合計 100 点によって評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「パレスチナ問題」や「アラブの春」「イスラーム国」「シリア内戦」「イエメン問題」「エルサレム問題」「アメリカとイランとの関係」等の現在進行中の出来事についても詳しく知りたいという要望がある。それらの問題にも可能な限り触れるようにしたい。

【Outline and objectives】

In this class, we learn ISLAM with a historical and religious approach.

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田 泰章

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。

実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テキストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。

サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。

星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めめめとした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テキストに忠実に分析します。日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】

翻訳についての基本的学術用語を理解する。

翻訳の原理と可能性・限界を知る。

私たちが日常的に行っている他言語テキストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテキスト実例は、学生による分析に付する。毎回、課題を出し、学習支援システムで提出する。毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

<< 1 回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。 >>

その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	『星の王子さま』という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテキスト分析 シニフィアン・シニフィエ	基本概念の説明 1： シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテキスト分析 忖意性 ミニレポート 1	基本概念の説明 2： 忖意性
4	基本概念の説明とテキスト分析 共時的・通時的 ミニレポート 2	基本概念の説明 3： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテキスト分析 間文化性 ミニレポート 3	基本概念の説明 4： 間文化性
6	基本概念の説明とテキスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート 4	基本概念の説明 5： 固有名詞と代名詞
7	基本概念の説明とテキスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート 5	基本概念の説明 6： オノマトペと慣用表現
8	基本概念の説明とテキスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート 6	基本概念の説明 7： 社会制度と翻訳

9	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート 7	基本概念の説明 8： 翻訳と言語変容
10	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と文化変容 ミニレポート 8	基本概念の説明 9： 翻訳と文化変容
11	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート 9	基本概念の説明 10： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテキスト分析 解釈学的循環 ミニレポート 10	基本概念の説明 11： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテキスト分析 複合的テキスト ミニレポート 11	基本概念の説明 12： 複合的テキスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講のために『星の王子さま』を各自が用意することは必須としません。授業の中で教材として示します。

受講者が作品全体を理解するためには、『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入することは可能です：

1. 日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか 1 冊。
2. 加えて、英語、フランス語などなどのどれか 1 冊。

（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）

【参考書】

熊田泰章編『国際文化研究への道—共生と連帯を求めて—』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。

その上で、最後に最終レポートを書く。

ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。

ミニレポート 50 % ・最終レポート 50 %。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

教材と資料を分かりやすくするように努めています。

課題の指示を明確に出すようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて、教材提示と課題提出を行います。

【その他の重要事項】

学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもありえます。

受講者数を適切に保つために、開講時に以下の処置を行います：

初回授業は対面授業を実施せず、学習支援システムで教材と課題を掲示する。
受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline and objectives】

Translation is not only a transformation work between natural languages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible.

In this lecture we will consider translation texts between natural languages and grasp the basic concept of translation.

We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as many languages as possible.

When we read this work now, is the image of the Little Prince the exact same image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way?

The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important Begriff "Interculturality".

LIN300GA

多文化社会と人間

加藤 丈太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。

コロナ禍が起きるまでは、日本における「在留外国人」数は2012年以降、過去最高を更新し続けてきた。2019年4月から日本政府は「特定技能」人材の受け入れを開始した。5年間で34.5万人を受け入れる目標が設定されている。しかし、彼・彼女らが家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。

コロナウイルスの影響を受け、一時的に在留外国人数は減少するかもしれない。しかし、中長期で少子高齢化を捉えるならば、外国人（移民）を受ける議論は避けては通れない。また、課題解決の方策が必要とされる。

本授業では、日本における移民・難民の受け入れの状況を踏まえ、多文化社会のあり方を考える。

【到達目標】

- ・日本の移民・難民の受け入れ状況を理解する。
- ・「多文化社会」を自身の経験に引き寄せて理解し、授業で身につけた知識を元により発展させて考えられるようになる。
- ・国や地方自治体の施策を分析する視座を身につける。
- ・将来、企業、NGO/NPO、国際機関等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

キャリアデザイン学部ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連。国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

<オンライン（ライブ授業）で実施する>

本授業は、講義とワークショップから構成される。

また、例年、受講者数が多い科目のため、感染症対策下での大学の教室準備の都合上、Zoomを用いたオンライン（ライブ授業）での実施となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (講義内容・評価基準等の説明) 移民・難民とは(用語の定義) アイスブレイク (TAKO トーク)	講義内容、評価方法を説明する。 本授業での「移民」・「難民」の定義を共有する。 受講者同士の自己紹介を行う。
第2回	日本の出入国在留管理政策の現在(講義)	日本の出入国在留管理政策において、今後どのような課題が想定されるのかを解説する。

第3回 ピンチをチャンスに「多文化」を拡げる(ゲストスピーカーによる講演)

外国人を主な対象とした人材派遣を起点に、多文化保育、バイリンガルの家事代行など多様な事業にチャレンジしている企業が存在する。コロナ禍というピンチをどのようにチャンスに変えようとしているのか、株式会社アンサーノックスの取り組みを伺う。

第4回 「多文化社会」(多文化共生)とは(講義とワークショップ)

日本版「多文化社会」ともいえる「多文化共生」概念の変遷を知る。移民と日本人が登場する映像を複数見た上で、「多文化共生」に照らして、その課題を分析する。

第5回 在日コリアン：差別・ヘイトスピーチとの闘い(講義)

在日コリアンがいかに差別とヘイトスピーチと闘ってきたのかを知る。

第6回 日系ブラジル人と外国につながる子どもが抱える課題(講義)

1990年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。

第7回 技能実習生と特定技能人材(講義)

技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。また、コロナ禍で技能実習生が抱えた困難も説明する。特定技能制度の現状も分析する。

第8回 留学生における課題と将来のキャリア構築(講義)

多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度で日本での留学生のキャリアの構築は可能かを考える。

第9回 Let me talk! : 私の「多文化」体験(ワークショップ)

日本で受講者自身が体験した「多文化」体験を掘り起こし、発表をする(発表は5名程度とする。残りの方はレポートを提出する。)

第10回 難民がつくる新しい社会(講義)

日本において難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。また、母国でのクーデター後の在日ミャンマー人の声も紹介する。

第11回 「不法」を生きる非正規移民(講義)

もし、あなたに在留資格がなかったらどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。

第12回 多文化社会の実現に向けて：地方自治体の施策を知る(講義)

多文化社会の実現のためには、国に加え、実際に移民が居住する地方自治体の役割も重要である。地方自治体の施策の概要を把握する。

第13回 プレゼンテーション①
：地方自治体における多文化社会に関する施策を分析し、その課題を挙げる(ワークショップ)

ご自身の出身地・居住地・好きな場所などから、地方自治体を選定し、「多文化共生推進プラン」などの施策を調べ、地域の実情と照らした際に課題が何であるかを明らかにする。
(①・②合わせて発表は7名程度とする。残りの方はレポートを提出する。)

第14回 プレゼンテーション②
：地方自治体における多文化社会に関する施策を分析し、その課題を挙げる(ワークショップ)

ご自身の出身地・居住地・好きな場所などから、地方自治体を選定し、「多文化共生推進プラン」などの施策を調べ、地域の実情と照らした際に課題が何であるかを明らかにする。
(①・②合わせて発表は7名程度とする。残りの方はレポートを提出する。)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・Google Classroom に掲示される講義資料に予め目を通すこと。興味を持った内容についてはインターネット、新聞データベースなどを用いて調べてみる。

- ・「日本における私の多文化体験」というタイトルで、発表（12分程度）or レポート（2,000字程度）を課す。＜第9回＞
- ・「地方自治体における多文化社会に関する施策」に関するプレゼンテーション（15分程度）or レポート（3,000字程度）を課す。＜第13回・第14回＞

【テキスト（教科書）】

Google Classroom を通じて講義資料共有する。

【参考書】

※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。

川村千鶴子他編（2021、近刊）『気づき愛—多文化共創社会 Global Awareness』都政新報社

塩原良和（2013）『共に生きる—多民族・多文化社会における対話』弘文堂、978-4335501241

芹澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮社、978-4106107672

西日本新聞社（2020）『増補 新移民時代—外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750350691

松尾慎編著（2018）『多文化共生 人が変わる、社会を変える』にほんごの凡人社、978-4893589521

【成績評価の方法と基準】

平常点 28%（2%×14回）

* Zoom 上に「学籍番号・氏名」（あだ名は不可）を明示しておくこと

第9回（発表 or 中間レポート）の内容 30%

第13回／第14回（プレゼンテーション or 最終レポート）の内容 42%

評価基準は以下を中心とする。詳しくは授業内で説明する。

- ・主張は明確か、主張を支える根拠は十分か
- ・構成は明瞭か
- ・パワーポイントは分かりやすいか or 読み手を意識してレポートの書式が整えられているか
- ・時間管理が出来ているか or 字数は守られているか
- ・（第9回）経験を掘り下げられているか
- ・（第13回／第14回）様々なソースを調べているか

＜フィードバックの方法＞

* 毎回、Google Classroom を用いて、質問・コメントを受け付ける。寄せられた質問・コメントには翌週の授業の冒頭でフィードバックを行う。

* 発表／プレゼンテーションについては授業内でフィードバックを行う。

* 中間レポートについては、模範レポートを2編選び、何が評価されたのかを解説することで、全体にフィードバックを行う。

* 最終レポートについては、フィードバックのタイミングが授業終了後となるため、模範レポート2編へのコメントを個人情報を伏せた上で全体にメールで送る予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・例年、受講者は初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップに楽しみながら取り組んでいる。今年度においても、オンラインという制約はあるが、その中でも新たな出会いを楽しんで欲しい。

・例年、ゲストスピーカーの講演がとても好評である。現場の声を聞いていただく機会として今年も設置する。

・受講者の自主性を重んずるため、本授業は平常点を問うてこなかった。しかし、昨年度、一昨年度の受講者の声を受け、今年度は平常点を評価基準に設ける。また、その評価は厳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコン（カメラも必要となる）
- ・インターネット接続が可能な環境
- ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンに zoom のアプリをインストールしておくこと。
- ・本授業はワークショップを多く含むため、カメラ ON を推奨する。

【その他の重要事項】

・本授業は Zoom を用いて「ライブ授業」で行う。

・本授業は＜4月7日（水）16:50～18:30＞が初回となる。

・オンライン授業へのアクセス方法について「学習支援システム」を通じて連絡するので、確認すること。（確認できない場合は、メールで問い合わせること。）

担当教員メールアドレス 加藤 jotarok@aoni.waseda.jp

・今年度は平常点を評価に含む。長期入院が必要となる病気・怪我、忌引以外、救済措置は一切取らない。授業のライブ感を大事にした。よって、昨年、緊急時対応として行っていた YouTube の後日配信も今年も行わない。欠席者・未提出者への代替の課題も原則として出さない。就職活動等で多数の欠席が予め想定される場合、本授業の履修は勧めない。本授業で何らかの学びを得たいと思う方のみ履修登録をすること。

・講義時は、分からない点、より深めたい点を担当教員に質問すること。（チャット、手を挙げてのマイク ON いずれも OK）

・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。

「実務経験のある教員による授業」該当

日本の外国人支援 NGO・NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】

This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination to others by various activities such as presentation and workshop.

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

木口 由香

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究2

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- 以上の2点を通し「国際関係」を学ぶ上で「地域」の理解のための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、オンラインでの授業を行う。
・第1回から第4回、第6回から第10回、14回は講義形式、第5回はロールプレイを用いたディスカッション、第11回から第13回までは演習形式で行う。

・演習は講師が提示する3つのカテゴリをもとに、事前に決めた担当者が重要だと考えた点とその理由を発表する。それを受けてグループ討議・発表を行うとともに、担当教員が関連する短い補足講義を行う。

・発表担当者は授業の中で決める。発表回数は各自1回とするため、12人を超える履修者がいた場合は、複数での発表となる。同じ回の発表担当者は、事前に打ち合わせをして共同で発表する。なお、発表用のパワーポイントもしくはレジュメは授業前日までに教員にメールで提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（講義）	本授業の狙い、進め方を説明する。
2	メコン河開発（1）自然と人びと（講義）	メコン河流域で、大規模経済開発の影響を受けやすい農村部の人びとの暮らしを知る。また、「貧しさに」とは何か考えてみる。
3	メコン河開発（2）メコン河開発の歴史的経緯と日本の関わり。（講義）	日本が歴史的にどのようにメコン河開発に関与してきたか概観し、地域の事例から「国際関係」について考察する。
4	メコン河開発（3）開発に対する人びとの反応（講義）	ダム開発における人びとの反応。国際的な市民社会の動きについて。「市民社会」と言われるものが、どのようにつながり、動いていくかを知る。
5	カンボジアでのダム開発（ロールプレイで理解する開発の功罪）（演習）	電力不足を補うと言われる水力発電ダム建設について、様々な立場から建設の是非を議論してみる。
6	開発の越境影響（講義）	ベトナムやタイは、近隣国で開発や海外投資を行う。その越境影響について理解する。
7	ラオス、植林の功罪（講義）	森を様々な利用するラオスの暮らしと経済開発の影響について。
8	タイのエネルギー開発と日本（講義）	日本との経済的関係の深いタイの開発における日本の関与について。
9	ミャンマーでの資源の呪い？（講義）	短い民主化の後、再び軍事クーデターで混乱するミャンマーでの、「資源」の意味。「資源」があることが人びとを不幸にする状況について。
10	気候変動とメコン河流域（講義）	ベトナムと日本の援助 ベトナムでの日本のエネルギー開発援助について。
11	環境と開発（演習）	メコン河流域で見られる環境問題を取り上げ、それが発生する社会的要因や解決のための道筋について考える。

12	越境する開発（演習）	開発の越境影響の分析。または、気候変動などの地球環境問題に結びつく開発について考える。
13	「誰のための開発」という古典的な問い（演習）	開発は誰のためになるのか、という昔からの問いについて考える。
14	まとめ（講義）	授業のまとめ。演習での発表を受けての議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題文献を読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

タンミンウー（著）、秋元由紀（翻訳）、ビルマ・ハイウェイ：中国とインドをつなぐ十字路。白水社。2013。

田村克己・松田正彦編著。ミャンマーを知るための60章（エリア・スタディーズ125）

明石書店。2013。

今井昭夫（編著）他。現代ベトナムを知るための60章【第2版】（エリアスタディーズ39）

明石書店。2012。

阿部健一（編）、菊池陽子・鈴木玲子（編著）。ラオスを知るための60章（エリアスタディーズ85）。明石書店。2010。

東智美（著）。ラオス焼畑民の暮らしと土地政策―「森」と「農地」は分けられるのか（ブックレット《アジアを学ぼう》）。風響社。2016

綾部真雄（著）他。タイを知るための72章【第2版】（エリア・スタディーズ30）。明石書店。2014。

上田広美・岡田知子（編著）。カンボジアを知るための62章【第2版】（エリア・スタディーズ）。明石書店。2012。

松本悟。メコン河開発―21世紀の開発援助。築地書館。1997。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（授業後のリアクションペーパー）40%、発表の評価20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げたメコン河流域における開発の功罪、開発の場できている環境・社会問題と日本の関係について論じる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

・課題についての発表を必ず1回担当し、グループ討議を行うので、第1回・第2回の授業を受講した上で、第2回授業日までに指示した方法で履修の意思を教員に伝えること。

・遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、オンライン授業となった場合、大学が用意した補助制度などを活用し、Zoom環境を整えて授業に臨むこと。
・メコン河流域国でNGO活動に従事する講師が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline and objectives】

This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

曾 士才

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人の移動」という観点から 19、20 世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると 2 千万人から 3 千万人といわれており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシエーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】

中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～華僑の誕生	華僑・華人の見方、華僑の歴史
第 2 回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第 3 回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、信用
第 4 回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第 5 回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、ニューヨークの新旧チャイナタウン
第 6 回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、中国との関係
第 7 回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第 8 回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第 9 回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、華僑総会、新移民
第 10 回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、横浜中華街、池袋の中華街
第 11 回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第 12 回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第 13 回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第 14 回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005 年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017 年
曾士才、王維編『日本華僑社会の歴史と文化—地域の視点から』明石書店 2020 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10%）と期末に課すレポート（90%）で成績評価を行う。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

ARSK300GA

【2021年度休講】人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

宮本 正明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮民族の国外・域外への移動および移動先での処遇・生活あるいは再移動について、日本への渡航者・在住者を対象として考察します。

日本に在住する韓国・朝鮮出身者（以下、在日韓国・朝鮮人）をめぐる現状・課題を考える際には歴史的経緯に関する理解が必要になるという前提のもと、日本の「戦前」・「戦後」の時期にわたる在日韓国・朝鮮人の歴史を学ぶという形になります。

【到達目標】

・在日韓国・朝鮮人の歴史に関する基礎的な知識を習得すること。
・在日韓国・朝鮮人の現状・課題に関わる情報などに接した時、歴史的経緯をふまえたとらえ方ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式とし、【授業計画】で設定した個別テーマについて1回あるいは1.5回でお話しする予定です。あわせて映像作品の視聴も適宜織り込み、授業内容の補完を図るように致します。

また、毎回の授業で「コメントシート」の記入・提出をしていただき、可能な範囲でその内容を次回以降の授業に組み込むように努めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画の説明をおこない、ついで導入として、在日韓国・朝鮮人の現状を把握するとともに、その存在を呼び表す呼称について考える。
第2回	移動史の概況	19世紀末から20世紀半ばにわたる朝鮮の国外・域外への移動について概観する。
第3回	「戦前」期の在日朝鮮人①	朝鮮から日本本国への渡航をもたらした朝鮮側・日本側の要因について把握する。
第4回	「戦前」期の在日朝鮮人②	日本本国における生活状況について把握する。
第5回	「戦前」期の在日朝鮮人③	日本本国への渡航者・在住者に対する日本社会の認識について、関東大震災時の事態も含めて把握する。
第6回	「戦前」期の在日朝鮮人④	日中戦争・アジア太平洋戦争期における、朝鮮から日本本国への戦時動員について把握する。
第7回	「戦前」期の在日朝鮮人⑤	戦時動員関連で映像作品を視聴する。
第8回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人①	日本の敗戦に伴う日本在留者の移動・残留について把握する。
第9回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人②	日本敗戦直後の時期の帰還者・残留者をめぐる朝鮮側・日本側の認識・処遇を把握する。
第10回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人③	日本政府による法制度の沿革について概観する。
第11回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人④	戦時動員された当事者による補償運動について、軍事動員関係者の活動を中心に把握する。
第12回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人⑤	朝鮮学校の沿革について概観する。
第13回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人⑥	朝鮮民主主義人民共和国への「帰国事業」について把握する。
第14回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人⑦	「戦後」期を対象とした授業テーマに関連する映像作品を視聴する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「戦前」期の在日朝鮮人」関連では、樋口雄一『日本の朝鮮・韓国人』（同成社、2002年）・水野直樹・文京洙『在日朝鮮人—歴史と現在』（岩波新書、2015年）・趙景遠編『植民地朝鮮—その現実と解放への道』（東京堂出版、2011年）・原尻秀樹・六反田豊・外村大『日本と朝鮮比較・交流史入門』（明石書店、2011年）の該当箇所をご参照ください。

「戦後」期の在日韓国・朝鮮人」関連では、樋口雄一『日本の朝鮮・韓国人』（同成社、2002年）・田中宏『在日外国人（第3版）』（岩波新書、2013年）・在日コリアン弁護士協会編著『裁判の中の在日コリアン』（現代人文社、2008年）・内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（山川出版社、2002年）をご参照ください。

この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はありません。毎回、当方で作成・配布する史料プリントを用いて授業をおこないます。

【参考書】

在日韓国・朝鮮人関連の参考文献リストを教場で配布いたしますので、準備学習・復習、あるいは受講中に関心を持たれた個別テーマについての自習に役立てていただければと思います。

【成績評価の方法と基準】

《授業オンライン化に伴い一部改訂》

学期末レポートおよび毎回の授業内容の要約を成績評価の資料と致します。

学期末レポートについては基礎知識や歴史的背景をふまえた内容であるかどうかを前提として問題意識・文献調査等の深度に応じて評価を考えます。そして毎回の授業終了ごとにその内容要約を提出していただき、授業内容の把握の度合いを確認いたします。この両者を勘案して、最終的な成績の判断をさせていただきます。

両者の配分としては、学期末レポート70%、授業内容の要約30%という形でひたまず指定いたします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

（当該授業ご担当の高柳俊男先生の代講として当方が臨時で担当いたしますので、フィードバックができません。）

【その他の重要事項】

《授業のオンライン化に伴い一部改訂》

この授業はオンデマンド型でおこなう予定です。

上記の【授業計画】につきましては、進行の度合いなどにより、テーマの順序を変更したり、同一テーマを複数回にわたりお話しすること、テーマの一部割愛などがあり得ますので、ご諒承ください。

当初は映像資料の視聴の機会を設ける予定でしたが、今回はこれを取りやめ、講義に差し替えたいと思います。

【Outline and objectives】

This course focuses on the history of Korean residents in Japan.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）

村川 庸子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）の修得者は履修不可

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、人の国際的な移動により異文化間の深刻な摩擦が生じるケースが増加している。本講義では、アメリカの移民政策の歴史や現状を日本や西欧諸国のそれと比較することで、異文化を理解すると同時に自国の文化を客観的に眺めるための通文化的かつ複眼的な視点を身につける。現実の摩擦が生じた場合にも、偏りのない分析と健全な批判精神を育てる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1) 「移民の国」であるアメリカの移民政策と市民権制度の歴史を概観し、2) それらが現代のアメリカ社会でどのような意味をもつのか検討し、3) 西欧諸国の政策・現状と比較し、4) 少子高齢化の中、入管法の改正により「移民」導入に舵をきった日本の政策の現状と今後の課題を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・本年度は Zoom による同時双方向型の講義形式の授業を中心に行う。
 ・事前に授業資料を掲示し、授業内で予習・復習の課題を課す。
 ・米国での人種差別の問題や日本の外国人労働者問題などグループディスカッションの時間を設けたい。
 ・講義の感想や質問事項を逐次受け、次回にそれについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入－国際的労働力移動を学ぶ意味	国際的労働力移動の現状
2	国境を超えること 国境を超えること 各国の入国管理政策	各国の入国管理政策
3	日米の国籍・市民権制度	市民権制度の比較－アメリカの場合
4	日米の国籍・市民権制度	市民権（国籍）制度の比較－日本の場合
5	事例：日系アメリカ人の強制収容	市民権制度の狭間で
6	アメリカの不法入国者	Donald Trump の不法移民政策
7	グローバルシステムの変化と国際労働力移動	国際労働力移動の何が変化しているのか？
8	世界の移民問題－UK の場合	イギリスのEU離脱との関連で考察する
9	世界の移民問題－フランスの場合	テロと移民二世来日東南アジア人について言及する
10	世界の移民問題－フランスの場合	多文化社会の抱える課題
11	世界の移民問題－ドイツの場合	メルケル首相の移民・難民政策
12	トランプ大統領の移民政策－その後	アメリカの移民政策と世界
13	日本の「外国人」政策の現状と課題	日本の見えざる人種・民族差別
14	終章	世界のナショナリズムと移民問題の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に指示した史料を読んでくる。
 ・今回の復習事項と次回の予習事項、質問事項につき、与えられた課題をペーパーに記入して次回に提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、かなり大量の資料を指示する予定。

【参考書】

・各回に指定する。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題提出～30 %。
 ・到達目標の 1)、2)、3)、4) が、どの程度できているかを期末テストによって判定する～70 %。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当なので記載すべき情報がない。

【Outline and objectives】

Over several decades, immigration has transformed not only the United States but many places from the European nations, Middle Eastern states and developing nations. Why do people migrate across international borders? How have these countries treated these people and what have happened? In this lecture, we examine the policies and their influences on the local communities.

ARSI200GA

【2020以降、次期カリ変まで休講】国際関係研究Ⅲ (地域紛争とエスニシティ)

中島 成久、国際文化学部 (代講教員)

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：地域紛争とエスニシティ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。

現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】

1966年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。

オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。DVD、VHS、Youtubeなどの視聴覚教材を多用する。出席票へのコメントを次の回の授業中に行い、学生の理解を深められるよう工夫する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国家と暴力、成績評価説明、1965年の9月30日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説+成績評価説明
第2回	国家と暴力	「アクト・オブ・キリング」②
第3回	領土と起源①	オランダ東インド会社「VOC」
第4回	領土と起源②	オランダ領東インド(蘭印)
第5回	領土と起源③	アチェ戦争
第6回	ナショナリズム①	インドネシアの国民音楽
第7回	ナショナリズム②	日本軍政から独立へ
第8回	開発の時代①	アサハンプロジェクト
第9回	開発の時代②	コトバンジャンダム裁判
第10回	開発の時代③	開発と先住民①オラン・リンバの現状
第11回	開発の時代④	開発と「先住民」②アブラヤシ開発
第12回	開発の時代⑤	違法入植の現状
第13回	開発の時代⑥	エコツーリズムの可能性
第14回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1 授業内で指示した参考文献をよく読むこと
- 2 図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

中島成久 『インドネシアの土地紛争——言挙げする農民たち』創成社新書、2011年

加納啓良(編) 『インドネシアの検定』メコン、2010年

映画 ジョシュア・オッペンハイマー監督「アクト・オブ・キリング」

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験(70%) + 平常点(30%) この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The topic of this class is post colonialism in Indonesia. Territory and Violence are main issues of this class. Nation and Violence which represent the most important phenomenon of Modern Nation-State are discussed through examples from the data of the colonial state as well as the era of development.

ARF300GA

【2021年度休講】国際関係研究Ⅴ（東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学）

中島 成久、国際文化学部（代講教員）

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：東南アジアの文化

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学」というテーマで授業を行う。地域としての東南アジア像を理解し、その上で、インドネシア（ボロブドゥール、バリ、スマトラの熱帯雨林）、フィリピン（イフガオの棚田）それにタイ、カンボジア国境紛争の原因となっているブレア・ビヘア寺院などの世界遺産をめぐる文化の政治学的な問題を検討する。

【到達目標】

国際文化学部生にとってはなじみのない東南アジアについて、その世界遺産をめぐる文化の政治学的な課題を理解し、日本との共通性と世界史的なコンテキストを把握できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。DVD や Youtube など多量使用する。出席票のコメント欄について、次の回に特徴的なものを紹介し、学生の理解を深めるよう努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「文化の政治学」とは、授業内容の説明、成績評価の説明
第2回	インドネシア①	ボロブドゥール①曼荼羅の宇宙
第3回	インドネシア②	ボロブドゥール②過去の栄光と現在の空白
第4回	インドネシア③	バリ①循環する水
第5回	インドネシア④	バリ②プサキ自院はなぜ世界遺産を断ったのか
第6回	インドネシア⑤	スマトラの熱帯雨林①グヌン・ルスル国立公園
第7回	インドネシア⑥	スマトラの熱帯雨林②クリンチ・スブラット国立公園
第8回	インドネシア⑧	スマトラの熱帯雨林③ワイ・カンバス国立公園
第9回	フィリピン①	イフガオの棚田①歴史
第10回	フィリピン②	イフガオの棚田② 1903年セントルイス博覧会
第11回	フィリピン③	イフガオの棚田③保全事業の検証
第12回	カンボジア①	アンコールワット
第13回	カンボジア②	ブレア・ビヘア寺院
第14回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをしっかりと読むこと、図書館などで関連する文献を調べ、関心を広げること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ベネディクト・アンダーソン『言葉と権力』中島成久訳、日本エディタースクール出版会

永淵康之『バリ 宗教 国家』青土社

高橋 進『生物多様性と保護地域の国際関係』明石書店

清水 展『草の根のグローバリゼーション、世界遺産棚田村の文化実践と世界戦略』京都大学学術出版会

笹川秀夫『アンコールの近代－植民地カンボジアにおける文化と政治』中央公論新社

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（70%）＋平常点（30%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The topic of this class is politics of culture of world heritages in Southeast Asia. It is stressed that the world heritages of Southeast Asian countries reflect not only world wide views but also the nations' inner politics and cultural policies.

SES200GA

【2021 年度休講】 持続可能な社会

島野 智之

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：人数によっては選抜する。初回授業に出席すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ARs400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2020 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ統合論」[EU の政治と社会]）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」[EU 経済とドイツ]）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論 A」）。グローバル教養学部（GIS）には、連合王国の外交関係の観点から、英語を使用言語として、対 EU 関係を論じている授業もあります（「UK: Society and People」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる人権や民主主義にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、授業時間（100 分）の前半 65 分程度は、受講者全体へのフィードバック（10-15 分）と講義（45-55 分）にあてている（2020 年度実績）。
- ・授業時間（100 分）の後半 35 分程度を、グループディスカッションにあてている（2020 年度実績）。
- ・第 14 回（最終回授業）では、希望する学生（強制ではない）による報告や発表を行ってきている（2020 年度まで毎年継続している）。
- ・毎回の授業資料は学習支援システムや Google Classroom をつうじて事前に配布している（2020 年度実績）。
- ・学習支援システムを利用し、小テスト（全員必須）や期末レポート（希望者のみ）の提出を行う（2020 年度まで毎年継続している）。
- ・この授業は秋 semester（後期）科目である。このシラバスを執筆している 2021 年 1 月の段階で、2021 年 9 月～2022 年 1 月の感染拡大状況を予想するのは困難であり、教室における対面授業ができる場合、オンライン授業になってしまう場合、両方を想定しているが、どのような比率になるかは秋 semester 開始以降の感染状況、法政大学の方針を踏まえ決定する。ただし、いずれの授業形態の場合も、授業の進め方や方法には、あまり影響はないと考えている。
- ・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有している（2020 年度実績）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新たな大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・小テストを実施します。これは全員必須で、学習支援システム（インターネット）上で受験します。
- ・本授業の準備・復習時間：準備に関しては、次回授業の資料をダウンロードする時間、復習に関しては、学習支援システムにおいて小テストを受験するのに必要な時間が、最低限必要である。ただし、日本語を必ずしも母語としない学生を含め、多様な学生が受講する授業であり、また情報環境や IT リテラシーにも学生間で違いがあるため、一律の時間数の形では表記しない。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格（レターグレードで C マイナス以上）とする。

- ・期末テストは行わない 0%
- ・小テストの受験【全員必須：授業終了後、次回授業の開始時刻までの 1 週間を受験期間として設定するので、その間に必ず受験してください。Hoppii を使うので、体育会や就職活動中の学生、多摩キャンパスの学生もネット上で受験できる】45%
- ・運営への協力【希望者のみ：配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業となった場合は、オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】10%
- ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】10%
- ・期末レポート【希望者のみ】35%。（ただし、教員に指名され期末レポートの内容を口頭発表した人には、特別点を加算する。）

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンラインで行う授業回が混じった場合、あまり過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
- ・「成績評価の方法と基準」の「グループディスカッション&学生間の共働」は 10%と低めの配点にしています。これは、オンライン授業となった場合に、システム側の接続障害や、学生の操作ミスでうまく参加できないことが予め想定されているためです。グループディスカッションに熱心に参加してくれる受講者が多数派ですが、配点は 10%であり、あまり点数にはなりません。ただし、対面授業ができない状況でも、講義に加え、学生同士の対話や交流ができる環境を整備するという意味で、重要だと考えています。

・2020年度、1年間オンライン授業をりましたが、初めての体験でした。そこから感じたのは、ソフトウェアを使って文章を書いたり、プレゼンテーションを行ったりすることに加え、リアルタイムのビデオ会議や録画を使って、みずからの考えや思いを伝えていくことが、学生にも教員にも、これからの時代は必須になっていくのだろうということでした。オンライン授業があまり好きでない、苦手と感じている学生さんも一部おられることは承知していますが、オンライン上でのコミュニケーション・スキルを身に付けていくことも、大学における学びの一環であると前向きに捉えていただければ幸いです。

・特に4年生以上でみられる現象ですが、1月に入ってから、単位がとれないと困るという相談をしていく方がいます。定期試験の欠席が認められるような疾病等の正当な事情がある場合に限り配慮を致します。この場合は、教員に直接メールを送信する前に、まずは所属学部の事務室にご相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

・対面授業の場合も、教材の配布や小テストの受験は、すべて LMS（学習支援システム-Hoppii と Google Classroom）上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットの利用に習熟していることが望ましい。

・感染拡大の状況によるが、ブレイクアウトルーム（学生数名でのグループディスカッション用）機能を含め、オンライン授業の場合は Zoom（バックアップとして Google Meet）を使う。そのため、できれば有線接続で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・この科目を単位履修する場合、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom といった LMS に、初回授業後、仮登録を各自行ってください。

・学習支援システム「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。ただし、期末レポートの得点を除く（成績入力に間に合わないことが多い）。

・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは学習支援システムを見てください。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

HIS300GA

Approaches to Transnational History

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who are interested in the history of cultural exchanges from transnational perspectives. By exploring various kinds of cross cultural encounters facilitated by the movement of people, ideas, goods, services, capital, and technology, students will be introduced to the basic concepts and methods of transnational history.

【到達目標】

By the end of this course, students will be able to

● Understand various approaches to transnational history and how these approaches are connected to the issues of colonialism, the development of capitalism, and the formation and spread of the nation-state.

● Critically read and analyze both secondary scholarship and primary historical documents on transnational history.

● Write a short critical essay analyzing cross-cultural encounters and movements across borders.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

This course is held online via Zoom. The class consists of lectures, class discussions, and student presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of transnational history
Week2	The Atlantic Slave Trade	Reading assignment: "The Atlantic Slave Economy"
Week3	The African Diaspora	Reading assignment: "The Atlantic Slave Economy"
Week4	The British Empire and China	Reading assignment: "The British Empire and Chinese Civilization"
Week5	Imperialism and China	Reading assignment: "The British Empire and Chinese Civilization"
Week6	Japan Opens to the West	Reading assignment: "Japan Opens to the West"
Week7	Japan Opens to the West – The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz	Assigned primary documents
Week8	Colonialism and Orientalism	Reading assignment: "The Influence of African, Asian, and Pacific Islander Art on European Art"
Week9	Colonialism and Primitivism	Reading assignment: "The Influence of African, Asian, and Pacific Islander Art on European Art"
Week10	The Sino-U.S. Relations from the Perspective of History, Culture, and Gender	Reading assignment: "New Women and the World History"
Week11	Film as a Global Industry – Presentation(s): Group or Individual	Reference: "Hollywood and the Global Film Community"
Week12	Cold War Culture – Presentation(s): Group or Individual	Reference: "The Cold War, 1945-1991"

Week13 Americanizing the World through Culture
– Presentation(s):
Group or Individual

Reference: "Americanization of Popular and Consumer Culture"

Class14 The Age of Global Transformation and Communication
– Presentation(s):
Group or Individual

Reference: "Commercial Air Travel"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】

Weekly reading assignments are uploaded to the course website (HOPPII).

【参考書】

● Akira Iyrie, *Global and Transnational History: The Past, Present and Future*

(Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan, 2013).

● Pierre-Yves Saunier, *Transnational History* (Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan, 2013).

● Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).

【成績評価の方法と基準】

● Class participation (including weekly short response papers based on assigned readings) 30%

● In-class primary document analysis quiz 10%

● Presentation (15-20 mini-group presentation or 10 min-individual presentation) 30%

● Primary document analysis essay (a 700-800 word essay analyzing the primary documents, which will be made available in class or electronically in late December) 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Group members will be shuffled several times in the semester to allow for more interaction.

【学生が準備すべき機器他】

ITC devices such as laptops and tablets.

【Outline and objectives】

This course is designed for students who are interested in the history of cultural exchanges from transnational perspectives. By exploring various kinds of cross cultural encounters facilitated by the movement of people, ideas, goods, services, capital, and technology, students will be introduced to the basic concepts and methods of transnational history.

HIS300GA

【2021 休講】Cultural Dimension of American Foreign Relations

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスで学生は、アメリカ外交の文化的側面を学びます。グローバルな視点からアメリカの外交政策を理解するために論文を読み理解を深めます。

【到達目標】

The goal of this course is that students to understand American foreign relations. In particular, students will gain academic knowledge on American foreign relations through issues of immigration.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

This course is designed as a series of students' presentations with class discussions. Due to a class size, the method would be changed. At the end of each class, students are required to submit their reaction papers. This class starts on May 5. Please check Hoppii for more detail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	How to learn cultural dimensions of American foreign relations
2	This Isn't a Border Wall: It's a Monument to White Supremacy	Critiquing the idea of building the wall by Trump Administration
3	What is immigration crisis?	Understanding why immigration became controversial
4	How Immigration Became So	Looking into the current argument on immigration.
5	Controversial 1 How Immigration Became So	Reflection on the current immigration debate
6	Controversial 2 The Other Dispute on the US-Mexico Border	The counter argument to building the wall
7	The Self-Destruction of American Power 1	Learning about American hegemony
8	The Self-Destruction of American Power 2	Thinking about American hegemony
9	How the Freedom Agenda Fell Apart 1	The possibilities and impossibilities of American democracy Agenda
10	How the Freedom Agenda Fell Apart 2	The future of American democracy
11	The Republican Devolution 1	Partisanship and the Decline of American Governance
12	The Republican Devolution 2	The future of American Governance
13	Consultation for the Paper	Consultation with students for their papers
14	Wrap Up Session	Overview the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You need to review what you learn in a class and work on your assignment for two hours each. If you are not familiar with American history, you should study basic historical events of American history. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

Articles will be distributed during classes.

【参考書】

References will be informed during a class. If your are not familiar with American history, recommend the below for your reference.

和田光弘編著、『大学で学ぶアメリカ史』 ミネルヴァ書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

Contribution/ Response Papers (30%)

Final Paper (30%)

Presentation (40%)

Due to Covid-19 situation, grading criteria will be changed. Students will be informed on the first day of the class.

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular since I do not have any result from the survey.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None.

【Outline and objectives】

In this class, students learn the cultural dimension of American foreign relations. To understand American diplomatic policies from a global perspective, we will read articles and essays.

INF300GA

情報文化演習

和泉 順子

サブタイトル：情報科学技術の問題の発見と考察

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとコンピュータ、ネットワークとネットワークを相互に接続することから始まったインターネットは、その技術の普及と発展により、ネットワークは社会基盤の一部を担うようになった。インターネットの上では様々なデジタル情報が交換され、既存メディアには無い多様性と価値を生み出している。その一方で、国境を超えたコミュニケーションメディアである点やその広がりから、他の社会システムとの協調や調整が必要なケースも多く、グローバルな視点での問題発見や解決が重要となる。

本演習では、こうしたインターネットを前提とした情報科学時代において、コンピュータネットワークの基本的な考え方や構成技術を理解し、社会的課題の発見と解決について学ぶとともに、自らの意見を発信できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

・インターネットの基本原則とその考え方、および構成技術の基礎を理解する
・グローバルな視点による社会課題の発見とその解決方法についての考え方を学ぶ
・技術的な視点に基づいた、自らの意見を発信する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期では、共通の本を精読して発表する「輪読」の他に、各々の興味に関連する読書（サーベイ）を継続的に行う。単純に本を読むだけでなく、そこから何を学び取ったかを他の人に説明するため、できるだけ本の内容や自分の意見を正しく伝えるために必要なスキルを学ぶ。

秋学期では、春学期に得た知識をベースとし、実社会における具体的な問題について議論をおこなうために、現在の情報科学技術を支える構成技術を理解し、自分なりの考えをまとめて発信するために必要なスキルを習得する。
→ 追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる可能性がある。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要および春学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマを探る
2	これまでに修得した情報技術の確認	各々が、高校あるいは大学の講義でどのような情報関連科目を履修し、どのようなスキルや知識を修得したのか確認する
3	課題解決に必要な情報技術の議論	今後取り組むテーマや興味に、あるいは解決したい問題に対して、どのような情報技術が影響するのか考え、なにが必要なのかを議論する
4	精読する本の紹介と選定	情報技術とその社会への影響に関する本の中で、履修者の興味に共通する本を複数紹介し、輪読する本と分担を決める
5	情報技術と社会環境（1）	近年話題となっているロボットやAI、IoT、ビッグデータなどの情報科学技術の現状と、展開に際しての問題点を議論する
6	情報技術と社会環境（2）	前回の議論を踏まえた自分なりの提案を論理的に説明するための準備を行う

7	学生発表（1）	前回の準備から、情報科学技術の展開に関する問題点とその対応に関する発表を行い、互いの発表の過不足を議論する。
8	学生発表（2）	前回の発表とそれに関する質疑応答、改善策に関する議論を踏まえ、再構築した発表を再度行い、改善を確認する
9	輪読（1）	第4回で選定した本を精読した結果として、輪読を行う。担当者によって1～2章ずつ行う。
10	輪読（2）	前回到続き、輪読を行う。
11	輪読（3）	前回到続き、輪読を行う。また、輪読によって得られた知見、さらに調査が必要な点などについて確認する。
12	研究テーマに関連する本の紹介	各々が自分の興味、あるいは研究テーマを意識しながら関連する本を選定し、簡単に発表する
13	他の人の研究テーマに関する質疑、提案	前回の発表をもとに、自分以外の研究テーマに関する質問や提案を行うことで、互いに新たな視点を得る
14	秋学期に向けての準備	秋学期に向けて、必要な知識やスキルを確認し、夏休みになにをするか自らが課題を設定する
1	イントロダクション	本演習の概要説明と導入、および秋学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマについての議論をおこなう
2	インターネット概要	現在のインターネットの役割と環境、およびこれまでの変遷について学ぶ
3	インターネットの構成要素	インターネットを支える技術と構造、およびデジタル情報の特徴について学ぶ
4	インターネットのサービスと課題	インターネットで現在行われているサービスについて考察すると共に、顕在化している、あるいはこれから起こりうる課題について議論する
5	学生発表（1）	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
6	IoT・ビッグデータ（1）	具体的なテーマとして、センサデータの利活用の事例や国内外の動向について学ぶ
7	IoT・ビッグデータ（2）	前回の授業を受けて、センサデータの利活用や事例に対して理解を深めると共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
8	セキュリティ	具体的なテーマとして、インターネット上のセキュリティ問題や国内外の動向について学ぶと共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
9	グローバルガバナンス	情報科学技術の規格化・標準化や、国際的なルール作りの方法や過程について学ぶ
10	学生発表（2）	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
11	テーマ演習（1）：テーマ選定	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマを定める
12	テーマ演習（2）：テーマ分析	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマの問題や解決法の分析をおこなう
13	テーマ演習（3）：テーマ整理	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマに対し、情報科学技術的なアプローチでとりまとめる
14	最終発表	履修者が、それぞれが情報科学技術の視点から、自身の問題発見・問題解決に向けた考察内容について、発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題として毎週「読書」し、そのメモを作成することが求められる。授業を受けるにあたって特別な前提知識は必要としない。課題やレポートについては、授業の中で適宜指示をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に必要としない

【参考書】

必要な参考書などは授業の中で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業における研究発表、および授業での学習状況などの平常点を総合して評価する。具体的には、授業における発言、議論、発表を 50%、および読書課題などの平常点を 50%を目安とした配分とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this seminar, we learn about the basic concepts and composition techniques of computer networks, discuss the organisation and the solution about social problems regard to the internet. Moreover we also acquire the skill to represent their own opinions.

FRI300GA

情報文化演習

御園生 純

サブタイトル：ワンボードコンピュータでアイデアをカタチにする
配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●テーマ

コンピュータの出力を様々な用途に利用することをめざします。

Arduino や Raspberry Pi ラズベリーパイやアルディーノなどのワンボードコンピュータを活用し、様々なインタラクティブな装置のアイデアを出し合いそれを実現します。

2020年度の重点テーマは、「アイデアをうみだしカタチにすること」

アイデアを生む秘訣は

- ・遊ぶこと
- ・歩くこと
- ・話すこと

だといわれます。これらを授業の中でプロセス化し、最終的に実際のシステムの制作・完成につなげていきます。

【到達目標】

●目標

- ・コンピュータを自分の表現のために応用すること
- ・創造性・独創性を IT を通じて昇華させること
- ・新しい物作りを構想し提案すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- Arduino や Raspberry Pi の基本的構造とその理解。
- プログラミングの基礎
- ワンボード PC で何かできるのか？ のアイデアづくり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、学術活動とその基盤	【講義】 アカデミック・スキルズと研究環境を理解する。とくにネットワーク環境について全員で習得する。 Web を学ぶためのクライアント環境、端末について検討する。 【演習】 ePortfolio を立ち上げる。
2	ワンボード PC の構造と活用①	【講義と演習】 本講義で使用可能なワンボード PC の種類と構造の理解
3	ワンボード PC の構造と活用②	【講義と演習】 ワンボード PC の OS 言語について
4	ワンボード PC の構造と活用③	【講義と演習】 Pure Data にサンプリング音源ファイルを読込んで利用する。マイクからの Pure Data へ音データを録音する。 【月例報告】 ePortfolio
5	ワンボード PC の構造と活用④	【講義と演習】 Arduino～実際に使ってみる
6	システムを創る～アイデアをうみだす①	【講義と演習】 社会におけるワンボード PC の活用の実際 【調査】 入手可能なワンボード PC は？
7	システムを創る～アイデアをうみだす②	【演習】 研究構想発表のための準備
8	システムを創る～アイデアをうみだす③	【発表】 研究構想を発表する。
9	Arduino ①	【講義と演習】 基本的構造～入出力

10	Arduino ②	【講義と演習】 Arduino IDE の理解
11	Arduino ③	【課題演習】 Arduino IDE によるプログラミング
12	電子回路とジョイントさせてみる①	【講義と演習】 LED の点灯
13	電子回路とジョイントさせてみる②	【講義と演習】 スイッチ・各種センサー入力～処理方法
14	【第2回中間発表】	【発表】 研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。
15	秋学期ガイダンス	【月例報告】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
16	【ビジュアルな作り込み】アプリ操作性の向上①	【講義と演習】 LCD ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。
17	【ビジュアルな作り込み】アプリ操作性の向上②	【講義と演習】 LCD ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。
18	【ビジュアルな作り込み】アプリ操作性の向上③	【講義と演習】 7セグメントの活用と作動を学ぶ
19	ネットワークの利用	【講義と演習】 LAN 環境を構築し LAN 上での連携を実現する。
20	モバイル端末との連携	【講義と演習】 スマホなどのモバイル端末と PC、アルディーノを連携して稼働させる手法を学ぶ。
21	【第3回中間発表準備】	【発表】 研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。
22	映像の生成：GEM とコンピュータグラフィックス	【講義と演習】 GEM の基本、ウィンドウの生成、3次元モデルへの操作とチェーン、照明、テクスチャー、Web カメラ映像の取り込み、簡単なアニメーションの作り方を学ぶ。
23	Web カメラの活用	【講義と演習】 Web カメラ映像から動きや色を検知抽出する方法を学ぶ。
24	多様な出力：さらに多様なモノづくりにむけて	【課題演習】 Arduino によるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。
25	アナログセンサーの入力	【講義と演習】 ストレンゲージ・フォトトランジスタ信号のデジタル化を学ぶ
26	対話性の実現：マウス、キーボード、自作インターフェース	【講義と演習】 マウス位置、キーボードイベントの検知法、ビデオコントローラ、各種センサーと Arduino による自作インターフェース、の作成を学ぶ。
27	完成したシステムの発表とデモ	【発表】 各自が開発したシステムの実演を兼ねた発表会
28	【期末発表】 2021年度 のまとめ	【発表】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。 【学習成果の総括と見える化】 学習内容の総まとめを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プロジェクト活動、自主的な学習など授業時間外に求められる学習行動はとても大事です。プロジェクト運営、文献レポートなど積極的に活動してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習では学ぶべきことが多岐にわたるので必要に応じて文献を紹介しします。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価方法 セメスタ毎に総合評価します。欠席は認めません。止むを得ない事情で欠席する場合には必ず申し出てください。また講義内容を復習して次の授業までに実習課題を済ませておいてください。

Proactive な運営方針にもとづき、学生個人によるゼミ制作・ゼミ論研究(40%)、グループ活動(30%)、研究指導を受けるための個別面談(30%)などをすべて総合的に評価します。本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 演習形式であるため、授業アンケートのような期末アンケートではその場の学習ニーズに対応できない。面談による個別指導によってこれまでも対応してきており、今後もこの方針を継続します。面談を通じての個別の研究指導とゼミでの学びをうまく組み合わせることで効率的な学びをサポートできるように配慮してゆきます。
- (2) 意欲ある学生の参加を歓迎します。4年次からの研究や作品制作も可能ですので、演習変更希望の場合は事前に相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミは国際文化学部情報セミナー室 (BT#0704) にて行います。
2021年度の学習には、Windows PC, Mac, iPad, LINUX サーバ、Raspberry Pi などのデバイス等を使いますが必要な機器はすべて研究室にあります。講義時間外での作業のために WindowsPC か Mac(あるいは LINUX サーバ)が必要です。

研究活動は情報準備室（BT#0703）のネットワーク、サーバ、マルチメディア装置からなる SOHO 環境を基盤として実習します。

【その他の重要事項】

●履修上の注意

まず手を動かす、自分で調べる、しっかり聞く、物怖じせずに発言する。そこから文化と情報を発想します。自分ひとりでは解らないこともありますから、担当教員と面談を通じて指導を受ける、あるいは作品制作について助言を受けるなど風通しの良いコミュニケーションを心がけてください。

【研究室の活動実績】

【研究・制作活動】

2011 年度：学部の動画配信システムの構築。

2012 年度： e-Portfolio の学部導入、全学導入にむけての技術的検討。大学院でのメディア論科目と連携。

2013 年度： e-Portfolio (HOPS) の構築に参加。

2014 年度より： Puredata バッチングサークルに参加、発表。

2015 年度（研究留学）： Carnegie Mellon 大学の Music & Technology においてコンピュータ音楽とサウンドデザインの研究。（演習は東京工科大学デザイン学科の松村誠一郎先生）

2016 年度： PureData でシンセサイザ、エフェクタ、シークエンサなどをインタラクティブな仕組みと組み合わせてライブ演奏向けに制作。

2018 年度： Prezi Night （2019 年 2 月）に参加。

【学部学会】 3 年生は連名で学部学会に発表参加する、4 年生は個人で研究成果を発表することを目指してきました。

2014 年度は研究室からポスターとデモで発表 3 件。

2015 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表。

2016 年度は 3 年生が中間成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。

2017 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。

2018 年度は 3 年生がポスター発表 1 件。

2019 年度は 4 年生がインスタレーション発表 1 件。

2020 年度は 3 年生がポスター発表 2 件、2 年生がポスター発表 1 件

【学外の学会等】

2012 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

教育システム情報学会「全国大会」

日本教育工学会「e ポートフォリオの活用と普及」研究会

2013 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2013 での研究発表（2 件）

2014 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2014 での研究発表（1 件）

Pure Data バッチングサークルへの参加（5 回）

2016 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

Pure Data バッチングサークルへの参加（2 回）

2016 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

2018 年度の学会参加

ADADA2018 学術大会にて研究発表。

【Outline and objectives】

● Theme

Aim to use the output of a computer for various purposes.

Utilizing one-board computers such as Arduino and Raspberry Pi,

Come up with ideas for various interactive devices and realize them.

The priority theme for fiscal 2020 is "creating ideas"

To generate an Idea is

・ Playing

・ Walking

・ Insist

These are processed in class, and finally the actual system is created and completed.

DES300GA

情報文化演習

春学期担当：甲 洋介，秋学期担当：渡邊 日出雄

サブタイトル：〈からだ・ところ・非言語〉 つながるデザイン学

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※ 2021年度のみ2～4年を対象とする。単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）

【つながり（コミュニケーション）】：言葉があれば人とつながれるわけではない

人と人のところが動き、感情が働き、からだを感じ、体験する。こころの仕組みを基礎から学び、それを生かして、心地よい「空間の体験」、言葉にならない思いを伝える「新しいコミュニケーション」、知を刺激する「道具」など、デザインに挑戦する。

時には、建築空間で人の行動をフィールドワークしたり、遊び心のある「モノづくり」にも挑戦する。そのために、ふだん忘れていた感覚、懐かしい匂い、言葉にならない色あい、うっとりする肌触り、日常の風景に隠れている音たち…、そういう身体感覚や体験を呼び起こし、あなたのこころの声にじっくり耳を傾けよう。

基礎文献をじっくり読み、仲間と考えを深め、デザインを実践する演習である。

【興味あるテーマの例】

- (1) 楽しくて使いやすい「道具、インテリア、家具」の制作
- (2) モノづくりと体験づくり、アートとコミュニケーション、遊び心のデザイン
- (3) 居心地よい空間デザインの研究
- (4) つながるフリは寂しい、でも濃密なのはもっと怖い ～ 家族・恋人たちを繋ぐ、丁度よいつながり（コミュニケーション）のデザイン
- (5) カラダは正直、コトバで嘘をつけても、カラダが語ってしまう！ 非言語コミュニケーションの研究
- (6) 繋がりたいのに『つながれない』、仮想世界における「こころ」の問題
- (7) こころと感情の科学、人工の知能
- (8) 癒しの空間、癒しのデザイン
- (9) 身体、いのち、自然の息吹を伝える情報空間のデザイン

【到達目標】

・人間中心デザイン技法を応用して、具体的な場面に対して、利用者を考慮した「道具」、「感覚的な体験」のデザインを実践できるようになる

・演習を通じて、問題の本質を洞察する力、よりよいデザインの方向性を嗅ぎ分ける美意識、研究をやり遂げる計画・実行力、を育む

君もやがて実社会に出たとき、答のない課題に取り組むことになる。そのときにここで得た力は頼りになるはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「暮らしと文化のデザイン学」がテーマである。「コミュニケーション」「道具」「空間」のデザインを軸に、つぎの4つの観点を意識しながら学ぶ。ゼミ生は各回の討議、ワークショップで主体的に意見を出し合い、アイデアを提案できる。担当教員は討議やアイデアにフィードバックを返し、考えをさらに深めるよう導く。

本演習で取り組む課題のいくつかは未だ正解が分かっていない。《答え》を一緒に探す知的探検となる。

「知性」と「遊び心」を刺激する

↓

人と人の ⇄ | 暮らしと文化のデザイン学 | ⇄ 人のこころ
つながり ----- 感情、身体

↑

暮らしを支える文化、人と自然をつなぐ環境、そして空間

※ 実習やワークショップの実施方法などは、COVID-19の状況によって修正する可能性がある。その場合は Hoppii 等で適宜周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、自己紹介
2	暮らしを豊かにする道具や空間	暮らしの道具・空間をフィールドワークする
3	暮らしの道具をデザインする①	基礎的な考え方を学ぶ
4	暮らしの道具をデザインする②	デザイン方法論を学ぶ
5	デザイン・ワークショップ	デザイン実習
6	こころと、感情の科学①	基礎的な考え方を学ぶ
7	こころと、感情の科学②	理論を学び、考えを深める
8	こころと、感情の科学③	事例を学ぶ、体験する、考えを深める
9	【話題】非言語コミュニケーションと空間行動	身体的で、空間的な、非言語コミュニケーション、って何だろう
10	空間の体験をデザインしよう①	基礎的な考え方を学ぶ
11	空間の体験をデザインしよう②	アクティビティを分析し、体験をデザインする
12	空間の体験をデザインしよう③	事例を学ぶ：体験する、考えを深める
13	デザイン・ワークショップ	デザイン実習（グループ）
14	個人研究、グループ研究の育て方	個人研究／グループ研究のテーマの発表
15	オリエンテーション（秋）	テーマの紹介、進め方の話し合い
16	【話題】【知】の新しいカタチ	人工物がよきパートナーとなるために
17	遊び心、知を刺激する道具	基礎的な考え方を学ぶ
18	遊び心、知を刺激する道具②	理論を学び、考えを深める
19	遊び心、知を刺激する道具③	事例を学ぶ、体験する、考えを深める
20	【問題意識を育てる】心と心はつながれるのか	あなたの心と、他人のココロがつながる不思議
21	心をつなぐコミュニケーション②	コミュニケーションの新しいカタチ、を考える
22	心をつなぐコミュニケーション③	事例を学ぶ、体験する、考えを深める
23	デザイン・ワークショップ	体験、デザイン実習（グループ）
24	【話題】近未来の情報空間の姿	討議し、一緒に考えてみる
25	近未来の情報空間のデザイン	暮らしと人間を拡張する
26	近未来の情報空間のデザイン②	理論を学び、考えを深める
27	近未来の情報空間のデザイン③	事例を学ぶ、体験する、考えを深める
28	まとめ、発表、討議	個人研究の成果発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読む、発表準備、学内外でのフィールドワーク。開催可能な場合は、美術館、建築空間の探検に出かけ、夏や春には合宿がある。準備と復習は2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各自の研究テーマを伺い、道具のデザイン、こころの科学、コミュニケーション、空間デザイン、情報学と人工知能、を中心に提示する。

【参考書】

・「感情の科学」「コミュニケーションとしての身体」「こころの情報学」

・「未来のモノのデザイン」「弱いロボット」「ネット接続された心」「遊びと人間」

・「建築する身体」「アフォーダンス」「サステナブル建築」

・森の葬祭場（アスブルンド）、湖畔のアトリエ（コルビュジエ）、光の教会（安藤）、修学院離宮

【成績評価の方法と基準】

①発表や討議への参画、レスポンス（40%）、②グループ実験や実習の取り組み（30%）、③成果レポート（30%）を総合評価する。この評価で到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実施可能な場合は、実験や体験、モノづくり実習、建築探検の機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC があるとグループワークや合宿の時に便利。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

情報演習室と、甲研究室の先進的な機材を生かした実習を行う。

【参加希望者へ】

人間の「こころ」や感情のしくみ、コミュニケーション、モノづくり、建築、空間、玩具、家具のデザインに興味をもつ方に向いている。

次のような人物とのコラボレーションに興味がある：①不完全燃焼なまま大学生生活を終わらせない、②モノづくりが好き、③言葉にできない思いを大切にしている、④建築、空間デザイン、インテリアに興味がある、⑤土俗的な感性をもつデザイナー、⑥子どもや高齢者が楽しめる情報の道具を作りたい、⑦芸術家肌のプログラマー、⑧少なくともゾウとイルカには心が通じると信じている、⑨北欧建築、日本庭園、仏像に魅せられる、⑩海の中には、自分の知らない地球があと半分あることを知ってしまったダイバー、⑪人はそう簡単につながれない、SNSは迷いと孤独の増幅装置であると気づいてしまった人。好奇心旺盛で常識ある個性派、歓迎。

重要な関連科目

道具のデザイン学、道具による感覚・体験のデザイン、情報コミュニケーションⅠ、こころの科学、仮想世界研究、システム論

【注意】

”パソコンを実習するゼミ”ではない。しかし、ロボットに魅惑的なしぐさのダンスをさせたり、優しくハグする人工物を作ったりすることがある。

【Outline and objectives】

This seminar allows you to study on DESIGN, Science of Mind, and Non-verbal Communication. You are also encouraged to join several types of Design Workshops including design of "experiences and artifacts" as well as a colloquium of basic literatures. We sometimes go out for a fieldwork of "art and architectures."

FRI300GA

情報文化演習

重定 如彦

サブタイトル：コンピュータエンターテインメント

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、われわれの身の周りにはコンピュータを使ったありとあらゆるエンターテインメントが満ち溢れており、電車の中などでスマートフォンや携帯のゲーム機を楽しんでいる人の姿はめずらしくなくなってきている。また、単なる娯楽だけではなく、学習の場においてもコンピュータを使って楽しみながら学習効果を上げることが目的としたエンターテインメントと呼ばれるソフトウェアが注目を浴びている。また、近年では小学校からプログラミング教育が導入されるなど、プログラミングの技能の取得の必要性がますます高まってきている。

本演習ではそういったコンピュータを使ったエンターテインメントについて学び、自ら作品を作り上げていくことを目標とする。

【到達目標】

コンピュータエンターテインメントといってもそのジャンルは幅広く、プラットフォームもパソコン、ゲーム機、携帯端末を使ったものなど様々である。コンピュータエンターテインメントの特徴や、コンピュータエンターテインメントをどのようにして実現するかについて学び、理解する。

次にソフトを作成するための技法（プログラミングやウェブを使ったシステムの使い方）を学び、実際にソフトウェアを作成する。

われわれは普段はコンピュータのコンテンツを消費する立場であるが、コンテンツを提供する側の立場に立つことによって新しい視点を獲得し、新しいものをクリエイティブする力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

演習の概要は以下の通り。

・ 輪講

コンピュータエンターテインメントに関する様々なテーマについて輪講を行い、基礎知識を身につける。

・ プログラミングの演習

本演習の最終目的は何らかの作品を作成することであるが、そのためにはプログラミングの知識が必要不可欠になる。そのための演習を行う。

なお、学生のプログラミングの習熟度が異なっている場合は、習熟度別にグループを作り、演習を行う予定である。

・ 作品の設定と実習

3年次ではグループごとにいくつかの作品を設定し、その作品を製作する実習を行う。また、作品に関して中間発表と作品発表を行う。後期には対戦可能な作品を作成し、お互いのグループで対戦会を行う予定である。

・ テーマの設定と構想発表

3年次の最後に、輪講やプログラミング演習を通じて、4年次に作成する作品に関するテーマを各自考え、構想を発表する。

・ 個人研究

4年次では各自のテーマに従って研究を行い、各自の研究結果をまとめ、発表する。

・ 国際文化情報学会における発表

各自の研究結果を国際文化情報学会において発表する。また、国際文化情報学会での発表の際に得られた意見などを自分の研究にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論とテーマ設定	コンピュータエンターテインメントの概論について学び、グループごとの輪講のテーマを設定する
2	グループ1の輪講と演習	グループ1のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（変数について）

3	グループ2の輪講と演習	グループ2のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（条件分岐について）
4	グループ3の輪講と演習。2回目のテーマ設定。	グループ3のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（繰り返しについて）。2回目の輪講のテーマの設定を行う。
5	グループ1の輪講と演習	グループ1のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（関数について）
6	グループ2の輪講と演習	グループ2のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（ファイル操作について）
7	グループ3の輪講と演習	グループ3のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（アルゴリズムについて）。なお、必要であれば、演習は引き続き行う。
8	作品のテーマの設定と実習	グループごとに作成する簡単な作品のテーマを設定し、実習を行う
9	グループ1の作品の中間報告と実習	グループ1の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
10	グループ2の作品の中間報告と実習	グループ2の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
11	グループ3の作品の中間報告と実習	グループ3の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
12	グループ1の作品発表と実習	グループ1の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
13	グループ2の作品発表と実習	グループ2の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
14	グループ3の作品発表と実習	グループ3の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
15	品評会とまとめ	各グループの作品の品評会をおこない、春学期のまとめを行う
16	秋学期のテーマの設定と実習	お互いが対戦可能な作品のテーマを設定し、実習を行う
17	グループ1の作品の中間報告と実習	グループ1の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
18	グループ2の作品の中間報告と実習	グループ2の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
19	グループ3の作品の中間報告と実習	グループ3の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
20	グループ1の作品発表と実習	グループ1の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
21	グループ2の作品発表と実習	グループ2の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
22	グループ3の作品発表と実習	グループ3の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
23	作品の品評会と次のテーマの設定	お互いの作品を対戦させ、品評会を行う。次の少し複雑な作品のテーマの設定を行う。
24	グループ1の作品の中間報告と実習	グループ1の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
25	グループ2の作品の中間報告と実習	グループ2の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
26	グループ3の作品の中間報告と実習	グループ3の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
27	グループ1の作品発表と実習	グループ1の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
28	グループ2の作品発表と実習	グループ2の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、輪講の準備や作品の作成の作業などを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【参考書】

必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（30%）、輪講や作品の制作（70%）で評価する。

発表資料や作品はeポートフォリオに提出すること。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生のプログラミングの習熟度別にグループを分けたほうが良いという意見があったので、臨機応変にグループ分けを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ室のコンピュータを使用する。

【その他の重要事項】

プログラミングは一見難しく、とっつきにくそうに思えるかもしれないが、しっかりと勉強すれば2年間で自分自身の作品を作ることは十分に可能である。過去のゼミ生の一人に、途中まではあまりプログラミングに興味はなかったが、16パズルを作成する演習を行ったところプログラミングに興味を持ち始め、自分で本などを購入してシューティングゲームを作成した学生がいた。本ゼミでは、やる気があればプログラミングの未経験者でも歓迎する。

また、以下のウェブページに過去のゼミの論文や、ゼミ生の作品の一部があるので興味のある方は参考にして欲しい。ただし、過去のゼミのテーマは現在のものとは異なっているので、過去のゼミ論にはコンピュータエンターテインメントとは異なるテーマのものがある。

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/zemi/>

また、2013年度からゼミ生の制作物をeポートフォリオに保存することにした。<http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/view/groupviews.php?group=142>からこれまでのゼミの作品のページにアクセスすることができるので興味のある方は見てほしい。

【Outline and objectives】

In recent years, computer entertainments are very close to our daily life, and there are many people playing computer entertainment by smart phone in the train. Moreover, software called edutainment software which uses entertainment for studying draws many people's attention. Objectives of this class are to study computer entertainment and to create original computer softwares.

SES300GA

情報文化演習

島野 智之

サブタイトル：生物と持続可能な社会

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の加速的破壊が進むなか、持続可能な社会作りを考える。フィールドワーク等を通して、我々はどうあるべきかを各自考える。世界に視野を広げ見直してみる。「生き物と文化」について、考える。

【到達目標】

与えられた課題をこなすだけでなく、自分で問題点を見つけて取り組むことが出来るようになること。具体的には、積極的に現場に出かけて情報を収集できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業だけではなく夏期休暇などを利用して、フィールドワークを計画している。

また、メイン・テーマ以外に、自由な視点でプロジェクトを企画・実践し、秋学期に開催される学部内の研究発表会に参加する（予定）。そして、論文作成に取り組む。

特に、教室を出てフィールドワークを考える（たとえば、地方への訪問など）。また、ゼミに関係したゲストをお招きする予定。

適宜、メール添付書類等を使った課題提出とその添削を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介および1年間の授業計画
第2回	生物多様性とは何か	生物多様性についての概観
第3回	生物多様性はなぜ重要か	生物多様性の意義。国際関係や経済活動がなぜ繁栄するのか？
第4回	生物多様性条約	各国の生物多様性条約への取り組みと経済活動。各国間の駆け引き
第5回	日本の生物多様性	日本の生物多様性。日本における生物多様性ホットスポットとは？
第6回	日本の食料事情など	日本の食と文化について～漁業と文化～
第7回	世界の生物多様性	世界の生物多様性。地球の持続可能性と相反するのか、あるいは、補い合う方法はないのか？
第8回	世界の食料事情など	世界の食と文化について～チーズと文化～
第9回	4年生の論文テーマ発表（事前準備）	論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。
第10回	4年生の論文テーマ発表（本報告）	論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表し、確定する。
第11回	生物多様性に関する討議	生物多様性について調べて、討議する。
第12回	生物多様性に関する問題を探る	討議を踏まえて、今後、どの様に各国が対策をとっていったら良いのか、あるいは、どのような問題解決の方法があるのか？
第13回	3年生のプロジェクト発表	前回、前々回の討議を踏まえて、3年生の調査研究テーマを発表する。
第14回	4年生の論文中間報告	論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。

第15回	4年生の論文中間報告（再）	再び、論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。
第16回	4年生の論文中間作成（前半）	進捗状況に基づいて、作成にかかる。
第17回	4年生の論文中間作成（後半）	進捗状況に基づいて、作成にかかる。
第18回	3年生のプロジェクト成果発表	プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。
第19回	国際文化学部学会準備①	テーマを出し合って討議する。
第20回	国際文化学部学会準備②	討議したテーマに基づいて、調査研究をすすめる。
第21回	国際文化学部学会準備③	まとめ
第22回	4年生の論文発表①	プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。（4年生の1/3について）
第23回	4年生の論文発表②	プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。（4年生の1/3について）
第24回	4年生の論文発表③	プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。（4年生の最後の1/3について）
第25回	個人研究作成①	テーマを出し合って討議する。
第26回	個人研究作成②	討議したテーマに基づいて、調査研究をすすめる。
第27回	個人研究作成③	まとめ
第28回	個人研究発表会	プレゼンテーションを交えて発表。コメントを付けて討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で課題を見つけ、多角的に取り組むこと。文献を収集するだけでなく、直接、調査・取材活動をおこなうこと。可能な限り、情報源に当たり、なにが、オリジナルであるのかを明確にした上で、レポートなどを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

「地球の論点—現実的な環境主義者のマニフェスト」スチュアート ブランド (著)、仙名紀 (翻訳)、英治出版、2011。

他は必要に応じて、その都度、指示します。また、ゼミに関係したゲストをお招きする予定です。

【成績評価の方法と基準】

年度末までにまとめた各自の成果（50%）、およびそのために各自が行った企画・調査活動状況（＝平常点：50%）。頑張る姿勢、真摯な姿勢を評価したいと思います。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミは、受け身的な授業と異なり積極的にみんなで作り上げていくものです。4年生は後輩をサポートしお手本となるように心掛け、3年生は先輩をよく見て学んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業には、主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用い、各自に、パワーポイント、あるいは、ポスターなどでプレゼンテーションをしていたことがあります。

【その他の重要事項】

本ゼミの目標は、文献などの間接情報だけに頼るのではなく、直接出向いて生の情報に触れ、それらを通して学ぶことの面白さを知り、自己を鍛えることでもあります。

そして、グループ活動を通じて切磋琢磨し、相手を思いやる心を身に付け、少しでも一人前の社会人に近づくことです。

与えられたことを行うだけでは一人前とは言えず、自分でさらに課題を見つけて取り組んでこそ、一人前と言えます。そのためには、小さな事でも損得を考えずに手抜きせず真面目に取り組むことが大切です。

授業の各回のテーマは、受講生の希望や最新のトピックスなど取り入れることがありますので、内容や順番が異なる場合があります。

【Outline and objectives】

With accelerated destruction of the global environment, think about creating a sustainable society through fieldwork.

PHL300GA

情報文化演習

森村 修

サブタイトル：思考のパフォーマンス研究——ソーシャリー・エンゲイジド・アートを参考にして

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本演習の概要】

私たちは、日常生活の中で、自分の意思や意図、気持ちや欲望を表現しています。例えば、ある人たちは、Facebook、Instagram、TwitterなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を用いて、不特定多数の他者に向かって自分の意見や考えを述べたり、写真などを載せたりします。また、比較的小規模で近い間柄のグループでは、LINE やメールなどを通じて、自分の気持ちや感情を LINE のスタンプや絵文字を使って表現します。

このように私たちは、様々な情報ネットワークを使って、自分の気持ちや思想の表現を、文字だけでなく記号や絵や写真などを用いて、他者に向けて発信したり、他者からの表現（物）を受信したりしています。

本演習では、それを「思考のパフォーマンス」として捉えて、深く考えたり実践したりしていきます。私たちの日常的なやり取りを「パフォーマンス」として捉えることで、私たちの社会や世界を変える「力」をもつのです。皆さんが発した言葉や、体や表情で表現したりする「パフォーマンス」が、たくさんの人の心を動かし、社会そのものを変える可能性があるのです。

SNS がグローバルな世界に広がっているのだから、どこかの誰かが、皆さんが知らないうちに、皆さんが書いたものや、写真や動画で表現したものをしています。もはや私たちの狭い人間関係だけで、社会や世界は成り立っていないのです。だからこそ、私たちは、SNS だけでなく、私たちの身体表現や言葉を介した様々な「パフォーマンス表現」が、良い方向にも悪い方向にも社会を変える「力」があることにもっと自覚的になる必要があります。

そこで本演習では、私たちの個人的な表現が、直接的に社会にコミットしていく（在り方を、一般的に「**Socially Engaged**」（社会に関与する=社会に参加（コミット）する）という「パフォーマンス表現」のもとで考えていきます。

【本演習の目的】

本演習では、「自らの思考・思想を言語や身体などを用いて表現することによって、社会に関与（コミット）することはいかにして可能か」という問いについて考察していくことを目的とします。その際に、「ソーシャリー・エンゲイジド・アート *Socially Engaged Art*（社会関与の芸術）」（以下、SEA）の理論と実践に着目していきます。1990年代末から2000年代にかけて興ったSEAの運動は、アート（芸術）界だけでなく、「ソーシャル・プラクティス」と名のりながら、もっと広い社会運動にまで発展してきています。

ただ、本演習では、「思想のパフォーマンス」研究がテーマですから、アート（芸術）やパフォーマンス運動から多くを学びますが、それだけが「Socially Engaged」の思想だとは考えていません。例えば、1960年代には、仏教思想の中で、ベトナム戦争に抗議する「Socially Engaged Buddhism（社会参加仏教）」運動が発展してきており、21世紀の現在でもアジアの諸地域で運動を続けています。

私たちを取り巻くグローバルな状況の中で、植民地主義、外国による侵略、戦争・紛争、権力による弾圧、社会的不正、貧困、人種差別・性差別・障害者差別・高齢者差別が問題になっています。現在では、新型コロナウイルスの感染爆発によって、日常生活が危機に瀕しています。これらに対して、アートという手段を用いて、社会にコミットし、社会を少しでもよくしていくことを考えていきます。

そこで本演習では、皆さん自身の思想のパフォーマンス表現が、社会と密接に結びついているということに改めて考えるとともに、自分の思想により良いパフォーマンスを与えることによって、社会に向かって働きかけていくことが目的となります。そのために、演習内部では、仲間と切磋琢磨することによって、互いの表現を検討し合いながら、自らの思考や思想を「論文」や「作品」にして表現していくことが重要な活動になります。

【本演習の意義】

本演習の意義は、日々の生活における欲望の力を考察し、欲望を正しく解放すること、すなわち欲望が誤った方向に流れていかないように、欲望を正しくコントロールすることです。そうすることによって、私たちは、私たちの現実の世界を、少しでもよりよいものにしていくための批判的な視座を獲得することを目指します。

【到達目標】

①私たちの思考や行為がどのように社会に関与しているかを理論的に考察することができる。つまり、私たちの思想を表現するために、簡単な文章から難しい哲学的テキストに至るまで「読む力」を身につけることができます。

②私たちの思考や行為をどのように表現すれば良いかを実践的に学ぶことができます。私たちの思考の生産物は、どのようにすればより良くなるのかを実践的に体験することで、「書く力」を身につけることができます。

③私たちの思考や行為が他者にどのように伝わっているかを技術的に学ぶために、自分が表現したものを公的に発表することで、「表現力」を身につけることができます。

④私たちの思考や行為が社会にどのように影響を与えることができるかを実践的に学ぶために、国際文化情報学会などの機会を利用して「プレゼンテーション力」を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

◆通常の授業では、次の二つの研究を主にして進めていきます。

①指定テキストに基づいた「グループ研究」

ゼミ生をいくつかのグループに分け、グループごとに事前に担当箇所の「テキストを読解」し、「レジュメを作成し」、ゼミ当日に担当グループが「発表」し、それ以外のゼミ生と「討議」します。そうすることで、テキストの理解を深めます。演習の基本となる研究なので、最も重要な活動になります。

②自分のテーマを研究する「個人研究」

個人の研究テーマは、演習の時間内で「発表」してもらいます。ゼミ生各自が自らのテーマに即して研究を進めます。個人研究のテーマは、グループ研究【ゼミのテーマ】とはまったく関係なくてもかまいません。最終的に、研究の成果を、学期末・年度末に「ゼミ論」や「ゼミ制作」（2・3年生）、年度末に「ゼミ総括論文」や「ゼミ総括制作」（4年）にまとめてもらいます。個人研究は、自分の思想の表現として最も自由に研究できるテーマを担当教員と相談しながら、進めていきます。

◆ゼミ全体の課題

本演習では、毎年12月に開催される「国際文化情報学会」にインストラクション部門で発表をしています。2021年度も、学会で発表する予定にしています。希望者があれば、他の部門（論文部門、ポスター部門、映像部門）にも参加を予定しています。

◆学年による課題

③2年生・3年生については、「グループ研究」に重点を置きながら、「読む」「書く」「発表する」「プレゼンする」ための「力」を身につけることが重要です。4年生については、個人研究をまとめあげて、思考表現の「パフォーマンス」を様々な媒体=メディアで発表できるように仕上げていきます。

④課外活動として、年2回（夏・冬）行う「ゼミ合宿」を実施します。

(1) 初夏には、「ゼミ遠足」を計画しています。これは、互いのテーマや関心について自己紹介しながら、ゼミに慣れることが目的です。

(2) 夏のゼミ合宿は、東京を離れて、様々な地域を訪問することで、その地域にある美術館や博物館、資料館などを訪ね、表現の仕方の多様性を学びます。

(3) 冬のゼミ合宿は、2・3年生の「ゼミ論」・「ゼミ制作」、4年生の「ゼミ総括研究」・「ゼミ総括制作」の合評会を行い、互いの「表現」を批評し合います。

⑤個別の希望者には、外部講師と連繋した「課外セミナー」や美術館・博物館などの公共施設の訪問なども考えています。コロナ禍の状況ではまだ未確定ですが、できれば戦後日本の視覚芸術と社会運動の関係性を研究しているワシントン大学（米国・シアトル）の教員と連絡を取り、当地での合宿も実施したいと考えています（自由参加・自費）。

◆2021年度も、例年と同様に、川村たつる先生（本学非常勤講師・デザイナー）のご協力をお願いするつもりです。川村先生には、おもに個人研究の作品制作について直接的な指導をお願いします。また、理論指導ならびに論文表現については、森村が担当します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プレゼミ	1. 顔合わせ 2. 今後の方針 3. 授業の進行など
2	グループ研究① アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会編『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』(1)	1. ソーシャル・プラクティスへの大きなうねり 2. ソーシャリー・エンゲイジド・アートにおける理論と実践の関係について
3	グループ研究② アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会編『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』(2)	1. ソーシャル・プラクティスをめぐる理論の現状 2. 演劇と社会
4	グループ研究③ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(1)	第1章 社会的転回: コラボレーションとその居心地の悪さ
5	グループ研究④ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(2)	第2章 人工地獄: 歴史的前衛

6	グループ研究⑤ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(3)	第3章 私は参加する、君は参加する、彼は参加する...
7	個人研究① 前期中間発表	・個人研究の構想発表(1)
8	グループ研究⑥ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(4)	第4章 明示された社会のサディズム
9	グループ研究⑥ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(5)	第5章 社会主義の内にいる社会性
10	グループ研究⑦ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(6)	第6章 附帯の人々:芸術家幹旋グループとコミュニティ・アート
11	グループ研究⑧ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(7)	第7章 旧西側体制:1990年代初期におけるプロジェクトとしての芸術
12	グループ研究⑨ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(8)	第8章 委任されたパフォーマンス:外部に委ねられる真正性
13	グループ研究⑩ クレア・ビショップ『人工地獄——現代アートと観客の政治学』(9)	第9章 教育におけるプロジェクト:「いかに芸術作品であるかのように、授業を生きさせるか」
14	個人研究② 個人研究 春学期・期末発表	個人研究の構想発表(2)
15	秋学期イントロダクション	①秋学期の演習概要説明 ②学会のテーマ決定 ③総括研究の注意など
16	グループ研究① アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(1)	第1章 序論——モダン、ポストモダン、コンテンポラリー
17	グループ研究② アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(2)	第2章 芸術の終焉のあとの30年間
18	グループ研究③ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(3)	第3章 巨匠のナラティブと評論の原理
19	個人研究① 「ゼミ論」中間発表①	ゼミ生の個人研究発表(1)
20	グループ研究④ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(4)	第4章 モダニズムと純粋芸術批判——クレメント・グリーンバーグの歴史像
21	グループ研究⑤ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(5)	第5章 美学から美術評論へ
22	グループ研究⑥ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(6)	第6章 絵画、そして歴史の境界——純粋なものの消滅
23	グループ研究⑦ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(7)	第7章 ポップ・アートと過ぎ去った過去
24	グループ研究⑧ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(8)	第8章 絵画、政治、そしてポスト・ヒストリカルな芸術
25	グループ研究⑨ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(9)	第9章 モノクローム芸術の歴史博物館
26	グループ研究⑩ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(10)	第10章 美術館と渴いた大衆
27	グループ研究⑪ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(11)	第11章 歴史のさまざまな様相——可能性と喜劇
28	個人研究② 「ゼミ総括研究」最終発表②	ゼミ生の個人研究発表(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

グループ研究の発表のためには、グループのメンバーが授業前に集まって準備する必要があります。メンバーが集まることで、テキストについての互いの理解が深まったり、わからなかった箇所を検討することができたり、テキストを理解するために必要な情報を他の資料やインターネットから得たりすることができます。これらの準備学習をすることで、仲間たちとのコミュニケーションが円滑になり、発表担当外の仲間から授業中に出される質問に対して、適切に応えることができるようになります。

そのために、授業外にグループで集まって集中学習することが、ゼミ内の活性化にも繋がり、各自の研究の広がりや深みを増すこととなります。したがって、ゼミの事前研究のために時間は、週に二、三回、各2時間程度かかることを前提としてください。

【テキスト（教科書）】

- (1) アート&ソサエティ研究センター SEA 研究会編『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルム・アート社、2018年。
- (2) クレア・ビショップ『人工地獄 現代アートと観客の政治学』フィルム・アート社、2016年。
- (3) アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』三元社、2017年。
- (4) 久保田晃弘・きりとりめでの共訳・編著『インスタグラムと現代視覚文化 レフ・マノヴィッチのカルチュラル・アナリティクスをめぐる』ビー・エヌ・エヌ新社、2018年。
- (5) 阿満利磨『行動する仏教 法然・親鸞の教えを受けつづ』ちくま学芸文庫、2011年。
- (6) 阿満利磨『社会をつくる仏教 エンゲイジド・ブディズム』人文書院、2003年。

【参考書】

- (1) ニクラス・ルーマン『社会の芸術』法政大学出版局、2004年
- (2) 北田暁大・神野真吾・竹田恵子『社会の芸術／芸術という社会 社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルム・アート社、2016年
- (3) レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語 デジタル時代のアート、デザイン、映画』みすず書房、2013年
- (4) 北原恵『アート・アクティヴィズム』インパクト出版、1999年
- (5) 北原恵『攪乱分子@境界 アート・アクティヴィズムⅡ』インパクト出版、2000年
- (6) Nicolas Bourriaud, *Relational Aesthetics*, Les Presses du réel, 1998/2008.
- (7) Sallis B. King, *Socially Engaged Buddhism*, University of Hawai'i Press, 2009.
- (8) Christopher S. Queen and Sallie B. King (ed.), *Engaged Buddhism: Buddhist Liberation Movements in Asia*, State University of New York Press, 1996.
- (9) Arnold Kotler (ed.), *Engaged Buddhist Reader: Ten Years of Engaged Buddhist Publishing*, Parallax Press, 1996.

【成績評価の方法と基準】

- ①グループ研究発表・レジュメの完成度・討議の参加 (25%)
- ②個人研究発表・レジュメの完成度・討議の参加 (25%)
- ③ゼミ論(2・3年生)(50%) /ゼミ総括研究(4年生)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

2021年度は、大学の要請に従い、基本的にはリアルタイムオンラインでゼミを進めていく予定ですが、ゼミ生の要望があれば、少人数を基本とするゼミですので、対面式授業に切り替えていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

・オンライン授業の場合には、インターネットに接続可能な機器を用意してください。
・学習支援システムを基本的に用いていきますが、教員とゼミ生との連絡については様々な SNS やメールなどで、コミュニケーションを欠かさないようにしていきます。

【その他の重要事項】

【授業外の活動】

①ゼミ卒業生や大学院生との交流があります。年一回年末の「望年会」（私たちの演習では「年忘れ」の「忘年会」とは言いません。次の年を「希望の年」として迎えるために「望年会」と呼びます。一期生が20年以上前に、この名前をつけてくれました）には、1期生から現役のゼミ生まで、ほとんどの学年の卒業生が集まります。これは、本演習の最大の人的資産であり、他のゼミには絶対に負けない資産です。それ以外にも、様々な面で活躍する卒業生たちの交流が、密接に行われています。

②年2回の「ゼミ合宿」もまた、基本的には全員参加してください。向上心をもって、より成長したい人が積極的に参加してくれることが前提です。ただ本演習としては、欠かすことのできない課外活動であることに変わりはありません。合宿では、ゼミ生同士の交流、教員との親睦、さらには東京近郊では体験できない他の地域の施設などの訪問など、刺激を得る機会となっています。

※ 本演習では、授業外の活動が重要です。積極的に参加し、自らを磨く「修練」を積むことが本演習では要求されていますので、注意してください。

【注意と要望】

基本的に、ゼミで課される課題に集中し、他のゼミ生と交流することが重要です。もちろんゼミ生の個性と自由は尊重しなければなりません。ゼミは集団活動ですから、過度な個人プレーには気をつけてもらいたいです。様々なことに好奇心を持ち、互いに切磋琢磨しながら協力し、真面目に研究に取り組む人に来てもらいたいです。本演習では、地味がかまいませんから、ひとつのことに熱中できることが重要です。

【コメント】

本演習は、「情報文化演習」のひとつですが、コンピュータを用いてゼミ活動をすることはありません。ただ、作品を制作したり、研究発表をする際に、パソコンが使えたりと便利かもしれません。それも、気にする必要はありません。

【Outline and objectives】

【Purpose of this exercise】

The purpose of this exercise is to examine the question of "How can it be possible to engage in society (commit) by expressing one's thoughts?" In doing so, we will focus on the theory and practice of "Socially Engaged Art" (SEA). In this exercise, it is important to refine your thoughts by giving good expression to your thoughts while working hard with each other. As a result, the ultimate purpose of this exercise is to express one's thoughts as "thesis" or "work".

【Significance of this exercise】

The significance of this seminar is twofold. First, in order to properly communicate your intentions and thoughts to others, students can refine their expressions by reflecting on their expressions. And secondly, your good expression can enable your participation and make your real world a little better.

ART300GA

表象文化演習

稲垣 立男

サブタイトル：コミュニケーションとアート

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会とつながるアートプロジェクトやワークショップに関する実践を軸として、様々な表象文化（現代美術、現代音楽、コンテンポラリーダンス、演劇、映像、テキスト等）に関する研究を行います。

様々なコミュニティとのコラボレーションを通じて、背景の異なる人々の生活や文化を学び、様々な方法で相互の考えを理解することを経験的に学びます。また、学生各自の関心のある表象分野について考察を進め、その背景となる理論についての研究を並行して行います。

今年度は茨城県ひたちなか市で開催されるアートプロジェクト「みなとメディアミュージアム」にアーティストとして参加予定です。

<https://minato-media-museum.com>

研究を通じて以下のような姿勢がこの演習では重要となります。

1. 既存概念に囚われずに自由に発想すること
 2. 様々な方法で他者と関わること
 3. ものごとの本質を見極めること
- これらについて個々の課題として検証し、社会に繋がる問題を発見することが目標です。このような能力は、周囲の情報に流されがちな現代社会において自らの方向を定め、日々の生活を豊かにすることになるでしょう。

【到達目標】

- ・2、3年生春学期
様々な表象文化について体験し、研究に関する各個人の関心について考えてみます。学期の後半では、研究発表（作品・ポスター発表）を行います。また、グループで行うワークショップに参加します。
- ・2、3年生秋学期
個人研究のテーマについて取り組みます。国際文化情報学会、個人研究展での研究発表に取り組みます。
- ・4年生春学期
個人研究について考察を深めていきます。特に先行研究の調査が中心となります。
- ・4年生秋学期
研究の仕上げとして国際文化情報学会、個人研究展での研究発表に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
- ・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・ Zoom（ミーティング）
- ・ Slack（授業に関するお知らせと各研究に関する全てのフィードバック）
- ・ Google Classroom、Google Form（課題提出）
- ・ Miro（コラボレーション）
- ・ Flip grid（映像制作、コラボレーション）
- 共同研究、個人研究
- ・ グループによる共同研究

【春学期】表象文化についての理解を深めるため、ワークショップや課題解決型学習が中心となります。

【秋学期】1年間の研究の成果を国際文化情報学会で発表します。

- ・ 個人研究
年間を通じて個別に研究を進めます。
- 各学期に中間報告会及び研究発表会（展覧会）を行います。
- 研究方法については以下の2つから選択してください。また、学内外での研究発表も各自で検討してください。

- 2年生
1. 作品制作+制作報告書
2. レポート（4,000字程度）+ポスター

- 3年生
1. 作品制作+制作報告書
2. 論文（8,000字程度）+ポスター

- 4年生
1. 作品制作+制作報告書
2. 論文（16,000字程度）+ポスター

○ゼミ合宿など学外での活動（年間に数回程度）

「みなとメディアミュージアム 2021」の開催される茨城県ひたちなか市で作品制作を兼ねたゼミ合宿を予定しています。また、機会があれば美術館やギャラリーの展覧会や国際展、劇場での公演を鑑賞します。

○ぜんまい（in English）

授業の冒頭に個人研究に関連したテーマで10分程度のプレゼンテーションを行います。昨年度に続き、英語によるプレゼンテーションに挑戦します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/7	オリエンテーション	春学期活動について 研究の進め方 身体表現 1
4/14	ワークショップ 1-1	パフォーマンス・アートについて 身体表現 2
4/21	ワークショップ 1-2	作品制作 身体表現 3
4/28	ワークショップ 1-3	作品に関する考察 映像表現 1
5/12	ワークショップ 2-1	ビデオアートについて 映像表現 2
5/19	ワークショップ 2-2	作品制作 映像表現 3
5/26	ワークショップ 2-3	作品に関する考察 個人研究について 個人研究に関するプレゼンテーション 2
6/2	個人研究 1	アートプロジェクト 1 みなとメディアミュージアムの作品のアイデア
6/9	個人研究 2	アートプロジェクト 2 作品の具体的なプラン アートプロジェクト 3 作品制作スケジュールの検討
6/16	ワークショップ 3-1	作品及び研究ポスター展 展示作業
6/23	ワークショップ 3-2	作品及び研究ポスター展 講評会 撤去作業
6/30	ワークショップ 3-3	秋学期活動について 春学期個人研究のポスター発表
7/7	個人研究 3	国際文化情報学会とは 研究発表の方法についての決定
7/14	個人研究 4	研究企画案 1 グループディスカッション 研究企画案 2
9/22	オリエンテーション	グループディスカッション 研究企画案 1 企画書の作成
9/29	個人研究 5	研究企画案 3 企画書の作成 中間チェック
10/6	表象文化研究の基本 2	プレゼンテーションの手法の検討 材料などの検討と準備
10/13	表象文化研究の基本 3	研究発表の準備 1 各プレゼンテーション作品の制作
10/20	表象文化研究の応用 1	研究発表の準備 2 各プレゼンテーション作品の制作
11/3	表象文化研究の応用 2	国際文化情報学会 発表研究についての講評
11/10	表象文化研究の応用 3	秋学期個人研究に関するプレゼンテーション 1
11/17	表象文化研究の実践 1	秋学期個人研究に関するプレゼンテーション 2
11/24	表象文化研究の実践 2	個人研究展の準備
12/1	表象文化研究の実践 3	個人研究展の準備 講評会
12/8	個人研究 6	
12/15	個人研究 7	
12/22	個人研究 8	
1/12	個人研究 9	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. これまでの経験などは問いませんが、年間を通じて意欲的に取り組んでください。
2. 個人研究については担当教員と相談しながら進めていくことが大切です。質問・疑問点については教員によく相談してください。大学院などへの進学を希望されている方についても、研究の内容や方法について教員に相談して検討してください。
3. 展覧会・コンサート・映画館などで作品鑑賞する機会を持ち、また他のアートやデザインに関する実習や講義も積極的に受講するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で使用する教科書はありませんが、いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史: 欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
木石 岳、川島 素晴『はじめての<脱>音楽 やさしい現代音楽の作曲法』自由現代社、2018

平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』講談社、2012

各自の研究に関連する実践例（プロジェクトや展覧会）、参考文献を参照しておいください。

1. 美術に関する展覧会や講演、ダンスや演劇などのパフォーマンスアーツの公演
2. 福祉施設、博物館、広場や公園など公的空間における環境計画
3. 病院や学校など、公的な場所でおこなうワークショップなどの研究
4. 地域コミュニティのポータルサイトや映像作品、冊子などの企画制作
5. 地域活性化のためのイベントやプロジェクトなどの計画案

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、共同研究（研究への協力と貢献）個人研究（調査や研究の積極性）の合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 共同研究（25%）
3. 個人研究（25%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの活動運営は、チームワークについての重要な経験となりますので積極的に関わってください。特に、ゼミ内のコミュニケーションのあり方について考えていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

作品制作やプレゼンテーションでPCを活用する機会が多いと思いますので、関連した実習授業を履修しておくといでしょう。WordpressでのブログやSNSによる情報発信も積極的に行います。課題提出では学習支援システムを活用しますので、必ず登録しておいてください。

【その他の重要事項】

2020年度は11月に国際文化情報学会の研究発表のために数回対面授業をしましたが、残りの期間はオンラインで研究を進めました。今後の新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、2021年度もオンラインでの授業が中心となる可能性が高いと考えられます。

演習の活動記録（ブログ）です。

<http://inagakiseminar.com/document/>

教員のウェブサイトです。

<http://www.tatsuoinagaki.com>

【Outline and objectives】

Focusing on research on art projects and workshops for connecting people and society, we will practice and consider various representational cultures (music, performing arts and films, among other things).

Through collaboration with various communities, we empirically study the lives and cultures of people from different backgrounds and to communicate our ideas in various ways. Students will also study on the field of representation that they are interested in, and will also conduct research on the theory behind them.

The following attitude is significant throughout the research.

1. Think freely without being bound by established concepts
2. Be involved with others in various ways
3. Determine the essence of things

It is our goal to examine these as individual issues and discover issues that will lead to society. Such abilities will enrich our daily lives in modern society, where the surrounding information tends to be shed.

GDR300GA

表象文化演習

岩川 ありさ

サブタイトル：現代文化創造論

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

※2021年度は受講者の新規受け入れを行いません。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【2021.1.19 更新】この演習では、春学期に、ポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』（土屋武久訳、ミネルヴァ書房、2016）を教科書として、メディア文化研究の観点から表象分析を行うための視座を養います。また、マンガ、アニメーション、2.5次元文化、ヴィラン表象、ボーカロイドなど、具体的な表象文化を対象として、分析を行う力を培います。秋学期には、国際文化情報学会での発表を行う予定です。授業は金曜日5限に行います。

【到達目標】

- 1) 授業で学んだトピックについて、具体例をあげながら、表象分析が行える。
- 2) 論点を整理してディスカッションを行うことができる。
- 3) グループワークを通じて成果を発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

(1) 演習形式で行います。

(2) 春学期は、ポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』（土屋武久訳、ミネルヴァ書房、2016）を教科書として、メディア文化研究の観点から表象分析を行い、プレゼンテーションやディスカッションを行います。

(3) 秋学期は、井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）を教科書にして、リサーチの仕方やレポートのまとめ方を学びます。また、本年度のテーマについて国際文化情報学会での発表を行うためのグループワークを行います。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	4/9 オリエンテーション	・1年間の授業計画について説明を行います。 ・ゼミ長、副ゼミ長、書記係、ゼミ発表進行の係など役割を決定します。
第2回	4/16 ポピュラーカルチャーを学ぶために	ポピュラーカルチャーを学ぶための概論を行います。
第3回	4/23 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(1)	第1章「メディアが先か、文化・社会が先か？」社会とメディア表象の関係、コミュニケーションの理論、第2章「メディアテクノロジー」メディア論の展開、テクノロジー決定論とその批判を全員で読んでくる。
第4回	5/7 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(2)	第3章「メディア産業」メディアの一端集中化、思考の多様性の確保、政府と規制、第4章「メディアコンテンツ」記号論、ナラティブ分析、ジャンル分析、ディスコース分析
第5回	5/14 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(3)	第5章「メディアユーザー」オーディエンス研究、カルチュラル・スタディーズ、メディアと暴力、第6章「メディアが操作する？」マルクス主義とイデオロギー、消費主義の神話、消費者による抵抗
第6回	5/21 表象作品の分析(1)	マンガ、アニメーションなど具体的な表象作品を分析します。

第7回	5/28 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(4)	第7章「ニュースの解剖学」作られた世界の表象としてのニュース、ニュースの情報娯楽番組化、第8章
第8回	6/4 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(5)	第9章「国民的メディアの衰退」公共圏、想像の共同体、グローバリゼーション、第10章「メディア・エスニシティ・ディアスポラ」人種差別とナショナリズム、ステレオタイプな表象、文化様式の様式多様化
第9回	6/11 表象作品の分析(2)	ヴィラン、ボーカロイドなど具体的な表象作品を分析します。
第10回	6/18 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(6)	第11章「メディア・ジェンダー・セクシュアリティ」フェミニズム、異性愛主義批判、クィア・リーディング、第12章「メディアコミュニティ」ファン・アート、ファン・グループ、コミュニティとアイデンティティ
第11回	6/25 『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』を読む(7)	第13章「メディアによる飽和・集団の流動性・意味の喪失」ポストモダンのメディア論、「事実」と「虚構」、リアリティの行方を全員で読んでくる。
第12回	7/2 個別面談	・4年生の個別面談をします。(25分×4名) ・面談中、他の学生は研究発表の準備をします。その中で、疑問点が出れば、再び面談を行います。
第13回	7/9 個人研究発表会	4年生の個人研究発表をします。(25分×4名)
第14回	7/16 まとめ	国際文化情報学会に向けての企画会議をします。各自、案を発表し、発表部門や企画の大枠を練ります。今後どのように進めるのか、計画を決定します。秋学期の計画および国際文化情報学会と論集作成に向けての説明。
秋学期・第1回	9/17 秋学期・オリエンテーション	井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）第1章をもとに、論文・レポートとは何かについてまとめます。
第2回	9/24 個人研究の研究(1)	井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）第2章をもとに、思考を論理的に組み立て、説得力のある文章を書くための方法について学びます。
第3回	10/1 個人研究の研究(2)	井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）第3章をもとに、文献の調べ方や論証の仕方について学びます。
第4回	10/8 個人研究の研究(3)	井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）第4章をもとに、文献の調べ方や論証の仕方について学びます。
第5回	10/15 個人研究の研究(4)	井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）第5章をもとに、パラグラフ・ライティングについて学びます。
第6回	10/22 個人研究の研究(5)	井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019）第6章をもとに、プレゼンテーションの仕方について学びます。
第7回	11/5 個人研究の研究(5)	国際文化情報学会の発表内容について決定します。
第8回	11/12 グループワーク(1)	国際文化情報学会での発表に向けてグループワークを行います。
第9回	11/19 グループワーク(2)	国際文化情報学会での発表の練り直しを行います。
第10回	11/26 グループワーク(3)	国際文化情報学会での発表の準備を行います。
第11回	12/3 グループワーク(4)	4年生の個別面談をします。(25分×4名) ・面談中、他の学生は研究発表の準備をします。その中で、疑問点が出れば、再び面談を行います。
第12回	12/10 個別面談	4年生の個人研究発表をします。(25分×4名)
第13回	12/17 個人研究発表	今年度の演習についてのまとめを行います。
第14回	12/24 まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・春学期

ポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待—多声性を読み解く理論と視点』（土屋武久訳、ミネルヴァ書房、2016） 4,320 円 ISBN: 4623075745

秋学期

井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019。1,320 円。ISBN: 4766425772

【参考書】

近藤克則『研究の育て方—ゴールとプロセスの「見える化」』（医学書院、2018）

新田誠吾『これならできる！ レポート・論文のまとめ方』（すばる舎、2019）

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、研究発表とグループワーク 50 %、学期末レポート 50%で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートでのゼミ開催となっているが、全員が意欲を持って参加している。リモートの特性も活かしつつ、積極的な学びを行う。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションやレポート作成を行うためのパソコンなど。

受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about Media studies. Primarily we will focus on the works of Paul Hodkinson. We will also examine social and historical issues. In the spring semester coursework will include weekly reading of Media, culture and society : an introduction (SAGE Publications Ltd; 1 edition, 2010) in Japanese translation. In the autumn semester, we will participate in an academic conference of FIC.

ART300GA

表象文化演習

岡村 民夫

サブタイトル：場所論

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※2021年度のみ2～4年を対象とする。単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「場所」とは、私たちの文化を文字通り足下から支える基盤である。文化の観点から場所を研究するとともに、文化を「場所」の観点から見なおす。

春学期の主題として、この演習ではこれまでに「風景」「旅行」「歩行」「都市」「観光」「水辺」「庭園」「ジブリ」「都市の映像」「建築家」などを取り上げてきた。昨年度の主題「江戸・東京」を深めるために、本年度は「東京の古層」を春学期の主題としながら場所の文化的意義とその変遷について考える。

【到達目標】

文化と場所の相関性に関して、文献を通して知識をつけるだけでなく、作品鑑賞やフィールドワーク（とミニレポート）を通して、作品分析力、場所に対する感受性や想像力を体験的・実践的に養うことを目指す。

またゼミの諸活動を通じて、調査力、発表力、コミュニケーション力、責任感を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

春学期は、主として「増補改訂 アースダイバー」についてグループ発表とディスカッションを行う。

秋学期前半は、4年生による研究発表、秋学期後半は3年生による研究発表（秋学期末レポート予備発表）を行う。秋学期の発表・レポート・卒論の主題は、場所に関する表象文化の研究であれば「東京の古層」以外の主題でも、また作品制作でも構わない。

年間を通じ、合間に適宜、東京のフィールドワークや展覧会見学を実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。 一年間の計画の説明。 『増補改訂 アースダイバー』に関する概説。 春学期のグループ発表の計画。
2	「プロローグ 裏庭の遺跡へ」「第1章 ウォーミングアップ 東京島嶼」を通じた導入	前期発表の見本として教員が「プロローグ」と「第1章」を解説する。
3	第1回グループ発表 「第2章 湿った土地と乾いた土地 新宿～四谷」	発表とそれをめぐる全員での討議。
4	第2回グループ発表 「第3章 死と森 渋谷～明治神宮」	発表とそれをめぐる全員での討議。
5	第3回グループ発表 「第4章 タナトスの塔 東京タワー」	発表とそれをめぐる全員での討議。
6	発表に関連したフィールドワーク	芝フィールドワークを予定。
7	第4回グループ発表 「第5章 湯と水 渋谷～麻布」	発表とそれをめぐる全員での討議。
8	第5回グループ発表 第5回グループ発表 「間奏曲(1) 坂と崖下」および「第6章 大学・ファッション・墓地 三田、早稲田、青山」	発表とそれをめぐる全員での討議。

9	第6回グループ発表 「第7章 職人の浮島 銀座～新橋」	発表とそれをめぐる全員での討議。
10	発表に関連したフィールドワーク	本郷フィールドワークを予定。
11	第7回グループ発表 「第8章 モダニズムから超モダニズムへ 浅草～上野～秋葉原」	発表とそれをめぐる全員での討議。
12	第8回グループ発表 「第9章 東京低地の神話学 トーキョー・イーストサイド」 教員講義	発表とそれをめぐる全員での討議。 前期レポートに関するレクチャー。
13	第10回グループ発表 「海民がつくった東京下町 隅田川」	発表とそれをめぐる全員での討議。
14	第11回グループ発表 「よみがえる南郊 多摩川」 春学期レポート提出 秋学期ガイダンス 教員講義	隅田川フィールドワークを予定。 3年は春学期やった主題に関するレポートを提出。 4年は自由研究レポートを提出。 新ゼミ長ほかの挨拶。 秋学期の計画。 教員による『増補改訂 アースダイバー』補講。
1	第1回個人研究発表	4年生による研究発表。
2	第2回個人研究発表	4年生による研究発表。
3	フィールドワーク	隅田川沿いを予定。
4	第3回個人研究発表	4年生による研究発表。
5	第4回個人研究発表	4年生による研究発表。
6	第5回個人研究発表	4年生による研究発表。
7	フィールドワーク	多摩川沿いを予定。
8	第6回個人研究発表	3年生による個人研究発表。
9	第7回個人研究発表	3年生による個人研究発表。
10	国際文化情報学会準備、あるいはフィールドワーク	国際文化情報学会の展示物の作成等。 学会参加しない場合はフィールドワーク。
11	第8回個人研究発表	3年生による個人研究発表。 卒業研究指導。
12	フィールドワーク	3年生の研究レポート提出。
13	フィールドワーク	4年生の卒業研究提出。
14	フィールドワーク	初詣を兼ねたフィールドワーク。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

-発表や研究に関する文献調査やフィールドワークや作品鑑賞。

-ゼミ生と相談のうえ国際文化情報学会で研究発表をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

「プラタモリ」の視聴や、法政大学江戸東京研究センターのイベント参加を推奨します。

【テキスト（教科書）】

中沢新一『増補改訂 アースダイバー』講談社（2019）

【参考書】

陣内秀信『東京の空間人類学』ちくま学芸文庫

鈴木博之『東京の地霊』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

ゼミ参加度（50％）と期末レポート（50％）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論をより活発にする。メリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の発表では必ず配布資料を用意すること。

【その他の重要事項】

書籍を買ったり、美術館へ行ったり、映画鑑賞をしたり、街歩きや旅行をしたりする好奇心と体力と余裕があること。ゼミのメンバーと協力しあい、責任を分担すること。

【Outline and objectives】

"Place" is the basis supporting our culture. In this class, we study "Place" from the standpoint of culture and observe culture from "Place". We dealt with "Landscape", "Travel", "TOKYO", "Walking", "City", "Tourism", "Garden", "GHIBLI", "City Image", "Architect" as the theme of this class. The theme of this spring semester is "Old layer of Tokyo".

ART300GA

表象文化演習

島田 雅彦

サブタイトル：メディア研究、作品批評、創作

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的には小説やエッセイ、脚本、企画書の書き方を学びながら、個々の興味に即した研究テーマの選択から始める。文化研究、サブカルチャー研究を希望する者には個別指導を行うが、自分の研究テーマがない場合は共通テーマに基づき、リサーチや分析を行う。本年度は「時間と場所」、「ジャンルと形式」、「神話と元型」などのテーマに基づき、文学、音楽、映画、サブカルチャーの作品分析を行う。研究成果は論文、フィクション、映像作品に仕上げることも可能。両者に共通しているのは、コンテンツ作りの具体的なノウハウ、理解や共感を作り出す実践的な表現テクニックを磨くレッスンを行うことである。

【到達目標】

秋学期の学部学会に向け、計画的に論文、作品制作をすすめ、より完成度の高い映像作品の制作、問題に鋭く切り込む批評、エッセイの執筆をする。個々の中に眠っている表現欲や表現スキルを春学期のうちに開発し、秋学期にはその集大成をする。演習時に各テーマに関するリアクションペーパーの評価を受け、教員と議論をかわすが、学期の終わりには各自の研究、創作の発表機会を持ち、その内容、プレゼンテーションの仕方を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

セメスターの初めに企画会議を行い、各班の方針を決め、早速、必要なレッスンの準備に取り掛かる。またゼミ生が個人的に興味を抱いているテーマを聞き、今後いかに研究を進めるべきか、またどのような形態でその成果を発表するか相談を受ける。共通の問題系での思考、議論を通じ、また個人研究の指導を通じ、コンテンツ作りに必要な企画力、事務能力を育てればと思う。春学期はエッセイや論文、シナリオや映像の試作品を作ることに当てられるだろう。課外授業を挟んで、秋学期には春学期の成果を生かし、公開可能なレベルの映像作品、エッセイ、そして論文の完成までを指導する。

文章であれ、音楽であれ、映像であれ、身体表現であれ、表現意欲や好奇心あふれる諸君、眠っている才能を開花させたい学生、プレゼン能力を向上させたい学生などの能動的な参加を望む。演習時に各テーマに関するリアクションペーパーの評価を受け、教員と議論をかわすが、学期の終わりには各自の研究、創作の発表機会を持ち、その内容、プレゼンテーションの仕方を評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ゼミの狙いじめ	自己紹介の発展形としてのセルフプロモーション
第二回	企画	個々のテーマ設定と共通テーマの説明
第三回	時間と場所	リアクションペーパーに基づく討議
第四回	ジャンルと形式	テーマ説明とレクチャー
第五回	ジャンルと形式	リアクションペーパーに基づく討議
第六回	神話と元型	テーマ説明とレクチャー
第七回	神話と元型	リアクションペーパーに基づく討議
第八回	個人テーマあるいは共通テーマに基づく研究、創作計画の選択	それぞれのテーマ選びに際し、アドバイス
第九回	個人テーマあるいは共通テーマに基づく研究、創作計画の吟味	個別相談

第十回	中間発表会	研究論文、エッセイ等の途中経過報告、個別指導
第十一回	中間発表会	研究論文、エッセイ等の途中経過報告、個別指導
第十二回	表現レッスン実践編	小説、シナリオ、エッセイの執筆と指導映像作品の試作
第十三回	表現レッスン実践編	映像作品の試作
第十四回	発表会	ロケハン、リハーサル、撮影①
第十五回	夏休みの課題の発表	課題の発表と評価、討議
第十六回	新たな企画	企画会議、ゼミ共同での研究もしくは映像作品の共同制作の模索
第十七回	企画の吟味	企画会議、ゼミ共同での研究もしくは映像作品の共同制作の模索
第十八回	追加リサーチの指示	個別指導
第十九回	映画鑑賞	教員推薦映画の鑑賞と論評
第二十回	中間発表①	個人論文指導
第二十一回	中間発表②	個人論文指導
第二十二回	短編小説鑑賞	教員推薦小説の鑑賞と論評
第二十三回	共同研究、共同制作の指導	研究論文、小説、映像、等の吟味
第二十四回	共同研究、共同制作の指導	共同研究論文、共同制作した映像の吟味
第二十五回	春学期、秋学期に作った作品の吟味	完成に向けた指導
第二十六回	春学期、秋学期に作った作品の吟味	完成に向けた指導
第二十七回	一年の成果の公開	完成度アップし、学会発表
第二十八回	最終研究成果の提出	最終チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課外活動として、取材、撮影、ロケハンなどあり。ゼミの時間外にこちらが推薦する映画、書籍にできるだけ多く触れること。

【テキスト（教科書）】

「小説作法 ABC」新潮社刊 それ以外は授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

共同製作での役割、個人研究の成果、学部学会発表などの総合的評価で決定する。評価基準は平常点 40%、レポート、論文 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

共同作業の中では必ずサボる学生がいる。ゼミ内の温度差を解消する。

【その他の重要事項】

2021年度は水曜日の4限に授業を行う。

【Outline and objectives】

Specifically, while learning how to write novels, essays, scripts, and project plans, start with the selection of research themes that are appropriate for each individual interest. For those who wish to study cultural studies and subculture studies, they will be provided individual guidance, but if there is no research theme of their own, they should research and analyze based on common theme. This year, we plan to analyze various works of literature, music, movies, and comics based on themes such as "time and place," "genre and form," and "myth and archetype." It is also possible to finish research results into papers, fiction, video works. What is common to both is to do concrete know-how on content creation, lessons for learning practical expressive techniques to create understanding and sympathy.

ART300GA

表象文化演習

深谷 公宣

サブタイトル：映画研究

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「映画からみる社会」をテーマとし、映画・映像作品の分析を行う。映画は時代や社会を反映している。作品分析により、時代や社会の有様が見えてくる。一年間の演習を通し、学生は映画作品分析力とそれに基づいた社会観察力を養う。

【到達目標】

- (1) 映画の美的構成要素を検証できる。
 - (2) 映画の社会的構成要素を検証できる。
 - (3) 一次資料、二次資料を用いて作品分析を行い、そこから得た知見をもとに、研究発表や論文執筆、創作活動を行うことができる。
- また、以上3点により、1年間の演習を通して学生が次の力・姿勢を身につけていることを理想とする。
- ・批判的視点
 - ・創造的意欲
 - ・文章作成やコミュニケーションに必要なロジックとパッション

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、教員が課した映画作品について学生が調査・分析し、発表する。また、研究に資する論文を数点読み、討議する。
- ・秋学期は各自、テーマを設定し、研究／制作を進める。授業では、研究／制作報告、質疑応答、討議を行う。
- ・研究成果は、「ゼミ論文」または「映像作品」にまとめる。後者の場合は、制作過程に関するレポートを合わせて提出する。
- ・ゼミ論文、制作レポートは、提出後にフィードバックのためのコメントを付けて返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	授業の概要説明、課題作品の割当（担当者の決定）
2	『美女と野獣』（2017年実写版）	ディズニーのプリンセス・カルチャー、および魔法の役割について考える。
3	『塔の上のラプンツェル』／ベッテルハイム『昔話の魔力』（抄）	ディズニーのプリンセス・カルチャー、および魔法の役割について、大衆心理学的な視点で書かれたエッセイを参考に考える。
4	『キンキーブーツ』／ソング「キャンプについてのノート」	ドラッグ・クィーンについて、「キャンプ」という概念を参考に考える。
5	『天使にラブソングを』	宗教における伝統と革新、コミュニティのあり方について考える。
6	ローラ・マルヴィ「視覚的快楽と物語映画」	フェミニズム的な視点から書かれた基礎的な論文を読み、第2回から第5回の作品を振り返る。
7	『ツリー・オブ・ライフ』	第6回で読んだ論文も踏まえつつ、父権主義と宗教について考える。
8	『ギルバート・グレイブ』	家族とは何か、障がいとは何かについて考える。
9	『夏の庭』	家族、(戦争の)記憶、死について考える。
10	『硫黄島からの手紙』	映像作品で戦争の記憶をいかに伝えうるかについて考える。(1)
11	題目発表会	研究テーマと概要についての発表(4年生)
12	『ジョジョ・ラビット』	映像作品で戦争の記憶をいかに伝えうるかについて考える。(2)

13	『ターミナル』	前期で培った映画を観る視点を活かしながら、作品について討議。(1)
14	『バグダッド・カフェ』	前期で培った映画を観る視点を活かしながら、作品について討議。(2) / 夏休みの計画について確認。
15	秋学期オリエンテーション及び研究・制作プランの確認	夏休みの振り返りと計画書の提出、報告(3年生)
16	進捗報告1回目(1)	各自が取り組んでいる研究・制作についての進捗報告と意見交換(1)
17	進捗報告1回目(2)	各自が取り組んでいる研究・制作についての進捗報告と意見交換(2)
18	進捗報告1回目(3)	各自が取り組んでいる研究・制作についての進捗報告と意見交換(3)
19	進捗報告1回目(4)	各自が取り組んでいる研究・制作についての進捗報告と意見交換(4)
20	進捗報告2回目(1)	1回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究・制作についての進捗報告と意見交換(1)
21	進捗報告2回目(2)	1回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究・制作についての進捗報告と意見交換(2)
22	進捗報告2回目(3)	1回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究・制作についての進捗報告と意見交換(3)
23	進捗報告2回目(4)	1回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究・制作についての進捗報告と意見交換(4)
24	ゼミ・チュートリアル	面談形式での研究・制作指導・助言を行う。
25	進捗報告3回目(1)	2回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、新たに進めた研究についての進捗報告と意見交換(1)
26	進捗報告3回目(2)	2回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表(2)
27	進捗報告3回目(3)	2回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表(3)
28	進捗報告3回目(4)	2回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表(4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で扱わない映画作品も、積極的に観るよう努めること。映画館に行けない場合は、レンタル・ソフトや配信作品で構わない。
- ・下記【参考書】に記載の資料を読むよう努めること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業で読む論文やエッセイ等も含め、必要があれば、プリントを配布する。なお、各自で映像作品を視聴する機会が少なくないため、レンタル料、配信サービス利用料等、多少の費用がかかることを踏まえておくこと。

【参考書】

- バックランド『フィルムスタディーズ入門』（見洋書房）
- ボードウェル、トンブソン『フィルムアート 映画芸術入門』（名古屋大学出版会）
- ライアン『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社）
- ゴックシク他『映画で実践！ アカデミック・ライティング』（小鳥遊書房）
- ベッテルハイム『昔話の魔力』（評論社）
- ソング『反解釈』（ちくま学芸文庫）
- ジャン・ミシェル＝フロドン『映画と国民国家』（岩波書店）
- 藤崎康『戦争の映画史 恐怖と快楽のフィルム学』（朝日新聞出版）
- 福井次郎『「戦争映画」が教えてくれる現代史の読み方』（言視舎）
- 佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（NTT出版）
- 井上順考編『映画で学ぶ現代宗教』（弘文堂）
- 栗林輝夫他『シネマで読むアメリカの歴史と宗教』（キリスト教新聞社）
- 岩本憲児他編『新・映画理論集成（1）歴史・人種・ジェンダー』（フィルムアート社）
- 中条省平『クリント・イストウッド』（ちくま文庫）
- 『シネアスト 相米慎二』（キネマ旬報社）

【成績評価の方法と基準】

- 授業への参加度（発表と発言） 40%
- 提出物 20%
- 研究成果（論文等） 40%
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

国際文化情報学会への参加の有無は学生と相談して決める。授業で扱う作品は進行状況等により変更する場合がある。

【Outline and objectives】

In this seminar we study films for social observation. Film works are often intended to reflect their age and society; detailed exploration of films enables us to see how society is shaped during a certain period. The seminar aims to develop our ability to examine films, as well as our way of looking at society through film analysis.

ART300GA

表象文化演習

竹内 晶子

サブタイトル：比較文化・比較演劇

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較演劇・比較文化

「演劇と越境」がテーマ。言語、文化、国籍、ジャンル、性別など、さまざまな「境」を演劇がどう乗り越えていき、新しい作品を作り出していくのかを、先行文献の読解と具体的な作品分析を通じて考えていきます。

キーワード：ジェンダー、オリエンタリズム、翻案、演劇、映画、アニメ、ミュージカル、能、歌舞伎、宝塚

【到達目標】

・小説、漫画、ミュージカル、映画、アニメ、舞台劇、テレビドラマ、古典演劇など、異なるジャンルの作品間の比較文化的な分析ができるようになる。

・オリエンタリズムやジェンダー、演劇論といった理論を応用した作品分析ができるようになる。

・日本の古典演劇について、基本的な知識を身につける。

・先行研究をふまえ、細密なテキスト分析にもとづいた、客観的かつ説得力をもった論文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期はジェンダーやオリエンタリズムの理論を学びます。先行文献を読解したのち、理論を実際に用いた演劇作品分析を試みます。

秋学期は基本的な演劇理論を学んだ後、翻案の問題、ファン活動の問題、日欧比較演劇、という三つの問題について、作品分析と実際の舞台鑑賞を組み合わせながら考察します。また授業以外でも、(事情が許せば)様々なジャンルの舞台上に足を運ぶ予定。

両学期ともに、授業内課題についての発表の他に、各自研究発表を課します。フィードバックは授業内で口頭で行うとともに、メールや個人面談等でも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
2	オリエンタリズム：理論編	論文購読
3	オリエンタリズム：台本編	オペラ台本分析
4	オリエンタリズム：映像編	オペラ作品視聴
5	オリエンタリズム：映像分析	オペラ作品分析
6	ジェンダー論：理論編	論文購読
7	ジェンダー論：脚本編	『M. バタフライ』戯曲台本分析
8	ジェンダー論：映画編	映画『M. バタフライ』視聴
9	ジェンダー論：映像分析	『M. バタフライ』戯曲・映画比較分析
10	ジェンダー論：漫画研究	論文購読
11	ジェンダー論：漫画分析	漫画分析実践
12	学生発表（4年）	発表と講評
13	学生発表（4年・3年）	発表と講評
14	学生発表（3年）	発表と講評
15	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
16	演劇理論の基礎	論文購読
17	演劇理論の応用	春学期に扱った演劇作品の分析
18	「演出」の違い	演劇作品視聴
19	「演出」比較分析	演出比較討論
20	日本の伝統演劇	能と歌舞伎
21	日本と西洋の演劇比較	論文購読
22	日本と西洋の演劇比較・応用	作品分析（イエイツ、プレヒト）

23	ファン研究（宝塚・ジャニーズ）：理論編	文献購読
24	ファン研究：応用編	ファン研究実践
25	学生発表 4年生	発表と講評
26	学生発表 4年生・3年生	発表と講評
27	学生発表 3年生	発表と講評
28	まとめ	総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキストを読み、発表準備をすること。
- ・期末論文の調査・執筆・書き直し。
- ・本授業の準備・復習時間は、平均4時間程度を基準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・若桑みどり『お姫様とジェンダー アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）筑摩書房、2003年。

【参考書】

- ・エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』平凡社、1992年。
- ・押山美知子『少女マンガジェンダー表象論（男装の少女）の造形とアイデンティティ』彩流社、2007年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30パーセント
 - ・課題提出 20パーセント
 - ・発表 20パーセント
 - ・期末論文 30パーセント
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書を多用します。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to analyze various socio-cultural issues, especially issues related to gender and orientalism, represented in films and diverse theatrical genres.

Key words: Takarazuka Revue, kabuki, noh, cross gender performance, gender, orientalism, theater semiotics

ART300GA

表象文化演習

林 志津江

サブタイトル：ポップ・カルチャー／ポピュラー音楽の系譜

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あらゆる文化は「不要不急」でしょうか。そして新型コロナウイルス感染症とともに、私たちは今、何を愛し、何をこらえて生きているのでしょうか。この演習では、「集う文化」の典型とも言えるポピュラー音楽を手がかりに、あらゆるポップ・カルチャーの「集う」様式、私たちが「つながり」「アイデンティティ」「共感」と感じているものについて、参加者（履修者）がともに学び、議論し、考えを深めていきます。

あなたの日常を彩る SNS を通じて、あなたはそもそも何を共有し、何を伝えようとしているのでしょうか？あるいは人々はなぜ音楽を通じて集うのでしょうか？ロック、ポップミュージック、パンク、ソウル、ヒップホップ、EDM、テクノ&レヴ、エレクトロニカ、アンビエント、J-POP、K-POP、アイドル、アニソン・・・こうした音楽やライブの伝える喜びや熱狂は、オンラインになると何がどう伝わって何が伝わらないのでしょうか。演習では、ポップ・カルチャーの成立要素、流行とヒットソング、ファンダム（オタク）的行動様式、インターネットや SNS をめぐる諸現象など、文化とメディアとの関わりを通して見える社会のあり方にするべく迫ります。

【到達目標】

- ・あらゆる美的形式（音楽、映像、文学、ダンス、舞台、マンガ、アニメ、ゲーム、造形芸術、その他何でも）に軽やかにアクセスできる、自分が「いい」と思えるものを追いかけるフットワークを持つこと。
- ・メディアの構造やポピュラー音楽の基本構成要素、モダニズムの形式に関する知識を得て、批判的な洞察を行うことができる。
- ・文化研究の諸概念、「記憶」「世代」「身体」「アイデンティティ」「文化受容」等の概念の意味、ポップ・カルチャー（拡大芸術）の歴史的展開を理解することができる。
- ・ポピュラー音楽／ポップ・カルチャーという現象の特質や、個々の作品やシーンに関するテーマで、論理的に明解でまとまった自分のテーゼを提示できる。
- ・良い観察者、良いリスナーになれる。ミュージシャン／作曲家と批評家の関係、正当な批評とは何か、芸術批評は印象批評を超えることができるのか、多様化する芸術形式をめぐる問題について思考できる。
- ・芸術と政治・社会との関わりとその困難に対し、誠実な想像力を持つことができ、それに関する自身の思考を言語化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・法政大学の2021年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面授業+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。
- ・両学期ともに、参加者は研究発表を行います。
- ・春学期と秋学期初頭は、20世紀から現代にかけてのポピュラー音楽と文化現象の枠組みを時系列的に概観します。参加者は自身の分担部分について発表を行います。
- ・秋学期は、自身のテーマで発表を行う方法で進めます。
- ・各回、発表の後は全員で議論を行います。議論に参加しない人は出席と認められません。
- ・演習（授業）内で行われたあらゆるアウトプットに対しては即時にフィードバックとしてのコメントが、提出物のフィードバックは適宜各人にメールやLMSを通じて行われます。
- ・LMSとして主に Google Classroom を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究発表の分担決定、「音楽」「文化」について日頃感じていること、ポピュラー音楽と自分の関わりについてざっくりばらんに話す
2	「ポピュラー音楽」と「ポップカルチャー」の基本	「ポピュラー音楽」じゃない音楽って何？ポピュラー音楽とポップカルチャー、楽曲形式（1）
3	音楽と社会（1）— テクノロジーの夜明け	大量生産・大量消費時代の幕開け、著作権とレコード（フォノグラフ、グラモフォン）の誕生
4	音楽と社会（2）— 技術革新とメディアの変容	戦争とラジオとマイクロフォン、映画館とダンスホール、ジャズ・エイジの到来、楽曲形式（2）
5	音楽と社会（3）— 若者・階級・音楽	余暇の誕生、中産階級の産み出した若者世代、ラジオと「音楽番組」
6	音楽と社会（4）— 新しいメディア・新しい音楽	大量消費社会と「アメリカ」の時代、「ティーンエイジャー」の発明とロックンロール
7	音楽と社会（5）— ラジオとテレビと映画と音楽	「スター」を求めて、音楽番組のための音楽、「LPレコード」と「ドーナツ盤（45回転シングル）」
8	人種と階級（1）— 音楽が社会を変革する？	ロックンロールからロックへ、フォークソングとビートニック、「レイス」から「ソウル」へ
9	「熱狂」を求めて（1）	「追っかけ」という人々、ロックの市場価値、FMラジオとヒットチャート、ヴェトナム戦争と音楽フェスティバル
10	人種と階級（2）— 「抵抗の証」が一大文化産業になる	「ポップ戦略」とブリティッシュ・インヴェイジョン、「アートスクール」から世界へ
11	人種と階級（3）— 労働者階級の誇りと人間の尊厳	「パンクはアティテュードだ」、スカとレゲエの存在理由、「ソウル」から「ファンク」へ
12	ダンスと音楽とMTV— 見る音楽とジェンダー・セクシュアリティ	疲弊する工業都市の文化、ディスコと「見る音楽」、「女性ロックミュージシャン」という職業
13	人種と階級（4）— サンプリングあるいは冷戦の終結	DJというアーティスト、ヒップ・ホップという生き方、ハウス／テクノが興隆する理由
14	熱狂を求めて（2）— レイヴ・ドラッグ・インディーズ	「バンドエイド」の真実、「舞台の下で」つながる、クラブとレイヴがダメになる理由
15	「日本のロック」— 洋楽VS. 邦楽	グループサウンズと「アメリカ」、ロックかフォークか？「はっぴいえんど」の登場と「日本」というコンテンツ
16	「ガラパゴス化」の起源？— 記号化するアイドル	歌謡曲とニュー・ミュージック、「テレビに出ない」、「清く正しく美しい」スターたち
17	熱狂を求めて（3）— J-POPとバンドとインストアライブ	アイドルの「オタク」、「渋谷系」と蒐集する文化、J-POPとWINMXとCCCD
18	熱狂を求めて（4）— 「スター」から「推し」の時代へ	Wi-fiとYoutube、iPod/iTunesからストリーミングへ、会いに行けるアイドルとK-POPの目指す世界
19	研究発表（1）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
20	研究発表（2）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
21	研究発表（3）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
22	研究発表（4）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
23	研究発表（5）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
24	研究発表（6）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
25	研究発表（7）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
26	研究発表（8）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
27	研究発表（9）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
28	研究発表（10）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・自分にとって楽しいこと、大好きだと思えることに没頭して、知識と経験を増やすこと。
- ・各自に必要な文献を読み、研究発表の準備のための資料にアクセスすること。
- ・自分にとって大切な外国語（もちろんSA先言語を含む）をしっかり勉強すること。
- ・毎日活字に目を通す、特に日刊紙を読むこと。
- ・あなたの日常そのものが、あなたの選ぶ学びのテーマにつながっています。この演習に参加した経験が、充実した日々の営みとなり、自分の人生の糧となることに自信を持ってください。

・自分が何かを大切に思っていること、人と話す時間を愛してください。あらゆることに積極的にチャレンジして、心揺さぶられる体験にたくさんめぐりあってください。

【テキスト（教科書）】

毛利嘉孝『ポピュラー音楽と資本主義』（せりか書房、2012年）
大和田俊之・柳樂光隆・南田勝也『ポップ・ミュージックを語る 10 の視点』（アルテスパブリッシング）2020年

【参考書】

・ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
・マーシャル・マクルーハン（栗原裕ほか訳『メディア論』（みすず書房）1987年）
・Th.-W. アドルノ（三光長治・高辻知義訳）『不協和音—管理社会における音楽』（平凡社）1998年／Th.-W. アドルノ（高辻知義・渡辺健訳）『音楽社会学序説』（平凡社）1999年
・ヨッヘン・ヘーリッヒ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史—ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
・ヘンリー・ブレザンツ（片岡義明訳）『音楽の革命—バロック・ジャズ・ビートルズ』（晶文社）1971年
・スーザン・マクレアリ（女性と音楽研究フォーラム訳）『フェミニン・エンディング 音楽・ジェンダー・セクシュアリティ』（新水社）1997年
・ピーター・ファン＝デル＝マーヴェ（中村とうよう訳／横関裕子・守屋純子協力）『ポピュラー音楽の基礎理論』（ミュージックマガジン社）1999年
・ジェイソン・トインビー（安田昌弘訳）『ポピュラー音楽をつくる—ミュージシャン・創造性・制度』（みすず書房）2004年
・ウルフ・ボーンシャルト（原克訳）『DJ カルチャー ポップカルチャーの思想史』（三元社）2004年
・ニール・ガブラー（中谷和男訳）『創造の狂気 ウォルト・ディズニー』（ダイヤモンド社）2007年
・クリストファー・スモール（野澤豊一、西島千尋訳）『ミュージッキング—音楽は“行為”である』（水声社）2011年
・ジェフ・チャン／DJ ターナル・ハーク（押野素子訳）『ヒップホップ・ジュネーション（新装版）』（リットー・ミュージック）2016年
・ステイヴン・ウィット（関美和訳）『誰が音楽をタダにした？—巨大産業をぶっ潰した男たち』（早川書房）2016/2018年
・ゾーイ・フランド＝プラナー＆アロン・M・グレイザー（関美和訳）『ファンダム・レポリューション—SNS時代の新たな熱狂』（早川書房）2017年
・キム・ヨンデ（桑畑優香訳）『BTSを読む—なぜ世界を夢中にさせるのか』（柏書房）2020年
・小泉文夫『日本の音 世界のなかの日本音楽』（青土社）1978年／（平凡社）1994/2017年
・小泉文夫『歌謡曲の構造』（冬樹社）1984年／（平凡社）1996年
・中村とうよう『大衆音楽の真実』（ミュージックマガジン社）1985年
・小川博司『音楽する社会』（勁草書房）1988年
・渡辺裕『聴衆の誕生—ポスト・モダン時代の音楽文化』（中公文庫）1989年
・中村とうよう『ポピュラー音楽の世紀』（岩波新書）1999年
・渡辺潤『アイデンティティの音楽—メディア、若者、ポピュラー文化』（世界思想社）2000年
・南田勝也『ロックミュージックの社会学』（青弓社）2001年
・野田努『ブラック・マシン・ミュージック—ディスコ・ハウス・デトロイト・テクノ』（河出書房新社）2001年
・東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』（講談社現代新書）2001年
・東谷護（編著）『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房）2003年
・生明俊雄『ポピュラー音楽は誰が作るのか—音楽産業の政治学』（勁草書房）2004年
・増田聡『聴衆をつくる—音楽批評の解体文法』（青土社）2006年
・宇野常寛『ゼロ年代の想像力』（早川書房）2008/2011年
・大澤真幸『不可能性の時代』（岩波新書）2008年
・前川洋一郎（編著）『カラオケ進化論』（廣済堂）2009年
・上田誠二『音楽はいかに現代社会をデザインしたか—教育と音楽の大衆社会史』（2010年）
・長谷川町蔵・大和田俊之『文化系のヒップホップ入門』（アルテスパブリッシング）2011年
・大和田俊之『アメリカ音楽史—ミンストレル・ショー・ブルースからヒップホップまで』（講談社）2011年
・ピーター・バラカン『ピーターバラカン音楽日記』（集英社インターナショナル）2011年
・高増明『ポピュラー音楽の社会経済学』（ナカニシヤ出版）2013年
・斎藤環『承認をめぐる病』（日本評論社）2013年
・小泉恭子『メモリースケープ あの頃を思い出す音楽』（みすず書房）2013年
・マキタスポーツ『すべての J-POP はバカリである—現代ポップス論考』（扶桑社）2014年
・ブレイディみかこ『ザ・レフト—UK 左翼セレブ列伝』（P ヴァイン）2014年
・柴那典『初音ミクはなぜ世界を変えたのか？』（太田出版）2014年
・佐々木敦『ニッポンの音楽』（講談社現代新書）2014年
・東園子『宝塚・やおい・愛の読み替え—女性とポピュラーカルチャーの社会学』（新曜社）2015年
・鈴木惣一郎『細野晴巨録音術』（DU Books）2015年
・太田省一『ジャニーズの正体 エンターテインメントの戦後史』（双葉社）2016年
・柴那典『ヒットの崩壊』（講談社現代新書）2016年
・ピーター・バラカン『ロックの英詩を読む—世界を変える歌』（集英社インターナショナル）2016年
・谷口昭弘『ディズニー・ミュージック～ディズニー映画 音楽の秘密』（スタイルノート）2016年
・谷口ヨシキ『暗黒ディズニー入門』（コアマガジン）2017年

・中川和亮『ライブ・エンターテインメントの社会学—イベントにおける「受け手（Participants）」のリアリティ』（五紘舎）2017年
・レジー／blueprint（編）『夏フェス革命—音楽が変わる、社会が変わる』（垣内出版）2017年
・若尾裕『サステナブル・ミュージック』（アルテスパブリッシング）2017年
・山田陽一『響きあう身体：音楽・グルーヴ・憑依』（春秋社）2017年
・牧村憲一・藤井丈司・柴那典『渋谷音楽図鑑』（太田出版）2017年
・毛利嘉孝（編著）他『アフター・ミュージッキング』（東京藝術大学出版会）2017年
・金成政『K-Pop—新感覚のメディア』（岩波新書）2018年
・田中雄二『エレベーター・ミュージック・イン・ジャパン 日本の BGM の歴史』（DU Books）2018年
・田中雄二『AKB48 とニッポンのロック～秋元康アイドルビジネス論』（スモール出版）2018年
・藤井丈司『YMO の ONGAKU』（アルテスパブリッシング）2019年
・ピーター・バラカン『新版 魂（ソウル）のゆくえ』（アルテスパブリッシング）2019年
・大谷能生『平成日本の音楽の教科書』（新曜社）2019年
・近田春夫『考えるヒット テーマはジャンニーズ』（スモール出版）2019年
・大谷能生・速水健朗・矢野利裕『ジャンニズ! Twenty Twenty ジャンニーズ研究部』（原書房）2020年
・岡田暁生『音楽の危機—《第九》が歌えなくなった日』（中公新書）2020年
・日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）2020年
その他適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

【2・3年生】（春学期）研究発表作成・プレゼンテーション・議論への貢献 50%、レポート 50%を基本ラインとし、授業への参加・貢献を総合的に判断します。（秋学期）研究発表と授業への積極的な参加・貢献 60%、レポート課題 40%を基本ラインとし、総合的に判断します。
【4年生】（春・秋学期）研究発表と授業への積極的な参加・貢献 60%、レポート課題 40%を基本ラインとし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見ヒアリングは逐次行い、意志の疎通と内容改善につとめます。

【学生が準備すべき機器他】

・ハイフレックス型の授業となる可能性があります。WiFi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレット）とイヤホン（ヘッドセット/ヘッドフォンマイク）を用意してください。

【その他の重要事項】

・2022 年度は代講の可能性あります。
・参加者の興味や意向に沿って、上記の項目や内容・順序は変更されることがあります。
・夏季休暇中ないしその前後、フィールドワーク（音楽フェス・音楽ライブ体験）とその事前・事後学習を行う予定です。ただし新型コロナウイルス感染症の拡大動向次第で、フィールドワークはオンライン上のフェスやその他のコンテンツをフォローする形式に切り替えます。
・フィールドワークは基本的に全員参加です。音楽フェスの費用はひとり 2 万円程度、オンラインならその 1/3 ～ 1/2 程度で無料配信のものも数多くあります（この点に不安がある場合はぜひ担当者に事前に相談して下さいとありがたいです）。
・音楽が大好きという方の参加はもちろん大歓迎です。でも知識がないから参加できないというわけではなく、むしろ演習の最大の目的は「興味がない人同士が議論しあえる場所」であることです。
・自分の研究テーマについては、本演習の近接分野を自由に選んで構いません。一般的に「ポピュラー音楽」の範疇には入らない、古典的西洋音楽の形態（クラシック音楽）へのアプローチも可能です。
・音楽学（楽典、音楽理論）やデジタル音楽技術についての知識は特に必要ありませんが、それがあればより楽しめるテーマもあります。また平易な音楽理論は楽曲分析に必要ですが、そこは発表者の説明次第で、参加者の誰もが理解できるはずで、音楽コンテンツを制作するという演習ではありません。
・本演習は、芸術談義・音楽談義を繰り広げる場ではなく、むしろそうした談義的文化的背景にあるもの、嗜好品と社会とのかかわり、アイデンティティを構成するものとしての排他性について考える場所です。よって演習で鍛えられるのは「誰もがわかる言葉で事柄を説明できる能力」の方であり、知識の量で相手を圧倒するような態度は評価の対象外です。
・メディア技術の発展のおかげで、今や音楽は最も安価（＝タダ同然で手に入るように思えるもの）なコンテンツのひとつになりました。演習でももちろんそうした現象についても批判的な検討を試みますが、著作権は絶対を守って下さい。もちろん音楽以外の著作権についても同様です。

[Outline and objectives]

This course deals with pop culture as well as impact of COVID-19 on the cultural and creative sectors especially popular music like Rock, Pops, Punk, Hip-Hop, EDM, House/Techno/Rave, J-Pop/Idol or K-Pop etc.; how "bring us together"-culture like popular music should/could be with "new normal"? It also enhances recognition of their forming condition in our society along with relationship between art and people. The participants are expected to explain basic concepts of modern art, pop culture, popular music and media studies. They are also expected to be able to evaluate or explain changes in the media environment and its influences into art and culture related with our daily life. The aims of this seminar are to be able to discuss and imagine not-understandable actual situation of our living world and to realize how complex the relationship is between art/culture and politics by which our daily lives are affected unconsciously. The key words of this seminar are: "media"/"technologies", "empathy"/"sympathy", "sense of unity", "body" and "identity". The participants are evaluated through presentations, writing reports and discussion each times.

LIN300GA

言語文化演習

江村 裕文

サブタイトル：対人配慮の語用論

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語は難しい言語だと言われることがある。が、実は言語としての日本語は決して難しい言語ではない。では、何が難しいのか。それは、日本人による日本語の使用の仕方である。

この演習では、日本語の構造を、ではなく、「ポライトネス」理論によって、日本語の「語用論」的な機能について学ぶ。

【到達目標】

言語学的な知見と同時に、語用論的な知見からも日本語をとらえるために、基本的な「語用論」・「日本語」・「敬語」等に関する概念を共有し、それらの知見を応用して、現実の日本人の日本語使用を分析できる学力および知識を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

まずは自分たちが母語をどのように使用しているかという実態を観察し、次に「語用論」・「談話分析」・「発話行為論」・「コミュニケーション論」等の知見を応用して分析する。

具体的には、授業計画であげたような項目について、観察をはじめ（ボトムアップのアプローチ）。同時に並行して理論書の講読をすすめていく（トップダウンのアプローチ）。

最終的には、受講者の問題意識に応じて、現象の断片について個々に考察をすすめて、その都度授業内でフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 具体的エピソード i	テキストの紹介・配布。 授業の進め方の確認。 外国人の日本語使用から「気づく」日本語の使用上の問題点を確認する。
第2回	具体的エピソード ii	第一回に引き続き、問題点を確認する。
第3回	文献講読 ①	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第4回	文献講読 ②	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第5回	文献講読 ③	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第6回	文献講読 ④	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第7回	文献講読 ⑤	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第8回	文献講読 ⑥	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第9回	文献講読 ⑦	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第10回	文献講読 ⑧	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第11回	文献講読のまとめ	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」の内容のまとめ
第12回	文献講読 ①	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第13回	文献講読 ②	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第14回	春学期試験	春学期の内容に関する試験
第1回	文献講読 ③	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第2回	文献講読 ④	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第3回	文献講読 ⑤	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第4回	文献講読 ⑥	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第5回	文献講読 ⑦	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第6回	文献講読 ⑧	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む

第7回	文献講読 ⑨	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第8回	文献講読 ⑩	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第9回	文献講読 ⑪	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第10回	まとめ	ポライトネス理論に関するまとめ
第11回	テーマに関する報告 i	各自のテーマについて報告する
第12回	テーマに関する報告 ii	各自のテーマについて報告する
第13回	全体のまとめ	一年間学んできた内容についてのまとめ
第14回	報告とレポート提出	各自のテーマについて報告する レポートを提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その都度言及するアサインメントに必ずアクセスし、自分で自分が扱うべき領域を開拓していくように努めること。その内容については、必要があれば、その都度質疑応答や議論の対象としたい。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

最初に、鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を購読し、次いで、滝浦真人『ポライトネス入門』を購読する。

鈴木の論文は配布する。

【参考書】

ブラウン&レヴィンソン／田中典子監訳(2011)『ポライトネス』研究社

滝浦真人(2005)『日本の敬語論』大修館書店

井出祥子(2006)『わかまへの語用論』大修館書店

三宅和子(2011)『日本語の対人関係把握と配慮表現行動』ひつじ書房

トマス／浅羽亮一監修(1998)『語用論入門』研究社

オーティエ編／浅羽亮一監修(2004)『異文化理解の語用論』研究社

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価する。
秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストとなる文献を読み進むにあたって、前提となる知識が要求されることがある。今回はそのつど説明するようにしていたが、課題として課したほうが、手間はかかるが結果的に受講生のためになると考えられるので、できるかぎりその方向で進めていきたい。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will learn the pragmatic aspects of our native tongue, Japanese, through an understanding of the theory of "Politeness".

In the process, we will understand how to do things with the Japanese language.

ARSx300GA

言語文化演習

大西 亮

サブタイトル：スペイン語圏の文化を探索する

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スペイン語圏の文化と社会」と聞いて私たちは何を思い浮かべるだろうか？ スペインはもちろん北はメキシコから南はアルゼンチンにいたるまで、広大な領域にまたがるスペイン語圏の国々については人によってさまざまなイメージがあるだろう。近年のニュースに目を向けると、スペインのカタルーニャ自治州の独立問題をはじめ、アメリカとメキシコの国境に壁を築こうとするトランプ大統領の無謀とも思える政策や、54年ぶりにアメリカとの国交回復を果たしたキューバの話題などが世界の注目を集めた。一方で、サッカーをはじめとするスポーツやZARAに代表される流行ファッション、ヒットチャートを席巻している中南米系アーティストの活躍に熱い視線を注いでいる人も少なくないだろう。こうした話題の多くは、スペイン語圏だけにかかわるものではなく、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるだろうか。

このゼミでは、スペイン語圏の文化と社会に光をあてつつ、世界のさまざまな地域との接触や交流を視野に入れながら、生成変化する人間社会のありようを浮き彫りにすることを目的とする。ゼミ生は、歴史、芸術、スポーツ、等々、おのおのの関心に応じて特定のテーマを設定し、それらを幅広い視点から見つめなおす柔軟な姿勢を身につけることが求められる。

ゼミ生は、おもに日本語を使って上記テーマに沿った活動を行なうことになる。スペイン語学習歴や、スペイン語圏の文化と社会に関する事前知識の有無は問われない。

【到達目標】

このゼミでは、上記「授業の概要と目的」に沿って、以下のような能力を伸ばすことを目的とする。

- ・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識の習得。
- ・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識を活かしながら、興味や関心のあるテーマを見つけ、それを追究していく思考力。
- ・興味や関心のあるテーマについて、それを幅広い視点から見つめなおす柔軟な発想力。
- ・興味や関心のあるテーマについて論理的に解釈し、それを他者にむけて明快に説明する能力。
- ・他者との議論を通じてみずから問題意識を深める能力。
- ・効果的なプレゼンテーション技法および論理的な文章表現力。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゼミは2部構成のもとに進められる。第1部では、スペイン語圏の文化と社会を見ていくうえで「最低限これだけは知っておきたい」という事柄について、さまざまな資料を用いながらディスカッション形式で学んでいく。それを受けるかたちで、第2部では、より専門的な内容について、プレゼンテーションやグループ討議を通じて理解を深めていく。授業内での発表については、それぞれのテーマについて全体討議を実施し、教員がそれをまとめるかたちで指導、助言等を行なう。リアクションペーパーの提出を課す場合は、翌週の授業で教員からフィードバックを行ない、全体討議を通じて学生の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、春学期のゼミ運営方針について話し合う。
第2回	各自のテーマ設定	各自「スペイン語圏の文化と社会」に関する発表テーマを自由に選ぶ。それを受けて、必要な調べの方法や発表のポイントについて教員がコメントを加える。

第3回	各自で設定したテーマに関する事前学習	第2回のゼミで各自設定したテーマからいくつかの項目をピックアップし、関連資料を用いながら事前学習を行なう。
第4回	各自で設定したテーマに関する発表	各自で設定したテーマに関する発表を行なう。それを受けて、発表で扱われたテーマに関する補足説明を教員が行ない、それを踏まえてグループディスカッションを行なう。
第5回	各自で設定したテーマに関する発表（つづき）	第4回にひきつづき、各自で設定したテーマに関する発表を行なう。それを受けて、発表で扱われたテーマに関する補足説明を教員が行ない、さらなる理解を促す。
第6回	各自で設定したテーマに関する発表（まとめ）	各自で設定したテーマに関する発表のまとめを行なう。すべての発表を通じて見えてきた共通の問題や関心領域に注目し、教員による補足説明を行なったあと、グループディスカッションを通じて理解を深める。
第7回	スペイン・カタルーニャ州の独立運動と「スペイン社会のいま」	カタルーニャの独立運動に関する複数の資料を用いながら、この運動が生じた背景や歴史的経緯について、グループディスカッション等を通じて理解を深める。
第8回	スペイン内戦とフランコ独裁	カタルーニャ独立運動の背景を理解するために不可欠なスペイン内戦とその後のフランコ独裁時代の社会について学ぶ。
第9回	フランコ独裁とスポーツ	フランコ独裁時代におけるスポーツ、とりわけ国民的スポーツの代表格であるサッカーが果たした役割について見ていく。
第10回	スペインにおけるスポーツの歴史	スペイン社会の成り立ちにおいてスポーツが果たした役割を幅広い視点から見ていく。
第11回	スペインにおける映画産業	スペイン民主化の過程を映し出している映画に注目し、グループディスカッション等を通じてその背景理解に努める。
第12回	日本とスペインの交流史	日本とスペインを結ぶ知られざる歴史に光を当て、両国関係の歴史をひもとく。
第13回	スペインの食文化	食を通じてスペイン文化の特質を探る方途を探る。
第14回	春学期ゼミの振り返り	春学期の活動を振り返り、グループディスカッションや全体討議を通じて総括を行なう。

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	後期ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、具体的なゼミ運営方針について話し合う。
第2回	4年生による研究発表	各自設定したテーマについての4年生の発表後、関連テーマに関するグループディスカッションを行なう。
第3回	4年生による研究発表（つづき）	各自設定したテーマについての4年生の発表後、それを受けるかたちで3年生がプレゼンテーションを行ない、理解を深める。
第4回	スペインとラテンアメリカの交流史	広大なラテンアメリカ諸国とスペインの関係は歴史的観点から読み解く。
第5回	スペイン語圏における世界遺産の歴史と現状	スペイン語圏に存在する主だった世界遺産を取り上げ、その歴史と現状について見ていく。
第6回	ラテンアメリカのスポーツ	サッカーや野球など、ラテンアメリカのスポーツに着目し、そこから見えてくるさまざまな問題について考える。
第7回	ラテンアメリカの食文化	バラエティ豊かなラテンアメリカ諸国の食文化に着目し、その背後に横たわる歴史や文化に関する理解を深める。
第8回	中南米と日本の交流史	ラテンアメリカ諸国に点在する日系社会を中心に、中南米と日本の交流史に関する理解を深める。
第9回	スペイン語圏の音楽と舞踊	スペイン語圏の音楽に関するテーマを選び、グループ発表を中心にその歴史的背景についての理解を深める。
第10回	スペインおよび中南米における日本文化の＜姿＞	アニメや日本料理、ファッションなど、いまスペイン語圏で注目を浴びている日本文化の諸相をとりあげ、グループ発表等を通じてその実情に迫る。
第11回	中南米と北米の関係史	アメリカ合衆国が中南米社会にもたらしたさまざまな影響について見ていく。
第12回	スペインとイスラム文化	イスラム教徒が残したさまざまな影響を軸にスペインの社会の現状をとらえなおす。

- 第 13 回 スペイン語圏の文化と社会に関する総括 ゼミで扱ったさまざまなテーマをふりかえり、それらに共通する特徴や問題についてディスカッション形式で自由に話し合う。
- 第 14 回 まとめ 年間のゼミ活動を振り返り、反省点等の話し合いを通じて次年度のゼミ活動の活性化に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに沿って参考文献を指示するので、それを熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で随時指示する。

【参考書】

授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表 (70 %)、平常点 (30 %) を目安に、発表の準備やプレゼンテーションスキル、グループ討議への積極的な参加、等々を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

まずは日本語できちんと議論し、論理的に自説を展開することのできる力を身につけることをめざします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to enable students to face various aspects in vast Spanish-speaking nations, not only from Spain but Mexico in the north as well as the Argentine in the south etc.

Many of these problems have broken out in close contacts and relations with Europe, America and other countries in the world. What unexpected crucial scenes and points do students discover in approaching the problems in Spanish-speaking nations ?

To achieve the goal, there are diverse angles according to students' own interests — history, art, sports, literature and so forth. It is, however, not enough to discover and confront their own favorite fields. Starting from their interesting areas, it is hopefully important to assess a variety of aspects in their flexible views.

In this seminar, students will be expected to challenge various activities to find out crucial points, mostly speaking Japanese. This course is, therefore, open to all students — including those unfamiliar with Spanish language.

We sincerely welcome all students challenging our exciting intellectual discovery-trip.

LIT300GA

言語文化演習

衣笠 正晃

サブタイトル：身近な文化を読みほく

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのような社会でも、その文化はつねに異文化＝他者との出会いや対決のなかで自らを形成し続けており（＝相関的）、その結果として多様な（＝複数の）要素が、重なり合って存在する（＝重層的）ものとなっています。

本ゼミではこのような（相関性・複数性・重層的性）という視点から、われわれを取り巻くさまざまな文化現象を、ゼミの仲間との自主的な議論を通じて考察してゆきます。そのなかで現代社会のあり方とそれが抱える問題を深く理解するとともに、それに向き合う批判的な視座と判断力を身につけることを目指します。

なおこれまで本ゼミの授業や個人研究で取り上げられてきた対象は、アニメ、マンガ（コミック）、映画、ポピュラー音楽、ファッション、ツーリズム（観光）から、スポーツ社会学、都市空間論、教育問題、言語と社会、ITと社会など、多岐にわたります。

【到達目標】

- 1) 比較文学・比較文化、カルチュラル・スタディーズ、文化社会学、メディア・スタディーズなど、文化の研究・分析に必要な理論的枠組みや知識を習得するとともに、批判的思考を身に付ける。
- 2) 幅広い知的好奇心を保ちつつ自らの関心領域を絞り込み、具体的な文化現象の考察をおこない、現代世界の諸問題とその歴史的文脈について理解し、自らの考えを深める。
- 3) 個人研究の発表、グループでの討議・報告を通じて、自らの意見を説得的に伝えることのできる論理性・プレゼンテーション力を身につける。
- 4) 先行研究など文献の読解やフィールドワークなどの調査に必要な、アカデミックスキルを学び取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の目標を実現するため、このゼミではグループワークと個人研究を並行しておこないます。

春学期には、文化を考えるための基礎となる考え方や理論を確認するため、教員の講義や文献購読にもとづいたディベートや、グループワークによるプレゼンテーションやディスカッションをおこないます。秋学期は講義とそれにもとづくディベート、国際文化情報学会のためのグループワーク、各自の個人研究の紹介・発表をおこないます。また随所で理論的な枠組み、モデルとなる研究を検討します。

演習参加者は自分の関心に応じてテーマを設定し（必要に応じて担当教員がアドバイスします）、授業を通じた学び、ゼミ生相互の批評やアドバイスを生かしながら、自らの研究として集約します。

発表者はグループ・個人いずれの場合も、レジュメを作成し、パワーポイントなどを用いて発表をおこないます（事前に資料を配布してもらいます）。発表に対しては全員が参加してのディスカッションをおこないますので、担当者以外の人も十分な予習と積極的な発言が求められます。また毎回各自のコメントを提出してもらいます。

なお授業での講読文献・グループワークのテーマについては、ゼミメンバーの関心や研究テーマを考慮して決定します。

また夏休み中に実施予定の合宿では、テーマを決めた学習会や研究の中間報告を予定しています。加えて学期中にフィールドワークを実施する予定です。※授業の進め方については、学生と教員との話し合いにもとづいて変更を加えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバス・授業の進め方の確認、各自が関心をもつトピックの紹介

2	グループワーク (1) + 教員による講義 (1)	4年生による研究テーマの紹介、および教員による講義（文化研究の方法論について）
3	グループワーク (2)	発表とディスカッション、および第2回授業での講義にもとづくディベート
4	グループワーク (3)	発表とディスカッション、およびグループワークのテーマ決め
5	グループワーク (4) + 教員による講義 (2)	発表とディスカッション、および教員による講義（批判的思考について）
6	グループワーク (5)	発表とディスカッション、および第5回授業での講義にもとづくディベート
7	グループワーク (6)	発表とディスカッション（学生による模擬授業①）
8	グループワーク (7)	発表とディスカッション（学生による模擬授業②）
9	フィールドワーク	東京の街を歩くなかでの問題発見とレポートの作成
10	グループワーク (8)	フィールドワークでの見聞にもとづくディベート
11	教員による講義 (3)	論文の書き方についての整理と解説
12	グループワーク (9)	発表とディスカッション（国際文化情報学会での発表テーマについて①）
13	グループワーク (10)	発表とディスカッション（国際文化情報学会での発表テーマについて②）
14	総括と反省	春学期の議論のまとめ、夏合宿の準備
1	イントロダクション + 教員による講義 (1)	秋学期のスケジュールの確認、および教員による講義（比較文化の諸問題）
2	グループワーク (1)	第1回授業での講義にもとづくディベート
3	教員による講義 (2)	教員による講義（日本文化論の諸問題）
4	グループワーク (2)	第3回授業での講義にもとづくディベート
5	教員による講義 (3)	教員による講義（時事問題のなかでの問題発見①）
6	グループワーク (3)	第5回授業での講義にもとづくディベート
7	教員による講義 (4)	教員による講義（時事問題のなかでの問題発見②）
8	グループワーク (4)	第7回授業での講義にもとづくディベート、および卒論・ゼミ論の第1次提出
9	個人研究発表 (1) + グループワーク (5)	3年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (1)、および国際文化情報学会でのゼミ発表準備 (1)
10	個人研究発表 (2) + グループワーク (6)	3年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (2)、および国際文化情報学会でのゼミ発表準備 (2)
11	グループワーク (7)	国際文化情報学会でのゼミ発表準備 (3)
12	個人研究発表 (3)	4年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (1)
13	個人研究発表 (4)	4年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (2)
14	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い、卒論・ゼミ論の最終提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・指定ないし配布された文献・資料を十分に読み込んでおくこと。関連する資料・情報について事前の指示にしたがって（または自主的に）収集・入手し、理解につとめること。
- ・発表を担当する場合（グループ、個人とも）は、レジュメ等の資料作成を含め、プレゼンテーションの準備をおこなうこと。担当しない場合も事前の指示にしたがって予習をおこない、質問・議論すべき点をあらかじめ考えておくこと（内容の要約をミニレポートとして提出してもらおう場合があります）。
- ・フィールドワークなどの際、指示にしたがってレポートを作成し、提出すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』（岩波書店〈岩波新書〉、2020年）
- ※その他文献や資料のプリント類を随時使用します。

【参考書】

- ※授業中に随時紹介します。基本図書およびブックガイドとして下記のことを挙げておきます。
- ・松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（改訂第2版）（玉川大学出版部、2015年）
- ・渡辺潤・宮入恭平（編著）『「文化系」学生のレポート・卒論術』（青弓社、2013年）
- ・井上俊・長谷正人（編著）『文化社会学入門——テーマとツール』（ミネルヴァ書房、2010年）
- ・吉見俊哉『現代文化論』（有斐閣、2018年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業準備、発表、議論への参加など。50%）、提出物（リアクションペーパー、課題、レポートなど。50%）をあわせて評価します。なお評価にあたっては、以下の5点に着目します。

- (1) 文化を研究・分析するための基本概念と方法論を理解・習得できているか。

- (2) 対象とする事例について、十分な情報にもとづいて、社会的・歴史的文脈のなかで正確に理解できているか。
- (3) 文献読解や調査のスキルを習得できているか。
- (4) 報告や討論を通じてコミュニケーション能力を向上させ、共同の学びに積極的に参加・貢献できているか。
- (5) 授業での学習成果を主体的・説得的に表現できているか。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・ゼミ生の関心対象が多岐にわたるなかで、共通した目的としての批判的視点の育成と、実践的な調査方法についての指導をさらに深化したい。
・学生各自の研究へのサポートを強化するために、面談指導の機会を一層充実させたい。

【その他の重要事項】

自分の研究テーマに閉じこもるのではなく、幅広い知的関心をもってグループワークに参加するとともに、他のメンバーのテーマにたいして積極的に関心をもち、コメントやアドバイスのできる皆さんの参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In this seminar we will learn how to analyze everyday cultural phenomena around us through active discussions among members, paying particular attention to the correlated, multitudinous, and multilayered structure of culture. In the process, we will aim to cultivate a better understanding of the issues of contemporary society and a critical attitude toward them.

LIN300GA

言語文化演習

興石 哲哉

サブタイトル：英語、英語圏文化研究

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、学生が英語・英語圏文化を中心に、その言語・文化事象をさまざまな形で受信し、自らの考えを発信していくことを目的とします。

【到達目標】

到達目標としては、1) 学生が授業を通じ、できるだけ多くの英語に触れ、英語の力をつける、2) 学生が学んだことを可能なかぎり発信していく、の二つです。具体的には、学生がまず英語を理解する力をつけ、文献が読めたり、ニュース等が聞けるようになったりしなければいけません。そのために、数多くの言語・文化事象を自ら受信する能力を高めることで、きちんと英語圏の言語・文化を理解していく態度を身につけていきます。その上で、それを学生が発信していきますが、その際には可能なかぎり、英語で発信することを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にオンラインでの開講となります。授業計画自体に変更はありませんが、変更がある場合には、「学習支援システム」で提示します。初回までに、具体的なオンライン授業授業の方法などを同システムまたはメールにて提示します。

英語・英語文化について、あるいはより一般的に、言語・文化についての材料を用意して、学生が読んだり見聞きしながら体験していくことから始めます。その後、ゼミ生同士で気づきを共有したり、さらに各自が自らの考えを発表したりすることで、より理解・考察を深めていきます。

春学期では、主に英語の言語・文化事象を体験していくことに焦点を当てます。担当教員や学生が選んだ教材を読んだり、見聞きしたりしながら、きちんと理解できる能力を培います。担当者だけでなく、他のゼミ生も教材を徹底的に調べて、自分なりに理解して行くことが要求されます。

秋学期では、教材を理解していくことを続けながら、各自の選んだテーマについてのプレゼンを混ぜていきます。自らの意見を発信し、全員で討論することによって、学生は視野を広げ、より深い理解に繋げることが目指します。

課題等に対してのフィードバックは、個々の学生の事情に応じて、「学習支援システム」、個人メール等を通じて行う予定です。さらに最終授業にて、全体の講評・まとめを行いたいと思います。

なお、以下の授業計画ですが、教材の数については変更する可能性がありますことをご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生との話し合い。ゼミについての概略を説明。学生・担当教員の自己紹介。春学期でどのような教材を用いるか確認。すぐ次回の教材（教材_1）を配布し、担当者を決める。
2	教材_1（1回目）	教材_1について担当者が正確に理解しているか、チェック。
3	教材_1（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。併せて教材_2を配布。担当者を決める。
4	教材_2（1回目）	教材_2について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_3を配布。担当者を決める。
5	教材_2（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。

6	教材_3（1回目）	教材_3について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_4を配布。担当者を決める。
7	教材_3（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
8	教材_4（1回目）	教材_4について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_5を配布。担当者を決める。
9	教材_4（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
10	教材_5（1回目）	教材_5について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_6を配布。担当者を決める。
11	教材_5（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
12	教材_6（1回目）	教材_6について担当者が正確に理解しているか、チェック。
13	教材_6（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
14	総括_1	これまでの教材の理解の仕方を総括する。資料の用い方等についても、再度検討し、今後の研究に役立てる。
15	総括_2	これまでの教材の理解の仕方を総括する。資料の用い方等についても、再度検討し、今後の研究に役立てる。さらに問題点などをプレゼンしてもらい、全員で討議。その後、秋学期へどう続けていくか総括において考えていく。
16	イントロダクション	春学期を振り返り、改めて秋学期の授業開始に際し、スケジュール等を確認する。教材_7を配布し、担当者を決める。
17	教材_7（1回目）	教材_7について担当者が正確に理解しているか、チェック。教材_8を配布し、担当者を決める。
18	教材_7（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
19	教材_8（1回目）	教材_8について担当者が正確に理解しているか、チェック。
20	教材_8（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
21	学部学会に向けた取り組み_1	学部発表の内容を固めていく。
22	学部学会に向けた取り組み_2	学部発表の内容を固めていく。
23	学部学会に向けた取り組み_3	学部発表の内容を固めていく。
24	学部学会のリハーサル_1	学部学会の発表を念頭に置き、これまで研究してきたことを実際に発表してみる。プレゼンの仕方などについて学習する。
25	学部学会のリハーサル_2	学部学会の発表を念頭に置き、これまで研究してきたことを実際に発表してみる。プレゼンの仕方などについて学習する。
26	学部学会の最終リハーサル	学部学会を控え、最後のリハーサルを行う。実際の発表を見据え、あくまで当日のことを頭に描きながら、よりよい発表になるようベストを尽くす。
27	教材_9（1回目）	教材_9について担当者が正確に理解しているか、チェック。
28	教材_9（2回目：より詳細に検討, wrap-up）	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の扱っている事柄や学部学会のトピックについて、学生がきちんと先行研究を読むこと。また、固有名詞（人名、地名等）もおろそかにせず、きちんと調べをしておくこと。最近ではネットを用いたりすればたいいの情報は入手できます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。プリントの形で配布、あるいは授業支援システム等を通じて配布します。

【参考書】

随時、指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、学部学会への貢献等（50%）を合計して成績を出します。なお、授業は出席することが当然なので、成績評価基準として「出席点」や「出席」という記載はしませんが、欠席が4回以上になりますと、参加度ゼロという扱いをするため平常点が極めて低くなり、単位取得が困難になります。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度の意見がまだ届いていないので、直接聴取したものではありませんが、個人個人で学会に参加し、発表することで、自分で調べて公表し、批判に晒されるということがいい経験になっていると思います。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンが必要などときには、パソコン、スクリーンを用います。また DVD 等も随時使用いたします。

【その他の重要事項】

1. 英語に興味を持たない方には不向きです。特に、英語を読むのが億劫な学生には向きません。
2. 上記の授業計画 (Schedule) は実状に合わせて変更・修正を行います。
3. 遅刻・欠席は原則として一切認めません。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、3 年生、4 年生が SA 等を通じて自ら選んだコース（言語文化コース）での集大成に至る科目です。4 年間を一つの山にたとえた場合その頂点に向かう科目なので、その重要性をしっかりと認識してください。

【Outline and objectives】

By the end of this course, you should:

- become acquainted with the basic literature on language, communication, and culture studies in general.
- begin to develop your own ability to express your opinion using English.

CUA300GA

言語文化演習

久木 正雄

サブタイトル：世界遺産に学ぶ

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※本演習は、2020年度まで佐々木直美が担当してきた言語文化演習（サブタイトル：世界遺産に学ぶ、授業コード：C1119）との連続性を持つ。2021年度に限って久木正雄が代講し、2022年度以降は再び佐々木直美が担当する予定である。

華麗な建造物や豊かな自然といった世界遺産は、まさに人類とこの地球が誇る「遺産」であり、我々を魅了してやまない。その一方で、セネガルのゴレ島をはじめとするいわゆる「負の世界遺産」としての認知を得ているか否かを問わず、多くの世界遺産は人類の功罪の両面を今に伝えている。また、世界遺産の中には存続の危機に瀕しているものもあり、それらの保全・保存は、SDGsに直結する極めて今日的な課題であると言える。

そこでこの演習では、世界遺産への関心を共通項として、政治、民族と宗教、環境問題、観光政策、労働と貧困といった多様かつ複合的な諸問題に関する理解を得るとともに、それらを全地球的観点と個々の国・地域の事情に即した観念の双方から省察する力を養うことを目指す。

【到達目標】

- 世界遺産の意義を理解する。
- 世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自らの意見を述べ、議論を展開させる力を身に付ける。
- 資料の収集と分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
- 世界遺産検定2級あるいは1級程度の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゼミ全体での研究テーマと共通テキストを設定し、そのテキストの輪講と討論を行う。並行して、各自の関心に基づく個人研究を進めてもらい、報告（プレゼンテーション）と討論を行う。また、受講生の要望に応じて、秋学期の国際文化情報学会でゼミとしての研究発表を行う。

なお、課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
春1	イントロダクション (1)	受講生間、および受講生と教員の間で問題関心の共有を図り、今年度の全体テーマと共通テキストの設定を行う。
春2	スペインの世界遺産	教員の自己紹介を兼ねて、スペインの世界遺産に関する概説と質疑応答を行う。

春3	世界遺産の歴史と現在の諸問題 (1)	世界遺産の歴史と現状についての理解を深めるために、グループに分かれて研究を行う。
春4	世界遺産の歴史と現在の諸問題 (2)	第3回に引き続き、世界遺産の歴史と現状に関するグループ研究を行う。
春5	文献講読 (1)	共通テキストの輪講と討論を行う。
春6	文献講読 (2)	共通テキストの輪講と討論を行う。
春7	文献講読 (3)	共通テキストの輪講と討論を行う。
春8	個人研究発表 (1)	4年生による個人研究発表を行う。
春9	個人研究発表 (2)	4年生による個人研究発表を行う。
春10	個人研究発表 (3)	3年生による個人研究発表（今後の研究計画の紹介）を行う。
春11	文献講読 (4)	共通テキストの輪講と討論を行う。
春12	文献講読 (5)	共通テキストの輪講と討論を行う。
春13	文献講読 (6)	共通テキストの輪講と討論を行う。
春14	春学期のまとめ	各受講生が春学期の研究の成果を報告し、討論を行う。
秋1	イントロダクション (2)	国際文化情報学会での発表を含め、秋学期におけるゼミ全体としての研究方針を策定する。
秋2	フィールドワーク報告会 (1)	フィールドワークの成果を共有し、得た資料の分析のための方向性を検討する。
秋3	グループワーク (1)	フィールドワークで得た資料の分析をグループごとに行う。
秋4	グループワーク (2)	フィールドワークで得た資料の分析をグループごとに行う。
秋5	フィールドワーク報告会 (2)	フィールドワークで得た資料の分析結果の報告会を行う。
秋6	文献講読 (7)	共通テキストの輪講と討論を行う。
秋7	文献講読 (8)	共通テキストの輪講と討論を行う。
秋8	文献講読 (9)	共通テキストの輪講と討論を行う。
秋9	文献講読 (10)	共通テキストの輪講と討論を行う。
秋10	文献講読 (11)	共通テキストの輪講と討論を行う。
秋11	文献講読 (12)	共通テキストの輪講と討論を行う。
秋12	個人研究発表 (4)	4年生による個人研究発表を行う。
秋13	個人研究発表 (5)	4年生による個人研究発表を行う。
秋14	秋学期および今年度のまとめ	3年生による個人研究発表（進捗状況の報告）を中心に、今学期・今年度の成果と次年度への展望を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- テキストと参考文献を読み、疑問点や意見をまとめる。
 - 個人研究を進める。
 - 必要と状況に応じてフィールドワークを行う。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で受講生とともに選定する。以下、候補として3点を挙げておく。

- 井出明『ダークツーリズム—悲しみの記憶を巡る旅』幻冬舎（幻冬舎新書）、2018年。
- 関哲行『前近代スペインのサンティアゴ巡礼—比較巡礼史序説』流通経済大学出版会、2019年。

- 中村俊介『世界遺産—理想と現実のはざままで』岩波書店（岩波新書）、2019年。

【参考書】

必要に応じて教場で指示する。以下、昨年度の「テキスト（教科書）」と「参考書」を参考として挙げておく。

◆2020年度の「テキスト（教科書）」

- 秋月辰一郎『死の同心円—長崎被爆医師の記録』長崎文献社、2010年。

- 有田正光編著、白川直樹、石村多門著『環境問題へのアプローチ』東京電気大学出版局、2001年。

- レイチェル・カーソン（青樹築一訳）『沈黙の春』新潮社、1974年（新装版2001年、文庫版改版2004年）。

- 高瀬毅『ナガサキ—消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。

- 平田徳恵、川原晋「ブルーフラッグの活用による持続的な観光地づくりの可能性—日本初認証の2地域に着目して」『日本建築学会技術報告集』26巻63号、2020年、719～724頁。

- 松尾潤『祈りの記憶—長崎と天草地方の潜伏キリシタンの世界』批評社、2018年。

- NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300』毎日コミュニケーションズ、2017年。

◆2020年度の「参考書」

- 木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。

- 佐滝剛弘『<世界遺産>の真実—過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。

- NPO法人世界遺産アカデミー『すべてがわかる世界遺産大事典<上>—世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2016年。

- NPO法人世界遺産アカデミー『すべてがわかる世界遺産大事典<下>—世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2016年。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、質疑応答・討論への参加度：30%、課題（レポート）：40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPCは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

希望者は世界遺産検定（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の資格取得を目指すことができる。ただし今年度に関しては、3年生への受検指導は主に4年生にお願いしたい。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with an opportunity to gain or enhance knowledge of the World Heritage Site, and to examine its historical and actual problems, through text reading, fieldwork, presentation and discussion.

ART300GA

言語文化演習

佐藤 千登勢

サブタイトル：映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※2021年度のみ2～4年を対象とする。単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、さまざまな国の映画作品を通して象徴性・メタファー・寓意的表象で語られる映画言語を読み解き、背後にある、それぞれの国・地域の土着的文化、慣習、歴史の経緯、イデオロギー、社会体制を確認する作業も含めて、映画鑑賞と作品分析を楽しみます。そのための基礎概念として、《全体主義》《亡命・離散》《差別》《抑圧》《エスニシティ》《マイノリティ》といった社会的テーマから《エディプス・コンプレックス》《トラウマ》《潜在意識》《欲望》など個人の内的世界に関わるモチーフをキーワードに、映画作品の多面性・両義性・重層性、そして映画作品に反映する国や地域の文化や社会について議論します。映画作品を分析する視点を培い、議論する力を養うことが本演習の目的となります。

【到達目標】

映画作品は世界の縮図モデルであり、多様な国々の社会、経済、文化、民族的な傾向を反映したモデルと言えます。ですから、様々な国々の映画作品を鑑賞、分析することで、洞察力やものごとの本質を見抜く力を身につけ、さらにこれを言語化してプレゼンテーションする技術、議論する力を獲得する。これが演習の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

初回から第3回までは、教員が提案する映画作品を皆で共有し、教員からは映画分析の方法やレジュメの切り方、議論ポイントの提示方法などを示します。これに基づき、ゼミ生には複数のグループに分かれて自由に討論してもらいます。その後、グループごとの意見を発表してもらい、さらに議論を深めていくかたちをとります。4回目以降は、ゼミ生のプレゼンテーション（映画の選択、レジュメを基に解説、司会）となります。

翌週までに、議論内容の要約や自身の見解をまとめたリアクションペーパー（映画鑑賞記録文）を提出してもらいます。教員は興味深い内容のリアクションペーパーを毎週何点か選びコメントを加え、ゼミ生全員でこれを共有するようにします。オンライン授業となった場合には、議論をZoomミーティングで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、春学期の計画を明確にする。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧について概説。
2	夢分析と映画	『マルホランド・ドライブ』（ディヴィッド・リンチ監督）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論、リアクションペーパーのまとめ。

3	異形の寓意性	『ソード・ハンド』（ロシア映画）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論、リアクションペーパーのまとめ。
4	ゼミ生による報告1	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
5	ゼミ生による報告2	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
6	ゼミ生による報告3	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
7	ゼミ生による報告4	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
8	ゼミ生による報告5	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
9	ゼミ生による報告6	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
10	ゼミ生による報告7	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
11	ゼミ生による報告8	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
12	ゼミ生による報告9	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
13	ゼミ生による報告10	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
14	ゼミ生による報告11	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、秋学期の計画を明確にする。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧について概説。
2	不条理劇としての全体主義	『ゼロ・シティ』（ソ連映画）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論、リアクションペーパーのまとめ。
3	少数民族を描くということ	『火の馬』（ウクライナ少数民族の伝説：パラジャーノフ監督）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論、リアクションペーパーのまとめ。
4	ゼミ生による報告1	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
5	ゼミ生による報告2	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
6	ゼミ生による報告3	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
7	ゼミ生による報告4	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
8	ゼミ生による報告5	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
9	ゼミ生による報告6	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
10	ゼミ生による報告7	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
11	ゼミ生による報告8	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。

- | | | |
|----|-------------|-----------------------------------|
| 12 | ゼミ生による報告 9 | 担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。 |
| 13 | ゼミ生による報告 10 | 担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。 |
| 14 | ゼミ生による報告 11 | 担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当の学生は、自身がプレゼンテーションする映画作品について社会背景、歴史背景、制作背景、手法、解釈の観点から詳細に調査を行い、レジメを作成すること。他の学生はゼミの前までに必ず映画作品について予習しておくこと。また、毎回、ゼミで議論した映画作品について自身の見解をまとめたリアクションペーパーを翌週までにまとめて提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

なお、オンライン授業となった場合、映画作品は各自、必ず鑑賞しておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用しません。適宜、テーマと関連する文献のコピーを教員が配付します。

【参考書】

ジェニファー・ヴァン・シル著『映画表現の教科書』吉田俊太郎訳、フィルムアート社、2012年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）、リアクションペーパー（20％）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論を中心とした演習を望む声もあれば、教員からの概説を中心とした演習を望む意見もありました。以後は、両者の配分のバランスに配慮しながら演習を進め、学生のみなさんに知識を得る楽しさや充実感を味わってもらおうと同時に、自らの意見をまとめて見解を述べ、議論する技術を身につけてもらうよう尽力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

報告用レジメをあらかじめLINEグループにアップする。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will analyze and interpret motion pictures of various countries from the point of view of an allegorical representation, metaphor, camera work, and the historical and political background of each of the countries. The basic concepts: Oedipus complex, trauma, subconscious, fascism, totalitarianism, discrimination, suppression, ethnicity and minority.

HIS300GA

言語文化演習

鈴木 靖

サブタイトル：アジアから見た日本

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国や台湾、韓国などアジアの人々の対日イメージと日本人の自己イメージとの間には大きな懸隔があり、良好な近隣関係を築く上での障害となっている。この授業では「アジアから見た日本」をテーマに、これらの国や地域と日本との政治的関係や文化的交流の歴史を概観するとともに、アジアの人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件や人物に焦点を当て、それらが当該国や地域の教育やテレビ・映画などを通じてどのように語り伝えられているかを学ぶ。

【到達目標】

アジアの人々の対日イメージがどのように形成されたかを理解し、日本とアジアという双方の視点から問題を考える力（「共感力」empathy）を養い、国際社会人として円滑な異文化間コミュニケーションを行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度は春学期に台湾、秋学期に日韓中の交流史について学ぶ。

春学期には、台湾でベストセラーになった『図説・台湾の歴史』をテキストに台湾の歴史を概観するとともに、台湾の人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件を取り上げ、それが台湾の歴史教科書やドラマ、映画の中でどのように描かれ、記憶されているかを学ぶ。

秋学期は日米の東アジア研究者による講演をまとめた『アジア理解講座④日韓中の交流～ひと・モノ・文化』をテキストに、古代から近代にいたる日韓中の交流史を学ぶ。

また、これらの学習と並行して、アジアに関連したドキュメンタリー映像作品を制作する。昨年度は在日コリアンの学生さんに取材した映像作品を制作した。

課題や発表に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加するLINEのグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	なぜ台湾の歴史を学ぶのか？	テキストを輪読する目的と到達目標を確認し、同書の発表分担や授業の進め方について話しあう
第2回	先史時代の台湾と先住民たち	テキストの第2章と第3章をもとに、先史時代の台湾とその先住民について学ぶ
第3回	オランダ統治下の台湾	テキストの第4～6章をもとに、オランダ統治下の台湾と、そこで暮らしていた漢族移民と先住民の関係について学ぶ
第4回	鄭氏政権下の台湾	台湾を拠点に異民族王朝である清に抵抗を続けた鄭成功ら鄭氏政権について学ぶ
第5回	日本統治下の台湾① 日本の領台からタバニー事件まで	テキストの第7～8章をもとに、日本の領台から二大抗日事件の一つであるタバニー事件（西来庵事件）までを学ぶ
第6回	日本統治下の台湾② 霧社事件	二大抗日事件の一つである霧社事件に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの事件をどのように描いているかを考える
第7回	日本統治時代の台湾③ 反植民地運動	テキストの第9～11章をもとに、日本統治の台湾での反植民地運動について学ぶ

第8回	日本統治時代の台湾④ 戦時下の台湾	テキストの第12章をもとに、戦時下の台湾について学ぶ
第9回	日本統治時代の台湾⑤ 軍人・軍属の動員と戦後補償問題	台湾からの軍人・軍属の動員と戦後補償の問題に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの問題をどのように描いているかを考える
第10回	国民党独裁体制下の台湾① 2・28事件と白色テロ	テキストの戦後編第1～2章をもとに、戦後台湾で起こった最大の弾圧事件である2・28事件について学ぶ
第11回	国民党独裁体制下の台湾② 2・28事件と白色テロの犠牲者たち	台湾人の心にいまも大きな影を落とす2・28事件や白色テロの犠牲者に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの問題をどのように描いているかを学ぶ
第12回	民主化運動から現代へ①	テキストの戦後編第3～4章をもとに、台湾の民主化運動とその成果について学ぶ
第13回	民主化運動から現代へ②	民主化以降の台湾の歩みを歴史教科書や新聞記事などを使い整理する
第14回	春学期のまとめ	中国や韓国との比較を通じて、台湾の対日イメージの特徴と課題について考える
第15回	朝鮮半島に視点を置いてみる	テキストの第一章をもとに、朝鮮半島に視点を置き、日韓中の文化交流がアジアの平和と安定に果たした役割を学ぶ
第16回	古代の渡来人	西本昌弘「楽浪・帯方二群の興亡と漢人遣民の行方」をもとに、古代の中国系渡来人について学ぶ
第17回	日本古代における漢字文化の受容	テキストの第二章をもとに、朝鮮半島や中国本土から伝えられた漢字が、古代日本の発展に果たした役割を学ぶ
第18回	海を渡った古代日本人々	テキストの第三章をもとに、古代に東シナ海を渡って中国から新たな制度や文化を伝えた日本人について学ぶ
第19回	国際社会としての中世禪林	テキストの第四章をもとに、遣唐使が廃止された後、日中の民間交流を支えた中世禪林について学ぶ
第20回	倭人たちのソウル	テキストの第五章をもとに、十五、六世紀のソウルを舞台とした日韓の民間交流と軋轢について学ぶ
第21回	韓中の絵地図に描かれた日本列島周辺	テキストの第六章をもとに、中世に韓中で日本地図が作成された背景とそこに反映された日本のイメージについて学ぶ
第22回	倭寇の時代	倭寇を描いた中国の白話小説（古今小説第十八巻「楊八老越國奇逢」）や日本の能（「唐船」狂言（「唐人子宝」）を通じて倭寇の時代を考える
第23回	秀吉の朝鮮出兵（壬申・丁酉倭乱）	韓国で大ヒットとなった映画『（鳴梁）』（邦題「バトル・オーシャン海上決戦」2014年公開）を例に、秀吉の朝鮮出兵が韓国でどのように描かれているかを考える
第24回	壬申・丁酉倭乱の戦後処理と「朝鮮通信使」	テキストの第七章をもとに、秀吉の朝鮮出兵後のアジア情勢とその戦後処理について学ぶ
第25回	通信使の行列を「読む」	テキストの第八章をもとに、絵画に描かれた朝鮮通信使を通じて、江戸時代の対朝鮮イメージについて考える
第26回	朝鮮後期の日本観	テキストの第九章をもとに、李王朝の後期の対日イメージについて考える
第27回	「平和外交」が育んだ侵略・征韓論	テキストの第十章をもとに、江戸時代の善隣外交が、なぜ征韓論に代表される拡張主義へと変質していったのかを考える
第28回	まとめ	春学期・秋学期の学習を総括し、この演習の到達目標をどの程度達成できたか、今後の課題は何かを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は、テキストの内容をまとめるだけでなく、それを補充あるいは反証する資料を紹介し、論理的思考と批判的思考をもって実証的な発表ができるよう準備する

・発表者以外は、テキストの当該箇所を精読するとともに、他の関連資料も事前に参照して、発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【春学期】

・周婉窈著『増補版・図説台湾の歴史』（平凡社、2013年）※このテキストには旧版と増補版があるので注意すること

【秋学期】

・吉田光男編『アジア理解講座④日韓中の交流～ひと・モノ・文化』（山川出版社、2004年）

【参考書】

【春学期】

〔書籍論文〕

- ・若林正丈著『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』（ちくま新書、2001年）
- ・呉濁流著『夜明け前の台湾』（社会思想社、1972年）
- ・戴國輝編著『台湾霧社蜂起事件 研究と資料』（社会思想社、1981年）
- ・楊威理著『ある台湾知識人の悲劇』（岩波同時代ライブラリー、1993年）
- ・内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（山川出版社、2000年）

〔映像資料〕

- ・台湾テレビドラマ「風中緋桜」（万仁電影有限公司制作、2003年放送）
- ・台湾映画「セデック・バレ（原題賽徳克巴萊）」（2011年公開）
- ・NHKドキュメンタリー「BS プレミアム三つの名を生きた兵士たち～台湾先住民“高砂族”の20世紀」（2012年8月11日放送）

【秋学期】

〔書籍論文〕

- ・西本昌弘「楽浪・帯方二群の興亡と漢人遺民の行方」（古代文化第41巻第10号、1989年）
- ・上田正昭『渡来の古代史』（角川選書、2013年）
- ・大島正二『漢字伝来』（岩波新書、2006年）
- ・仲尾宏『朝鮮通信使と壬辰倭乱～日朝関係史論』（明石書店、2000年）

〔映像資料〕

- ・NHK ETV 特集シリーズ「日本と朝鮮半島 2000年」
 - 「第7回 東シナ海の光と影 倭寇の実像を探る」（2009年10月25日放送）
 - 「第8回 豊臣秀吉の朝鮮侵略」（2009年11月29日放送）
 - 「第9回 朝鮮通信使 和解のために」（2009年12月27日放送）
- ・韓国映画「鳴梁」（邦題「バトル・オーシャン 海上決戦」2014年公開）

【成績評価の方法と基準】

成績は輪読発表（50％）とリアクション・ペーパー（25％）、グループワークへの貢献度（25％）によって評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

全体のディスカッションではなかなか意見を出しにくいようなので、昨年度から小さなグループにわかれて意見交換を行い、そこでの議論の内容を代表者が発表するグループワーク形式に変更した。

【学生が準備すべき機器他】

演習では、授業時間外でも共同作業ができるよう、独自に設置した SNS サービス **fixi** を活用する。URL は、

- ・ **fixi**
<http://fic.xsrv.jp/elgg/>
 授業の中では次のような情報機器を使用する。

(1) プレゼンテーション

パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける
 〔使用機材〕 PC、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど

(2) グループ・ワーク

発表者や他者の意見にしっかり耳を傾けるとともに、批判的思考と資料的根拠をもって論理的、実証的に意見を述べ、ディスカッションに貢献する力を身につける

〔使用機材〕 マイク、教室内の拡声装置

(3) 現地取材

取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につける

〔使用機器〕 ビデオカメラ、三脚、マイク、**fixi**（インタビューの起こしと翻訳に利用）

(4) 映像制作

文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを身につける

〔使用機器〕 パソコン、**fixi**（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど

【Outline and objectives】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China, Taiwan and Korea, throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by the countries of China, Taiwan and Korea, through the use of text and visual materials.

ARSc300GA

言語文化演習

遠藤 郁子

サブタイトル：アメリカの「なぜ」を考えよう

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※ 2021年度のみ2～4年を対象とする。単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんの多くがご存知のとおり、アメリカにおける新型コロナウイルスの感染者数は世界で群を抜いています。ではなぜアメリカでは感染拡大が止まらないのでしょうか。高額な医療費、政治思想、人種格差などが理由として思い浮かぶかもしれませんが。ではたとえば、なぜ黒人のコロナウイルスによる死亡率は白人の6倍以上なのでしょう。雇用や住宅、交通手段、教育など、黒人コミュニティ固有の問題が要因となっていることは確かです。では、たとえば、黒人の住宅環境と黒人コミュニティにおけるコロナウイルスの感染にはどのような関係があるのでしょうか。

本演習は、ひとつの社会現象、問題、文化事象などに対してさまざまな角度から「なぜ」と問い続け、資料をもとにそれを分析します。与えられた情報を「事実」としてただ受け止めるのではなく、想像力を働かせ、柔軟な態度でそれを考察する能力を身に付けることが目的です。担当教員の専門領域がアメリカの文学・文化なので、アメリカに関する知見を深めることで世界について、また自分について知ることも演習の目的とします。

【到達目標】

I. この演習で学生は以下の力を身につけます。

- (1) 一つの題材から、検討に値する問題点を見つけ出す。
 - (2) 上記の問題点の理由を調べ、解釈・検討し、それを他者に伝える。
 - (3) 他者の意見に耳を傾け、場合によっては自らの見解を修正しつつ、より正確で精緻な、説得力のある結論へと練り上げる。
- 言い換えれば(1)~(3)のプロセスを通して、学生は問題発見、情報収集、解釈と分析と思考、そして表現のスキルを磨いてゆきます。それが当演習の目標の一つです。

II. こうした探求の姿勢は、一つの事象の背景が決して単一で単純ではないことを、改めて気づかせてくれるはずだ。その複雑さをとまごずすための、強靱かつ繊細な知力と感受性を身につけることも、当演習の目標となります。

III. 「大学時代になにを学びましたか？」と聞かれたとき躊躇なく答えられることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。アメリカはひとつの国ですが、異なる歴史的・文化的背景をもつ複数の地域からなります。この授業では一年を通してアメリカの様々な地域について教員が映画や文献を用いながらミニ講義をし、学生はある地域の歴史的・文化的背景と人種や階級、ジェンダーやエスニシティなどの問題を結び付けて検討します。

また、学生は授業で浮かび上がった問題や、自分の経験を通して興味を抱いた事柄をテーマに選び、授業で獲得した方法論を使って、情報を取捨選択しながらゼミ論文を完成させ、プレゼンテーションを行います。もちろん一人で作業するだけではありません。随時論文の進行状況を報告しあいながら、学生同士の意見やアドバイスが活発に交差する機会を、授業内外で提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明。自身の関心のあるトピックを共有しあいます。
第2回	表象分析（1）	特定の表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討します。
第3回	表象分析（2）	前回の授業で気づいたことに基づき、特定の表象作品（映画・音楽など）を分析します。

第4回	アメリカの地域（1） ゼミ論合評会（1）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 4年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第5回	アメリカの地域（2） ゼミ論合評会（2）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 4年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第6回	アメリカの地域（3） ゼミ論合評会（3）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 4年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第7回	アメリカの地域（4） ゼミ論合評会（4）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 4年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第8回	アメリカの地域（5） 春学期ゼミ論助走	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 テーマ設定の仕方やレジュメの書き方、書式などについて説明。ゼミ論の構成や論理的な思考についてもトレーニングします。
第9回	春学期ゼミ論執筆（1）	春学期ゼミ論のテーマについて各学生が発表、全員でそれについて検討します。
第10回	春学期ゼミ論執筆（2）	春学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。
第11回	春学期ゼミ論執筆（3）	春学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。
第12回	春学期ゼミ論執筆（4）	春学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。
第13回	春学期ゼミ論執筆（5）	春学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。
第14回	春学期ゼミ論執筆（6） 春学期の総括・反省	春学期ゼミ論の草稿の peer review を行います。また、春学期ゼミの総括・反省を行います。
第1回	アメリカの地域（6） ゼミ論合評会（1）	3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第2回	アメリカの地域（7） ゼミ論合評会（2）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第3回	アメリカの地域（8） ゼミ論合評会（3）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第4回	アメリカの地域（9） ゼミ論合評会（4）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第5回	アメリカの地域（10） ゼミ論合評会（5）	アメリカの地域とその歴史的文化的背景について説明・検討します。 3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第6回	ゼミ論合評会（6）	3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第7回	ゼミ論合評会（7）	3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第8回	ゼミ論合評会（8）	3・4年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。

- | | | |
|--------|-------------|--|
| 第 9 回 | 秋学期ゼミ論執筆（1） | 秋学期ゼミ論のテーマについて各学生が発表、全員でそれについて検討します。 |
| 第 10 回 | 秋学期ゼミ論執筆（2） | 秋学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。 |
| 第 11 回 | 秋学期ゼミ論執筆（3） | 秋学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。 |
| 第 12 回 | 秋学期ゼミ論執筆（4） | 秋学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。 |
| 第 13 回 | 秋学期ゼミ論執筆（5） | 秋学期ゼミ論の方法論・内容について学生が発表、全員でそれについて検討します。 |
| 第 14 回 | 秋学期ゼミ論執筆（6） | 秋学期ゼミ論の草稿の peer review を行います。また、秋学期ゼミの総括・反省を行います。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が翌週に向けて事前準備（題材を読む・観る・聞く・調べる）を行うことは、授業に参加するために不可欠です。準備の方法や範囲は、毎回具体的に指示します。春・秋学期のゼミ論作成には相応の時間と労力を費やすこととなりますが、完成時の知的な満足感・充実感は学生時代の成果の一つとして、なにものにも換えられないはずで、また卒業してからも大きな自信となることでしょう。本授業外の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。主に論文、新聞、雑誌、ネット記事などの印刷物を使用します。

【参考書】

適宜、授業時間内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 発表 (30%)
- (2) 発言や毎授業における貢献度 (10%)
- (3) レジюмеや各回コメントシートなどの課題の完成度 (10%)
- (4) ゼミ論 (50%)

上記 4 つの側面を主たる評価の対象として、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

本授業では授業支援システムと Google Classroom を活用します。また各種マテリアルへのアクセスが必要な場合もあるので、パソコン、スマートフォンなどのデバイスを持していることが望ましい。

【その他の重要事項】

- (1) 授業や授業準備を優先させられる
 - (2) 向上心・知的好奇心が強い
 - (3) USA や特定の文化、あるいは文化全般に興味がある
- 以上の条件を満たす学生を望みます。また、学部 SA 先がアメリカ以外の学生や「嫌米」の学生なども歓迎します。

【Outline and objectives】

Through this course, students will be introduced to basic concepts and theories in order to understand various cultures, mainly those in the United States. Students are expected to develop an interest in the issues of ideology, power, everyday meaning-making and cultural practices. This course will explore different territories within the realm : popular culture and media studies, minority and subcultures, race, gender, etc. In addition, students will be learning and trying out various methods to find information, give presentations, write papers, cite sources, etc.

ARSx300GA

【2021 年度休講】言語文化演習

廣松 勲

サブタイトル：フランコフォニーの言語文化

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランコフォニー（＝フランス語圏）」の言語や文化を総合的に分析することで、世界に散在するフランス語・フランス文化の多様性と共通性を考察する。それにより、フランス語圏に留まらず、文化接触や文化的差異の調整を理解する際の分析手法を身につけることを目的とする。

多少なりとも「フランス的なもの」に関心があれば、フランス語の言語能力などの前提知識は前提としない。

（*なお、本演習は 2021 年度のみ担当教員が変更される可能性がある。詳細は説明会にて説明する。）

【到達目標】

到達目標は、大きく分けて 2 つある。

①一つには、「フランス共和国」の言語文化を超えて、「フランコフォニー」のそれへと変貌を遂げつつあるフランス語・フランス文化が、各地域において、どのような方法によって多文化・他文化との共生の道を探っているのかを説明できること。

②もう一つには、文化接触や文化的差異の「妥当な調整」といった現象を分析する際に必要となる方法論を、確りと意識して分析・考察に取り組むことができるようになること。

これらの目標に到達するために、学生は自ら選んだフランス語圏地域におけるフランス語・文化を調査・分析することで、「どのような文化接触の結果として、どのような共生への道が目指されてきたのか」、その上で「そのような共生への道が今後も有効なものであるかどうか」を考察することになる。

調査・分析・考察の結果は、最終的にレポートや論文などの形にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

本演習では、学生の人数・関心等に鑑みながら、以下のような形で演習を進める。

≪ 春学期について ≫ テキストや映像を丁寧に読み込む方法を知るため、主に演習形式（レジュメ発表と討議）で進める。邦訳・字幕版の存在する代表的なフランス語圏の文献・映像、それらに関するエッセイなどを分析対象とする。まず最初の数回の演習では、参加学生と対話しながら、フランス語圏の言語文化を講義する際の「方法論」や「レジュメの作成方法」などを講義する。その後、演習形式の講義では、担当の学生が分担箇所をレジュメ発表し（何がどのように描かれているか？ など）、その上で問題提起とゼミ全体での討議を行う（なぜそのように描かれているのか？ など）。

春学期の最後には、個人研究のテーマや分析方法を決定する際のヒントを見つけるべく、学習内容についてレポートを提出してもらう。

≪ 秋学期について ≫ 前半では、講義形式を継続する予定である。後半では、各自が自らの関心・問題意識から個人研究の口頭発表を行った上で、全員で討議を行うことになる。

秋学期未までに、個人研究の成果をレポートや論文などの形で提出してもらう。

≪ リアクション・ペーパーについて ≫ 全体討議などで触れられなかった疑問点や意見、さらに演習運営上の希望を含めて、リアクション・ペーパーを提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本演習（特に春学期）の内容および参加方法を説明する。 ・「フランコフォニー（フランス語圏）」とは何か？ ・春学期の講義分担を決める。

2	I. 方法論の概説、レジュメ作成方法・問題提起の仕方の確認	・文献を読解する際の方法論を概説する。テキストや映像を対象とした「テキスト分析」や「社会学的分析」を中心に論じる。 ・講読が必要となる「レジュメ」等の作成方法や「レポート」の書き方・構成方法等を解説し、参加学生全員に共通理解を作る。 ・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（序、第一章、第二章）を読む。
3	II. フランス植民地帝国の歴史を知る①	・平野千香子の評論「フランス植民地主義の歴史」（第三章、第四章）を読む。 ・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（第五章）を読む。
4	II. フランス植民地帝国の歴史を知る②	・フランス最古の植民地であるカリブ海域諸島に関する映画『はじまりの小屋』を見る。
5	II. フランス植民地帝国の歴史を知る③	・概略的にマグリブのフランス語圏に関して解説を行う。特にアルジェリアとモロッコを扱う。 ・マグリブのフランス語圏に関する映画を見る。
6	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化①	・ギョー・ベルヴィエ著『アルジェリア戦争』（第 1 章～第 4 章）を講読する。 ・ギョー・ベルヴィエ著『アルジェリア戦争』（第 5 章～第 9 章）を講読する。 ・映画『アルジェの戦い』を見る。
7	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化②	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（I～III）を講読する。
8	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化③	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（IV～VI、エピソード）を講読する。
9	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化④	・ジャック・デリダに関する映画『言葉を撮る』を見る。
10	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑤	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（VII～エピソード）を講読する。
11	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑥	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（序章～第 2 章）を講読する。
12	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑦	・映画『憎しみ』を見る。
13	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑧	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 3 章～第 5 章）を講読する。
14	III. マグリブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑨ 総括	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 6 章～終章）を講読する。 ・映画『非-統合』を見る。 ・春学期のまとめを行う。
15	イントロダクション	・秋学期の演習内容と参加方法を確認する。 ・秋学期の講読分担を決める。 ・アフリカのフランコフォニーに関する映像を見る。
16	IV. アフリカ諸国の言語文化①	・アフリカのフランコフォニーに関して概説する。特にセネガルとコート・ジボワールについて扱う。 ・宇佐美久美子の『アフリカ史の意味』を講読する。
17	IV. アフリカ諸国の言語文化②	・映画『ボツワンガの鱉』を見る。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（2 つの総論）を講読する。
18	IV. アフリカ諸国の言語文化③	・センベス・ウスマンのドキュメンタリー『センベス』を見る。 ・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』（第一章）を講読する。
19	IV. アフリカ諸国の言語文化④	・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（一章分）を講読する。 ・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』（第二章）を講読する。
20	IV. アフリカ諸国の言語文化⑤	・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（一章分）を講読する。 ・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』（第三章+補論）を講読する。
21	IV. アフリカ諸国の言語文化⑥	・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと文化』（一章分）を講読する。 ・コート・ジボワールについて解説する。
22	IV. アフリカ諸国の言語文化⑦	・アマドゥ・クルマ著『アラアの神にもいわれはない』（第一章）を講読する。 ・アマドゥ・クルマ著『アラアの神にもいわれはない』（第二・三章）を講読する。
23	IV. アフリカ諸国の言語文化⑧	・アマドゥ・クルマ著『アラアの神にもいわれはない』（第四・五章）を講読する。

24	IV. アフリカ諸国の言語文化⑨	・アマドゥ・クルマ著『アラの神にもいわれはない』（第六章・訳者改題）を講読する。
25	個人発表①	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。
26	個人発表③	・映画『ルムンバ』を見る。 ・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。
27	個人発表④	・映画『ラスト・キング・オブ・スコットランド』を見る。 ・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。
28	総括	・映画『ホテル・ルワンダ』を見る。 ・一年間のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◀ 準備学習に関して ▶ レジュメ作成担当の学生は、充実した討議のためにも、「要旨」と「問題提起」を確りと切り分けて提示すること。また、担当ではない学生も積極的に討議に参加するために、講読文献を含めた関連資料にも触れておくこと。

◀ 情報収集に関して ▶ 参加学生は、各種メディアを介して、フランス語圏社会の言語・文化・社会等について、できるだけ情報収集するように心掛けてほしい。また、演習内などで告知する講演会や上演会への参加は義務ではないが、できれば積極的に参加してくれることを願う。

【テキスト（教科書）】

講読文献に関しては、参考文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。ただし、学生との相談によって、講読文献・映像を追加・変更する場合がある。

【参考書】

参考文献に関しては、講読文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。当然ながら、希望者には、さらに詳しい参考文献・映像等を提示するつもりである。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出など）：10%、講読発表：30%、全体討議への参加度合：20%、学期末ごとのレポート：40%を見て、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読を行うために必要なレジュメ作成や問題提起の仕方等については、春学期最初の授業だけでなく、適宜解説を行う。

【その他の重要事項】

履修に際しては、できるだけ春学期と秋学期合わせての履修を推奨する。フランス語の知識（＝語学能力）は要求しない。ただし、講読の際にフランス語原典を読み、レジュメを作成しても構わない（ただし、フランス語を知らない学生にも分かるようなレジュメであって欲しい）。また、日本語以外の文献も積極的に参照することが望ましい。

講読文献の分量や内容によっては、比較的多くの準備時間が必要となることがある。そのため、レジュメ作成担当者は、早めに準備作業を始めることを推奨する。

講読や個人研究を進める上で疑問点などがあれば、廣松研究室（BT2008）での個人面談やメール面談にて、直接話し合うことができる。

【Outline and objectives】

This course deals with the problematics of the French-speaking world (la francophonie) around the world while reading a variety of books and articles (principally written in Japanese). It also enhances understanding of the situation of French language or national identity in the relevant countries or regions. For this year 2020, we will deal with Maghreb and sub-Saharan countries.

LIT300GA

言語文化演習

前川 裕

サブタイトル：比較文化研究（小説と映像）

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大衆文化の研究や映像の鑑賞を通して、文化を比較することの意味を考える。研究対象は、参加学生の人数・希望も考慮しながら多岐に渡るが、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫のような純文学作家の作品、ミステリー風の小説や推理小説の元祖ポーの作品、あるいは江戸川乱歩・横溝正史・松本清張・綾辻行人・東野圭吾などの推理・大衆小説も取り扱うことになろう。あるいは、それらの文学作品と関連する映画の鑑賞も大きなテーマとなり得る。これらの作品（小説・映像）を、西洋の関連作品と比較・対比することによって、最終的には日本文化および西洋文化の本質について議論する。

【到達目標】

文化研究の伝統的な方法論を知り、それを踏まえた上で自分独自の創意工夫を凝らした研究を行うことができるようになること。最終的には、あらゆる領域の大衆文化について、論文としての体裁の整ったゼミ論を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業は、講義形式と演習形式の併用によって進められる。学生諸君のグループによって、発表してもらうこともある。せまい意味での文化研究ではなく、文学作品や映画を通して、浮き彫りにされる各時代の文化的諸相の理解が望まれる。また、大衆文化の研究が中心になるため、寄席に出かけたり、ゆかりの場所・文学館等を訪問することもある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお、対面授業の実施が困難になった場合は、Google Meet によるオンライン授業を行う可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大衆文化研究の意味	マシュー・アーノルドの『文化と無秩序』やレイモンド・ウィリアムズの『長い革命』を紹介し、大衆文化を研究することの意味を検証する。
2	比較文化研究の視点	『ゲーテンベルグの銀河系』を紹介しながら、シェクスピアの『リア王』の伝統的読みと新しい視点について、概説する。
3	黒澤明の『蜘蛛巣城』を見る。	映画『蜘蛛巣城』がシェクスピアの『マクベス』を下敷きしていることはよく知られている。黒澤によって、映像化された『蜘蛛巣城』が原作と比べてどのように変容し、日本の価値を表出しているかを考察する。
4	推理小説の歴史的研究『押し絵と旅する男』と『地獄の道化師』を読む。	江戸川乱歩の『押し絵と旅する男』と『地獄の道化師』を読み、当時の探偵小説がどのような位置づけにあったかを文化的に考察する。
5	映画『黒蜥蜴』を見る。	江戸川乱歩の原作を舞台劇として脚色した三島由起夫作品に基づいた映画『黒蜥蜴』を見て、原作との差違を考察する。
6	エドガー・アラン・ポー原作『赤死病の仮面』の映画鑑賞	ポーの『赤死病の仮面』を読み、「仮面」と「時計の音」が持つ象徴性について考察する。この2つの要素が、後に映画や推理小説において、どのように応用されたかも考える。

7	『たけくらべ』の英訳研究	樋口一葉『たけくらべ』の一部原文と英訳を検討し、翻訳とは何かを考える。また、この作品の背景となる「游廓」の歴史と充春防止法の関係を社会文化史的に考察する。
8	谷崎潤一郎の『卍』を読む。	『卍』を素材として、当時の同性愛の歴史的背景を学習する。単なる作品研究ではなく、その時代の背景を知ることが重要である。
9	学生による発表1	レジメの書き方、発表の方法などについて、学生の発表を参照しながら、解説する。
10	エドガー・アラン・ポー原作『アッシャー家の崩壊』の映画鑑賞	ポーの『アッシャー家の崩壊』の原作の解釈と映像を見て、そこに含まれる推理小説的要素について考える。特に、そこに描き出される血縁の家系図の意味について考える。
11	横溝正史『八つ墓村』を読む。	この作品が津山事件とどう関係にあるかを検証し、『アッシャー家の崩壊』との関連を考える。
12	映画『悪魔が来たりて笛を吹く』を見る。	映像を見ながら、帝銀事件という実際の事件を原作がどのように取り入れ、それがどのように映像化されているかを考察する。
13	学生による発表2 松本清張原作『点と線』	松本清張『点と線』について、学生に発表してもらう。社会派推理小説の意義について考察する。
14	綾辻行人『奇面館の殺人』を読む。	推理小説における空間の限定が、どのような意味合いを持つのかを、ポーの小説と対比させながら考察する。
15	レポートの回収と講評	論文の書き方について、回収レポートを見ながら、解説する。
16	ルネ・クレマン『太陽がいっぱい』の鑑賞	フランス映画における、終わりの問題を考える。アリストテレスのペリペティアの理論を映画の演出に関連させて考察する。
17	イングマル・ベルイマン『処女の泉』の鑑賞	巨匠ベルイマン監督がストーリーの構成をどう考えていたかを研究し、西洋映画と日本映画の差異を考察する。
18	溝口健二『雨月物語』の映画鑑賞	上田秋成原作『雨月物語』が、溝口の手によって、どのように映像化されたかを、原作との差異を考察しながら、検証する。
19	小津安二郎『秋刀魚の味』の映画鑑賞	溝口や小津が海外で高い評価を受ける理由を、オリエンタリズムという視点から考察する。
20	東野圭吾『容疑者Xの献身』を読む。	ミステリー小説の構造を、アリストテレスが『詩学』の中で述べている理論で分析する。ギリシャ悲劇と近代ミステリーの類似点についても、考察する。
21	『容疑者Xの献身』の映画鑑賞	映像が小説に対して、一層、大衆的なものになり得る理由を考察し、映像と活字の問題を研究する。
22	レイモンド・ウィリアムズ『感情の構造』と昭和歌謡	ウィリアムズの言葉「感情の構造」を用い、横光利一の『上海』とも対比させながら、日本の昭和歌謡がどのような裏の意味を持っていたかを考える。
23	学生の発表4	4年生3人によるゼミ論の中間発表会。1人20分程度で、自分のゼミ論の構成と要旨を概説してもらい、それぞれが質疑応答を受ける。
24	学生の発表5	4年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、23に同じ。
25	学生の発表6	4年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、23に同じ。
26	遠藤周作『海と毒薬』を読む。	『海と毒薬』を読み進めながら、日本における罪の意識と西洋における罪の意識について考える。
27	映画『シンドラーのリスト』の映画鑑賞	罪という問題を扱う際、活字とは異なる映像という媒体がどのような効果を生み出すかを考察する。参考文献として、ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン—悪の凡庸さについての報告—』を紹介する。
28	60年代および70年代の背景	三島由起夫の『鏡子の家』を紹介しながら、作品そのものよりも、むしろ、当時の時代背景に焦点を当てて概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書は必ず読んで、授業に出席しなければならぬ。課題図書は、推理小説・日本近代文学作品・海外の翻訳作品など多岐に渡る。また、毎回の授業で配布するプリントは必ず復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通のテキストは使わない。日本文学作品の英訳を取り扱うときは、英訳のプリントを配布する。原文の方は、各自で用意してもらう。

【参考書】

『ゲーテンベルグの銀河系』（M. マクルーハン、みすず書房）
『エルサレムのアイヒマン』（ハンナ・アーレント、みすず書房）

【成績評価の方法と基準】

発表・発言などの平常点（40%）および提出レポート（60%）。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

この成績評価の方法をもとに、本授業の達成目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートはおおむね良好だが、授業の延長については、映画鑑賞や特別な発表に限るべきだろう。部屋は2時間分確保してあるが、目的もなく延長するのは好ましくない。むしろ、基本的には90分内にゼミが終了することを目指したい。

【学生が準備すべき機器他】

映画鑑賞のためのAV機器。

【その他の重要事項】

文化について考えることが好きな学生の参加を希望します。映画好きも大歓迎。このゼミでは、今まで見たことがないような風変わりな、興味深い映画を鑑賞することができます。また、知識よりも感性、頭のよさよりも、性格のよさを重視します。もちろん、ゼミ参加には協調性が一番大事です。

なお、2021年度で私は定年退職となるため、本年度から私のゼミに参加する学生は、一年のみの履修となります。上記の条件に合う学生は、是非参加してください。3年生でも4年生でも構いません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help the students to acquire an understanding of the cultural differences through reading novels of Japanese and Western literature and seeing movies of two culturally different countries. This course deals with not only the works of writers of pure literature such as Soseki Natsume, Jun'ichiro Tazizaki, Yasunari Kawabata, and Yukio Mishima, but also those of mystery writers such as Ranpo Edogawa, Seishi Yokomizo, Seicho Matsumoto, Yukito Ayatsuji, and Keigo Higashino. By comparing those works of Japanese literature with Western counterparts, and seeing the movies which are based on those novels, the participants are expected to acquire the necessary skills and knowledge to discuss what is the nature of Japanese culture and Western culture at the end of the course.

LIT300GA

言語文化演習

大野 ロベルト

サブタイトル：言葉と人間

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は言葉の動物であるということ、ほとんどの人間は十分に意識せずに生きている。言い換えれば、それは自分が何者かを知らないままに生きているということである。このゼミでは、古典から近代までの日本文学を出発点に、海外文学やあらゆる文化芸術にも積極的に目を向けながら、徹底的に言葉と戯れつつ、人間とは何かという問題を考究したい。

【到達目標】

文学を中心とする文化的な事象について、自身の考えを明確な言葉で他者に伝えることができるようになる。適切な文献調査に基づいた、理論的かつ論証的な論文の作成ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習講義と講義形式を併用して授業を進める。基本的には、毎回の主題について教員が行う講義をきっかけに、学生によるディスカッションを行うが、学生にも学期ごとに少なくとも一度は発表を行ってもらうため、その発表に基づいたディスカッションやディベートも随時行うことになる。レポートは夏休みに明けに1本、期末に1本を提出してもらう。通年のゼミであるため、フィードバックは全体に対しても、個人的にも、随時行うことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方について説明し、自己紹介を行う。
2	言葉とは何か	ソシュールなどの理論を紹介しながら、言葉について考える。
3	人間とは何か	文学理論や現代思想を逍遙しながら、人間という存在について考える。
4	古典の言葉1	『古今和歌集』から日本語の本質を考える。
5	古典の言葉2	『土佐日記』を素材に言葉とジェンダーを考える。
6	古典の言葉3	『枕草子』を素材に言葉の仕組みを考える。
7	古典の言葉4	『無名草子』を中心に作者と読者の関係を考える。
8	言葉と社会1	夏目漱石の人と作品から、近代化と日本語の再生についてとりあげる。

9	言葉と社会2	谷崎潤一郎の人と作品から、美意識と自我のあり方について考える。
10	言葉と社会3	太宰治の人と作品から、私小説の受容について考える。
11	言葉と社会4	川端康成の人と作品から、古典の遺産について考える。
12	言葉と社会5	三島由紀夫の人と作品から、メディアの横断について考える。
13	個別研究に向けて	個別研究の計画発表。
14	春学期のまとめ	ふりかえりと課題説明、後期の内容について打ち合わせる。

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	論文の書き方についておさらいする。
2	読書とは何か	エーコなどの理論を紹介しながら、読むということについて考える。
3	言葉と身体1	北條民雄とハンセン病文学を通して文学・身体・権力の関係を探る。
4	言葉と身体2	澁澤龍彦と暗黒舞踏の関係性から批評という行為の可能性を考える。
5	言葉と身体3	能と和歌を素材にいまいちど古典を意識し、日本語に宿る身体性を確認する。
6	文献購読1	担当学生による発表とディスカッション。
7	文献購読2	担当学生による発表とディスカッション。
8	文献購読3	担当学生による発表とディスカッション。
9	文献購読4	担当学生による発表とディスカッション。
10	研究発表1	担当学生による発表とディスカッション。
11	研究発表2	担当学生による発表とディスカッション。
12	研究発表3	担当学生による発表とディスカッション。
13	研究発表4	担当学生による発表とディスカッション。
14	秋学期のまとめ	ふりかえりと課題提出、来年度への展望を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義やディスカッションの出発点となるテキストを事前に精読し、作品の背景についても調べておくことが最低限の責務である。発表者はレジュメやパワーポイントの作成を怠らないこと。ディスカッションなどへの積極的な参加は必須である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、通年の研究発表 30 %、レポート 2 本 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

This seminar encourages students to tackle the big yet underrated question: what makes us human? While we take into consideration all kinds of arts from different cultures and periods, Japanese literature, from classical to modern, will be the pivot.

ARSi300GA

国際社会演習

粟飯原 文子

サブタイトル：アフリカを学ぶ／アフリカに学ぶ

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんはアフリカについて何を知っていますか？ 何を連想するでしょうか？ わたしたちが「知っている」アフリカとは、えてして、広大な大陸のごく一部を、ある特定の見方から切り取ったイメージでしかありません。アフリカとは実に50以上の独立国を含み、地域や社会や民族によって全く異なる言語、文化、慣習が存在する広大で豊かな場所。この演習では、そんな多様性豊かなアフリカのさまざまな時空間を「旅」することで、アフリカについて多角的に学んでいきます。アフリカについて学ぶことは、アフリカから学ぶことでもあり、わたしたちの思考法や物の見方が自然と変化を遂げていく経験となるでしょう。

また、この演習で学ぶことと平行して、あるいは、この演習で学ぶことからインスピレーションを受けて、他の旧植民地地域の歴史や文化にも関心を向けられるかもしれません。受講生個人の研究・発表のテーマは、アフリカに限らず、南アジアやカリブ海などの地域、人種差別や移民／難民などのテーマを対象とすることも可能です。

【到達目標】

- ・アフリカのさまざまな文化表現を通して、アフリカの多様性を理解し、かつアフリカの歴史・社会・政治に幅広く触れる。
- ・アフリカ（および旧植民地地域）について学び、考えることで、「世界史」への新しい視座を得る。
- ・批評・議論の力を発展させ、自主的な調査・研究の方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・アフリカの歴史、文化、社会に関する議論、学術論文などに触れる。
- ・担当者が問題提起を含む発表を行い、全体で討論を行う。または、全員が課題文献を読み問題意識や論点を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
- ・3年生の春学期の課題として、授業内で扱ったテーマか自分の関心にもとづいて1冊本を選び、レポートを作成する。また、秋学期の後半には全員に研究発表を行ってもらう。春学期同様、授業内で扱ったテーマから選んでもよいが、個人の関心や問題意識にもとづいて自由にテーマを設定することもできる。
- ・オフィスアワーなどを用いた個人面談で、課題（レポート、論文など）に対して指導、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の演習の進め方について説明。自己紹介、関心のあるテーマを共有。
第2回	レポートと論文の書き方	発表やレジュメ作成の方法を学ぶ。レポートや論文の書き方について、疑問や不明な点を解消できるように基本事項を復習する。
第3回	アフリカを学ぶために①	わたしたちはどのようにアフリカにアプローチすべきか。まずは大陸の歴史を概観する。
第4回	アフリカを学ぶために②	アフリカ研究の基礎知識を身に付けるために、さまざまな導入的な文献を読む。
第5回	アフリカを学ぶために③	アフリカ研究の基礎知識を身に付けるために、さまざまな導入的な文献を読む。
第6回	映画から学ぶアフリカの現代史①	映画をより深く理解するために歴史的・政治的背景を学ぶ。
第7回	映画から学ぶアフリカの現代史②	映画を鑑賞してグループ・ディスカッションを行う。

第8回	ネルソン・マンデラと南アフリカ①	ネルソン・マンデラとは何者だったのか？ マンデラについて学ぶことから、南アフリカの現代史を概観する。まず二週かけて、マンデラと南アフリカについてのエッセイや論文を読む。担当者が発表、全体で討論を行う。
第9回	ネルソン・マンデラと南アフリカ②	引き続き、マンデラと南アフリカについてのエッセイや論文を読む。担当者が発表、全体で討論を行う。
第10回	ネルソン・マンデラと南アフリカ③	マンデラに関する映画を見てグループ・ディスカッションを行う。
第11回	ドキュメンタリー映画で見る南アフリカ	南アフリカに関するドキュメンタリー映画を見て、グループ・ディスカッションをおこなう。
第12回	イメージとしてのアフリカ①	アフリカ人作家のエッセイを通して、作られたアフリカの「イメージ」について考える。
第13回	イメージとしてのアフリカ②	アフリカに関する偏見やステレオタイプはどのようにつくられてきたのか。複数の文献から歴史的に検証する。レポートの提出。春学期で学んだことの復習、まとめ。
第14回	春学期のまとめ	秋学期の演習の進め方について説明。国際文化情報学会や後半に行う研究発表に関して意見を交換する。
第1回	イントロダクション	アフリカ人作家のエッセイを通して、アフリカ文学を読解する手がかりをつかむ。主に植民地支配と言語について考える。
第2回	アフリカ文学と言語	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第3回	アフリカ文学を読む①	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第4回	アフリカ文学を読む②	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第5回	アフリカ文学を読む③	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第6回	アフリカ音楽と政治①	アフリカの代表的なミュージシャンを通して、音楽の社会的・政治的役割とは何かを考える。資料や文献を提示するので、二週にわたりそれをもとにして討論を行う。
第7回	アフリカ音楽と政治②	アフリカ音楽についての文献を読んだうえで、担当者が発表、全体で議論する。
第8回	パンアフリカニズムという夢①	パンアフリカニズムの歴史、思想について、複数の文献を参照しながら理解を深める。
第9回	パンアフリカニズムという夢②	パンアフリカニズムについて、アフリカ大陸の経験と絡めて学ぶ。
第10回	研究発表①	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第11回	研究発表②	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第12回	研究発表③	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第13回	研究発表④	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のレポート、卒業研究の提出。秋学期で学んだことの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次週のための準備・予習は必ず行うこと。
- ・文献を読む場合、指名された担当者はレジュメを作成して発表する。また、発表担当の有無によらず、受講者全員が文献を共有し、問題意識をもって授業に臨んでほしい。
- ・春学期・秋学期ともにレポートを課題として出すので、そのための調査を独自に行うこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時にコピーを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への貢献度、授業時間内の課題の提出） 10%
- ・授業での発表（調査やレジュメの完成度） 30%
- ・学期末のレポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自主的な学習、授業への積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【その他の重要事項】

- ・全員が何らかの形で授業に貢献すること。
- ・授業で提示された文献をしっかりと読むのは言うまでもなく、自分で文献を探して積極的に読んでいき、研究テーマをできるだけ早く見つけられるようにする。

[Outline and objectives]

This African Studies seminar class is designed to expose students to varying interdisciplinary approaches to and perspectives on the Continent. By the end of this course, students will have (1) a solid understanding of important themes in the study of African history, culture, and society, (2) confidence in expressing their views orally and in written form, and (3) the ability to undertake independent research projects.

SOS300GA

国際社会演習

今泉 裕美子

サブタイトル：「国際関係」を問い直し、つむぎ直す

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係学を学ぶゼミです。

私たちの生活は“global”という表現であふれています。しかし、国境を越えた諸現象を表現するには、他にも“international”、“transnational”、“supranational”などの表現もあります。その違いを知っていますか？「国際関係（International Relations）」というと海外のこと、政治、経済に関すること、外交に関すること、とイメージしていませんか？

こうしたイメージは、「国際関係」研究が西欧の近代国家同士の関係を対象として出発したことに関わります。しかしやがて、非西欧、非国家をも対象とし、それらの多様な「関係」を射程に入れる、すなわち既存の「国際関係」認識を問い直しながら、研究の視点や方法、概念を豊かにさせ、国際関係学が生み出されました。

ゼミでは「国際関係」が、私たちが自覚する/しない、にかかわらずとり結んでいる諸関係から成立していること、に着目します。世界（その一部である日本）には、どのような独自性をもつ人々がくらし、地域社会や文化を育み、私たちとどう関係しあっているのか。その独自性や関係はどのように作られたのか。

これまで無関係だと思っていた人々との、見えなかった関係が見えてくる、新たな出会いがあり、聞こえなかった情報もどんどん飛び込んできます。自分の「国際関係」認識を阻んでいたものは何か、認識を変化させた自分が「国際関係」をどうつむぎ直せるのか、を学びます。

【到達目標】

- (1) 「国際関係」の成立、構造と動態、行為体（actor）の多様化、これらへの研究によって生み出された概念、理論、思想を学ぶ。
- (2) 「国際関係」を対象とする学問が、国際関係学として体系化されるまでの過程を学び、国際文化学部での学びの特徴を理解する。
- (3) 情報を整理、分析し、自分の意見を持つ。
- (4) 共同研究、個人研究を通じて、課題の設定、先行研究の整理、史・資料収集、分析、口頭発表、議論、論文作成の方法を習得する。
- (5) 自分が関心がある事象はもちろんのこと、一見、自分と関係ないと思える事象をも自分の関心に引き付け、意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- (1) 2021年度の共同研究テーマは春学期は「沖縄から「国際関係」を問い直す」、秋学期は3年生が決定する。
- (2) 毎回の授業では、最初に関心ある報道を1つとりあげて報告、議論する。その後、各回に配分された報告、議論を行う。授業の最後に教員が講評する。
- (3) 口頭発表ではレジュメ（要旨のまとめ、用語などの解説、議論のための問題提起）を作成し、関連する文献や資料も読む。
- (4) 個人研究のテーマは3年次中に決定、6000字程度の論文を作成。4年次末には20000字程度の研究論文を作成、ゼミ論文集を刊行する。これらに対してゼミ生、教員が講評する。
- (5) 国際文化情報学会で報告する（3年は共同研究、4年は個人研究）。
- (6) 夏合宿、国内外の他大学との合同ゼミ、などを行う。
- (7) 授業計画はゼミ生の関心、進捗状況、社会情勢によって一部変更する場合もある。サブゼミを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要と進め方の確認。
2	個人研究の中間発表	4年生は個人研究に関する先行研究の整理、論文構成、序論を発表。3年生は4年生の研究内容、本演習での個人研究テーマの設定や追究の方法を学ぶ。

3	「国際関係」へのアプローチと「歴史に向かう」こと	「国際関係」の研究になぜ「歴史に向かう」必要があるのか、を「文字」による歴史をE.H.Carrの主張から、「非文字」による歴史を民話や怪談を事例に学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「歴史に向かう」
4	「マイノリティ」から「国際関係」を問い直す	「民族」、「人種」、「ジェンダー」に関する具体的な事例から「マイノリティ」の概念を学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「マイノリティ」
5	「地域」から「国際関係」を問い直す	水俣の「民衆」の近代化の経験（生活と共同体の変化、朝鮮半島の植民地化、開発と環境問題）の事例から学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「地域」から
6	第二次世界大戦の「終結」と「戦争観」から「国際関係」を問い直す	第二次世界大戦の戦時体制と報道統制、戦争「終結」をめぐる日本や世界各地の動向、戦後の「戦争観」の事例から学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「戦争の終わらせ方」
7	『歴史を学ぶこと』から「国際関係」を問い直す	テキストの報告に加え、第3回～第6回で扱った事項・概念の整理、論点をまとめる。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「むすび」、「質問の時間」
8	学術論文を読む、書くに関するワークショップ	テーマ設定、史・資料収集、分析、論理的な表現、論文の読み方を学ぶ。 テキスト：齊藤孝他『学術論文の技法』
9	沖縄から「国際関係」を問い直す①-イントロダクション	現在、沖縄の独自性として評価されていること、沖縄が抱える問題を、現代世界が直面する課題との関係性から学び、第10回～第13回のテーマを理解する。
10	沖縄から「国際関係」を問い直す②-軍事基地化と植民地化の関係	米領グアムの先住民からみた沖縄の基地問題を事例に議論する。
11	沖縄から「国際関係」を問い直す③-紛争と難民	沖縄の「慰霊の日」（6月23日）の報道、地上戦、（避）難民、戦災と復興、戦争体験を記憶し、記録し、継承すること、を事例に議論する。
12	沖縄から「国際関係」を問い直す④-人の移動	国内有数の移民県といわれる沖縄の移民の歴史、「世界のウチナーンチュ」大会を事例に議論する。
13	沖縄から「国際関係」を問い直す⑤-アクターとしての島嶼	沖縄が草の根の交流をするミクロネシア、済州島、アイルランドを事例に議論する。
14	春学期のまとめとフィールドワークの準備	春学期の学びをふり振り返り、秋学期につなげる。共同研究のテーマを決定、フィールドワークの準備。
1	秋学期のイントロダクション	秋学期の授業概要。フィールドワークと個人研究の成果報告。共同研究（秋）、個人研究のスケジュールを確認。
2	個人研究の中間発表①	4年生、3年生の研究発表。
3	個人研究の中間発表②	3年生の研究発表。
4	国際文化情報学会の準備①	共同研究に関する報告と議論。
5	国際文化情報学会の準備②	共同研究に関する報告と議論。
6	国際文化情報学会の準備③	共同研究に関する報告と議論。
7	国際文化情報学会の準備④	共同研究に関する報告と議論。
8	国際文化情報学会の準備⑤	個人研究発表の予行。
9	国際文化情報学会発表の準備⑥	共同研究発表の予行。
10	国際文化情報学会発表の準備⑦	共同研究発表の予行。
11	国際文化情報学会発表のふり振り返り	各発表に関する評価を持ち寄り、今後の研究につなげる。
12	個人研究の発表	3年生による発表。
13	秋学期のまとめ	秋学期の学びをふり振り返り、整理する。
14	1年のまとめ	1年の学びをふり振り返り、整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 報告担当者は、担当者同士で事前に打ち合わせをし、指定されたテキストのほかに関連文献、史・資料を読み、レジュメを作成する。担当者でない場合もテキストを精読し、基礎的な事項は調べ、意見や疑問点を準備する。
- (2) 共同研究、個人研究は、自主的に教員から指導を受ける。関係機関での調査、聞き取り、フィールドワークなどを実施する。学んでいる外国語を活用する。大学内外のシンポジウムや講演会などを積極的に活用する。
- (3) 新聞は1紙以上、社説や投書欄を含めて毎日必ず目を通す。まとめサイトの利用は厳禁。
本授業は準備・復習に各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

○国際関係学に関する基本文献

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

○鹿野政直『歴史を学ぶこと』岩波書店、1998年。

○学術論文の書き方

齊藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005年。

○共同研究「沖縄から「国際関係」を問い直す」については、別途指示する。

【参考書】

随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

・口頭発表、議論など毎回の授業への参加度（50％）

・提出物（50％）。

いずれも、準備への取り組み、完成度とあわせて評価する。

やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれば成績評価に考慮する。提出物は締め切りに遅れた場合、特別な理由（期末試験のルールに則る）以外は未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の共同研究の内容を詳細に記し、本ゼミで学ぶ内容、方法をわかりやすくした。

【学生が準備すべき機器他】

Web 授業を行う場合は PC を必要とする。学習支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

(1) 4年への継続は、3年次末の個人研究発表会でテーマを決定し、課された準備を行い得た学生にのみ認める。

(2) 「国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ」は必ず受講し、研究テーマに応じて国際社会コースを中心に同コース以外の授業も積極的に受講し、学際的に課題を追究する方法を学ぶ。

(3) 本ゼミは個人研究と共同研究が密接に関連する。両者を両立させ、主体的かつ責任をもってゼミ運営に関わり、協力しあえる学生を歓迎する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with understanding of International Studies.

Through the 20th century, the classical view of the international society with nation states as actors did not reflect realities any longer. The transformation of international relations has affected the study of them. This course deals with major concepts and theoretical frameworks of international relations in historical context. Analyzing international history and issues of today's globalization, students will be familiar with (i) the perspectives of "interrelatedness" in the political, economic, social, and cultural spheres, (ii) interdisciplinary approach by knowing how different disciplines interrelate one another.

POL300GA

国際社会演習

大中 一彌

サブタイトル：格差社会と女性・男性の生き方、そして民主主義のかたち

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】教養としての政治学をまなびます。担当者の専門を反映し、西ヨーロッパを中心とする西洋の話が多くなりますが、日本の政治にも相応の時間と労力を注ぎます。春semesterでは本格的な教科書を持ち、政治学の概論をひととおり勉強します。政治とは何かから始まり、政治家・政党・官僚・利益団体・社会運動といった用語を検討したのち、経済やジェンダー、文化といった領域と政治学の関係について考察します。秋semesterでは、特定の分野を掘り下げた研究（各論）として、各国の福祉体制の形成史を比較した研究に取り組みます。いわゆる格差社会と女性・男性の生き方、そして民主主義のかたちといった、おそらく学生の皆さんの多くが普段から考えているとはあまりいえない問題を、国際的な視点から見つめなおします。

【意義①：あなた個人に直接役立つ】卒業後、公務員や外交官、その他文系で専門性のある職業に就きたいなら役立つ学びとなります。

【意義②：あなた個人にとっては間接的だが、世代や社会全体には直接役立つ】民主主義のもと、主権者である国民に、政治にかんする洞察力がないと、衆愚政治におちいる危険性があります。教養としての政治学をまなぶ意義は、若い世代の政治にかんする洞察力を高め、民主主義の質の向上を図る点にあります。

【到達目標】

●1. 読み書き能力（リテラシー）の向上：日常言語としての日本語や英語から、大学生の専門的な学びに必要な学習言語としての日本語や英語への移行を果たす。具体的には、政治学の教科書や、メディアの言説に触れ、漢字の読みや意味がわからない場合、わからないまま放置せずに自分から調べることを習慣化する。また英語については、英和辞典でみつけた日本語の単語を場当たりのつなげて自分でも意味が分からない訳文を作るのではなく、英語の構文や社会的背景を考えられるようにする。

●2. 多文化的な状況にたいする理解力の向上：多文化的な状況を理解するのに英語以外の外国語も必要であることを理解する。具体的には、英語以外の外国語を使える人（諸外国語圏SA経験者・参加予定者など）にたいして「『こんにちは』って中国語 or スペイン語 or ドイツ語 or フランス語 or 朝鮮語 or ロシア語で言ってみて～」などと発言する行為は、英語圏または日本語圏の monolingualism に無意識に影響されているのではないかと、まずは自分に問いかけてみよう。

●3. しくみとしての社会のイメージを作る：地球全体にせよ、ひとつの町や村にせよ、さまざまな現象をうみだす社会はしくみとして複雑である。まずは、複雑なしくみを前に理解するのをあきらめたり、乱暴なやり方で単純化してしまうといった態度はとらないよう心がける。その上で、複雑な社会に関するイメージを自分のなかで少しずつつくりあげるよう普段から努力し、そのためにゼミ内外での学びやコミュニケーションを活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

2021年度春semesterは、政治学の概論ないし原論にあたる内容を扱います。秋semesterでは、特定の分野を掘り下げた研究（各論）として、各国の福祉体制の形成史を比較した研究に取り組みます。

1. 教科書の輪読（授業内の発表＋議論）
 2. 新聞コーナー（学生による話題提供、報道のされ方の分析、討論）
- なお、これらの課題にかんするフィードバックは基本的に授業時間内で行いますが、学習支援システムや Google Classroom など LMS 上で行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ 大学での勉強にかんする自由討論	教科書の入手方法の確認、輪読や新聞コーナーの担当日程決定
2	政治の境界 ～どこまでが政治なのか～【前半】	教科書① 6-25 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
3	政治の境界 ～どこまでが政治なのか～【後半】	教科書① 26-46 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
4	政治の場 ～政治はどこにあるのか～【前半】	教科書① 47-68 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
5	政治の場 ～政治はどこにあるのか～【後半】	教科書① 69-88 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
6	政治の制度 ～どこにどのような仕組みがあるのか～	教科書① 89-124 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
7	政治の登場人物 ～誰が「アクター」なのか～【前半】	教科書① 125-146 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
8	政治の登場人物 ～誰が「アクター」なのか～【後半】	教科書① 147-178 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
9	民主主義	教科書① 186-217 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
10	福祉国家	教科書① 220-253 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
11	経済	教科書① 255-283 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
12	ジェンダー	教科書① 285-317 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
13	文化	教科書① 319-349 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
14	まとめ	第1回でおこなった自由討論のふりかえりと、秋semester教科書の入手方法や学期中の分担の確認
1	福祉国家をどうとらえるか	教科書② 1-18 頁に関する発表と議論
2	福祉国家の前史	教科書② 21-40 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
3	自由主義レジームの形成～イギリス、アメリカ	教科書② 41-62 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
4	保守主義レジームの形成～フランス、ドイツ	教科書② 63-74 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー

5	半周辺国の戦後レジーム～スウェーデン、日本	教科書② 75-105 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
6	福祉国家再編の政治	教科書② 109-127 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
7	新自由主義的改革～アメリカ、イギリス	教科書② 129-155 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
8	社会民主主義の刷新～スウェーデン	教科書② 157-172 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
9	保守主義レジームの分岐～ドイツ、フランス	教科書② 173-197 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
10	分断された社会～日本	教科書② 199-219 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
11	グローバル化と不平等	教科書② 223-233 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
12	新しいリスクへの対応	教科書② 235-262 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
13	日本の選択肢	教科書② 263-277 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
14	まとめ	第 1 回でおこなった自由討論のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 次回で扱われる教科書の内容を読む
2. 海外メディアや国内の地方紙を毎日読んで、この演習と関係ありそうな記事をチェックする。
3. 大学設置基準によると、講義や演習で 2 単位を得るのに必要な予習・復習の時間は 1 回につき 4 時間以上とされているそうです。この基準にしたがうなら、あなたがこの演習の予習や復習にかかる時間は、1 日あたり 35 分程度以上となります。

【テキスト（教科書）】

【春】教科書①田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『アカデミックナビ 政治学』勁草書房、2020 年。

【秋】教科書②田中拓道『福祉政治史 格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017 年。

【参考書】

法政大学オンラインデータベースに入っている JapanKnowledge などの事典類をもちい、分からない用語などを調べること

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（新聞コーナー 1 回 3 点、教科書発表 1 回 10 点満点）35%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）20%
3. その他（授業運営への協力など）10%
4. 期末提出物（タームペーパーなど）35%

【学生の意見等からの気づき】

このシラバスを執筆している 2021 年 1 月 8 日現在、日本政府は緊急事態宣言を再発出したところである。ワクチンがどの程度の速さと広がりをもって接種されるかも現時点では不明であり、2021 年 4 月以降の東京近辺における感染状況の予測は難しいが、2021 年度の授業期間中も、2～3 カ月ごとに、感染の広がりがいったんは収束に向かったあと、再び拡大にむかうという動きが複数回繰り返されるシナリオが想定される。また、就職活動をする人や、各国の感染状況が落ち着けば、さまざまな形で海外留学をする人も出てくるため、個人情報の保護に留意しつつ、Zoom の録画などを活用し、授業当日に出席できなかった人もゼミの活動に継続的に参加してもらえる方策を準備したい。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿やさまざまな連絡、学期末の成果物の提出など、基本的にすべてウェブ上（学習支援システムや Google Classroom）で行なっています。Zoom を使った画面共有を利用して、学生の皆さんに報告をお願いする予定です（2020 年度は Google Meet を利用しました）。感染拡大が激しい状況では、Zoom をつうじたゼミの活動が主になるため、端末やインターネット接続（有線が望ましい）など、自宅の情報環境を整備してください。また、自宅など学外からも法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。PressReader の利用を新聞コーナーにかんし推奨しています。

【その他の重要事項】

進路について、定期的に個別の面接を実施している（特に大学院進学、留学、公務員試験、教職課程などについては早めにご相談を）。

【Outline and objectives】

This seminar introduces students to basic conceptual instruments of political research with a focus on the notion of welfare state in a comparative perspective. The students are expected to develop their media literacy necessary to critically evaluate political discourses. Topics will include inequality, labor politics, and centrality of social class in contemporary capitalism.

ARSk300GA

国際社会演習

春学期担当：桐谷 多恵子，秋学期担当：熊田 泰章

サブタイトル：アートは国境を越える?! - 間文化性研究

配当年次/単位：2~4年 / 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位 / 秋学期 2 単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

** 2021 年度新型コロナウイルス感染症対策による変更**

大学の授業実施方針に則り、授業を実施する。

原則として、教室での対面授業とする。方針の変更が生じた場合、オンライン対応とすることもある。

授業概要・到達目標・成績評価などの基本事項に変更はない。

<< 2021 年度新企画 >>

春学期と秋学期のゼミ授業に加えて、9月に、上海外国語大学日本文化経済学部の協力により、上海外大の3年生・4年生との共同ゼミを、上海で開催する。上海外大キャンパスの学生寮に宿泊し、上海をフィールドとする間文化性研究を、東京の学生と上海の学生の共同で行い、成果をインスタレーション作品によって表現し、上海外大で発表する。この企画は、本来、2020年9月に実施することを上海外大と合意しており、上海外大の学生参加希望者も20名ほど募っていたものであるが、コロナ禍により2021年度に延期することになった。2021年も、国外での学習活動に制限が課せられている場合には、中止とする。

ゼミのテーマは文化研究であり、国際文化学部の英語表記にも含まれる概念：

Interculturality <インターカルチュラリティ/間文化性>を研究する。

ゼミ授業の目的は、「アート」を通して文化や民族の異なる人々が個々の文化の独自性を互いに尊重し、共生する社会を考察することにある。そのための最初の一步として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラリティを学ぶ。

具体的には、芸術は「文化」をどのように表現できるのか。あるいはそれが「文化」を志向/思考する上でどんな役に立つのか。これらの問いについて、基本文献を手掛かりにディスカッションを行い、考察する。考察することは、「自分の頭で考える」という事である。自分の頭で考えるには、2つの作業が必要である。一つは、事実関係の確認が必要であり、参考になる資料をきちんと探すこと。研究では、先行研究をしっかりと把握することが出発となる。二つ目は、自分たちの取り組んでいる個別の「文化」の事例を、いつも広い問題領域の中で位置付け、考えようとする姿勢である。ゼミでは、それぞれの地域文化に着目しつつ、それらが織りなす国際文化に視野を広げ、社会の諸相における文化の関係性と躍動性を研究する。

基本文献を読み込む理論研究に加えて、間文化性を身体性として確認するために、現代アートを共同研究テーマとして発表する。現代アートが、地域文化を再確認しつつ国際文化の関係を構築するために大きく貢献していることを明らかにする。また、作品が成立するための主たる行為者を製作者ではなく、作品を鑑賞する受容者として要求する作品——例えば、マルセル・デュシャン「泉」——を考察し、「作品の内在性と受容者の能動性」を学ぶ。この考察を通して、私たちが生きる「文化」が、存続の危機にさらされる時に、その持続のために、当事者である私たちが何をすることが可能なかを考えることが、ゼミの課題である。それを、共通討議によって学問的に考察し、一人一人の論文として書くこと、そして、インスタレーションによって表現することを、一年間のゼミ活動を通して達成する。

春学期の授業は熊田が担当し、基本文献による概念整理を行った後、事例研究に取り組む。

秋学期の授業は桐谷が担当し、春学期における基本概念の理解と事例研究による確認を基に、文化の間文化的相互関係性についての探求を進める。

【到達目標】

国際文化学部の基本概念：Interculturality <インターカルチュラリティ>を理解し、文化の生成と変化の仕組みを把握する。
 学術論文を精密に読み、学術研究の基本を身に付ける。
 学術研究の基本に即して論文を書く。
 各自の研究テーマを決め、研究成果を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本文献と英語論文を読み、討論する。

個人研究発表を行う。

現代アートの展覧会を見に行く。

作品制作と発表を行う；春学期に1回、秋学期には学部学会で発表する。

個人研究論文集を作成する。

ゼミ合宿として各地の現代アート国際展などを訪ねる。

9月に、上海外大で上海外大学生と共同ゼミを行い、間文化性と多文化共生について学び、インスタレーション作品を上海外大キャンパスで発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第1章第1回	基本文献第1章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
3	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第1章第2回	基本文献第1章担当者レポートと全員の討論・エクササイズの第2回 英論第1回のレポート・全員の討論
4	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第2章第1回	第2章第1回 個人研究構想を順に発表する第1回
5	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第2章第2回	第2章第2回 個人研究構想発表第2回
6	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第2章第3回	第2章第3回 作品制作の構想について討論第1回
7	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第3章第1回	第3章第1回 作品制作の構想について討論第2回
8	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第3章第2回	第3章第2回 作品制作第1回
9	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第3章第3回	第3章第3回 作品制作第2回
10	作品発表会	作品発表と解説を行う
11	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第4章第1回	第4章第1回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第4章第2回	第4章第2回 個人研究発表と質疑第1回
13	英語論文第2回 個人研究発表第2回	英語論文第2回 個人研究発表と質疑第2回
14	まとめ	このセメスターの総括
15	イントロダクション 上海共同ゼミの総括	上海共同ゼミについての振り返り 秋学期ゼミ運営について決定
16	基本文献 『美学への招待』第1章	基本文献第1章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
17	基本文献 『美学への招待』第2章	第2章 個人研究の中間発表と質疑第1回
18	基本文献 『美学への招待』第3章	第3章 個人研究の中間発表と質疑第2回
19	基本文献 『美学への招待』第4章	第4章 個人研究の中間発表と質疑第3回
20	英語論文第3回 作品構想第1回	英論第3回 作品制作の構想について討論第1回
21	基本文献 『美学への招待』第5章	第5章 作品制作の構想について討論第2回
22	基本文献 『美学への招待』第6章	第6章 作品制作開始
23	基本文献 『美学への招待』第7章	第7章 作品制作継続
24	基本文献 『美学への招待』第8章	第8章 最終準備ゲネプロ 学部学会発表準備 作品制作

25	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
26	基本文献 『美学への招待』第9章 最終個人研究発表第1回目	第9章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑 第1回
27	基本文献 『美学への招待』第10章 最終個人研究発表第2回目	第10章 最終個人研究発表と質疑第2回
28	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。学習ノートは、準備学習⇒授業内⇒復習で順次参照し、書き込んでいく。学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本文献：

1. 佐々木健一『美学への招待（増補版）』中央公論新社、2019年
 2. ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい美術鑑賞法』犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006年
 3. エドワード・W. サイド『オリエンタリズム』（上下）今沢紀子訳、平凡社、1993年
 4. 下嶋哲郎『平和は退屈ですか』岩波書店、2015年
 5. ジェラルド・ジュネット『芸術の作品I－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013年
 6. アゴタ・クリストフ『悪童日記』堀茂樹訳、早川書房、1991年
 7. ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛－ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温司・大塚直子訳、白水社、2002年
 8. ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001年
- 英語論文、もしくは、関連する英文記事（例えば以下のような英文記事）：
1. Ishiguro, Kazuo: My Twentieth Century Evening – and Other Small Breakthroughs [Nobel Lecture]. The official website of the Nobel Prize; 2017 December 7 [cited 2021 Jan. 5]. Available from: https://www.nobelprize.org/nobel_prizes/literature/laureates/2017/ishiguro-lecture_en.html

【参考書】

1. 熊田泰章編『国際文化研究への道－共生と連帯を求めて』彩流社、2013年
2. 熊田泰章「唯一であることの相対的価値についての試論」法政大学国際文化学部『異文化論文編（15）』、2014年

【成績評価の方法と基準】

発表と討論（50%）、個人研究（50%）によって評価。基本文献で展開される概念を理解し、理解したことを発表することが重要です。基本概念をふまえて、個人論文で論証力を鍛錬します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ないし各自のパソコン持参。
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを用いる。

【その他の重要事項】

アートを通して国際社会を分節する！

Articulate the international community with art!

春学期と秋学期のゼミ授業に加えて、＜上海外国語大学日本文化経済学部の3年生・4年生との共同ゼミを上海で行う＞ことを企画している。

上海と東京は、それぞれ固有の文化の歴史を持ち、現在の固有の文化を形成してきたが、互いに理解しあうことができるのは、互いに共有するものがあるが故なのであり、このような個別の固有性の持続と互いの共有性の確認が多文化共生＝世界平和の根源である。共同ゼミの成果確認として、世界共通「言語」としての現代アートを自らも制作し、「上海と東京は違っているけれど互いに理解できるのはなぜか」をテーマとするインスタレーション作品を制作して、上海外大キャンパスで発表する。

このように、春学期・秋学期の学びと上海共同ゼミの成果を活かして、個別の固有性の持続と互いの共有性の確認が多文化共生＝世界平和の根源であることについて、現代アートを通して理解を深める。

春学期担当：熊田泰章

国際文化学部開設に従事し、学部長として1期生に学位記を手渡す。2017年度～2020年度は、総長を補佐する大学常務理事の職務に従事し、学部授業担当を一部調整した。間文化性研究として、言語表現と図像表現の原理について通時的・共時的に考察している。

秋学期担当：桐谷多恵子

法政女子高校卒業、国際文化学部1期生、SAボストン、大学院国際文化研究科博士学位取得1期生。原爆被害の復興と世界平和の確立をテーマとして、個人と文化の尊厳と独自性を守ることの重要性について研究している。

【Outline and objectives】

The main theme of this seminar is cultural research and we study the concept of “interculturality” as seen in the name of our Faculty, “Intercultural Communication”.

The purpose of our research is to examine the society where people from different culture or groups live together respecting each other through art. As a first step to achieve that, we learn “interculturality” as a base of cultural diversity.

For example, our research questions are “how can art express culture?” and “how can art help to accomplish or determine culture?”. We discuss these questions reading relevant literature. In addition to the theoretical research based on the literature, we present works of contemporary art as a joint research theme in order to exercise “interculturality”.

It is our mission to consider, through determining art, what we can do about the current situation where our culture is having difficulty surviving. While trying to answer this question academically through discussion, each member summarizes their own opinion as a thesis and express it as an installation.

HIS300GA

国際社会演習

佐々木 一恵

サブタイトル：トランスナショナル・ヒストリー研究

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※ 2021年度のみ2～4年を対象とする。単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

過去とは、私たちにとっては異文化の一つであり、また過去の出来事や事象を探究することとは、現代と過去との間の関係性を相関的に捉えていくことでもあります。この演習では、国境を越える人・モノ・カネ・思想・文化の移動によって生じた現象及び問題を歴史的な視点から検討していきます。そこから、私たちにとって「当たり前」な事象や歴史認識を、批判的に捉えなおしていく力を養っていきます。また、ナショナルな境界を越える諸問題について、自分なりの研究テーマ（対象や地域は自由）を構想し、調査・分析し論文としてまとめていく方法・技術の修得を目指します。

【到達目標】

・文献を読み、内容を理解するだけでなく、自分なりの解釈や批判を含めたクリティカル・レビューや先行研究分析ができるようになる。
・一次史料（資料）に関して、それが書かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈の中で解釈できるようになる。

・自分が関心のある事象について、歴史的な視点から史料（資料）収集や現地調査を行い、研究論文（3年生は10,000字程度、4年生は20,000字程度）としてまとめていけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

(1) 文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）

(2) 一次史料分析の発表を行う

(3) 個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う）

(4) 先行研究レビュー（自分のテーマに関する先行研究を整理しレポートにまとめ発表する）

*提出された課題については、コメントをつけて返します。修正の上、再提出するようにしてください。また個人研究については、適宜、対面もしくはオンラインにより研究指導を実施します。

(5) その他（夏合宿、他大学との合同ゼミ、国際文化情報学会での発表、論文合評会など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	今年度は、トランスナショナル・ヒストリーに関するトピックを取り上げ、高校の世界史の授業として設計していくことに取り組みます。
第2回	高校『世界史』を学び直す①	教科書の章を地図や資料も組み入れながら発表を行う。

第3回	高校『世界史』を学び直す②	教科書の章を地図や資料も組み入れながら発表を行う。
第4回	高校『世界史』を学び直す③	教科書の章を地図や資料も組み入れながら発表を行う。
第5回	新しい世界史のアプローチ①	文献「『ヨーロッパ中心主義』が描いてきた世界地図」を読み、ディスカッションする。
第6回	新しい世界史のアプローチ②	文献「アジア史からみる世界史」を読み、ディスカッションする。
第7回	新しい世界史のアプローチ③	文献「大西洋のアメリカと太平洋のアメリカ」を読み、ディスカッションする。
第8回	グループ発表①	教科書で取り上げられている内容を、トランスナショナル・ヒストリーの視点から読み直し、テーマを設定した発表する。
第9回	グループ発表②	教科書で取り上げられている内容を、トランスナショナル・ヒストリーの視点から読み直し、テーマを設定した発表する。
第10回	グループ発表③	教科書で取り上げられている内容を、トランスナショナル・ヒストリーの視点から読み直し、テーマを設定した発表する。
第11回	授業教案発表①	グループ発表①をもとに、一次史料も用いながら、50分授業の教案を作成し、発表する。
第12回	授業教案発表②	グループ発表②をもとに、一次史料も用いながら、50分授業の教案を作成し、発表する。
第13回	授業教案発表③	グループ発表③をもとに、一次史料も用いながら、50分授業の教案を作成し、発表する。
第14回	論文作法	論文の書き方についてのワークショップ
第1回	イントロダクション	今学期の計画と目標について
第2回	個人研究中間発表①	4年生の個人研究発表
第3回	個人研究中間発表②	4年生の個人研究発表
第4回	個人研究中間発表③	3年生の個人研究発表
第5回	学会発表準備①	一次史料を用いたグループ研究
第6回	学会発表準備②	一次史料を用いたグループ研究
第7回	学会発表準備③	一次史料を用いたグループ研究
第8回	学会発表準備④	個人発表の予行演習
第9回	学会発表準備⑤	個人発表の予行演習
第10回	学会発表準備⑥	個人発表の予行演習
第11回	個人研究発表①	3年生の個人研究発表
第12回	個人研究発表②	3年生の個人研究発表
第13回	個人研究発表③	3年生の個人研究発表
第14回	まとめ	今年度、演習で学んだことについて振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 文献を読み、疑問点や質問、意見を準備してくる。

(2) 発表にあたっては、事前に集まって発表のための準備を行う。

(3) 個人研究の準備を進める（文献表の作成、先行文献の整理と批判、資料収集、調査、等）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○山下範久編『教養としての世界史の学び方』東洋経済新報社、2019年。

○『詳説世界史研究』山川出版社、2017年。

〔高校世界史教科書〕

○『詳説世界史B 改訂版』山川出版社、2017年。

○『世界史B』東京書籍、2017年。

○『新詳世界史B』帝国書院、2018年。

○『世界史用語集 改訂版』山川出版社、2018年。

○『五訂 必携世界史用語』実教出版、2015年。

など

【参考書】

必要に応じて事業の中で示します。

【成績評価の方法と基準】

発表・グループ発表50%、提出課題50%。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な実習形式を入れてみることにした。

【学生が準備すべき機器他】

史料(資料)検索の実習等において、パソコンを使用することがある。

【その他の重要事項】

担当教員の他の授業の受講を推奨します。

【学部基盤科目】

「宗教と社会」

「ジェンダー論」

【学部専攻科目】

「宗教社会論Ⅱ(キリスト教と社会運動)」

「Approaches to Transnational History」

【大学院科目(自由科目として受講)】

「多文化相関論Ⅲ(歴史学の諸アプローチ)」

「ジェンダー論(ジェンダー史の展開)」

【Outline and objectives】

The seminar explores the history of the cross-border movements of people, goods, ideas, capital, information, and symbols so that students can develop the ability to analyze social, economic, political, and cultural issues cross-culturally and interracially.

ARSk300GA

国際社会演習

曾 士才

サブタイトル：ヒトの移動で読み解く世界

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光や仕事、留学、あるいは国際結婚など、自らの意思で定住地を離れ、軽々と越境することが現代社会における人の移動の特徴だといえる。その意味では現代人はみな「観光客」だと言えるでしょう。このゼミでは人の移動を切り口にして日本を、そして世界を読み解く研究をする。

【到達目標】

日本や諸外国のなかの移民コミュニティや移民が継承する／創造する文化について、あるいは観光客誘致のための情報発信に力を入れている地域や人気観光スポットについて、自ら現地をフィールドワークし、関連する研究文献を読んで分析する。「移民」や「観光」を通して私たちが生きているこの社会を深く理解することを目標としている。そして、研究成果を国際文化情報学会で発表したり、研究論文を法政大学の懸賞論文に応募し、外部評価を受けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

19世紀は「移民の世紀」と呼ばれ、ヨーロッパから多くの移民が新大陸アメリカへと渡って行った。同じ頃、アジアでも中国やインドから欧州列強の植民地へのヒトの移動が見られた。「戦争の世紀」と呼ばれる20世紀に入ると、難民や国際労働力としてのヒトの移動が世界規模で広がっていった。そして、21世紀は「観光の世紀」とも呼ばれ、人類最大の異文化接触や交流が日々、世界で展開するようになっている。

目下、新型コロナウイルスの感染拡大により、ヒトの移動が大きく制限を受けており、特に国境を越える移動は甚大な影響を受けている。国連世界観光機構（UNWTO）によると、2020年は国際観光が70%減少したと報じられている。しかし、コロナ感染の終息とともに、国内観光がいち早く回復し、経済復興を後押しすると予測されている。

感染状況は予断を許さないが、授業は原則対面方式で行う。状況次第では、オンライン授業と併用することもある。春セメスターでは、チームまたは個人単位で研究調査テーマを決め、先行研究を洗い出し、研究文献を熟読するとともに、現地調査を行う。

秋セメスターでは、研究調査を続行し、収集した資料を整理分析し、その成果を研究論文としてまとめる。研究成果は、12月の国際文化情報学会での口頭発表や懸賞論文への応募などで、第三者の評価を受けるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明；ゼミ生の自己紹介；教員による授業の進め方の説明

第2回	上級生による研究紹介(1)	4年生による研究紹介(4チーム)
第3回	上級生による研究紹介(2)	4年生、3年生による研究紹介(3チーム)
第4回	グループ別作業(1)	上級生は調査(準備)や論文執筆、新ゼミ生は研究文献の読破。掲示板で進捗状況を共有
第5回	グループ別作業(2)	上級生は調査(準備)や論文執筆、新ゼミ生は研究文献の読破。掲示板で進捗状況を共有
第6回	先行研究の発表(1)	観光関係の先行研究の内容を発表(上級生)
第7回	先行研究の発表(2)	観光関係の先行研究の内容を発表(新ゼミ生)
第8回	先行研究の発表(3)	移民関係の先行研究の内容を発表(上級生)
第9回	先行研究の発表(4)	移民関係の先行研究の内容を発表(新ゼミ生)
第10回	研究調査計画の立案(1)	テーマ、目的、調査対象の検討
第11回	研究調査計画の立案(2)	調査方法、調査内容の検討
第12回	研究調査計画の立案(3)	調査地の決定、調査地の概況調査
第13回	研究発表と討論(1)	観光関係の研究調査計画の発表、討論
第14回	研究発表と討論(2)	移民関係の研究調査計画の発表、討論
第1回	研究調査の中間報告	研究調査の進捗状況の報告；教員から卒論等の説明、学会発表の説明
第2回	グループ別作業(1)	研究調査の資料整理と文章化、補充調査
第3回	グループ別作業(2)	研究調査の論文執筆、補充調査
第4回	研究成果の発表(1)	研究成果の発表と討論。観光分野
第5回	研究成果の発表(2)	研究成果の発表と討論。観光・移民分野
第6回	研究成果の発表(3)	研究成果の発表と討論。移民分野
第7回	外部評価のための準備(1)	学会発表要旨の作成、相互批判
第8回	外部評価のための準備(2)	学会発表要旨の作成、相互批判
第9回	学会発表のリハーサル(1)	学会発表の準備と練習
第10回	学会発表のリハーサル(2)	学会発表の直前練習
第11回	4年生による就活ガイドダンス	4年生による就活体験の紹介とアドバイス
第12回	ゲストスピーカー講演	外部講師による講演と討論
第13回	研究成果の最終発表(1)	執筆した論文・レポートに基づく成果発表
第14回	研究成果の最終発表(2)	執筆した論文・レポートに基づく成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期では、個人／グループごとに研究テーマに関する研究文献の読み込みを行う。秋学期では、フィールドワークや文献調査によって得られた調査結果の整理・分析を随時行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

江淵一公編『トランスカルチュラルイズムの研究』明石書店 1998年
 白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化—グローバル化とアイデンティティ』お茶の水書房 2008年
 日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房 2011年
 吉原和男編『現代における人の国際移動—アジアの中の日本』慶応義塾大学出版会 2013年
 佐々木一成『歓呼振興と魅力あるまちづくり』学芸出版社 2008年
 山下晋司『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』講談社選書メチエ 講談社 2009年

発行日：2021/4/1

金成政・岡本亮輔・周倩編『東アジア観光学－まなざし・場所・集団』亜紀書房 2017 年

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期とも、授業中の討論への参加度・調査への参加度 50 %、学期中に提出する論文 50 % の割合で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ参加者数が多く、グループワークの時間が占める割合が高い。ゼミ生全体の交流の機会を確保するために、懇親会や授業支援システムの活用を心がけたい。

【Outline and objectives】

This course deals with migration and tourism. At the end of the course, participants are expected to understand Japan and other countries from the viewpoint of transnationalism.

ARSe300GA

国際社会演習

高柳 俊男

サブタイトル：朝鮮半島と日本

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※2021年度のみ2～4年を対象とする。単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨2020年は、戦後75年、すなわち日本の朝鮮植民地支配の終焉から75年目で、同時に日本と韓国の国交樹立55年目に当たる年だった。

現在、隣国の韓国に向けた日本の視線には、K-POPをはじめ韓流による関心や憧れがある一方で、領土問題や歴史問題をめぐって軋轢や厳しい見方もある。もう一つの北朝鮮には、かつては熱い視線が注がれた時代もあったが、いまだ国交がなく、親子三代の権力世襲や軍事力優先の国家体制に対して、冷やかな眺めが支配的である。

どうしてこのような現状になっているのであろうか？そこに至るまでの間には、どのような出来事や人々の営みがあったのだろうか？状況を少しでも良い方向に動かしていくためには、何が必要なのだろうか？

この授業では、参加するゼミ生たちとともに、日本と朝鮮半島間の複雑に絡まった糸を少しずつ解いていく作業をする。それを踏まえてあるべき未来を考察することをめざしたい。なかでも、現在は埋もれてしまっている貴重な歴史的諸経験や未発の可能性の掘り起こしに努めたい。

同時に、朝鮮問題を中心にしながらも、日本の異文化理解や多文化共生・多民族共生全般という、より広い文脈の中で捉えることを心がける。

受講生たちが具体的な諸事実ととことん突き詰めるなかで、自らの認識を深化させること——いわば「個別を極めることを通じて普遍に至る」ような学び方を身につけることを重視したい。

【到達目標】

日本と朝鮮半島が歩んできた歴史と現在、およびその中で営まれた人々の思索と行動の軌跡を、自らの知性と感性により時間的・空間的広がりの中で理解する。理解した内容を、受け売りではなく、自ら紡いだ言葉で語れるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度は対面授業が再開できることが理想だが、コロナの感染状況等から不可と判断される場合はオンライン授業、ないしその併用となる。具体的には、学習支援システム上で提示する。授業の基本的な流れは、以下の通り。

第1回目に、参加ゼミ生個々人がこれまで読んで感銘を受けた韓国・朝鮮関連の本で、ぜひ他のメンバーと共有したい作品を挙げてもらう。それらをリスト化し、個々人の読書の参考にするともに、一部を年間スケジュールの中にも組み込みたい。

第2回目以降は、まずウォーミングアップから始め、高柳が執筆した日韓関係のいくつかの文献を、導入教材として読む。

続いて今年度のテキストに入る。このテキストは著者が韓国各界の著名人と対談した際の記録で、この時点における日韓関係の一断面をよく示している（著者はその後、北京で客死）。各自には、ウォーミングアップの時期にテキスト全体に目を通し、自分が取り上げたい人物を選定してもらい、それに基づき順に報告してもらう。発表の際には、テキストの内容要約のほか、関連する他の書物や新聞・雑誌報道などにも目を通し、取り上げられたテーマに対する多面的で客観的な分析となるよう心掛けること。

毎回の討論の中で出た疑問点・不足点を、レポーターに次回冒頭で補足してもらい、知識・認識の深化をはかる。

関連映像の視聴を随時まじえ、関連スポットへのフィールドワークも、受講生の自発性と創意工夫、そしてコロナウイルス感染症の状況を勘案しつつ適宜実施したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講者の自己紹介、自分の推薦する本、年間授業スケジュールの確認、導入教材の配付、レファレンスブックの紹介など

第2回	導入教材①	高柳の文章を読む①
第3回	導入教材②	高柳の文章を読む②
第4回	導入教材③	高柳の文章を読む③
第5回	映像上映①	学習内容の映像による確認
第6回	テキストの個人報告①	レポーターの報告と全員による討論
第7回	テキストの個人報告②	レポーターの報告と全員による討論
第8回	テキストの個人報告③	レポーターの報告と全員による討論
第9回	映像上映②	学習内容の映像による確認
第10回	テキストの個人報告④	レポーターの報告と全員による討論
第11回	テキストの個人報告⑤	レポーターの報告と全員による討論
第12回	テキストの個人報告⑥	レポーターの報告と全員による討論
第13回	映像上映③	学習内容の映像による確認
第14回	春学期のまとめ	春学期の学習のまとめと、夏季休業中の学習計画の策定

第1回	秋学期の導入①	夏季休業中の各自の学習成果の報告（一人10分程度）
第2回	秋学期の導入②	夏季休業中の関連新聞記事の分析（朝日/毎日）
第3回	秋学期の導入③	夏季休業中の関連新聞記事の分析（読売/韓国の新聞）
第4回	映像上映④	学習内容の映像による確認
第5回	テキストの個人報告⑦	レポーターの報告と全員による討論
第6回	テキストの個人報告⑧	レポーターの報告と全員による討論
第7回	テキストの個人報告⑨	レポーターの報告と全員による討論
第8回	映像上映⑤	学習内容の映像による確認
第9回	テキストの個人報告⑩	レポーターの報告と全員による討論
第10回	テキストの個人報告⑪	レポーターの報告と全員による討論
第11回	テキストの個人報告⑫	レポーターの報告と全員による討論
第12回	映像上映⑥	学習内容の映像による確認
第13回	ゼミ生推薦の本の読書会	年度始めにゼミ生全員が推奨した本の中から1冊を選び、全員で読んで討論する
第14回	年間のまとめ	年間の学習のまとめと、春季休業中の学習計画の策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する各種参考文献の講読、関連スポットへの訪問、学内外における関連イベントへの参加など。

なお、日本近現代史・東アジア近現代史の大きな流れについて、高校で習う程度の基礎知識を前提にするので、不足を感じる人は自分で補うよう努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

若宮啓文『日韓の未来をつくる』（慶應義塾大学出版会、2015年）。

【参考書】

レファレンスブックとして、『朝鮮を知る事典』（平凡社）、『朝鮮人物事典』（大和書房）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、『在日コリアン辞典』（明石書店）などを随時参照すること。韓国・朝鮮について深く考えたいと願う人は、自分で購入し、ゼミに持参することを強く推奨する。

【成績評価の方法と基準】

演習なので、担当するレポーターはもちろん、それ以外のゼミ生も毎回事前にテキストを読み込み、ポイントを把握して来ようとして出席し、必ず何かしら自分なりの見解を表明することが大切である。

そうした平常時の貢献度と発表時の報告内容を35%ずつ、各学期末のレポートを30%として判断する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミはサークルや「仲良しクラブ」ではないが、かといって参加者個人の孤独な作業とも異なる。探究心に溢れた一人一人の自立した営みの上に、みなで切磋琢磨できるような場となるよう、ともに努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

リモート授業となる場合は、PCなどの通信環境。

【その他の重要事項】

年間を通して、「知の蓄積」という課題を常に考えながら学んでいきたい。その意味は、一つはこれまでの長い歴史の中で蓄積されてきた人類の膨大な知をどう活用できるかという課題、もう一つは自分の中に知をどう蓄積していけるかという課題を指している。

とくに後者については、一度学んだ内容が再度登場した場合、より高いレベルで考えられるようにするためにはどうしたらよいかを、常に念頭において取り組んでほしい。すなわち、漫然とした受け身の学びではなく、真に能動的な学びとはどうあるべきかという問いかけである。

そのためには、具体的にこだわること、すなわち演習内で登場する人名や事件名などの固有名詞を疎かにしない学びが重要である。

【Outline and objectives】

This seminar aims to learn why there are many issues between Japan and Korea, and how we can solve these difficult problems by our own intelligence, sensibility, and experiences.

CUA300GA

国際社会演習

石森 大知

サブタイトル：グローバル化と共生の人類学

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化とともに人・モノ・情報の移動は加速し、世界の諸文化は均質化する一方で、その反動として差異化に向かう側面もみられる。そこにおいて異質なもの同士の出会いは確実に増加しており、私たちはこれまで以上に他者に対する理解や共感が求められている。本演習では、自己（自文化）と他者（異文化）の差異を認識したうえで、共生に向けた取り組みや相互に理解し合う可能性を学ぶことを目的とする。

具体的には、多文化共生、マイノリティ、移民や難民、宗教間対話、紛争と平和構築、地域活性化、支援やボランティアなどの文献の輪読を通して現代社会の諸課題を広く理解する。それと並行して、互酬性の観念、（自立共生などと訳される）コンヴィヴィアリティの概念、共存・共生の思想やあり方などについて学びながら理論的な考察を重ねる。

【到達目標】

- ・文化人類学の専門的な概念や理論、質的調査の方法論を習得する。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心や研究テーマの設定につなげる。
- ・先行研究の検討に始まり、研究テーマの構想、調査項目の設定、調査の実施と資料の収集、資料の整理・分析、論文の作成に至る一連の学問的営為を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の力や共生に関する洞察力を身につける。
- ・現代社会の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・当面の間、リアルタイムオンラインを主としつつ、対面も適宜取り入れる形で授業を実施する。
- ・春学期は文献の輪読をベースにしつつ、適宜、講義形式を取り入れることで共通の問題意識を深める。秋学期は授業の成果を国際文化情報学会で発表するため、（3年生はグループ単位、4年生は個人単位で）調査・研究を進め、発表準備・練習を行う。
- ・文献の輪読では、毎回発表者を立てます。発表者はレジユメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクションペーパーやレポート等における興味深いコメントや質問等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、自己紹介、各自の問題関心を発表
第2回	グローバル化と共生社会への視点	本演習のテーマに関する講義、グループ分け、輪読文献の選定
第3回	ともに生きる方法①	（文献の発表・討論）「わたし」と「あなた」を考える
第4回	ともに生きる方法②	（文献の発表・討論）フィールドワークと異文化体験
第5回	ともに生きる方法③	（文献の発表・討論）差異と類似のとらえ方
第6回	共生社会へのアプローチ①	（文献の発表・討論）共生学のミクロな出発点

第7回	共生社会へのアプローチ②	（文献の発表・討論）性的マイノリティと性教育
第8回	共生社会へのアプローチ③	（文献の発表・討論）国際協力と自助努力
第9回	共生社会へのアプローチ④	（文献の発表・討論）災害復興とボランティア
第10回	共生社会へのアプローチ⑤	（文献の発表・討論）死者との共生
第11回	質的な調査・研究を進めるために	研究論文の構成と考え方、フィールドワークの方法論
第12回	研究テーマ発表①	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第13回	研究テーマ発表②	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第14回	総括	春学期のまとめと秋学期の準備
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール
第2回	研究テーマ発表①	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第3回	研究テーマ発表②	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第4回	グローバル支援と互酬性①	（文献の発表・討論）変貌する NGO・市民活動の現場
第5回	グローバル支援と互酬性②	（文献の発表・討論）学生の海外ボランティア
第6回	コンヴィヴィアルな社会の展望①	（文献の発表・討論）民族・宗教紛争と平和構築
第7回	コンヴィヴィアルな社会の展望②	（文献の発表・討論）グローバル化する難民・移民との対話
第8回	国際文化情報学会の発表準備①	研究テーマの絞り込み
第9回	国際文化情報学会の発表準備②	研究テーマに関する文献の収集
第10回	国際文化情報学会の発表準備③	研究テーマの深化と分担
第11回	国際文化情報学会の発表準備④	学会発表の予行演習
第12回	研究成果の発表①	研究成果を発表し、グループ討論を行う。
第13回	研究成果の発表②	研究成果を発表し、グループ討論を行う。
第14回	総括	1年間に学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・自らの研究テーマについて日ごろから関心を深め、必要な文献を読み調べる。
- ・フィールドワーク等を実施して資料を収集するとともに、資料の整理・分析を行う。
- ・研究発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松村圭一郎『はみだしの人類学—ともに生きる方法』NHK 出版、2020年。

【参考書】

- 志水宏吉ほか編『共生学宣言』大阪大学出版会、2020年。
 - 石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学—グローバル化する開発言説とポスト世俗主義』春風社、2019年。
 - 信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学—変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017年。
 - 塩原良和『共に生きる—多民族・多文化社会における対話』弘文堂、2017年。
 - イヴァン・イリイチ『コンヴィヴィアリティのための道具』渡辺京二・渡辺梨佐訳、ちくま学芸文庫、2015年。
 - 内藤直樹・山北輝裕編『社会的包摂/排除の人類学—開発・難民・福祉』昭和堂、2014年。
 - 加藤剛編『もっと知ろう！わたしたちの隣人—ニューカマー・外国人と日本社会』世界思想社、2010年。
- （以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70%）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジユメの内容（30%）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の議論がより活発になるような授業運営（議論を引き出すための工夫、発言しやすい雰囲気や授業の流れ）を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、グローバル化と共生について文化人類学的視点から授業を行います。

【Outline and objectives】

This seminar introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on cultural symbiosis. Students are required to have knowledge of issues on minorities, multiculturalism, interfaith dialogue and ethnic conflicts and so on in a wider perspective of region, nation and globalization rather than in a restricted and narrow social context. We also deepen our understanding on issues related to the global issues.

SOS300GA

国際社会演習

松本 悟

サブタイトル：国際協力を捉える視点

配当年次／単位：2～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：単位数は、春学期2単位／秋学期2単位である。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際協力」とは異なる文化的背景を抱えた人々のつながりの一形態であり、演習で扱うイシューは国際協力を必要とする背景や実施した影響も含む。具体的には、貧困、環境、開発、格差、紛争、難民、教育などの「グローバルイシュー」、国際機関、NGO、政府機関、企業などの「組織」、ボランティア、募金、善意、助け合いなど「国際協力を実践する個人や社会のあり方」、そうした実践を表象するメディアも学びの対象とする。その前提として、国際文化学部の学生として「国際協力」やその背景要因、意図せざる結果を考察する多様な分析視角＝視点を見つけることを演習のテーマとしている。

【到達目標】

【2年次】人文社会科学の視点や研究方法を使って SA/SJ 等に関係する短いサーベイ論文を書けるようになる、もしくはそれをサポートできるようになる。

【3年春学期】「国際協力」を広く分析する人文社会科学の視点や研究方法を習得し、各自が研究したいテーマと研究方法を見出せるようになる。

【3年秋学期】実際に調査・取材や研究に携わってその結果を発表したり、先輩の研究の進捗に積極的に触れたりすることを通して、研究に必要な方法を習得し、各自が研究したいテーマに関わる意義ある問いや仮説を立てられる、もしくはそれをサポートできるようになる。

【4年春学期】「国際協力」に係る事象を分析する人文社会科学の視点を深めるとともに、自らの研究テーマに沿った調査を進めることで、実践知（フロンティア）として知識を捉えることができるようになる。

【4年秋学期】先行研究や適切な方法に基づいた研究論文の執筆と研究発表を行うことができる、もしくは、それをサポートできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【基本方針】法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル1になった場合は対面、レベル2以上の場合はリアルタイムのオンラインで実施する。ただしレベル1の場合も、十分な感染防止対策を行うと同時に、基礎疾患など個別の事情に応じて自宅等からの受講を認めハイブリッドで実施する予定。

【課題へのフィードバック】毎回の発表に対してはその場でコメントし、研究進捗報告などの課題に対しては学習支援システムを通じてコメントする。

【概要】春学期は（1）ゼミに関係する自分の関心のあるテーマについて発表と議論を繰り返すことで読む力、理解する力、考える力、発表する力を鍛える。（2）考えたり調べたりするのに必要な研究方法を実習する。秋学期は、10月の法政大学懸賞論文や12月の国際文化情報学会など発表の場を積極的に活かして、春学期のインプットをアウトプットへと繋げていく。

【方法】

1. 最近読んだ本や観た映画の発表と議論：春学期は2週に1度、ゼミのテーマや個人研究に関係して自分が関心を持った本や映画を紹介し、そこから何を考えたかを発表・グループ討議を行う。

2. 研究方法の習得：研究方法に関する課題文献を読んだ上で、ゼミの時間を使って実習する。

3. 「叩き愛」：お互いの研究計画、進捗報告、草稿などを事前に読んでゼミの時間にコメントし合う。「愛を持って叩く」という姿勢が重要。

4. 外部講師の招へい：演習の学びを高め、実践との繋がりを考えるため外部講師を招くこともある。

5. ゼミ合宿：9月上旬に2泊3日で開催する（新型コロナウイルス感染状況によってはオンライン開催）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の説明、他己紹介、論文とは何か、をテーマにこのゼミを体感するような議論。

第2回	個人発表と議論①読み方と発表の仕方	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論。
第3回	研究方法①文献検索とインタビュー	個別面談を通してそれぞれの研究テーマを暫定的に決め、それについての文献検索を実習する。
第4回	個人発表と議論②1回目から何を工夫したか	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論の2回目。1回目の学びをどう活かしたかを振り返る。
第5回	個人発表と議論③文献や映画の選び方	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論の3回目。発表に値する素材の選び方を考える。
第6回	研究方法②先輩の論文を読む	ゼミの卒業生の論文を読み、ここまで学んだ視点の置き方を応用する。
第7回	個人発表と議論④視点の置き方	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論の4回目。面白いと感じる視点とは何かを考える。
第8回	研究方法③量的リテラシー	量的なデータの読み解き方や使い方の留意事項を実習形式で考える。
第9回	個人研究進捗共有	それぞれの個人研究の進捗状況を共有し議論する。
第10回	研究方法④ドキュメント分析	課題文献をもとに、ドキュメントを収集し分析する方法を実習する。
第11回	個人発表と議論⑤面白さと議論のしやすさ	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論の5回目。議論のしやすさと面白さの関係を考える。
第12回	研究方法⑤民族誌とフィールドワーク／オンライン派遣留学体験	コロナ禍で困難な状況にあるフィールドワークについて課題文献をもとに考える。また、オンラインでイギリス派遣留学をしたゼミ生の体験談を聞く。
第13回	研究方法⑥個人発表と議論の蓄積をもとにしたKJ法	5回の「個人発表と議論」の内容をデータとしてKJ法を実習する。
第14回	懸賞論文初稿の叩き愛と春学期の学び	10月締切の法政大学懸賞論文初稿にコメントし合う。春学期の学びをKJ法を使って発見する。
第15回	個人研究論文の発表とグループ討議（Aグループ）	法政大学懸賞論文に投稿する学生の個人研究論文の発表とそれに対するグループ討議（Aグループ）
第16回	個人研究論文の発表とグループ討議（Bグループ）	法政大学懸賞論文に投稿する学生の個人研究論文の発表とそれに対するグループ討議（Bグループ）
第17回	懸賞論文から学ぶ	法政大学懸賞論文に投稿することの意義、学び、難しさを共有する。
第18回	発表と議論⑥夏休みに読んだ文献・観た映画	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論の6回目。夏休みに読んだ文献や観た映画をもとに発表と議論を行う。
第19回	先輩の論文を読む／イギリス大学院オンライン留学体験談	個人研究の質的向上を目指してゼミ卒業生の論文を読む。また、イギリスの大学院にオンライン留学したゼミの先輩の話聞き、将来の選択肢を考える。
第20回	個人発表と議論⑦自分の研究の面白さ	このゼミや個人研究に関係して最近読んだ本、観た映画・映像の発表、それをもとにした議論の7回目。それぞれの個人研究に関わる素材を1つ選び、それを共有しながら議論する。
第21回	国際文化情報学会投稿論文叩き愛（Aグループ）	学会に投稿する論文の草稿を読み、コメントし合う（Aグループ）。なお、学会での発表方法によってゼミの内容が変わる可能性がある。
第22回	国際文化情報学会投稿論文叩き愛（Bグループ）	学会に投稿する論文の草稿を読み、コメントし合う（Bグループ）。なお、学会での発表方法によってゼミの内容が変わる可能性がある。
第23回	外部講師による講演①「国際協力と国際文化学部」	国際文化学部での学びが国際協力とどうつながるかを外部講師の話を交えて考える。
第24回	3年生個人研究構想相談会	3年生の個人研究の進捗を共有し互いにコメントし合う。
第25回	外部講師による講演②もしくは2年生個人研究進捗相談会	秋学期にも2年生がいた場合は個人研究の相談会。いなかった場合は、外部講師による国際協力に関する2回目の講演を実施する予定。
第26回	国際文化情報学会を振り返って	学会発表を通しての学びを共有し、それぞれの個人研究につなげる。
第27回	4年生の個人研究の成果共有	4年生の個人研究からの学びを共有する。また、春学期に学んだKJ法を使って秋学期のゼミを振り返る。
第28回	3年生の個人研究発表	3年生の1年間の成果を発表し、4年生からフィードバックをもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「個人発表と議論」ではこのゼミのテーマや自分の個人研究に関わる文献（新聞や雑誌の記事を含む）を読むか映画などの映像を観た上で、その内容及びそこから考えたことを発表できるようにしておくこと。
- ・課題文献を指定した場合は必ず事前に「精読」しておくこと。精読の具体的な内容は毎回説明する。
- ・他のゼミ生の原稿や口頭発表のレジュメをもとに議論する場合は、事前に与えられた原稿やレジュメを必ず精読しておくこと。その際、表面的な批判に留まらず、執筆者の懐に入ったコメントをできるようにすること。
- ・毎回のゼミ後に「学び」を学習支援システムに提出すること。
- ・法政大学懸賞論文、外国語でのスピーチコンテスト、学生論文コンクールなど大学内外のコンテストへの投稿・出展を奨励・サポートするので、積極的に挑戦して欲しい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 4 月の演習が始まるまでに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。
鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。
- 7 月第 1 週までに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。
川喜多二郎（1967）『発想法—創造性開発のために』中公新書。

【参考書】

- 文章の書き方をトレーニングするために以下の文献を折に触れて読むことを薦める。
吉岡友治（2015）『シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術』草思社。
それ以外については毎回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・文献や映像に基づく個人発表 40%、授業後の「学び」の提出 40%、平常点 20%
- ・ただし 2 年生と 3 年生は各学期に 4 回以上欠席した場合は単位を取得できない。
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

知識を吸収する授業は演習以外にもあるので、演習では学生たち自らが調べたことなどを議論する時間を設けて欲しいという要望が多く出されたので、2021 年度はそれを踏まえた授業計画にしている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを頻繁に使用する。
- ・正式の連絡は演習の ML で伝える。
- ・対面授業とオンラインの併用になる可能性に備え、パソコンを用意し、教室での対面授業の場合もノートパソコンを持参すること。
- ・発表や議論の際は、WORD、EXCEL、Power Point、Jamboard、Miro などを使い、議論や考えを図式化するように心がけること。

【その他の重要事項】

- ・このゼミでは研究し論文を書くことを学びの「手段」として捉えているので、できるだけ研究や論文（2 年生論文や卒業論文）に取り組んで欲しい。ゼミの内容も研究や論文に取り組むことを前提で組まれている。結果的に書けなかったり、思うような内容でなかったりしても、取り組むプロセスで習得できることにこそ意味と価値がある。もちろん精神的に辛かったり個人的な事情があったりして断念することはやむを得ないので、その場合は遠慮なく申し出て欲しい。
- ・担当教員は学術博士（国際協力学）の学位を持つ一方で、NHK 報道記者、開発途上国での草の根協力、国際援助政策の策定にも長く携わってきた経験から、具体的事例と理論を融合した演習を行う。
- ・図書館、CiNii や Web of Science などの大学のリソースを早めに使えるようになること。春学期の初めにそのための実習を行うが、1 度習っただけでは使えるようにならないので、日常的にこうしたリソースを使うようにして欲しい。
- ・授業内容は変更がありうるので 3 月の演習説明会や 4 月の演習開始時に説明する。
- ・2021 年度から 2 年生を若干名受け入れているので、シラバスもそれに対応したものになっている。具体的には、水曜日 5 限以降に必修授業がある場合は、そちらを優先して構わない。秋学期に SA に参加しない学生や夏休みの SJ に参加する留学生に対しては、演習の到達目標に準じた秋学期のカリキュラムを追加する。
- ・3 年、4 年と継続して履修すること。ただし、途中で関心を失ったり、他にやりたいことを見出した場合は履修登録の継続を見送ることを推奨する。
- ・4 年次から履修する場合は、3 年次までに人文社会科学的なものの見方や学術的な研究の方法を一定程度身につけ、かつ本演習に係る具体的なテーマを設定し文献研究を進めていること。
- ・国際文化協力、平和学、国際関係学概論、国際関係研究Ⅰ・Ⅱ、実践社会調査法、実践国際協力など、関連する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This seminar covers inter-national cooperation, inter-cultural cooperation and various social problems or "global issues" which demand such cooperations, including poverty, environmental destruction, inequality, conflicts, refugees, or lack of education. It focuses actors (governments, international organizations, NGOs, companies), social norms (voluntarism, dependency, good faith, mutual help) or representations through various media. The goals of this seminar are to enable students to understand the relevant issues in diverse perspectives, and to develop their ideas and skills to conduct his/her own research.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

石森 大知、北 文美子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部で親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師ら登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が高いものであることを理解するでしょう。

本授業では、そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

- 1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
- 2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
- 3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、基本的に【オンデマンド型】となります（外部講師のご意向により変更の可能性もありますが、その都度連絡します）。
- ・初回を除いて、外部講師によるオムニバス授業です。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。
- ・各授業の最後には、質疑応答時間を設け、学生からの意見・質問を受け付けます。コメントシートは毎回、授業時間内に記載してもらいます。
- ・コメントシートにおける質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明
4 月 8 日	北文美子・石森大知	・成績評価の詳細
第 2 回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、チーフ・エコノミスト）	総合商社とは何か
4 月 15 日	堂前清隆氏（株式会社インターネットイニシアティブ、広報部、副部長）	携帯電話・スマートフォンの市場と 5G について
4 月 22 日		

第 4 回	森紀人氏（㈱ ANA 総合研究所、総括主席研究員）	航空産業の特性と挑戦
5 月 6 日		
第 5 回	井上瞳氏（株式会社リコー、サステナビリティ推進本部）	リコーの社会課題解決と異文化理解
5 月 13 日		
第 6 回	早坂文宏氏（毎日新聞社、採用・研修センター室長）	新聞ジャーナリズムの現状と就活の現場
5 月 20 日		
第 7 回	松木真也氏（株式会社テレビ朝日、コンテンツ編成局放送基準担当局長）	テレビを取り巻く環境の変化
5 月 27 日		
第 8 回	シムカート・ビョルン氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナルジャパン、キャンペーン・コーディネーター）	気候変動から人権を守るボランティア活動
6 月 3 日		
第 9 回	代島裕世氏（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYA の SDGs ビジネス
6 月 10 日		
第 10 回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG 戦略部、部長）	Kirei Lifestyle Plan : 花王の ESG 戦略と具体的な取組
6 月 17 日		
第 11 回	松本悟氏（法政大学、国際文化学部、教授）	惜しまれて転職したい—記者、NGO、大学教員としての 30 年
6 月 24 日		
第 12 回	松山匡延氏（M-wing 合同会社、代表）	国際協力事業におけるインターンシップについて
7 月 1 日		
第 13 回	神野斉氏（株式会社明石書店、編集部、部長）	出版の今：縮む世界と広がる世界
7 月 8 日		
第 14 回	大城勝浩氏（株式会社朝日広告社、デジタルメディアセンター、センター長）	広告会社のホンシツ
7 月 15 日		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、確りと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・なし。
- 授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

- ・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席&コメントシート）60%」と「期末レポート 40%」による総合評価。
- ・授業終了後約 1 週間後にレポートの提出。分量・提出方法などについては、授業において詳しく説明します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【その他の重要事項】

注意事項：

「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce professional works which have affinity with edutaions and reseaches in the Faculty of intercultural communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some japanese company or international organization.

Students taking this course will be able to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the futur.

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2 回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツ ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3次元 CG、デジタルマップと GIS	3次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

HUI200GA

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。受動的に講義を受けるのではなく、「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となつて具体的な視点をういて検討できるよう、工夫されている科目である。

● 手ごたえのない「現実」vs. リアルな「仮想世界」

ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。

その一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、「手ごたえ」＝リアリティ（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が「変化」し、どのように「拡張」されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。

仮想世界の問題は、SFや物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、「ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である」ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。そして、新たな仮想世界を造り始めることだろう。

【到達目標】

そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？

本科目の履修を終えると、次の事柄について基本用語を用いて言及できるようになる

- 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
- 手ごたえのない現実世界と、妙にリアルな仮想世界、というパラドックス
- 「仮想現実感」(VR)の構成要素と基本的な考え方
- VRの、社会のさまざまな側面への浸透
- 仮想世界はなぜ生まれ、どのような意味を持つのか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。

● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は「生きやすい」。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。

仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか。**問い直す必要があろう。

● 授業冒頭で前回の振り返りと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、各回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。

※新型コロナウイルス感染状況によって進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすいーそれはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑うーなぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？

4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へーネットで恋した相手、それは〇〇だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：理論	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か：方向性	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつつける仮想世界
14	まとめ	現実？ 仮想世界を生きる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001年宇宙の旅」(A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
- ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験 (60%)
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い (発表、コメントシートを含む) (40%)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「仮想世界におけるこころ」の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスを確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality, (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい（意味）や（価値）を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての（新しい意味）や（新しい価値）を創出したりすることを目指します。

2021年度の本授業では、「エコロジー（=生態学 ecology）ってなに?!」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（=エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の「環境に優しい」とか「自然との共生」を唱う「エコ」という意味での「エコロジー」ではないということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということの研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

【授業の目的】

そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000）にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人と人（自分と他人、親と子ども、など）の（あいだ）の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの（あいだ）にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（=エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミュニケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方での「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】

・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）」や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意 ・授業概要説明
第2回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第3回	ベイトソン『精神の生態学』読解(1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第4回	ベイトソン『精神の生態学』読解(2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第5回	ベイトソン『精神の生態学』読解(3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第6回	ベイトソン『精神の生態学』読解(4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第7回	ベイトソン『精神の生態学』読解(5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第8回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」(1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第9回	ガタリ『三つのエコロジー』読解(2)	・三つの「エコロジー（生態学）」(2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第10回	ガタリ『三つのエコロジー』読解(3)	・三つの「エコロジー（生態学）」(3)自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第11回	ガタリ『三つのエコロジー』読解(4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」(by 上野俊哉)
第12回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ①	・「エコソフィー」とは何か？
第13回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第14回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよねーでも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】

・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第2版、新思案社、2000年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016年

【成績評価の方法と基準】

小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30%）・小テストなどの授業内課題（70%）。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。

(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人々から学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思えます。

【注意点】

大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。

議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline and objectives】

This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2021, we will consider the question of "What is the relationship between communication and its environment?!" and we will examine the problems of "communication".

ARSi200GA

国際関係研究Ⅵ

粟飯原 文子

サブタイトル：アフリカから見る世界

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サハラ以南アフリカについて、主に歴史、社会、政治、国際関係というカテゴリーから学び、アフリカ研究の導入となる知識を身につける。それによって、変わりゆくアフリカ地域の「いま」を考え、アフリカを多面的に理解することを旨とする。

【到達目標】

- ・アフリカを学ぶための基礎知識を身につける。
- ・アフリカの多様性を理解し、アフリカ研究への関心を高める。
- ・世界史のなかのアフリカ地域をとらえ直す。国際関係におけるアフリカの位置について考える。
- ・アフリカについて学び、アフリカから「世界」を見ることで、欧米中心的な視点や思考を乗り越える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
- ・毎回資料を配布するので、各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
- ・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションーアフリカを学ぶために	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。アフリカについて学ぶにあたり、いくつかの前提を共有する。
第2回	イメージとしてのアフリカ	長いあいだイメージとして構築されてきた「アフリカ」について、その歴史を批判的に振り返る。
第3回	アフリカ史の視点①	「アフリカ史」の視点をもつことの意味はなにか考える。王国・帝国の歴史を見ていく。
第4回	アフリカ史の視点②	引き続き、アフリカ史の視点から歴史を語り直すとはどういうことかを考え、いくつかの事例を見ていく。スワヒリ文明、奴隷貿易、抵抗の歴史など。
第5回	アフリカの宗教①	大陸の信仰・宗教について概観する。
第6回	アフリカの宗教②	アフリカに広がった、イスラームとキリスト教について学ぶ。
第7回	アフリカと移動①	アフリカ大陸の「移動」の歴史を概観する。
第8回	アフリカと移動②	現代の大陸内外に広がる人びとの移動を考察する。
第9回	アフリカ近現代史を振り返る①	アフリカの現在への考察を深めるために、近現代史を振り返る。植民地時代を詳しく見ていく。
第10回	アフリカ近現代史を振り返る②	アフリカ諸国独立に至るプロセス、独立後の難題について概観する。
第11回	アフリカと紛争①	ポスト冷戦期のアフリカにおける武力紛争について、いくつかの文脈に位置づけて考える。
第12回	アフリカと紛争②	アフリカにおける紛争解決について学ぶ。
第13回	アフリカと国際関係	アフリカの国際関係について、アフリカ諸国間関係、新興国との関係を中心に考える。
第14回	全体のまとめと復習	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。

- ・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60%）
- ・期末課題（40%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・アフリカについてまったく学んだことのない学生にも理解してもらえるよう、十分な説明を心掛けた。
- ・リアクションペーパーに対するコメントが興味深いという声が多かったので、より積極的に起こっていききたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず1回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce students to key concepts and debates in the discipline of African Studies. Over the course of the semester, we will examine important topics in 1) history, 2) society, 3) politics and 4) international relations.

CUA200GA

国際関係研究Ⅶ

石森 大知

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講semester：秋学期授業/Fall

人数制限：選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・履修生のみみなさんには学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行っていただきます。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	性と生殖①	民俗生殖理論
第6回	性と生殖②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療と親子関係①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療と親子関係②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセスタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	現世から来世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
 梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
 波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけでなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【その他の重要事項】

・学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。
 ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、家族と結婚について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life. The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective.

OTR300GA

海外フィールドスクール**稲垣 立男**

サブタイトル：表象文化コース

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

人数制限・選抜・抽選：定員：25名

備考（履修条件等）：年度により開講コースは変わる。

2021年度は、SA・SJ参加（国際文化学部生）、法政大学が実施する異文化交流プログラムへの参加（国際文化学部生以外）を条件としない。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2021年度の海外フィールドスクール・表象文化コースはオンライン夏季講座として実施されます。海外フィールドスクール表象文化コースでは、生活や文化背景の違う人々との共同作業を通じて、多角的な見方、考え方による双方向の文化理解やコミュニケーションについて体験的に学びます。担当教員は稲垣立男です。

今年度フィリピンを渡航先として計画されていた表象文化コースのプログラムは、以下の通りです。

「フィリピンの首都マニラとネグロス島西部の中心都市バコロドに滞在する。まず、マニラでは主要な博物館や大学美術館、アートギャラリー、オルタナティブスペースを訪問し、フィリピンの文化や現代アートについて体験的に学ぶ。次にバコロドでは、ラ・サル大学映像学科の学生や地元のアーティスト、地域コミュニティとのコラボレーションによる映像作品の制作を試みる。帰国後に海外フィールドスクール報告展を開催し、滞在中に制作した作品および研究記録（レポート）を発表する。」

オンライン講座では、昨年度のプログラムをベースに、国内で実施できる講義や実習によるプログラム内容となります。

【到達目標】

研究者やアーティストによる講義やフィールドワークを通じて東南アジアの文化や人々の暮らし、現代アート、映像やパフォーマンスなどの芸術表現や文化政策への理解を深めることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。

1. 各課題と関連した社会的課題に関する講義と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。
2. 次に参加者とのディスカッションや大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。
3. 最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・Zoom（ミーティング）
- ・Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
- ・Miro（コラボレーション）
- ・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
事前学習	オリエンテーション 1	各講義やワークショップの詳細、注意事項など
事前学習	事前学習	外部講師による講義
2		フィリピンの文化や芸術に関連した内容の講義や事前調査について
9/10	マニラのアートシーン 1	外部講師による講義 マニラの文化とアーティストの活動について
9/10	マニラのアートシーン 2	講義と関連したフィリピン文化に関するディスカッションとワークショップ

9/11	ルソン島北部の環境問題 1	外部講師による講義 ルソン北部の自然と環境問題について
9/11	ルソン島北部の環境問題 2	講義と関連した環境問題に関するディスカッションとワークショップ
9/13	フィリピンの映像と文化 1	外部講師による講義 フィリピンの映画と制作の背景について
9/13	フィリピンの映像と文化 2	講義と関連した環境問題に関するディスカッションとワークショップ
9/14	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 1	アーティストによるワークショップガイダンス ディスカッション
9/14	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 2	グループワークの準備
9/15	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 3	フィールドワークと作品制作 1
9/15	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 4	フィールドワークと作品制作 2
9/16	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 5	調査の成果に関するプレゼンテーション
9/16	成果の報告	作品・レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

大野拓司「フィリピンを知るための 64 章」明石書店
鈴木勉「フィリピンのアートと国際文化交流」水曜社
鈴木勉「インディペンデント映画の逆襲—フィリピン映画と自画像の構築」風響社

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップなどの実習を充実したものにするためには、事前学習及び事後学習がとて重要で重要です。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【選抜について】

定員 25 名とし、25 名を超える場合には 4 月の履修登録前に選抜を行います。選抜方法の詳細内容は、学習支援システムを通じてご連絡します。

また、2021 年度に限り SA・SJ 参加（国際文化学部生）、法政大学が実施する異文化交流プログラムへの参加（国際文化学部生以外）を条件としません。（2020 年度は SA・SJ、異文化交流プログラムへの参加が不可能だったため）

【参考・海外フィールドスクールについて】

※以下は例年実施されている海外フィールドスクール（3 コース）の授業概要と目的です。各コースでは、東南アジア各国に渡航し、現地でフィールドワークを行います。

海外フィールドスクール・プログラム（Field School Program：略称 FS）とは、2 年次に実施される長期・夏期スタディ・アブロード・プログラム（SA）とスタディ・ジャパン・プログラム（SJ）で培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十分に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究手法、表現方法を習得するものです。東・東南アジアをフィールドに開発と文化コース、表象文化コース、環境と文化コースの 3 つのコースで実施します。当該年度の開催コースは、国際文化学部 Web サイトにてご案内いたします。（3 コースのうち、2 コースが例年実施されます。）

【Outline and objectives】

The Field School Program/Representation Culture Course in 2021 will be held as an online summer course. In the course, you will experience two-way cultural understanding and communication from multiple perspectives and ways of thinking through collaborative work with people from different lifestyles and cultural backgrounds.

The program planned to travel to the Philippines this year is as follows. "Stay in Manila, the Philippines' capital, and Bacolod, the capital city of western Negros. In Manila, visit significant museums, university museums, art galleries, and alternative spaces to experience Philippine culture and contemporary art. In Bacolod, we will try to produce video works in collaboration with the At La Salle University, local artists, and the local community. After returning to Japan, we will hold an overseas field school report exhibition, and the works and research records produced during our stay (Report) will be announced."

The online course will be based on last year's program and will be based on lectures and practical training conducted in Japan.

【× 使用しない】海外フィールドスクール

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部で例年実施されているスタディ・アブロード・プログラム（SA）や海外フィールドスクールなどの留学プログラムは新型コロナウイルスのパンデミックにより、2020年度については、全て中止となりました。2021年度の間に終息を迎えることはない想定されています。

そこで、2021年度の海外フィールドスクールは表象文化コースのみ、海外渡航はせずにオンライン夏季講座として実施されます。詳しくは海外フィールドスクールは表象文化コースのシラバスをご覧ください。

以下は例年実施されている海外フィールドスクール各コースの概要です。

海外フィールドスクール・プログラム（Field School Program：略称 FS）とは、2年次に実施される長期・夏期スタディ・アブロード・プログラム（SA）とスタディ・ジャパン・プログラム（SJ）で培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十分に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究方法、表現方法を習得するものです。

東・東南アジアをフィールドに開発と文化コース、表象文化コース、環境と文化コースの3つのコースで実施します。当該年度の開催コースは、国際文化学部 Web サイトにてご案内いたします。（3コースのうち、2コースが例年実施されます。）

【到達目標】

・各コースで取り上げる地球規模問題（グローバル・イシュー）の分析を通して、課題の発見や解決、あるいは異文化の中での表現をすることができるようになります。

・日本とは異なる環境で考える力や活動する精神力を身に着けることができます。

・サステイナブルな社会を構築できる自律的・利他的な考えや行動ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

渡航前には、各コースのテーマに基づいた事前学習を行います。現地ではテーマに基づいた調査・実習を行います。帰国後は、事後学習を経てレポート・論文・作品などを提出することになります。授業の形態や進め方、課題等に関するフィードバックの方法など、各コースで構成内容はそれぞれ異なりますので、オリエンテーションには必ず参加し、各内容を確認してください。また、学部ウェブサイトおよび実施要綱も必ず参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各コースの内容の詳細、現地での注意事項など
2-4	事前学習	各コースのテーマに関連した内容の講義や事前調査を行う。
5-10	現地での調査	1週間から10日程の間、教員や現地関連機関の人々と共にフィールドワークを行う。
11-13	事後学習	現地調査を総括・整理するための事後学習を行う。
14	成果の報告	調査の成果に関するプレゼンテーション、レポート、論文、作品などの発表とその準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

詳しくは、各コースから指示します。

【テキスト（教科書）】

各コースから指示します。

【参考書】

各コースから指示します。

【成績評価の方法と基準】

事前学習、現地調査、事後学習、成果発表及び平常点を加味して総合的に判断します。それぞれの評価基準の割合については各コースごとに異なりますので、各コースから指示します。

【学生の意見等からの気づき】

現地での実習を充実したものにするためには、事前学習及び事後学習がとても重要です。

【学生が準備すべき機器他】

各コースから指示します。

【その他の重要事項】

各コースの授業計画については、実施要綱に詳しく書かれていますので、あらかじめ読んでおいてください。

日本や SA 派遣先とは異なり、生活環境が厳しい訪問先も含まれますので、参加する学生は真摯な態度でのぞみ、事故やトラブルに巻き込まれないよう、常に危機感を持って行動して下さい。また、FS 参加の前後・途中の個人旅行は認めません。

【Outline and objectives】

The field school program is not only the intercultural communication skills cultivated by the Study Abroad Program (SA) and the Study Japan Program (SJ), which are held in the second year but also the basic and specialized study at Hosei University and the Faculty of Intercultural Communication. The purpose of this course is to acquire highly skilled knowledge, research methods, and expression methods overseas by making full use of specialized learning.

Each course will be held in East and Southeast Asia, with three courses: Development and Culture Course, Culture and Representation Course, and Environment and Culture Course. Courses for the year will be announced on the website of the Faculty of Intercultural Communication (two of the three courses are usually held every year).

海外フィールドスクール

島野 智之

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

海外フィールドスクール

松本 悟

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

LANe300GA

Art, Rebellion and Advertising

ジョンナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Theme: Art Topic: Symbols and Logos	English lecture, reading, discussion and written assignment on symbols and logos.
Week 3	Theme: Art Topic: Symbols and meanings in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'	English reading, lecture and discussion on the symbols and their means in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'	English lecture, reading, discussion and written assignment on Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'.
Week 5	Theme: Art Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'	English reading, lecture and discussion on Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'.
Week 6	Theme: Art Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?	English lecture, reading, discussion and written assignment on whether functional objects can be considered works of art.

Week 7	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s	English reading, lecture and discussion on the music of Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young	English lecture, reading, discussion and written assignment on the music of Bob Dylan and Neil Young as a stimulus for social change.
Week 9	Theme: Rebellion Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech	English reading, lecture and discussion of Martin Luther King's 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques continued	English reading, lecture and discussion of more techniques used in advertising.
Week 12	Theme: Advertising Topic: Advertising vs Branding	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs Topic: Is the unexamined life worth living?	English reading, lecture and discussion on the underlying beliefs people seldom consider.
Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.

Presentations – 70%

Class participation – 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

LANe300GA

The History of Tourism

MARK E FIELD

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

In this course, we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.
Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)

20% Short Presentations

40% Final Examination/Term Project

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

PHL300GA

History of Western Thought

MARK E FIELD

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】

The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of “Western” religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of “Western” social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain's rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman's Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain's Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson's Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR's New Deal
13 回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14 回	Examination/ Comments:	Recapping what has been covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students may also be expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently for the preparation of Research Papers.

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】

Participating students will do independent reading for their written assignments.

【成績評価の方法と基準】

30% In Class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)

30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,

40% Final Examination/Term Project.

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.